

特別史跡 岩橋千塚古墳群

発掘調査・保存整備事業報告書 4

2021年3月

和歌山県教育委員会



前山A58号墳 墳丘復元整備完了状況



前山A58号墳出土円筒埴輪(左)と市民参加により製作された同レプリカ

序 文

和歌山県の北部を西流する紀ノ川の下流域には、肥沃な和歌山平野が形成され、平野部やその周辺には、古くから人々が生活を営んできたことを示す数多くの遺跡が残されています。このうち、紀ノ川下流域南岸の岩橋山塊に位置する岩橋千塚古墳群は当地域の古墳時代を代表する遺跡であり、4世紀末頃から7世紀に至るまで、総数約900基の古墳が築造された全国有数の群集墳として知られています。

岩橋千塚古墳群の一部は、昭和6年に国史跡、昭和27年に特別史跡に指定され、昭和63年、平成12年及び平成28年の追加指定を経て、現在は約63万㎡の指定地の中に500基を超える古墳が保存されています。

和歌山県は、特別史跡指定地内の古墳の整備を計画的に進めるため、平成15年度に「特別史跡岩橋千塚古墳群整備計画」を策定しました。これに基づき平成15年度から平成26年度に実施した第1期整備事業については、すでに報告書として刊行してきたところです。

本報告書は、平成27年度から令和2年度までの第2期整備事業の成果をまとめたもので、これらの整備により、特別史跡岩橋千塚古墳群のより一層の保存と活用を図ることができるものと考えています。

結びに、報告書の刊行に至るまで御指導並びに御協力をいただきました関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

令和3年3月31日

和歌山県教育委員会

教育長 宮 崎 泉

例 言

- 1 本書は和歌山県教育委員会（以下「県教育委員会」という。）が実施した和歌山市岩橋に所在する特別史跡^{いわせ}岩橋千塚古墳群の整備報告書である。
- 2 事業期間は平成 27 年度から令和 2 年度であり、これは平成 15 年度策定の整備計画に基づく第 2 期整備にあたる。
平成 15 年度から平成 26 年度の第 1 期整備概要については、先に整備報告書 1・2・3 を刊行しており（和歌山県教育委員会 2010・2013・2015）、本書はこれに続く第 2 期整備概要をまとめ整備報告書 4 として刊行するものである。
- 3 事業は和歌山県立紀伊風土記の丘が実施した。
- 4 本書の執筆は、和歌山県立紀伊風土記の丘学芸課佐々木宏治、萩野谷正宏がおこなった。執筆分担は、目次に（ ）で示した。
- 6 遺物の実測・トレースについては会計年度任用職員立岡瑞穂、谷口敦子、玉井朱美が行い、遺物写真撮影は萩野谷が行った。
- 7 本書の編集は萩野谷が行った。
- 8 調査及び整理業務で作成した実測図・写真・台帳などの記録資料及び出土遺物は県立紀伊風土記の丘が保管している。
- 9 報告書刊行にあたり、下記の方々と機関からご指導・ご協力を賜った。
文化庁、公益財団法人和歌山県文化財センター、和歌山市教育委員会、赤坂宏、太田宏明、河内一浩、高瀬要一、橋本博文、三村衛、脇谷草一郎

凡 例

- 1 本報告の図中の北方位は磁北（M.N.）を示す。
- 2 標高は東京湾平均海面（T.P.）の数値であり、単位はmを使用している。
- 3 出土遺物及び調査時の土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局ならびに財団法人日本色彩研究所監修の『新版標準土色帖』（平成 26 年版）に拠り記述を使用した。
- 4 本書掲載地図は、和歌山県教育委員会『和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図』に加筆して使用した。

調査組織

和歌山県教育委員会

教育長 宮下和己（平成 27～30 年度）宮崎 泉（令和元・2 年度）
生涯学習局長 楠義隆（平成 27・28 年度）木皮享（平成 29・30 年度）
松本 泰幸（令和元・2 年度）

生涯学習局文化遺産課

文化遺産課長 水上勇人（平成 27・28 年度）坂口真史（平成 29 年度）
栗生好人（平成 30～令和 2 年度）
副課長 坂口真史（平成 27・28 年度）栗生好人（平成 29 年度）
土山寛人（平成 30～令和 2 年度）
教育企画員 黒石哲夫（平成 30～令和 2 年度／主幹 平成 28・29 年度／課長補佐兼調査班長 27 年度）
主査 藤井幸司（平成 27 年度）丹野拓（平成 27～29 年度）
高橋智也（平成 27 年度～令和 2 年度）仲原知之（平成 27 年度～令和 2 年度）
田中元浩（令和 2 年度／平成 27 年度～令和元年度 副主査）
副主査 仲辻慧大（平成 29～令和 2 年度／平成 28 年度 技師）
技師 石丸 彩（令和元・2 年度）

紀伊風土記の丘

館長 水田義一（平成 27・28 年度）中村浩道（平成 29～令和 2 年度）
副館長 市川浩之（平成 27 年度）米田良博（平成 28・29 年度）
南正人（平成 30・令和元年度）中村拓司（令和 2 年度）
専門員 迫間素啓（令和元・2 年度）
総務課長 山本康博（平成 27 年度）嶋田功伺（平成 28・29 年度）
味村泰幸（平成 30・令和元年度）畑崎伸仁（令和元年度）
主任 井上佳典（平成 28～30 年度）前田昌孝（令和元・2 年度）
主査 川崎康弘（平成 28～令和 2 年度）竹内宏治（令和元・2 年度）
副主査 小裕有利子（平成 27・28 年度）額田誠規（平成 27・28 年度）望月光一（平成 27 年度）
主事 沖直弥（平成 29～令和 2 年度）
学芸課長 佐々木宏治（平成 27～令和 2 年度）
主査学芸員 萩野谷正宏（平成 27～令和 2 年度）
瀬谷今日子（平成 29～令和 2 年度／平成 27・28 年度 学芸員）
藤森寛志（平成 30 年度／平成 27～29 年度 学芸員）蘇理剛志（令和元・2 年度）
学芸員 仲辻慧大（平成 27 年度）山本光俊（平成 28～30 年度）金沢舞（令和元・2 年度）
副主査 富加見泰彦（平成 27～29 年度）

本文目次

巻頭カラー写真

第1章 整備事業の経緯と経過	(萩野谷)
第1節 整備事業の経緯	1
第2節 整備検討会議	1
第3節 整備事業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	(萩野谷)
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 前山A58号墳の墳丘復元整備	(萩野谷)
第1節 事業に至る経緯	12
第2節 墳丘整備工事	(佐々木) 13
第3節 埴輪レプリカ等の製作及び設置	21
第4節 説明板製作・設置	25
第4章 古墳修景工事及び石室実測調査	(萩野谷)
第1節 事業に至る経緯	27
第2節 石室実測対象古墳の概要	28
第3節 石室実測対象古墳の出土遺物	34
第4節 第1期整備事業の石室実測対象古墳・同周辺の出土遺物	36
第5章 危険木伐採	(萩野谷)
第1節 事業の概要	46
第6章 便益施設及び県指定文化財展示・収蔵施設の設置等工事	(佐々木)
第1節 便益施設設置工事	47
第2節 県指定文化財「日高地域の地引網漁用具」展示・収蔵施設設置工事	47
第7章 排水路改修工事	(萩野谷)
第1節 事業に至る経緯	52
第2節 事業の概要	52
第8章 特別史跡岩橋千塚古墳群のモニタリング	(佐々木)
第1節 事業の概要	80
第2節 モニタリングの種別と内容	80
第3節 横穴式石室のモニタリング	81
第4節 石室滞水古墳のモニタリング	82
第5節 埴輪復元古墳のモニタリング	83
第9章 総括	
第1節 岩橋千塚古墳群における小規模古墳の特色について	(萩野谷) 99
第2節 第2期整備事業の成果と課題	(佐々木) 100

挿 図 目 次

- 第1図 特別史跡岩橋千塚古墳群 第2期整備事業
全体平面図（平成27年度～令和2年度）
- 第2図 遺跡分布図
- 第3図 特別史跡岩橋千塚古墳群分布図
- 第4図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図（1）
- 第5図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図（2）
- 第6図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図（3）
- 第7図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図（4）
- 第8図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図（5）
- 第9図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図（6）
- 第10図 前山A58号墳 工事立会土層断面図(S=1/40)
- 第11図 前山A58号墳 埴輪樹立状況復元図(S=1/200)
- 第12図 前山A58号墳 埴輪レプリカ設計図（1）
(S=1/10)
- 第13図 前山A58号墳 埴輪レプリカ設計図（2）
(S=1/10)
- 第14図 前山A58号墳周辺 陶板説明板仕様図及び
板面
- 第15図 前山A58号墳周辺 地区説明板仕様図及び
板面
- 第16図 古墳保存修景工事対象古墳位置図（平成27
～令和2年度）
- 第17図 前山B153号墳 石室実測図（S=1/40）
- 第18図 前山B162号墳 石室実測図（S=1/40）
- 第19図 前山B152号墳 石室実測図（S=1/40）
- 第20図 前山B150号墳 石室実測図（S=1/40）
- 第21図 前山B156号墳 石室実測図（S=1/40）
- 第22図 前山B42号墳 石室実測図（S=1/40）
- 第23図 前山B42号墳 墳丘測量図（S=1/400）
- 第24図 石室実測対象古墳出土遺物（前山B162号墳）
- 第25図 石室実測対象古墳出土遺物（前山B150・42
号墳及び前山B156号墳周辺）
- 第26図 石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物
（前山A130号墳、前山B147・167・174・176・240・
249・250号墳、大日山82号墳）
- 第27図 石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前
山B164号墳）
- 第28図 石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前
山B170・172号墳）
- 第29図 石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（大
日山12・14・68・81号墳及び大日山14・15号墳周辺）
- 第30図 危険木木伐採対象古墳位置図（平成27年度・
令和元年度）
- 第31図 便益施設及び県指定文化財展示・収蔵施設
設置工事 位置図
- 第32図 トイレ・休憩施設建替え工事 工事立会図
及び写真
- 第33図 県指定文化財展示・収蔵施設 工事立会図
及び写真
- 第34図 前山A地区 トイレ及び休憩施設設置図面
- 第35図 大日山地区 トイレ及び休憩施設設置図面
- 第36図 県指定文化財展示・収蔵施設設置図面
- 第37図 排水路改修工事全体図
- 第38図 1号排水路 平面図
- 第39図 1号排水路 標準断面図・展開図他
- 第40図 3号a排水路 平面図
- 第41図 3号a排水路 標準断面図・展開図他
- 第42図 3号b排水路・3-2号排水路 面図
- 第43図 3号b排水路 標準断面図
- 第44図 3号b排水路 展開図他
- 第45図 3-2号排水路 展開図他
- 第46図 6号排水路 平面図
- 第47図 6号排水路 縦断面図他
- 第48図 6号排水路 標準断面図・各構造物平面図・
断面図
- 第49図 7A横断管・8A横断管 平面図・断面図
- 第50図 10号排水路 平面図・断面図
- 第51図 13号排水路 平面図・断面図／各水路改修
会所榦断面図
- 第52図 15号排水路 平面図・断面図／10・13・15
号排水路標準断面図
- 第53図 特別史跡岩橋千塚古墳群 古墳分布図（詳
細図）

表 目 次

第1表	前山 A58 号墳墳丘復元整備に伴う事業一覧
第2表	石室実測対象古墳出土遺物 観察表
第3表	石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物 観察表
第4表	特別史跡岩橋千塚古墳群 排水路改修工事事業一覧
第5表	特別史跡岩橋千塚古墳群 古墳一覧
第6表	第2期整備計画

写 真 目 次

巻頭写真	前山 A58 号墳 墳丘復元整備完了状況 前山 A58 号墳出土円筒埴輪と市民参加により制作されたレプリカ
------	--

図 版 目 次

写真図版 1	前山 A58 号墳 墳丘整備工事状況	写真図版 12	前山 B162 号墳・150 号墳 石室
写真図版 2	前山 A58 号墳 工事立会状況	写真図版 13	前山 B150 号墳 石室
写真図版 3	前山 A58 号墳 埴輪レプリカ製作状況 (1)	写真図版 14	前山 B150 号墳 石室
写真図版 4	前山 A58 号墳 埴輪レプリカ製作状況 (2)	写真図版 15	前山 B152 号墳 石室
写真図版 5	前山 A58 号墳 埴輪レプリカ設置工事状況	写真図版 16	前山 B152 号墳・156 号墳 石室
写真図版 6	前山 A58 号墳 市民参加による埴輪レプリカ設置状況 (1)	写真図版 17	前山 B156 号墳・42 号墳 石室
写真図版 7	前山 A58 号墳 市民参加による埴輪レプリカ設置状況 (2)	写真図版 18	前山 B42 号墳 石室
写真図版 8	古墳修景工事 工事実施状況 (1)	写真図版 19	石室実測対象古墳出土遺物 (前山 B162 号墳) 石室実測対象古墳出土遺物 (前山 B150 号墳・前山 B42 号墳)
写真図版 9	古墳修景工事 工事実施状況 (2)	写真図版 20	石室実測対象古墳出土遺物 (前山 B156 号墳周辺)
写真図版 10	前山 B153 号墳 石室	写真図版 21	石室実測対象古墳 (第1期整備) 出土遺物 (前山 A130 号墳・前山 B147 号墳)
写真図版 11	前山 B162 号墳 石室		

B167号墳)

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山
B174・176・240・249・250号墳、大日山82号墳)

写真図版 22

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山
B164号墳)

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山
B164号墳)

写真図版 23

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山
B164号墳)

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山
B170号墳)

写真図版 24

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山
B170号墳)

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山

B172号墳)

写真図版 25

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(大日山
12・14号墳)

石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(大日山
68・81号墳及び大日山14・15号墳周辺)

写真図版 26

排水路改修工事 完成状況(1)

写真図版 27

排水路改修工事 完成状況(2)

写真図版 28

排水路改修工事 完成状況(3)

写真図版 29

排水路改修工事 完成状況(4)

写真図版 30

排水路改修工事 完成状況(5)

第1章 整備事業の経緯と経過

第1節 整備事業の経緯

特別史跡岩橋千塚古墳群は、開館当初の整備（昭和46年度）以降、約30年余り計画的な整備事業は行われてこなかったが、和歌山県は平成15年度に「特別史跡岩橋千塚古墳群整備計画」を策定し、その後は計画的に整備事業を実施している。概要は以下のとおりである。

初期整備（昭和44年から昭和46年） 紀伊風土記の丘開園時に、古墳の整備、文化財建造物の移築、松下記念資料館の建設、万葉植物園、花木園、駐車場、園路等の整備を行った。

古墳は、前山A23号墳、24号墳、99号墳、46号墳、56号墳、前山B53号墳（将軍塚古墳）の6基の横穴式石室、前山A47号墳、65号墳、111号墳の3基の竪穴式石室と前山A100号墳の1基の箱式石棺及び前山B112号墳（郡長塚古墳）の墳丘整備を行い公開した。

第1期整備（平成15年度から平成26年度） 大日山35号墳、前山A2号墳、前山B41号墳、前山A67号墳、前山A13号墳、前山A17号墳、前山A9号墳の発掘調査及び整備を実施した。また、崩落が激しい石室の埋め戻しと修景を行う古墳修景工事、危険木の伐採、説明板製作・設置による統一したサインの整備、石室照明の設置を行った。このほか、第2期整備に継続する事業として前山A58号墳の発掘調査、排水路改修の実施設計及び工事の一部を行っている。大日山35号墳は墳丘を公開し、東造り出しでは埴輪と須恵器のレプリカを専門業者への委託のほか市民参加により製作し設置した。前山A2号墳は、T字形の横穴式石室であるが天井部が欠失していたため、石室上部にガラス製の覆屋を設置し、外部から見学できるよう整備した。また、前山A67号墳は、屍床をもつ岩橋型横穴式石室であるが、羨道部の石積みが大きく孕んでいたため内部への進入は安全上困難と判断されたため、羨道前面を擁壁で固め、入口に柵をして外部から見学できるよう整備した。このほか前山A13号墳、前山A46号墳、前山A67号墳、前山B53号墳（将軍塚古墳）の石室内に太陽光発電による照明設備を整備した。

第2期整備（平成27年度から令和2年度） 前山A58号墳の墳丘復元整備とこれに伴う埴輪・須恵器レプリカ製作・設置及び説明板製作・設置を行った。また古墳修景工事と危険木の伐採、排水路の改修を第1期整備に引き続いて実施したほか、便益施設（トイレ・休憩施設）の改修を行った。

さらに、平成28年度に特別史跡に追加指定された天王塚古墳の発掘調査を実施して報告書を刊行したほか（和歌山県教育委員会2020）、第3期整備までの継続事業として同古墳に至る連絡道路設置工事の一部や天王塚古墳整備基本計画策定及び基本設計を行った。また前山A13号墳、大日山35号墳石室の排水機能整備のための基礎資料を得る目的で、石室排水溝の発掘調査を実施した。以上の継続事業は第3期整備完了時に報告することとし、本書ではその概要を述べるにとどめる。

第2節 整備検討会議

当整備事業は、整備検討会議の指導のもとで実施している。整備委員会の開催日と委員の構成は以下のとおりである。

＜整備検討会議開催日＞

平成27年度特別史跡岩橋千塚古墳群整備検討会議

第1回 平成27年8月31日、9月4日、10月1日 第2回 平成28年3月9日、3月23日
平成28年度特別史跡岩橋千塚古墳群整備検討会議

第1回 平成28年12月15日、12月19日、12月20日 第2回 平成29年2月17日
平成29年度特別史跡岩橋千塚古墳群整備検討会議

第1回 平成30年1月31日、2月9日
平成30年度特別史跡岩橋千塚古墳群整備検討会議

第1回 平成30年6月29日、7月3日 第2回 平成31年2月4日
令和元年度（平成31年度）特別史跡岩橋千塚古墳群保存整備委員会

第1回 令和元年8月22日 第2回 令和2年2月28日
令和2年度特別史跡岩橋千塚古墳群保存整備委員会

第1回 令和2年7月10日、7月16日 第2回 令和2年12月1日、12月3日

第3回 令和3年3月9日、11日

<整備検討会議委員>

和田晴吾 兵庫県立考古博物館館長（平成27～29年度は立命館大学特任教授を兼務）

増渕 徹 京都橘大学教授

小野健吉 和歌山大学観光学部教授（平成27・28年度（独）奈良文化財研究所副所長）

松木武彦 国立歴史民俗博物館教授

菅谷文則（令和元年5月まで） 奈良県立橿原考古学研究所所長

欄宜田佳男（令和元年6月から） 大阪府立弥生文化博物館館長

第3節 整備事業の経過

（1）平成27年度

前山A 58号墳の墳丘整備のための実施設計を委託により実施した。また同古墳の整備に伴い墳丘上に設置するための埴輪レプリカを市民参加により陶芸用粘土を使用して製作した。平成27年度は円筒埴輪20基、石見型埴輪8基を製作した。

古墳保存修景工事として、前山B 153・162号墳の石室の埋戻し及び墳丘の修景を行い、事前に石室の清掃・実測・写真撮影を行った。樹木の成長による墳丘及び石室の損壊を防ぐため、前山A・B地区の古墳上に生えた危険木34本の伐採を委託により実施した。

（2）平成28年度

前山A 58号墳の埴輪等のレプリカについて、円筒埴輪10基、石見型埴輪7基を市民参加により製作した。また、須恵器大甕のレプリカを専門業者への委託により製作した。古墳修景工事として、前山A58号墳の墳丘整備にともなう石室の埋め戻しを行ったほか、前山B 150・152号墳の石室の埋戻し及び墳丘の修景を行った。後者は石室の清掃・実測・写真撮影を行った。また、前山A13号墳の石室への雨水の流入を防ぐため、羨道部の盛土の切土を行った。排水路改修工事として、特別史跡地内の排水路（3-2号排水路）の改修工事を行った。

このほか、特別史跡の追加指定に伴い、既指定地と新規の指定地である天王塚古墳を繋ぐ連絡道路を設置するための測量設計を委託により実施した。

（3）平成29年度

前山A58号墳の墳丘整備工事を行い、墳丘は真砂土で盛土し成形した後、植物分解性の種子

ネットを設置した。また同工事の設計監理業務を委託により実施した。同古墳の埴輪レプリカについて、円筒埴輪 17 基、石見型埴輪 4 基を市民参加により製作した。排水路改修工事として、特別史跡地内の排水路（10 号排水路・13 号排水路・15 号排水路及び、横断管接続柵 7 A・8 A 等）の改修を実施した。さらに古墳群の見学者の利便性向上及び安全面の確保を目的に、従来の便益施設（トイレ・休憩施設）を解体し、新たに設置するにあたり設計業務を委託し、撤去・設置工事を実施した。また天王塚古墳の発掘調査を実施した。

（4）平成 30 年度

前山 A 58 号墳墳丘整備工事として、埴輪設置にかかる基礎工事及び周辺園路の舗装工事を実施した。また、埴輪等のレプリカについて、円筒埴輪 10 基、石見型埴輪 4 基を市民参加により製作したほか、平成 27 年度以降製作したレプリカの墳丘への設置について一部を委託により、一部を市民参加により実施した。また、陶板製の説明板の製作・設置を委託により実施した。

天王塚古墳の公開活用のために必要な管理用道路の設置工事について、総延長 800m のうち既存園路から東へ 100 m（No.5）地点まで実施した。また同古墳の追加発掘調査を実施するとともに、天王塚古墳覆屋設置等整備委託業務として、古墳の石室周辺部保護を目的とする覆屋の設置並びに法面及び石積み部への崩落防止施設の設置を委託により実施した。

（5）令和元年度（平成 31 年度）

古墳修景工事について、前山 B156 号墳の石室埋め戻し及び墳丘の修景を行い、事前に石室の清掃・実測・写真撮影を行った。危険木伐採委託業務として、前山 B 地区の古墳上に生えた危険木 38 本の伐採を委託により実施した。また、天王塚古墳連絡道路設置工事について、No.5 地点から SP7 地点までの 173.5m を対象に実施した。さらに天王塚古墳出土遺物の整理作業を実施した。また、同古墳の整備基本計画を策定した。

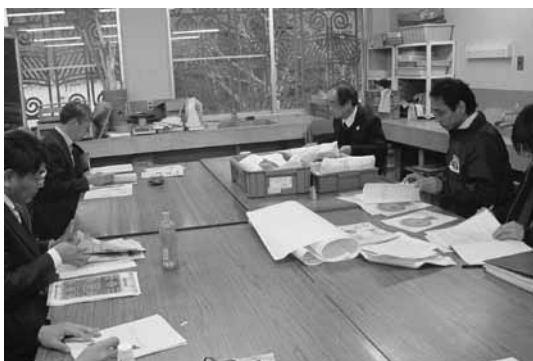
（6）令和 2 年度

前山 A 58 号墳説明板設置業務として、同古墳と周辺古墳の概要を明示した地区説明板の製作及び設置を委託により実施した。古墳修景工事について、前山 B 42 号墳の石室埋め戻し及び墳丘の修景を行い、事前に石室の清掃・実測・写真撮影を行った。

天王塚古墳連絡道路設置工事について、SP7 地点から BC10 地点までの約 136 m を対象に実施した。また天王塚古墳整備基本設計業務を委託により実施した。

第 2 期整備完了に伴い、岩橋千塚古墳群整備報告書作成業務として、本報告書を刊行した。

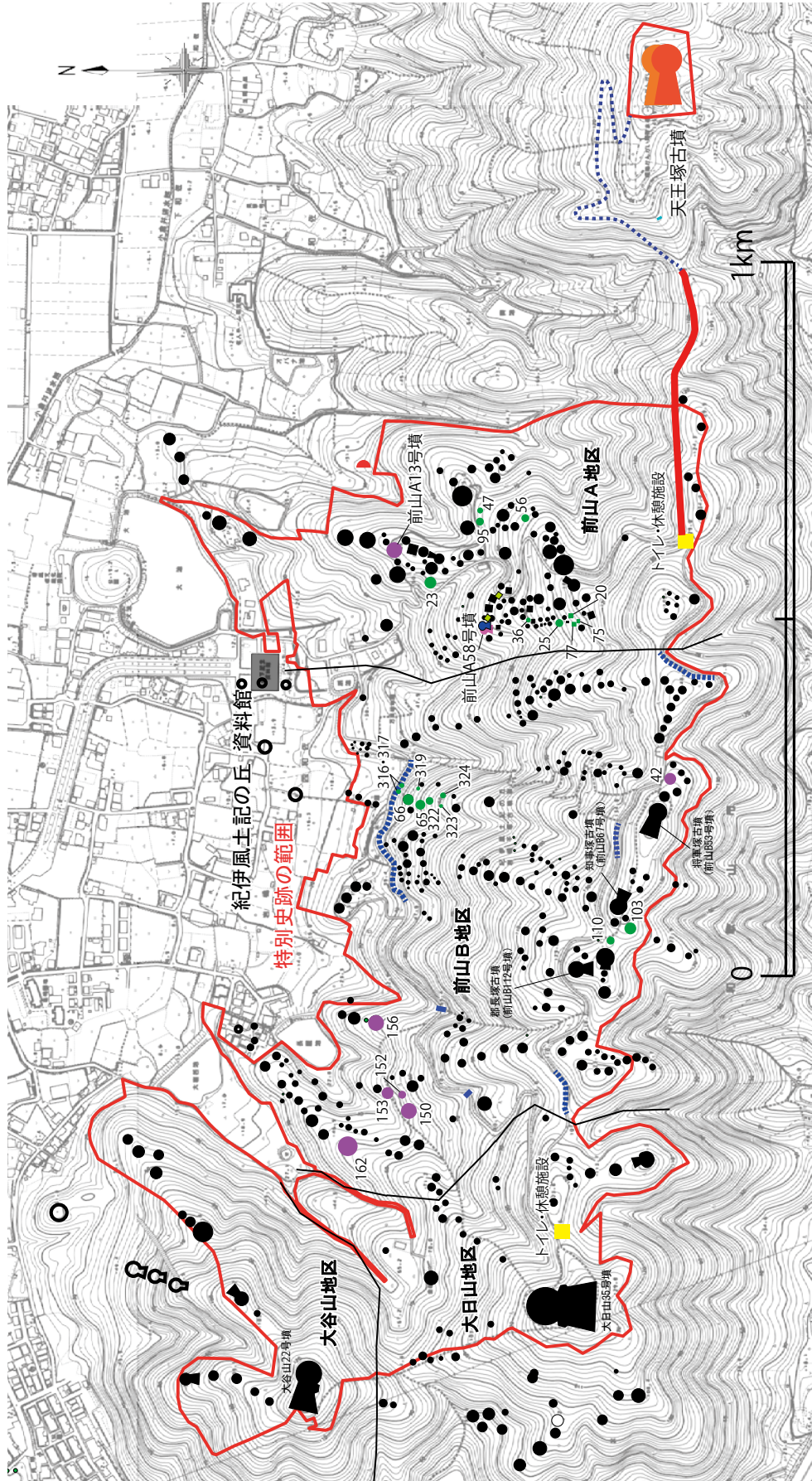
このほか、天王塚古墳発掘調査報告書作成及び前山 A13 号墳及び大日山 35 号墳排水溝発掘調査・報告書作成を実施している。



平成 28 年度第 1 回整備委員会開催状況



令和 2 年度第 3 回整備委員会開催状況



第2期整備事業 (平成27年度～令和2年度)

- 危険木伐採
- 古墳保存修景工事 (石室埋め戻し)
- 前山A58号墳丘整備・復元埴輪製作設置
- 便益施設 (トイレ・休憩施設) 設置
- ◆ 説明板等製作・設置
- 排水路施設整備 実施設計・工事
- 天王塚連絡道路設置
- 天王塚古墳覆屋設置・整備基本計画策定・基本設計
- 発掘調査・出土遺物整理・調査報告書

第1図 特別史跡岩橋千塚古墳群 第2期整備事業 全体平面図 (平成27年度～令和2年度)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

岩橋千塚古墳群周辺の地形は中央構造線が東西に横断し、これによって北側の西南日本内帯、南側の西南日本外帯に分けられ、この中央構造線の南に紀ノ川が西流する。内帯に属する和泉山脈は、領家変成帯の西南端にあたる。堆積岩である礫岩・砂岩・泥岩の互層をなす和泉層群で構成される。外帯は、変成岩である結晶片岩を主体とする三波川変成帯（長瀬変成帯）にあたる。この外帯に龍門山脈があり、結晶片岩中に貫入した蛇紋岩からなる龍門山（756 m）が主峰となる。龍門山脈は西側へ標高を減じながら、途中紀ノ川支流の貴志川に分断されるが、岩橋山塊まで続く。岩橋山塊は和歌山市市街地の東にある丘陵で、標高140～150 mの結晶片岩類で構成される山塊である。東から天王塚山（152 m）・大日山（142 m）と連なり、北端の花山（77 m）や西端の福飯ヶ峯（101 m）へと小山塊が続く。岩橋千塚古墳群はこの岩橋山塊に位置している。

第2節 歴史的環境

（1）周辺の歴史的環境

旧石器時代～弥生時代 岩橋山塊近辺では旧石器時代の遺跡は確認されていない。縄文時代には、岩橋山塊裾部で鳴神貝塚、吉礼貝塚、禰宜貝塚、岡崎縄文遺跡などが形成され、鳴神貝塚や隣接する鳴神Ⅳ遺跡からは抜歯された人物を埋葬した土坑墓などが検出された。弥生時代には、紀ノ川下流域南岸に太田・黒田遺跡、紀ノ川下流域北岸に西田井、北田井、宇田森、川辺、吉田遺跡などの弥生集落が立地する。岩橋山塊南西側の菖蒲谷遺跡では中期の台状墓が検出されている。中期後葉から後期前半には太田・黒田遺跡など平野部の集落が激減し、岩橋山塊にある天王塚古墳周辺の遺跡や和歌山市南端の滝ヶ峰遺跡などで高地性集落が出現する。後期中葉以降、岩橋山塊南西部の井辺、神前遺跡の他、紀ノ川北岸の田屋、西田井、宇田森遺跡など平野部に集落が展開し、その多くは古墳時代前期まで継続する。また紀ノ川下流域では銅鐸6口（有本銅鐸など）が発見されている。

古墳時代 古墳時代には、岩橋山塊西側には鳴神Ⅱ～Ⅵ、音浦、大日山Ⅰ遺跡など古墳時代の集落が立地する。これらの集落からは韓式系土器や滑石製模造品などの祭祀遺物が多く出土する。この他、友田町、秋月遺跡などで竪穴住居や掘立柱建物が検出されている。紀ノ川北岸では、古墳時代中期の大型倉庫群が発見された鳴滝遺跡や、初期須恵器が多数に出土した楠見遺跡が知られている。

次に岩橋千塚古墳群周辺の古墳について概観する。まず紀ノ川下流域南岸では、前期に県内最古の前方後円墳と考えられる秋月1号墳が造営され、中期～後期には秋月、鳴神地区遺跡などで円墳・方墳が造られる。岩橋山塊東側の明楽山（鳩羽山）では東国山、モント塚、明楽、小倉神社、小倉、宮山、奥山田、具束壺、七ツ塚、寺山古墳群など後期の古墳群が形成される。東国山1号墳では竪穴式石室が調査され、2体の人骨と多量の遺物が発見された。明楽古墳群は横穴式石室墳が主体で、2号墳は横穴式石室とともに竪穴式石室をもつ。小倉8号墳は石柵をもつ岩橋型横穴式石室である。具束壺1～3号墳や七ツ塚古墳群は主に7世紀代の横穴式石室墳から構成される。寺山古墳群は方墳3基を含む6世紀後半から7世紀代の古墳群で、蛇紋岩を用いた穹窿

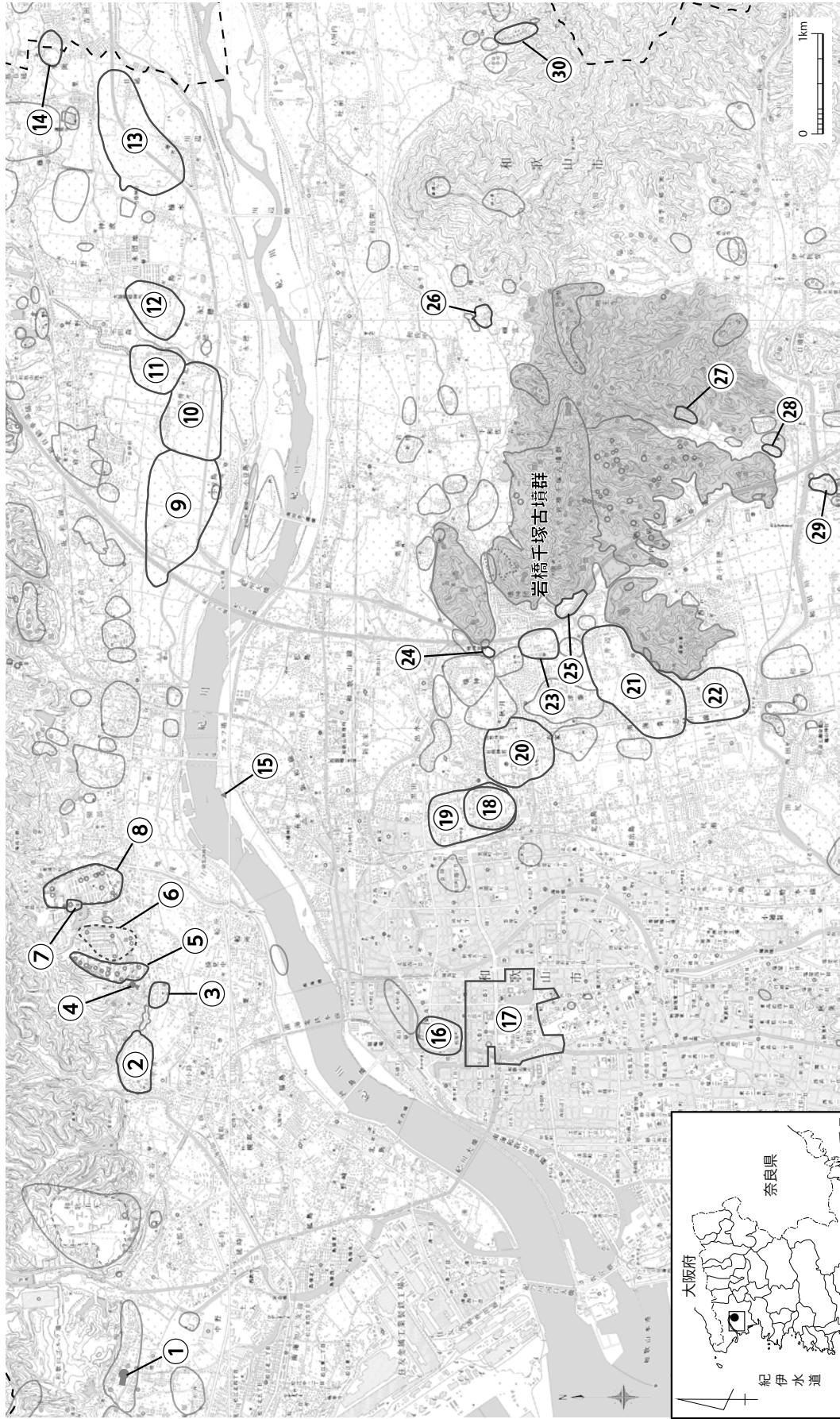
式の横穴式石室が構築されている。

岩橋山塊南東側の貴志川流域の平野部では、古墳時代中期～後期にかけて円墳（罐子塚古墳、丸山古墳、三味塚古墳）や前方後円墳（双子三味塚古墳、平池1号墳）が造営される。丸山古墳は箱式石棺から鉄鋌・鉄鍔を含む鉄製品、玉類、琴柱形石製品などが発見された。平池1号墳は調査の結果、くびれ部に陸橋をもつ6世紀前半の前方後円墳（墳長31.5m）であることが判明した。紀ノ川と貴志川の合流地点には船戸山古墳群・船戸箱山古墳が形成される。船戸山1～3号墳は岩橋型横穴式石室で、うち2・3号墳は石棚を有する。船戸箱山古墳は6世紀前半から中頃に構築され、墳丘には埴輪列が樹立する。なお船戸山古墳群や船戸箱山古墳では、横穴式石室と竪穴系埋葬施設が1墳丘に構築されるなどの複数埋葬施設の特徴が認められる。

岩橋山塊南側から海南市にかけても数多くの古墳が造営されている。伊太祁曾神社1号墳は石棚・石梁をもつ岩橋型横穴式石室である。薬勝寺南山古墳群では1号墳が6世紀後半の箱式石棺、2号墳が横穴式石室である。室山古墳群は6世紀の岩橋型横穴式石室が主体の古墳群で、1・2号墳は石棚・石梁をもつ横穴式石室、4号墳は竪穴式石室、5号墳は片袖傾向の強い両袖式横穴式石室である。山崎山古墳群は調査の結果、5世紀代の礫床をもつ割竹形木棺（5号墳・前方後円墳）と箱式石棺（2号墳）、6世紀初頭の木棺直葬（15号墳）、6世紀代の竪穴式石室（3・11・13・14号墳）、6世紀末～7世紀初頭の石棚をもつ横穴式石室（1号墳）が確認された。

紀ノ川北岸では、釜山古墳群（木ノ本古墳群）にある車駕之古址古墳が調査され、段築、盾形周濠、造り出しを備えた5世紀中頃の前方後円墳（墳長86m）と判明し、金製勾玉などが出土した。高芝1号墳は7世紀の和泉砂岩を用いた横穴式石室、2号墳は全長約40mの前方後円墳である。晒山古墳群では、5世紀前半の晒山1号墳は主体部が粘土槨で、直刀や玉類が出土した。6世紀前半の晒山4号墳・10号墳（背見山古墳、墳長35mの前方後円墳）は横穴式石室をもつ。5世紀後半に築かれた前方後円墳の大谷古墳（墳長67m）は組合式石棺が検出され、鉄製馬冑・馬甲などの豊富な遺物が出土した。雨ヶ谷古墳群は、5世紀後半～6世紀前半の木棺直葬（1号墳）、T字形横穴式石室（2号墳）が調査された。6～7世紀に築造された鳴滝古墳群では、石棚を有する岩橋型横穴式石室（1号墳）、和泉砂岩を用いた横穴式石室（2・10号墳）、木棺直葬（6号墳）が確認された。奥出古墳、園部円山古墳ともに和泉砂岩の巨石を用いた横穴式石室で、園部円山古墳からは金銅装大刀や馬具が出土した。六十谷1・2号墳とも5世紀代の埴輪が出土し、2号墳は全長27mの前方後円墳で、埴輪列・葺石が確認されている。八王子山古墳群は前方後円墳3基を含む約20基の古墳群で、木棺直葬（8号墳）、横穴式石室（16号墳）が確認されている。

奈良時代以降 奈良時代以降の遺跡は、紀伊国一宮の日前・国懸神宮に隣接して、奈良～室町時代の官衙的な施設と考えられる掘立柱建物が確認された秋月遺跡が立地する。また太田・黒田遺跡では奈良時代の大型井戸から斎串や和同開珎が出土し、周辺には条里地割が残る。神前遺跡では、鎌倉時代の溝及び耕作痕が確認された他、宮井用水の水路や屋敷地の区画溝も確認されている。中世には、羽柴秀吉による太田城水攻めのための堤跡がわずかに確認されている。その後、羽柴秀長によって和歌山城が築造され、城を中心とした城下町が形成される。関ヶ原の戦いの後は、桑山一晴、浅野幸長と城主が変わり、徳川頼宣が入城して御三家である紀州徳川家を創設し、約250年にわたり紀州藩により統治が行われる。なお、江戸時代の岩橋千塚古墳群周辺は、紀州藩附家老安藤家の領地であり、初代田辺藩主である安藤帯刀直次の業績をたたえる石碑が安藤塚に建てられている。



- ① 車駕之古址古墳
- ② 平井遺跡
- ③ 桶見遺跡
- ④ 大谷古墳
- ⑤ 晒山古墳群
- ⑥ 雨が谷古墳群
- ⑦ 鳴滝遺跡
- ⑧ 鳴滝古墳群
- ⑨ 田屋遺跡
- ⑩ 西田井遺跡
- ⑪ 北田井遺跡
- ⑫ 宇田森遺跡
- ⑬ 川辺遺跡
- ⑭ 吉田遺跡
- ⑮ 有本銅鑿出土地
- ⑯ 鷲ノ森遺跡
- ⑰ 和歌山城跡
- ⑱ 太田城跡
- ⑲ 太田・黒田遺跡
- ⑳ 秋月遺跡
- ㉑ 井辺遺跡
- ㉒ 神前遺跡
- ㉓ 鳴神Ⅱ遺跡
- ㉔ 鳴神貝塚
- ㉕ 大日山Ⅰ遺跡
- ㉖ 禰宜貝塚
- ㉗ 吉礼砂羅谷窯跡
- ㉘ 吉礼貝塚
- ㉙ 菅蒲谷遺跡
- ㉚ 明菜古墳群

第2図 遺跡分布地図

(2) 岩橋千塚古墳群

岩橋千塚古墳群の概要 岩橋千塚古墳群は和歌山平野の東側、紀ノ川下流南岸にある岩橋山塊一帯の東西約 3km、南北約 2.5km の範囲に広がる 4 世紀末から 7 世紀後半にかけての総数約 900 基に及ぶ古墳群である。古墳群は便宜上、花山地区、大谷山地区、大日山地区、前山 A 地区、前山 B 地区、寺内地区、井辺地区、井辺前山地区、和佐地区、山東地区の 10 地区に分けられる。このうち、特別史跡に指定されているのは、前山 A 地区、前山 B 地区、大日山地区、大谷山地区の一部と和佐地区と山東地区の境界付近に位置する天王塚古墳周辺の約 63 万㎡で、約 500 基の古墳が分布する。

岩橋千塚古墳群における古墳の築造のはじまりは 4 世紀末である。最古の前方後円墳は、花山地区の丘陵頂上に築造された墳長 52m の花山 8 号墳で、後円部の粘土槨と推定される埋葬施設からは鏡が出土したと伝わる。その後、花山地区では、5 世紀前半の前方後円墳である花山 10 号墳、44 号墳や円墳が築造された。花山地区以外では、大谷山地区と寺内地区で 5 世紀前半の中型の円墳である大谷山 39 号墳や寺内 63 号墳が造られた他、井辺前山地区では古墳時代前期から中期に井辺前山 24 号墳が築造されたとみられるが、造墓活動はあまり活発ではなく、地区も限定されていたようである。5 世紀中葉以降は前山 A 地区で小型の方墳が築造されることを除いて、各地区における造墓活動は著しく停滞するとみられる。この時期の岩橋千塚古墳群における首長墓は、中型の前方後円墳の採用や副葬品の内容からヤマト政権との関係をもちえた紀ノ川流域の在地勢力の存在を示すが、必ずしも他地域に比して卓越した規模ではない。

6 世紀に入ると、紀ノ川北岸で築造される前方後円墳の規模は縮小し、これと対照的に紀ノ川南岸の岩橋山塊で前方後円墳の築造数が増加する。6 世紀初頭に花山 6 号墳が造られた後は、大谷山 22 号墳、大日山 35 号墳、井辺八幡山古墳と紀ノ川下流域の首長墓が築造される。首長墓は埋葬施設に岩橋型横穴式石室をもち、墳丘には造り出しや別区、基壇が付設され、埴輪が設置される。その立地は、和歌山平野を望む丘陵の主稜線上に位置するという共通した特徴をもつ。その後は、6 世紀中葉に築かれた天王塚古墳をピークにして古墳の規模は縮小し、6 世紀後半の首長墓とみられる寺内 57 号墳は大型の横穴式石室をもつが、直径 40m 前後の円墳である。

一方、大型の前方後円墳の周辺部には中・小型の前方後円墳、円墳、方墳が混在して群集する岩橋千塚古墳群の光景は、6 世紀の首長墓の築造とともに急速に形成された。多数の小規模古墳は、地域首長の支配体制に組み込まれた有力家族層により築かれたものと考えられ、大日山 70 号墳のように陶質土器や鍛冶具を副葬し渡来系集団と密接に関わりをもつ被葬者も含まれる。

6 世紀初頭には、従来の竪穴式石室、箱式石棺、粘土槨といった竪穴系埋葬施設に代わり、新たな埋葬施設として岩橋型横穴式石室が導入される。岩橋型横穴式石室は、結晶片岩を用い、玄室には石棚や石梁が架構され、玄室前道の入口を扉石で閉塞する。この石室の源流は不明な点が多いが、石棚をもつ石室が瀬戸内海から九州を中心に分布し、また、屍床などの九州系横穴式石室との共通点から、西日本との密接な交流が背景にあったとみられる。

6 世紀末から 7 世紀初頭には、首長墓は方墳へと変化し、岩橋型横穴式石室を埋葬施設とする大型の方墳である井辺 1 号墳が築造される。岩橋千塚古墳群における最後の墓域は、井辺地区と寺内地区にその主体が移るとみられ、寺内地区では 6 世紀後半から 7 世紀代と推定される小型の円墳が複数築造される。この後、7 世紀後半前後まで追葬が続けられたと考えられるが、遅くとも 8 世紀初頭には古墳群はその機能を停止したと推定される。

この古墳群を造営した集団については、記録に登場する豪族「紀氏」に比定する文献史学側の

説が有力である。

岩橋千塚古墳群の調査 江戸時代には紀州藩附家老安藤家の領地となっており、江戸時代後期に編纂された『紀伊続風土記』の岩橋村の項に「村の南山に古墳の跡多し誰の墳なるや詳ならず」と記載されている。明治時代になると、明治36年（1903）に村民が古墳から須恵器や鉄鏃、鉄刀などの鉄製品を発見し、和歌山県から宮内省へ提出された後に東京帝室博物館に寄贈された。明治39年（1906）に東京大学の坪井正五郎と交友のあった紀州徳川家の当主・徳川頼倫が古墳群の調査を行い、その翌年に明治40年（1907）には東京大学人類学教室の大野雲外が、岩橋千塚古墳群で出土した装飾付須恵器や天王塚古墳・將軍塚古墳・前山A 17号墳の石室構造について報告した。前山A 17号墳では発掘調査が実施され、箱式石棺の副室から衝角付冑が出土している。明治44年（1911）にはイギリス人のN.G. マンローが『Prehistoric Japan』で岩橋千塚古墳群の石室を海外に紹介した。またこの頃より、古墳群では盗掘も行われるようになっていったようである。

大正7年（1918）には、和歌山県が岩橋千塚第一期調査を行った。黒板勝美の指導のもと岩井武俊・田澤金吾らが前山A地区を調査し、大正10年（1921）に『和歌山県史蹟名勝天然記念物調査報告書』として報告した。この報告では前山A地区の古墳分布図のほか、古墳の図面と写真が多数掲載されている。報告された古墳は前山A 46号墳や前山A 67号墳など27基にのぼり、このうち11基の古墳は、紀伊風土記の丘の石室公開古墳として活用されている。

岩橋千塚古墳群は、昭和6年（1931）7月31日、文部省告示第275号をもって史跡指定を受けた。指定範囲は当時の西和佐村の共有林で、現在の前山A・B地区にあたる。昭和7年（1932）には、大日山35号墳石室に祀られた大日如来の参詣のための広場造成工事中に、付近より石室と遺物が発見されている。石室内から土器類、鏡などが出土したと報告されている。

第二次世界大戦の終わる昭和20年頃には防空壕の掘削などにより古墳の破壊が進行した。戦後間もない昭和23年頃には食糧難による岩橋千塚古墳群の開墾計画が持ち上がったが、田中敬忠・宮田啓二氏らの尽力により古墳群は保存された。古墳群の保存運動として全国でも初期の例として知られ、昭和27年（1952）の特別史跡指定に結実した。しかし、昭和30～40年代になると、岩橋千塚古墳群周辺で市街地化が進み、古墳群は存亡の危機に立たされた。市街地に近い花山・大谷山・井辺前山等の地区では、開発と文化財保護の折り合いが付かず、花山10号墳や花山44号墳、井辺前山6号墳など岩橋千塚古墳群の主要な前方後円墳までもが消滅していった。

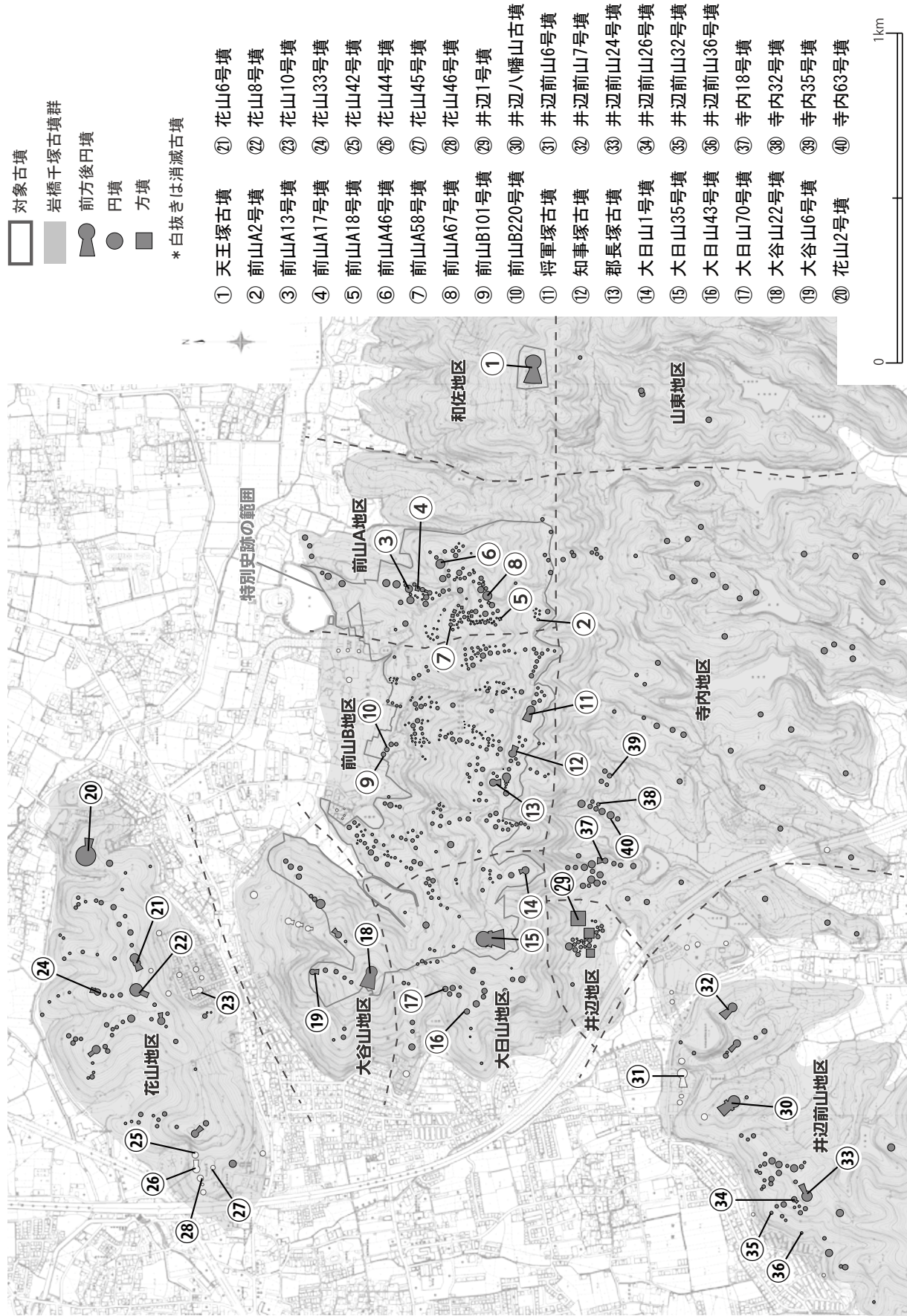
このような中で、和歌山市教育委員会は関西大学・同志社大学等の協力を得て、古墳群の実態の調査に乗り出した。調査成果は『岩橋千塚』、『井辺八幡山古墳』にまとめられ、古墳の分布や、主要な古墳の規模・形状や石室、出土遺物等が紹介された。また、和歌山県教育委員会では特別史跡指定地の県有地化を進め、昭和46年（1971）に県立紀伊風土記の丘が開園した。昭和47～48年には、和歌山県教育委員会によって隣接する大谷山地区において、粘土槨と箱式石棺をもつ大谷山39号墳や初期の横穴式石室をもつ大谷山6号墳等の調査が行われた。昭和50年度には紀伊風土記の丘園内にて、花木園・花木園東地区の発掘調査が行われ、墳丘が復元された。昭和63年（1988）には、史跡の追加指定が行われ古墳の保存が図られた。平成7～10年度には、特別史跡岩橋千塚古墳群の周辺部において古墳の分布踏査と発掘調査が行われ、岩橋千塚古墳群全体の把握が進んだ。平成12年には大谷山12～17・38号墳の調査が行われ、周辺地域が特別史跡に追加指定された。

平成15年度からは、岩橋千塚古墳群の保存と活用をより充実させるために、和歌山県では特

別史跡岩橋千塚古墳群保存修理事業を開始した。長期計画とともに5年から10年程度の単位で短期計画を定め、整備事業を進めている。

【引用・参考文献】

- 金谷克巳 1955 『紀伊の古墳 1』 紀伊考古学研究会
金谷克巳 1956 『紀伊の古墳 2』 綜藝舎
金谷克巳 1960 『紀伊の古墳 3』 日本考古学研究会
関西大学文学部考古学研究室 1967 『岩橋千塚』
関西大学考古学研究室編 1967 『花山西部地区古墳』
和歌山県文化財研究会 1967 「和歌山市鳴滝古墳群の調査」『和歌山県文化財学術調査報告第二冊』
関西大学考古学研究室編 1972 『和歌山市における古墳文化』
同志社大学考古学研究室編 1972 『井辺八幡山古墳』
和歌山県教育委員会 1972 『近畿自動車道和歌山線埋蔵文化財調査報告』
同志社大学文学部文化学科考古学研究室 1973 『和歌山市楠見雨が谷古墳群調査報告』
和歌山県教育委員会 1978 『山崎山古墳群緊急発掘調査報告書』
和歌山県史編纂委員会 1983 『和歌山県史』 考古資料
和歌山県教育委員会 1984 『鳴滝遺跡発掘調査報告書』
和歌山県教育委員会 1984 『鳴神地区遺跡発掘調査報告書』
和歌山県教育委員会 1987 『広域遺跡群詳細分布調査 1 井辺前山古墳群とその関連遺跡』
園部円山古墳保存会 1989 『和歌山市指定文化財（史跡）園部円山古墳調査概報』
財団法人和歌山県文化財センター 1990 『田屋遺跡』
和歌山市教育委員会 1991 『六十谷古墳群発掘調査報告書』
和歌山市教育委員会 1993 『車駕之古址古墳 発掘調査概報』
和歌山県教育委員会 2000 『岩橋千塚周辺古墳緊急確認調査報告書』
大野嶺夫 2003 『岩橋千塚ところ・どころ』
和歌山県教育委員会 2005 『緊急雇用対策特別基金事業に係る発掘調査資料整理概報』
和歌山県立紀伊風土記の丘 2008 『特別展 岩橋千塚』
和歌山県教育委員会 2010 『特別史跡岩橋千塚古墳群 発掘調査・保存整備事業報告書 1』
和歌山県教育委員会 2013 『大日山 35 号墳発掘調査報告書－特別史跡岩橋千塚古墳群発掘調査・保存整備事業報告書 2－』
和歌山県教育委員会 2015 『特別史跡岩橋千塚古墳群 発掘調査・保存整備事業報告書 3－大日山 35 号墳・前山 A 13 号墳、前山 A 58 号墳発掘調査報告書－』
和歌山県教育委員会 2016 『大谷山 22 号墳、天王塚古墳－特別史跡岩橋千塚古墳群追加指定に伴う発掘調査報告書－』
和歌山県教育委員会 2017 『岩橋千塚古墳群－大谷山 4・5・6・39 号墳発掘調査報告書－』
和歌山県教育委員会 2018 『岩橋千塚古墳群－大谷山 27 号墳・28 号墳発掘調査報告書－』
和歌山県教育委員会 2019 『特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画書』
和歌山県教育委員会 2020 『特別史跡岩橋千塚古墳群 天王塚古墳発掘調査報告書』



第3図 特別史跡岩橋千塚古墳群分布図

第3章 前山 A58 号墳の墳丘復元整備

第1節 事業に至る経緯

前山 A58 号墳は、前山 A 地区の北側に延びる丘陵尾根上に位置し、周囲には小型の円墳・方墳が密集して分布する。平成 21・22 年度の発掘調査の結果、6 世紀前半に築造された墳長 19.6 m の小型前方後円墳であることが明らかになった。埋葬施設は後円部西側に開口した岩橋型横穴式石室である。墳丘は、後円部 2 段、前方部 1 段の構造で、後円部テラスと前方部墳頂平坦面に円筒埴輪や石見型埴輪が樹立した状態で検出された。後円部は上部が削平を受けていたが、転落した埴輪片の出土から埴輪の樹立が想定された。前方部墳頂平坦面には馬、人物などの形象埴輪が樹立され、東側くびれ部には須恵器大甕が据えられていた（和歌山県教育委員会 2015）。

前山 A 58 号墳の発掘調査により、岩橋千塚古墳群における小型前方後円墳の様相が明らかとなり、古墳群の階層構成を理解するうえで不可欠であるとして復元整備を実施することとなった。復元整備の方法は、整備検討会の指導・助言を受けながら検討した。横穴式石室は壁体に土圧によるはらみが認められ崩落の危険性が高いことから埋め戻しによる保護をおこない、墳丘の復元を中心に実施する方針とした。また、墳丘の復元整備では樹立状況の判明した後円部テラス及び前方部墳頂平坦面に円筒埴輪及び石見型埴輪、馬形埴輪レプリカを、東側くびれ部に須恵器大甕レプリカを設置することとし、全体の形状や樹立状況の明らかでない埴輪レプリカの製作は実施しないこととしている。

事業は、平成 27 年度に実施設計、平成 28 年度に横穴式石室の埋め戻し工事、平成 29・30 年度に墳丘の復元整備工事を行い、平成 30 年度にレプリカ及び説明板の設置を実施した。レプリカのうち埴輪レプリカについては教育普及事業における体験学習を開催して市民参加により製作した。また令和 2 年度には地区説明板を設置している（第 1 表）。

第 1 表 前山 A58 号墳墳丘復元整備に伴う事業一覧

年 度	内 容	業務名	契約金額	受託業者
平成 27 年度	墳丘等整備実施設計	平成 27 年度特別史跡岩橋千塚古墳群保存整備事業に伴う前山 A58 号墳墳丘等整備実施設計委託事業	1,890,000	㈱空間文化開発機構
	埴輪レプリカ製作 (円筒埴輪 20 基、石見型埴輪 8 基)	(和歌山県立紀伊風土記の丘の教育普及事業により製作)	71,280(原材料費)	
平成 28 年度	須恵器大甕レプリカ製作	平成 28 年度特別史跡岩橋千塚古墳群前山 A58 号墳復元整備レプリカ製作委託業務	972,000	㈱岩尾磁器工業
	石室埋め戻し保護 (前山 B150・152 号墳石室埋め戻し・修景と同一業務で実施)	平成 28 年度紀風第 3 号古墳保存修景工事	1,848,960	(有)ユカワ開発
	埴輪レプリカ製作 (円筒埴輪 10 基、石見型埴輪 7 基)	(和歌山県立紀伊風土記の丘の教育普及事業により製作)	21,120(原材料費)	
平成 29 年度	墳丘整備工事(墳丘復元・芝張)	平成 29 年度紀風第 1 号前山 A58 号墳修景工事	3,866,400	(有)ユカワ開発
	墳丘整備工事施工監理	平成 29 年度前山 A58 号墳墳丘等整備事業施工監理業務委託	475,200	㈱空間文化開発機構
	埴輪レプリカ製作 (円筒埴輪 17 基、石見型埴輪 4 基)	(和歌山県立紀伊風土記の丘の教育普及事業により製作)	59,840(原材料費)	
平成 30 年度	墳丘整備工事 (レプリカ設置用基礎設置/テラス・園路土舗装)	平成 30 年度前山 A58 号墳墳丘等整備工事	1,985,040	㈱井谷産業
	埴輪レプリカ運搬・設置/説明板(陶板)製作	平成 30 年度特別史跡岩橋千塚古墳群(前山 A58 号墳)説明板製作・設置等委託業務	1,895,400	㈱岩尾磁器工業
	復元埴輪製作 (円筒埴輪 10 基、石見型埴輪 4 基)	(和歌山県立紀伊風土記の丘の教育普及事業により製作)	0	
令和 2 年度	地区説明板製作	令和 2 年度特別史跡岩橋千塚古墳群説明板等製作設置委託業務	275,000	㈱和歌山ディスプレイ

第2節 墳丘整備工事

(1) 墳丘の復元

前山 A58 号墳は発掘調査の結果、全長約 20m の小型の前方後円墳であることが確認されているが、特に前方部が後円部に比べ低い点、1 段目テラスと前方部上面が連続せず前方部がテラスより後円部中心側に食い込む点、前方部上面が西側に傾斜する点などに特徴がある。墳形の遺存状況は比較的良好であったが、後円部上半が大きく削平され、横穴式石室も天井石および壁面石積みの一部が消失していた。このため、後円部高さは発掘調査で得られたデータに加え岩橋千塚古墳群の他の事例を参考に、石室高さを 2.0m、石室上の盛土を 1.5m に復元した。

また、墳丘の整備に際しては、遺構検出面上に 30cm 以上（埴輪樹立部分には 50cm 以上）の厚さの保護層を確保しながら上記の特徴を明示できるよう墳丘を成形した。

(2) 墳丘整備工事

①石室の埋め戻し（平成 28 年度）

遺構面保護及び掘削境界明示のため塩分を含まない砂により、石室内部及び西側トレンチを人力により埋め戻した。なお、砂は古墳近くの幹線園路まで 2t トラックで運搬し、副園路を経てクローラ運搬車で運搬した後、一輪車で石室まで人力運搬した。

②樹木伐採（平成 29 年度）

墳丘の復元に支障のある樹木 7 本を伐採した。

③墳丘の成形（平成 29 年度）

盛土 原則として真砂土による盛土を実施したが、墳丘東側の一部については切土を使って成形した。なお、真砂土は石室埋め戻し時と同様の方法で古墳まで運搬した後、小型のバックホーを使いながら一輪車等で人力運搬した。盛土は層状に行い、ランマを使って層ごとに締固めを行った。

張芝 1 段目斜面、2 段目斜面及び後円部墳頂にノシバを張り表面保護を行った。

前方部上面及び後円部テラス面の整備 埴輪レプリカの設置面となるため、盛土上に碎石を敷設しプレートコンパクタで表面を均した。なお、平成 30 年度のレプリカ設置時に真砂土及び土系舗装（スーパーガンコマサ）による仕上げを実施している。

④レプリカ設置用基礎設置（平成 30 年度）

石見型埴輪及び須恵器レプリカ設置用の基礎（施設配置図の基礎 B・C・D）をコンクリート打設により設置した。なお、馬形埴輪レプリカ、人物埴輪レプリカ用の基礎（施設配置図の基礎 A・基礎 E）は現地には設置しなかった。

(3) 周辺整備

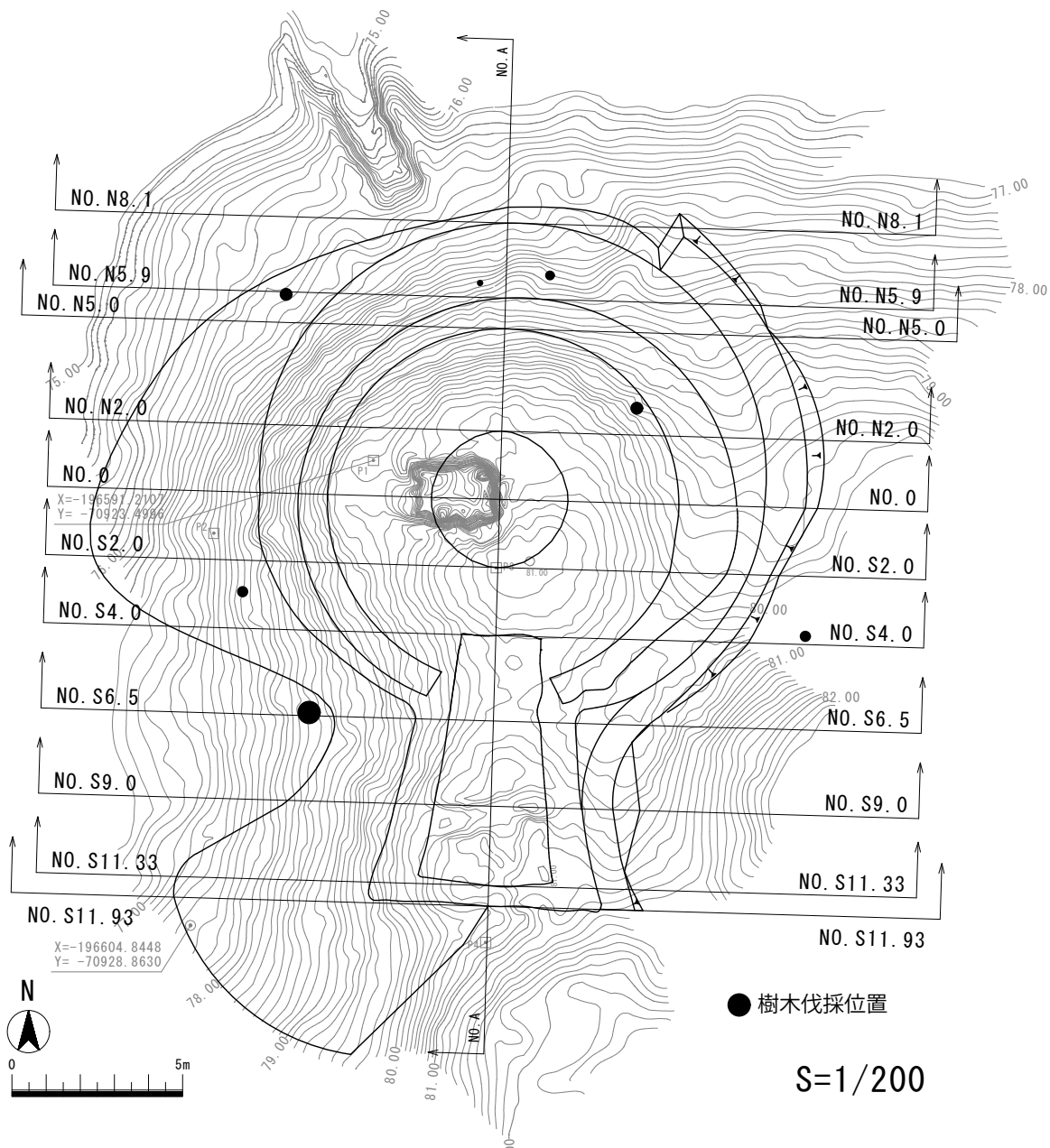
①墳丘外の植生整備（平成 29 年度）

墳丘西側の墳丘裾は傾斜変換点が不明瞭であることから、植物分解性の種子ネットを設置して墳丘裾の明示をするとともに、墳丘外における植生の整備を行った。

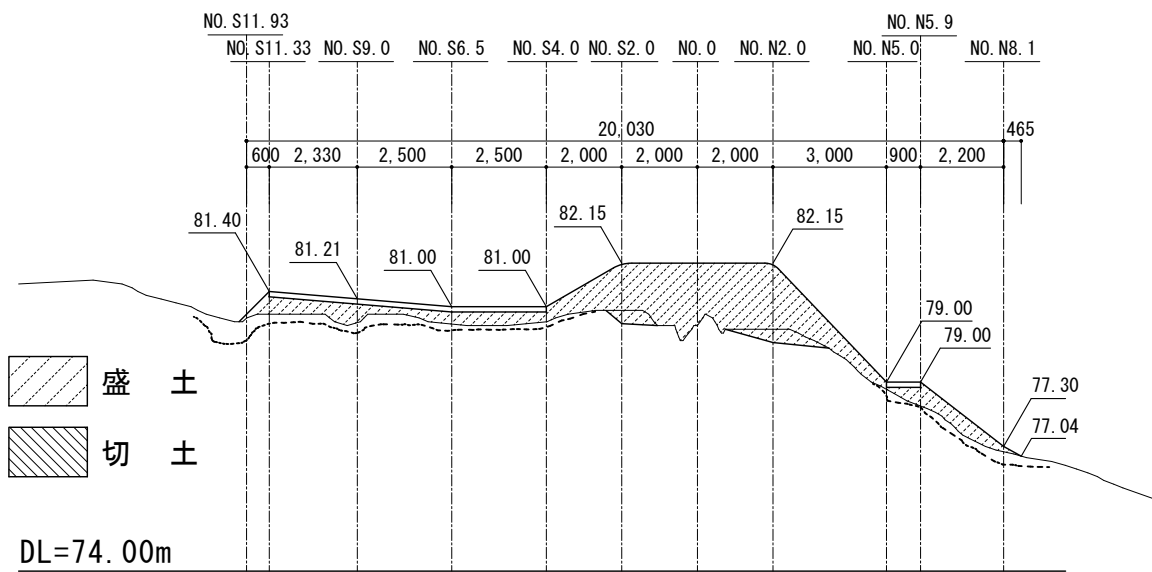
②副園路の整備（平成 29・30 年度）

実施設計の検討段階において、当初は墳丘の外周を巡る副園路を検討したが、墳丘西側が急傾斜で副園路設置には基礎工事が必要となる等の理由により、墳丘東側にのみ設置する設計とした。また、副園路は幅 1.5m の確保を目指したものの、旧地形の保護のためにやむを得ず一部を縮小し、前方部上面及び後円部テラス面と同様の土系舗装を行った。

③説明板の設置（平成 30 年度・第 4 節参照）

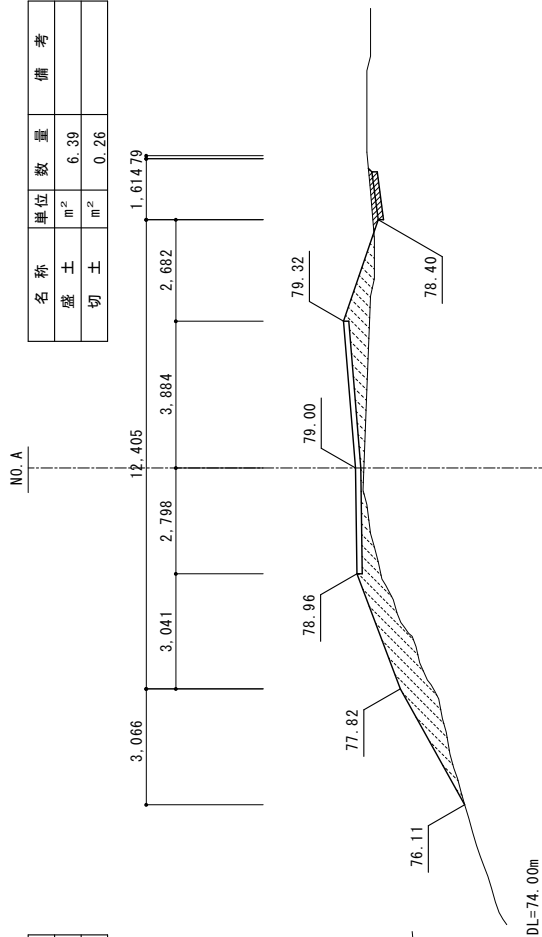


伐木位置図・造成平面図・断面位置図

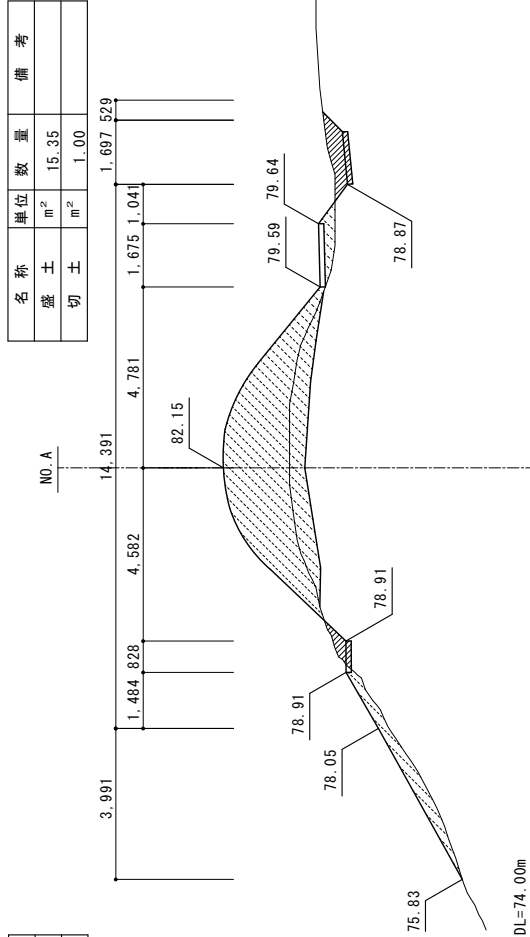


NO.A断面図 S=1/200

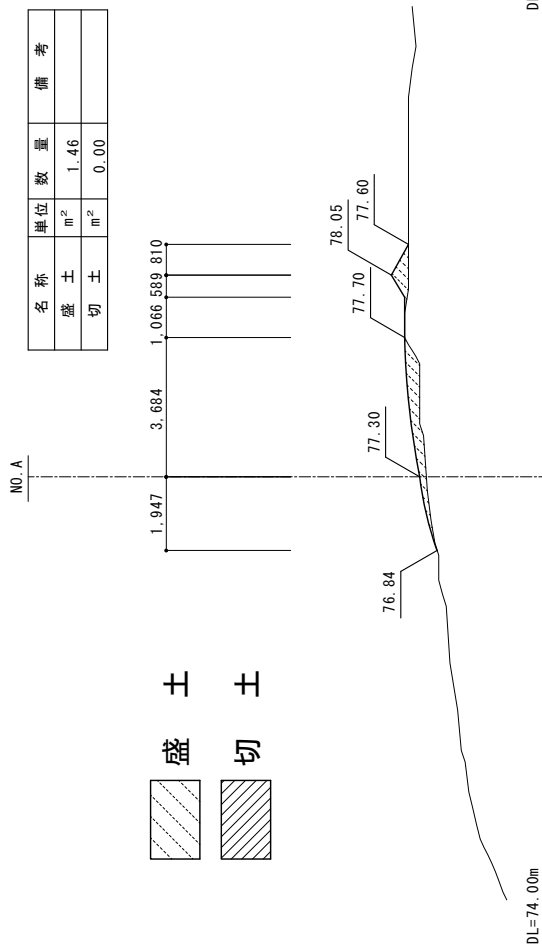
第4図 前山 A58号墳 墳丘整備工事設計図(1)



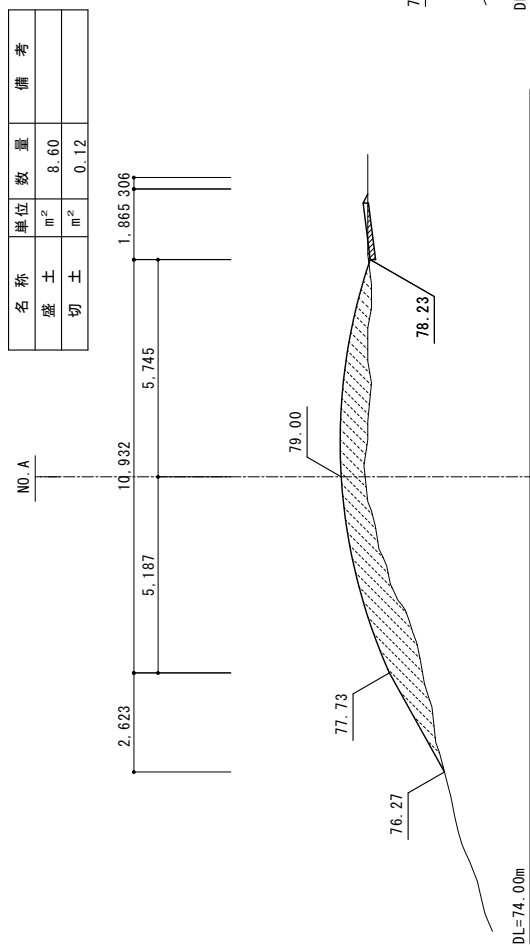
NO. N5.0断面図 S=1/200



NO. N2.0断面図 S=1/200



NO. N8.1断面図 S=1/200

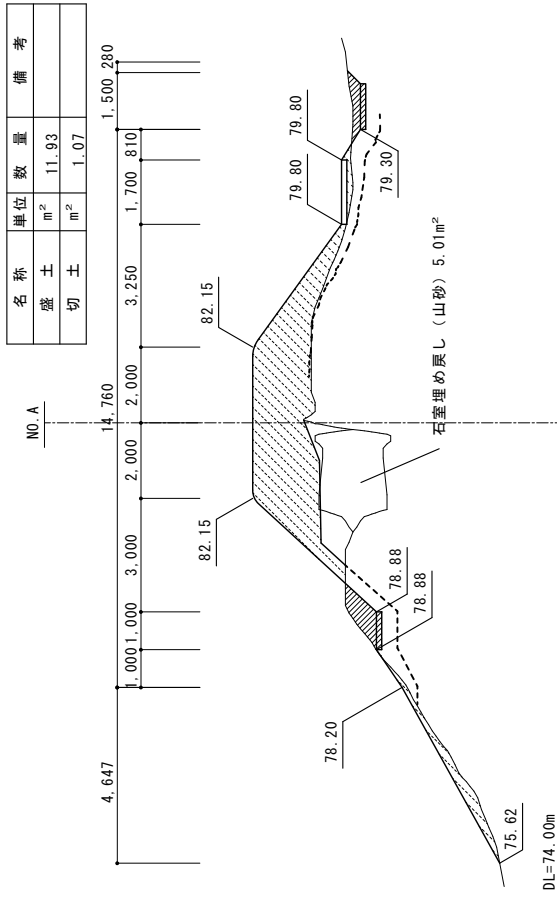


NO. N5.9断面図 S=1/200

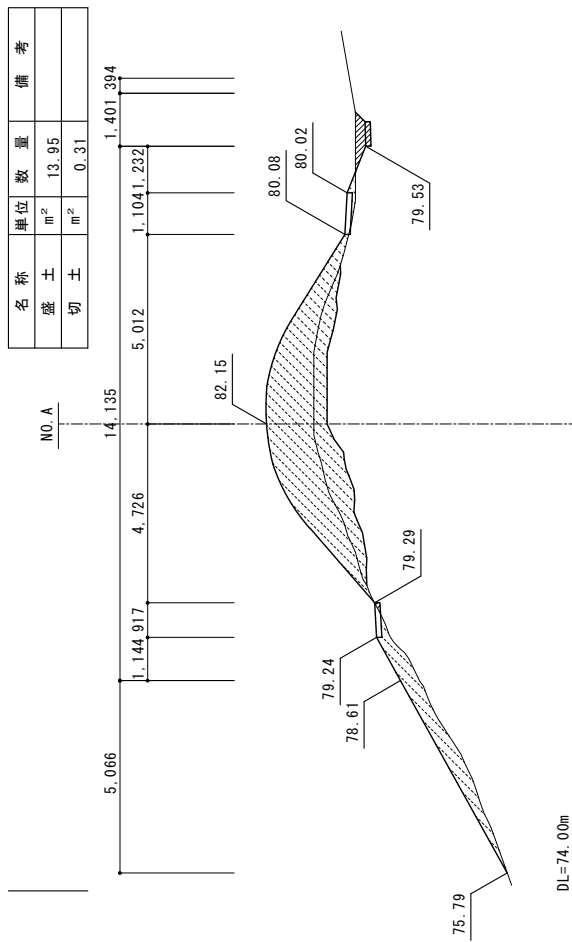
盛土

切土

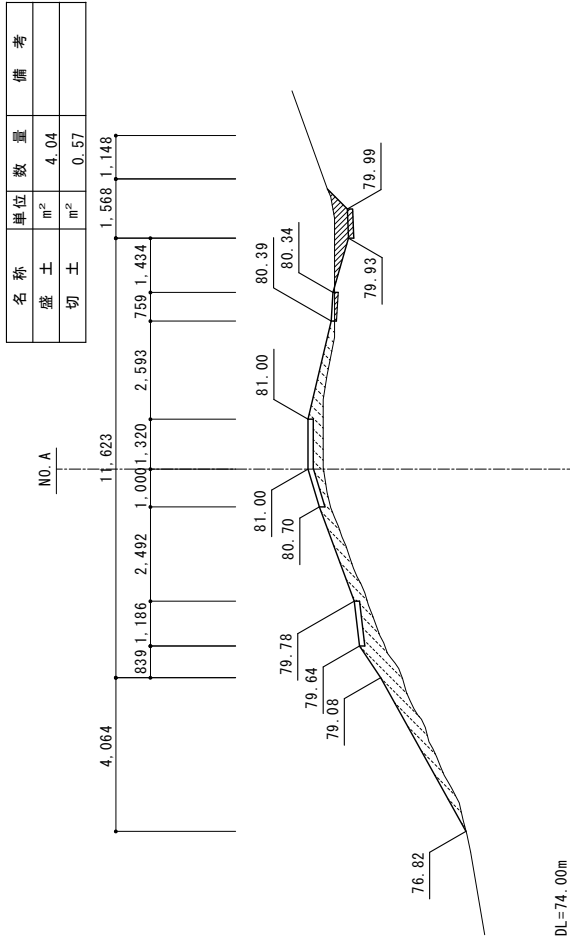
第5図 前山A58号墳 墳丘整備工事設計図(2)



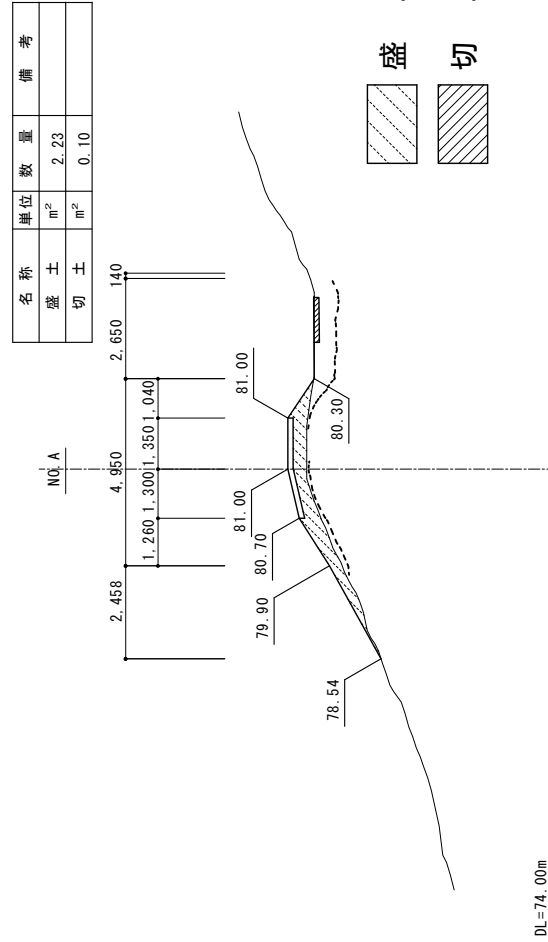
NO. 0断面図 S=1/200



NO. S2.0断面図 S=1/200



NO. S4.0断面図 S=1/200

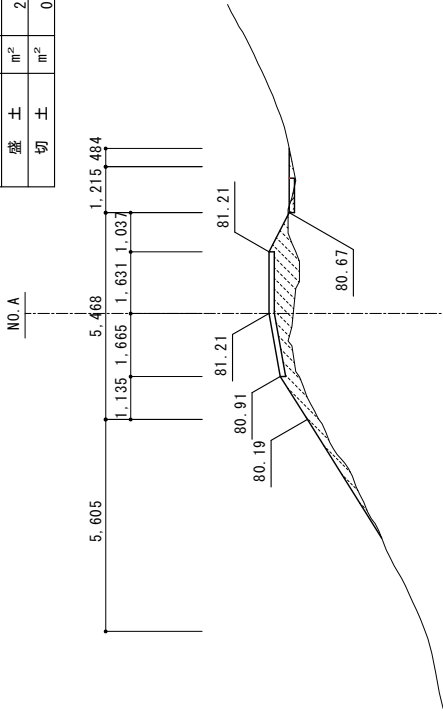


NO. S6.5断面図 S=1/200

盛土
切土

第6図 前山 A58号墳 墳丘整備工事設計図 (3)

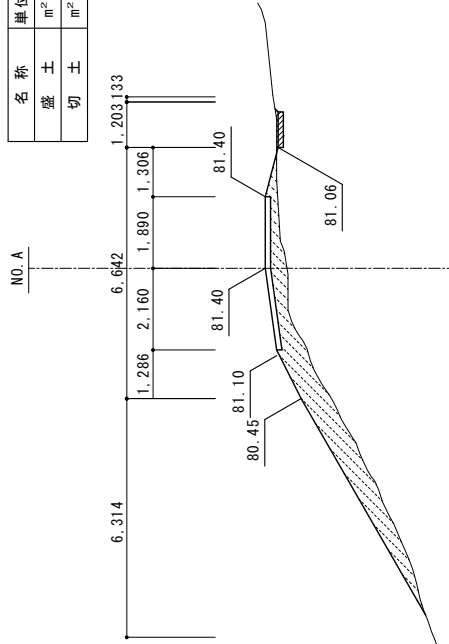
名称	单位	数量	備考
盛土	m ²	2.85	
切土	m ²	0.05	



DL=74.00m

NO. S9.0断面図 S=1/200

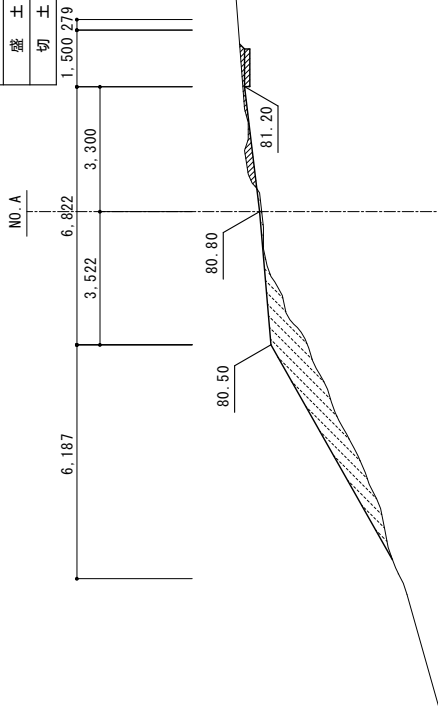
名称	单位	数量	備考
盛土	m ²	5.62	
切土	m ²	0.15	



DL=74.00m

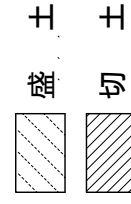
NO. S11.33断面図 S=1/200

名称	单位	数量	備考
盛土	m ²	4.43	
切土	m ²	0.64	

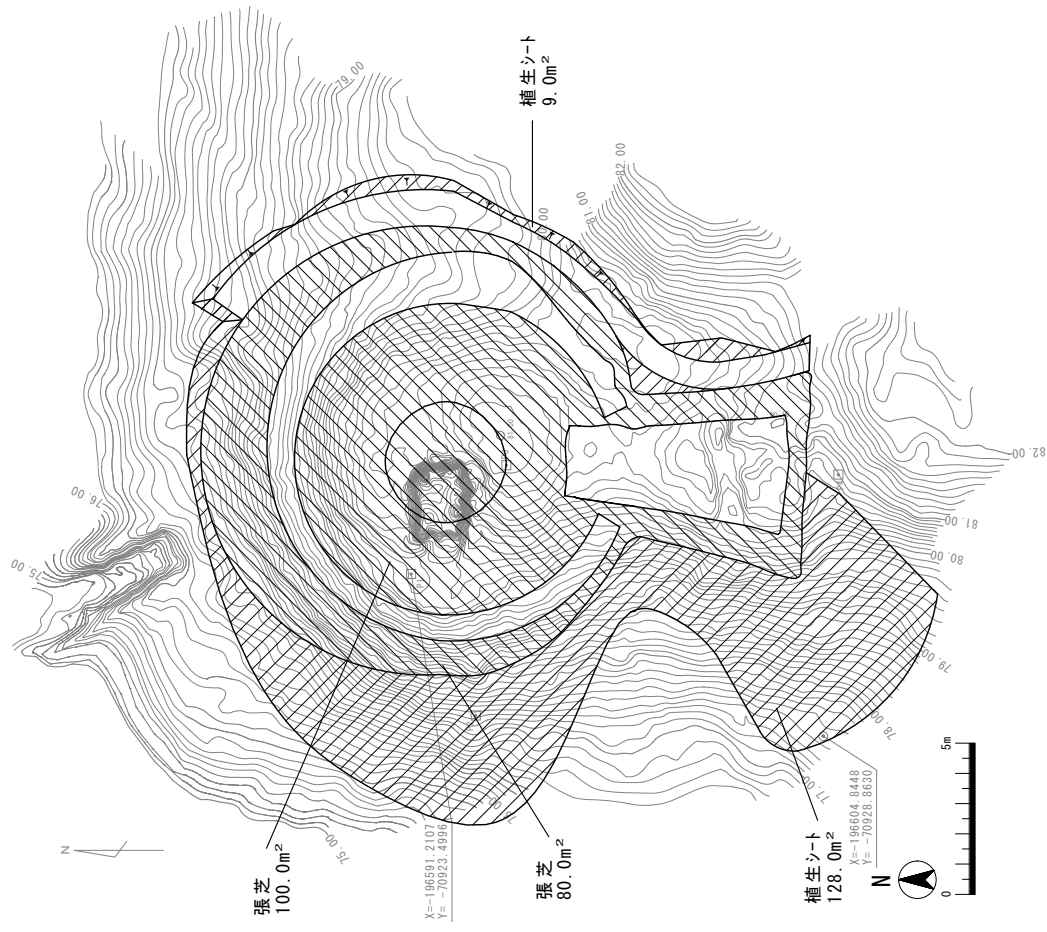


DL=74.00m

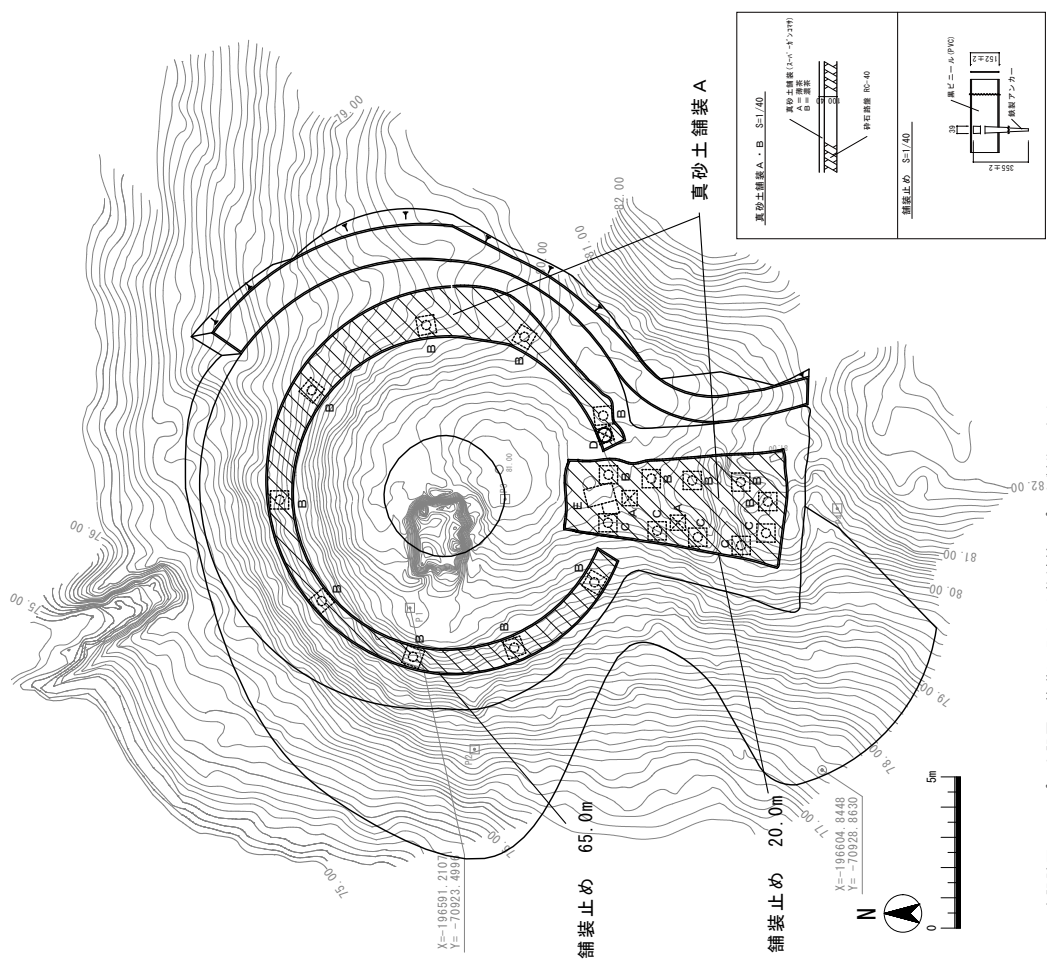
NO. S11.93断面図 S=1/200



第7図 前山 A58 号墳 墳丘整備工事設計図 (4)



植栽平面図 S=1/160

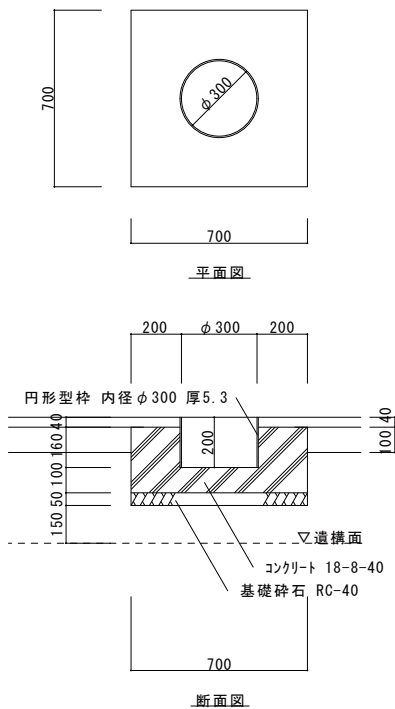


施設配置図 S=1/160

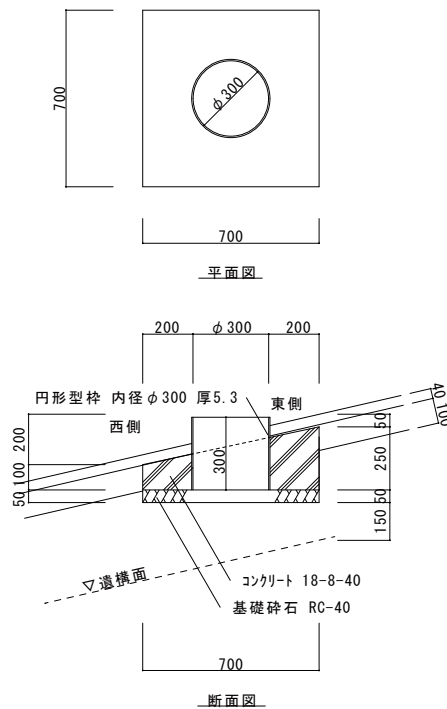
※本設計図面のレプリカ設置用基礎・Eは、人物通輪レプリカ製作の中止及び鳥形通輪の素組み穴埋め込み固定への変更により設置しなかった

第8図 前山 A58 号墳 墳丘整備工事設計図 (5)

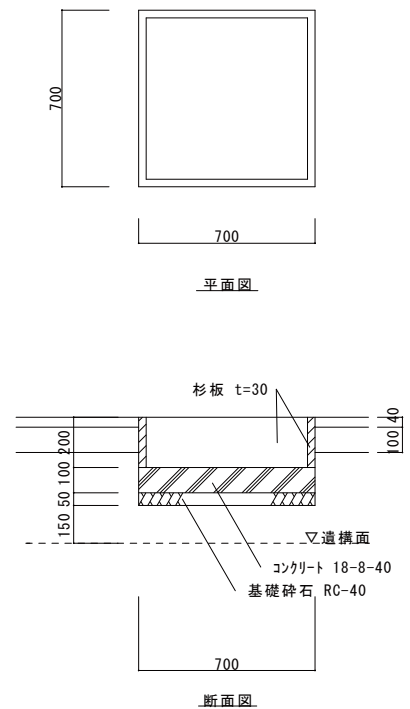
基礎B (石見型埴輪 前方部東側・後円部)



基礎C (石見型埴輪 前方部西側)



基礎D (須恵器大甕)



S=1/30

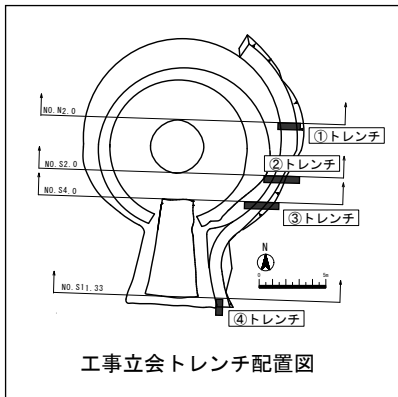
図9図 前山 A58 号墳 墳丘整備工事設計図 (6)

(4) 整備工事に伴う工事立会

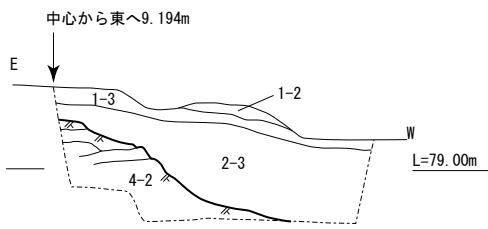
本整備工事では、発掘調査で得られた前山 A58 号墳の墳丘面レベルから 30cm 以上（埴輪樹立位置については 50cm）の保護層を確保して設計したが、副園路を設置する墳丘の東及び南側については未確認で、隣接する前山 A104・A153・A156 号墳への干渉の可能性も考えられたため、施工業者の協力を得て墳丘等の内容確認調査を行った。

調査の結果、墳丘東側に設定した①・②・③トレンチでは、岩盤上に後世の土が堆積していることを確認した。岩盤は東に向かい高くなるが、これが自然地形か墳丘の一部であるのかは判断できなかった。④トレンチでは、南に向かい高くなる岩盤と前山 A153 号墳の墳丘盛土の可能性が考えられる層を確認した。

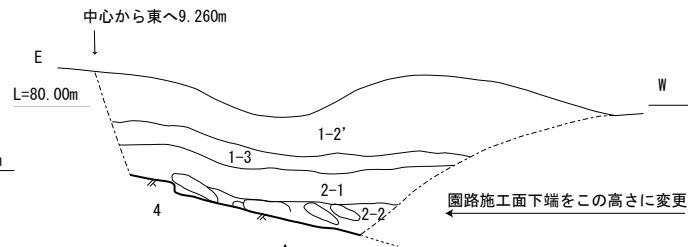
この結果、②③トレンチ付近は旧地形もしくは墳丘の岩盤に干渉するため、副園路の幅を狭く底面を高く設計変更して施工した。また、前方部前端の④トレンチ付近については、副園路の設置幅を確保することが困難であったため、南側への設置は断念し東側のみの設置に設計変更して整備工事を実施した。



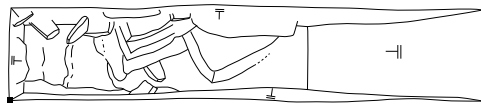
- 1層：表土
 1-1：灰黄褐色 [10YR5/1] シルト（近年の盛土）
 1-2：明黄褐色 [10YR6/6] シルト（近年の盛土）
 1-2'：黄褐色 [2.5Y5/3] 細砂（近年の盛土）
 1-3：褐灰～灰黄褐色 [10YR4/1～4/1] 細砂（表土）
- 2層：後世の堆積土
 2-1：にぶい黄色 [2.5YR6/3] シルト、～30cm大の片岩含む
 2-2：にぶい黄色 [2.5YR6/4] シルト、粗砂含む
- 3層：填丘盛土か
 3-1：にぶい黄色 [2.5Y6/4] シルト、地山土少量含む
- 4層：ベース土
 4-1：にぶい黄～明黄褐色 [2.5Y6/4～6/6] シルト、粗砂含む
 4-2：明黄褐色 [10YR6/6～6/8] 岩盤



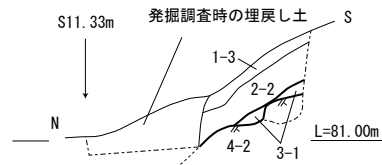
①トレンチ 南壁土層断面図
 (N2ラインから南へ0.5m)



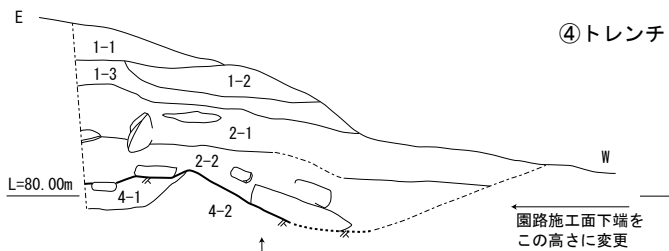
②トレンチ 南壁土層断面図 (S2ラインから南へ0.5m)



中心から7.674mの杭



④トレンチ 東壁土層断面図 (センターラインから東へ3.196m)



③トレンチ 南壁土層断面図 (S4ラインから南へ0.5m)

第10図 前山 A58 号墳 工事立会土層断面図 (S=1/40)

第3節 埴輪レプリカ等の製作及び設置

(1) 埴輪レプリカ等の製作・設置の方針

レプリカは、樹立状況の判明した後円部テラス及び前方部墳頂平坦面に円筒埴輪及び石見型埴輪、馬形埴輪レプリカを、東側くびれ部に須恵器大甕レプリカを設置することとした。その配置は、発掘調査トレンチで確認された円筒埴輪及び石見型埴輪の樹立位置と間隔から、くびれ部を除く後円部墳丘テラスでは円筒埴輪4基と石見型埴輪1基が交互に配置する復元案とし、前方部墳頂では平坦面を円筒埴輪と石見型埴輪が交互に配置して圍繞する復元案を採用した。

また、形象埴輪については、当初は巫女や馬曳きの可能性のある人物埴輪のレプリカ製作・設置も予定していたが、全体の形状を復元するうえで情報が不足しているため、本復元整備ではこれを見送ることとし、馬形埴輪のみレプリカを製作・設置する方針とした。

なお、樹立状況の明らかでない後円部墳頂の埴輪の復元についても行っていない。

レプリカのうち、埴輪レプリカは県立紀伊風土記の丘の教育普及事業である体験学習を開催して市民参加による製作とし、須恵器大甕レプリカのみ専門業者に製作を委託した。

(2) 業者委託による須恵器大甕レプリカの製作

東側くびれ部より出土した須恵器大甕のレプリカを、平成28年度に専門業者に委託して製作した。設計寸法は高さ80cm、胴部最大径65cmである(第12図)。レプリカの素材は陶磁器で、吸水率5パーセント以下とした。製作にあたっては、設計図面を製作してこれに基づいた成形を行うとともに、実物と同様の調整痕や波状文などの文様が表現されるよう留意した。また、調整痕や色調についてはテストピースと原品を比較して決定した。素材の耐久性については、使用する素材と同等のものによる吸水率実験と凍害試験を実施した試験結果の提出を受け、確認をおこなった。焼成後は、県立紀伊風土記の丘資料館へ搬入して検査を実施した。

(3) 市民参加による埴輪レプリカの製作

体験学習の開催 円筒埴輪や石見型埴輪レプリカは、教育普及事業において一般市民参加により製作した。レプリカは、発掘調査で出土し復元された埴輪をモデルとして設計図を作成した(第12・13図)。レプリカの設計高は円筒埴輪が43cm、石見型埴輪が126cm、馬形埴輪が高さ92cm・長さ100cmである。製作にあたり平成27年度から30年度に体験学習「前山A58号墳の実物大の埴輪をつくろう」を計13回開催した。体験学習への参加者は延べ146人で、このうち実物大の埴輪レプリカの製作者は延べ95人である。製作にあたっては陶芸家の指導を受け、出土した埴輪の観察所見に基づいて製作技術や調整、形態を再現することに留意した。以上により製作したレプリカ総数は、製作途中の破損品等を除いて、円筒埴輪55基、石見型埴輪19基、馬形埴輪1基である。このうち円筒埴輪レプリカ10基を予備として保管したほかは、現地に設置した。

埴輪レプリカの材質 レプリカ製作には陶芸用粘土または和歌山県内で入手した良質な地山土を使用して、土練機にて砂とシャモット、水を加えながら混ぜ合わせて整えた。地山土と砂の割合は4:1程度とした。シャモットの使用目的は、レプリカの胎土中にシャモットの白色粒子が肉眼で確認できることで、仮にレプリカが復元整備古墳上で破損した場合にも、実物の埴輪と現代品であるレプリカの破片を識別可能にするためである。

埴輪レプリカの焼成 レプリカは一定期間の乾燥を経て焼成した。円筒埴輪レプリカは陶芸用電

気窯を使用し700℃ないし800℃の設定温度で焼成した。大型の石見型埴輪や馬形埴輪レプリカは電気窯の焼成室には納まらないことから、埴輪焼成用のレンガ製窯を県立紀伊風土記の丘園内に新規に製作・設置して焼成した。レンガ製窯における焼成は、平成27年度から30年度までの合計15回実施し、焼成温度は約600～800℃である。

補修・補強 石見型埴輪レプリカは、焼成時に各所に亀裂が生じることがあり、さらに基部の突帯が外れるなどの破損が頻繁に生じた。破損部の修復や、亀裂への接着剤の充填には、エポキシ系樹脂の接着剤（株）コニシ製ボンドクイックメンダー30）を使用し、破損品などをすりつぶした粉末を、充填した接着剤の表面にまぶした。さらに石見型埴輪レプリカはレンガ製窯による焼成であるため焼成温度が低いものがあり、現地設置時に雨水の吸水による破損が懸念されることから、バインダー（10%希釈）を表面に塗布するなどの強化処理を実施した。

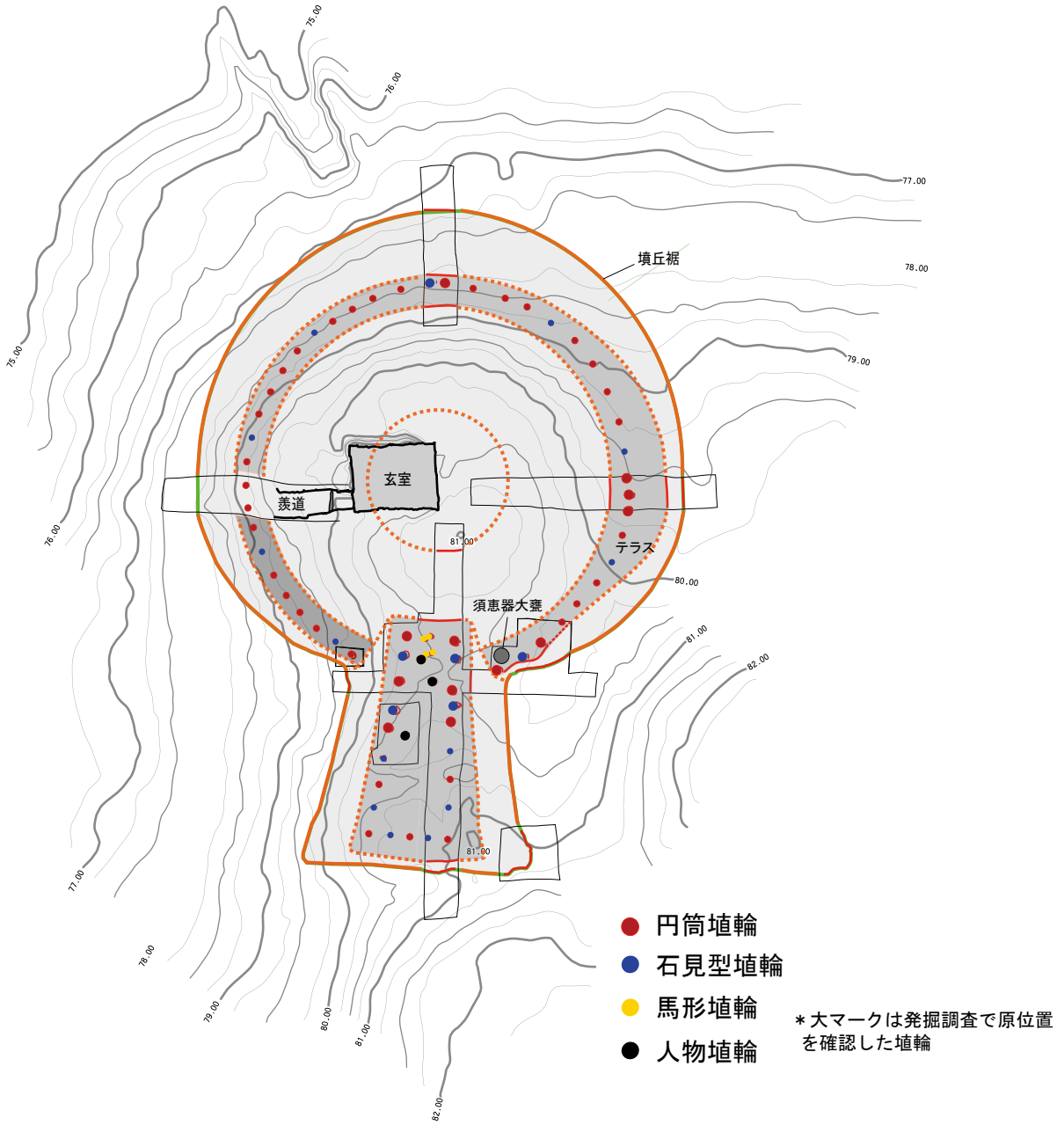
（4）レプリカの設置

①レプリカの搬出・設置

県立紀伊風土記の丘資料館から前山A58号墳へのレプリカの搬出及び設置を平成30年度に専門業者に委託して実施した。石見型埴輪・馬形埴輪レプリカと須恵器大甕レプリカは専門業者が運搬・設置を行い、円筒埴輪レプリカ35基は県立紀伊風土記の丘が搬出を行い、このうち18基を専門業者が設置した。なお、石見型埴輪、須恵器大甕レプリカはコンクリート製の設置用基礎に固定し、その他のレプリカは素掘り穴に埋め込み固定を行っている。

②市民参加による円筒埴輪レプリカの運搬・設置

古墳の復元整備事業と教育普及事業を一体化させた取り組みとして、円筒埴輪レプリカ27基を製作した市民が自身の手で前山A58号墳に設置する「埴輪設置式」及び「復元整備完成記念セレモニー」を平成31年3月10日に開催し、平成27年度から30年度にレプリカを製作した市民と関係者61人が参加した。また、レプリカ製作者のうち希望者は古墳時代人の装いで円筒埴輪レプリカ10基を資料館から運搬し、鍬や鋤を使って設置したほか、発掘調査成果等を参考に古墳時代の飲食物供献儀礼を再現し、首長・巫女などを演じた。当該イベントには、小学生、中学生、高校生、30代から80代までの幅広い年齢層の市民やボランティアが参加しており、地域に根差した特色ある古墳の復元整備事業を実施することができた。



第11図 前山 A58 号墳 埴輪樹立状況復元図 (S=1/200)

実測図寸法 785H ~ 780H × 630W

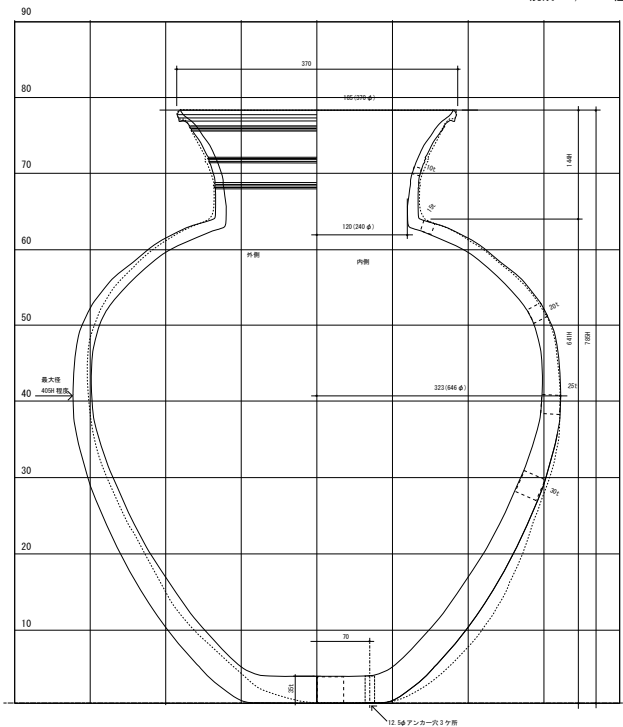
制作寸法 785H × 646W

製作仕様 原料：KH原料（ひのはに）有色原料

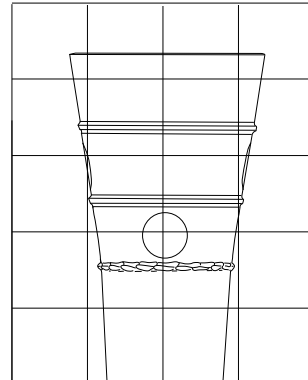
着色：釉薬及び顔料による表面着色焼付

紋様：木片コタタキ及び櫛目による装飾

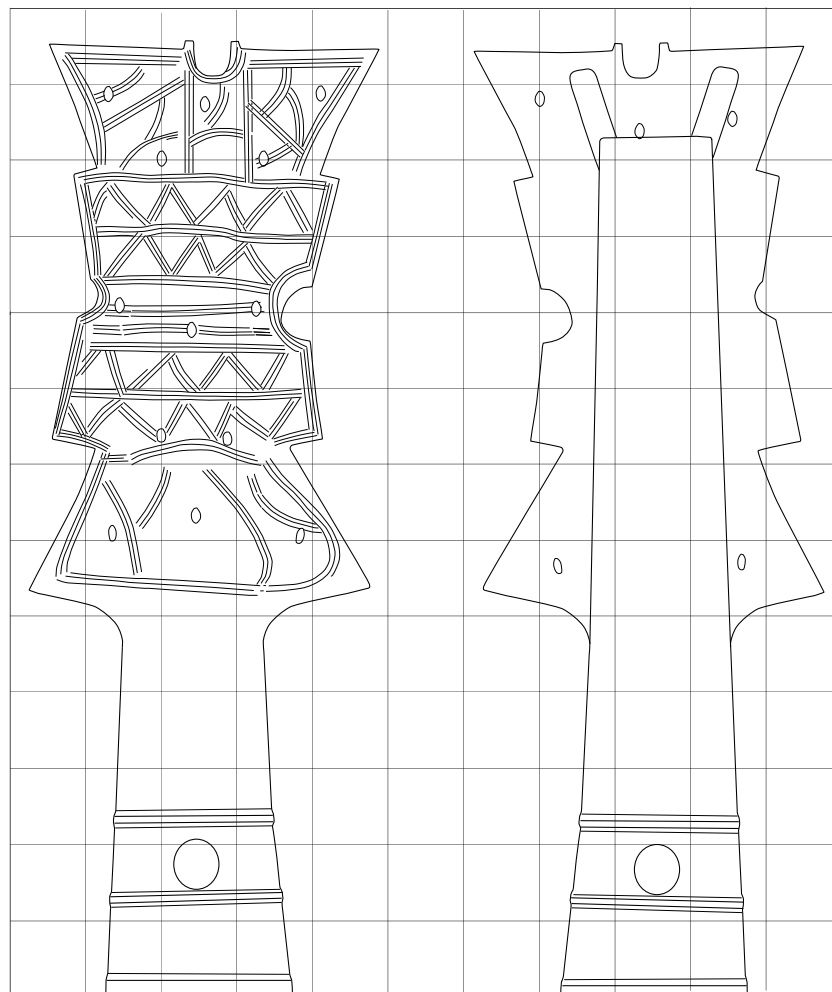
焼成：1,200℃程度の酸化焼成



須恵器大甕レプリカ設計図（専門業者委託製作）

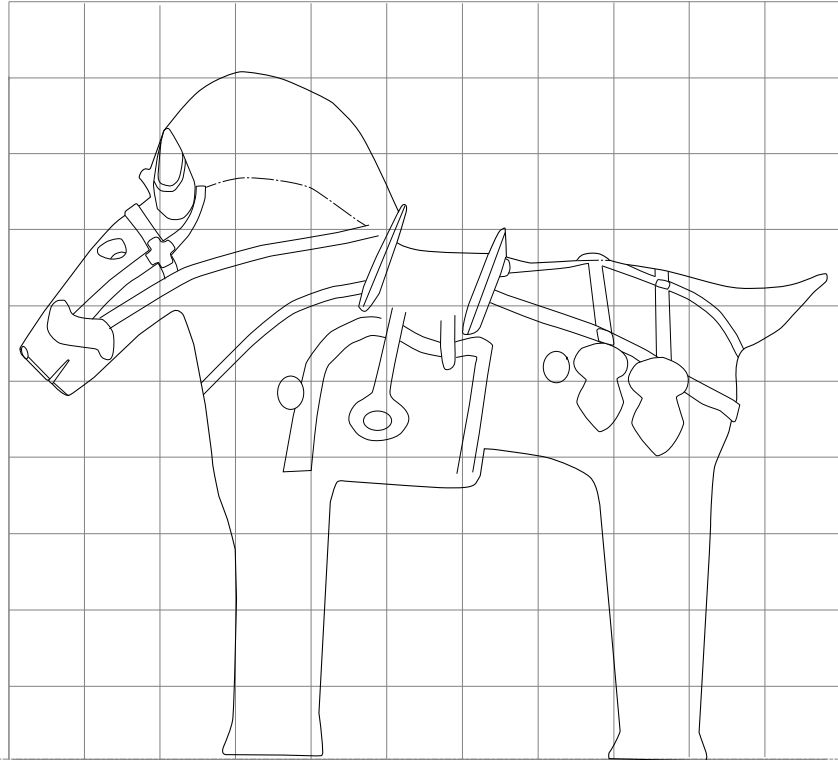


円筒埴輪レプリカ設計図（市民参加製作用）



石見型埴輪レプリカ設計図（市民参加製作用）

第12図 前山 A58 号埴墳丘復元整備用レプリカ設計図（1）（S=1/10）



馬形埴輪レプリカ設計図（市民参加製作用）

第13図 前山 A58 号墳埴丘復元整備用レプリカ設計図（2）（S=1/10）

第4節 説明板製作・設置

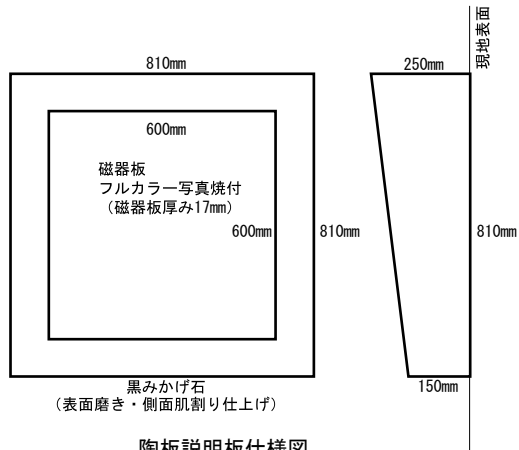
（1）陶板説明板の製作・設置

復元整備された前山 A58 号墳の概要を解説した説明板の製作・設置を平成 30 年度に専門業者へ委託した（第 14 図）。陶板製で 60cm 四方盤面に解説文と図を焼き付けている。また台座は黒御影石製である。

大日山 35 号墳、將軍塚古墳、前山 A46 号墳などの岩橋千塚古墳群の主要古墳における説明板と同様の仕様とした。

（2）地区説明板の製作

主園路から前山 A58 号墳周辺へ誘導するための地区説明板 1 基の製作・設置を令和 2 年度に専門業者へ委託した（第 15 図）。岩橋千塚古墳群の各所に配置している既設の地区説明板と同様の仕様とした。



黒みかげ石
(表面磨き・側面肌割り仕上げ)

陶板説明板仕様図

前山 A58 号墳

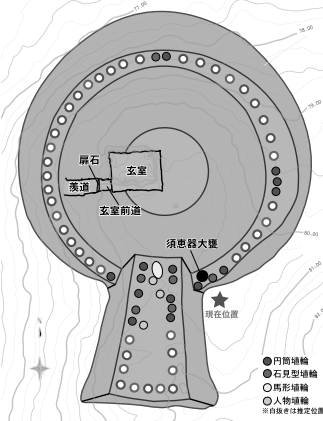
The Maeyama A Tomb No.58
마에야마A58 호분

6世紀前半に築造された小型の前方後円墳です。全長は19.6mで、前方部1段、後円部2段の構造をもち、前方部が低く造られています。墳丘上には、円筒埴輪、朝顔形埴輪、石見型埴輪が立て並べられています。前方部頂には馬形埴輪、人物埴輪が、東側のくびれ部付近には須恵器の大甕が据えられていました。

後円部には西に開口した、岩橋型横穴式石室が造られています。石室からは須恵器、土師器のほかに、馬具、鉄刀、鉄鏃、刀子、玉類などの副葬品が出土しました。

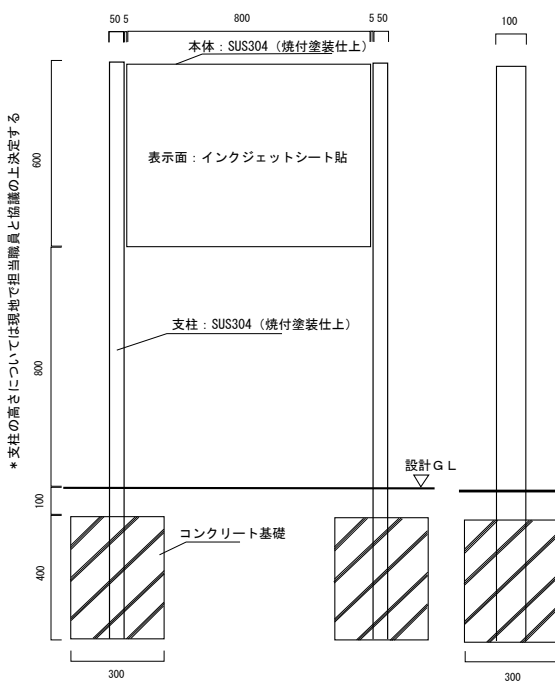
古墳の立地や規模、副葬品からみて、大型の前方後円墳に葬られた首長層よりも、やや低い階層の人物が葬られていたと考えられます。

埴輪配置図



平成 31 (2019) 年 和歌山県教育委員会

第14図 前山 A58 号墳 陶板説明版仕様図及び板面



地区説明板仕様図

- * 支柱・本体の角は面取りを行う。
- * 全体のデザイン、色彩、材料、細部の詳細は平成20年度以降設置の説明板仕様基準とするものとし、詳細については担当職員と協議の上決定する

前山 A 地区 前山 A58 号墳と周辺の古墳

前山 A 地区は、岩橋山塊から北へ延びる複数の尾根上に古墳が密集して造られています。ここは、前山 A 地区の西側の尾根にあたり、小型の前方後円墳・前山 A58 号墳のほか、多数の方墳や円墳など5世紀後半から6世紀頃に造られたさまざまな古墳を見学することができます。前山 A58 号墳は岩橋型横穴式石室を埋葬施設とし、墳丘には多数の埴輪が樹立していました。現在は墳丘の復元整備がおこなわれ、市民により制作された埴輪レプリカを設置しています。前山 A99 号墳は埋葬施設に小型の岩橋型横穴式石室をもつ円墳で、前山 A111 号墳・108 号墳は竪穴式石室を、前山 A100 号墳は箱式石棺をもつ方墳です。



第15図 前山 A58 号墳周辺 地区説明版仕様図及び板面

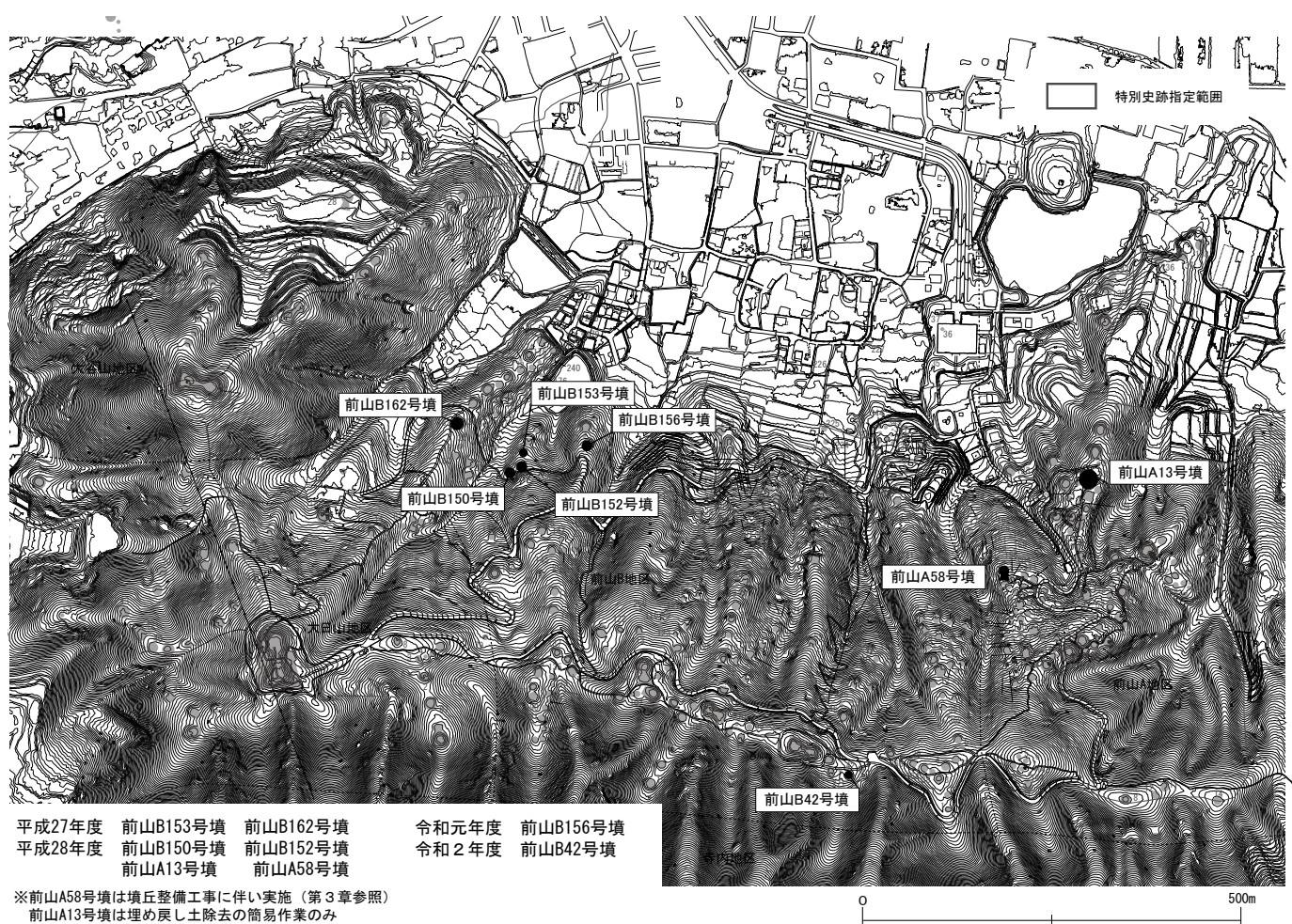
第4章 古墳修景工事及び石室実測調査

第1節 事業に至る経緯

和歌山県は、特別史跡岩橋千塚古墳群を対象に、平成17年度より古墳修景工事を実施している。これは、過去に盗掘などを受けて毀損し、崩壊の危険がある石室については、現状での記録作成後に砂による埋め戻しを実施して保護を図るとともに、墳丘上に盛土を施し修景を行うものである。

記録作成については、石室内部に堆積した腐葉土などを除去し清掃した後に写真撮影を実施し、視認できる範囲で平面図・立面図を作成して石室の現況を記録する。工事については、石室内部に砂を充填した後、上部に真砂土で盛土を施して墳丘の修景を行う。墳丘表面には種子ネットを貼ることにより緑化を図り、盛土の流出を防止する。また、盗掘を受けた際に生じた窪みや、経年変化による土砂の流出、イノシシ等による獣害などが認められる古墳についても、真砂土による埋戻しを施し修景を行うこととしている。

平成27年度から令和2年度までの6カ年度で、古墳修景工事を実施した古墳（第16図）は、前山B42号墳、同150号墳、同152号墳、同153号墳、同156号墳、同162号墳と、墳丘整備工事（本書第3章）に伴い石室の埋め戻しを実施した前山A58号墳の7古墳である。また、関



第16図 古墳修景工事対象古墳位置図（平成27年度～令和2年度）

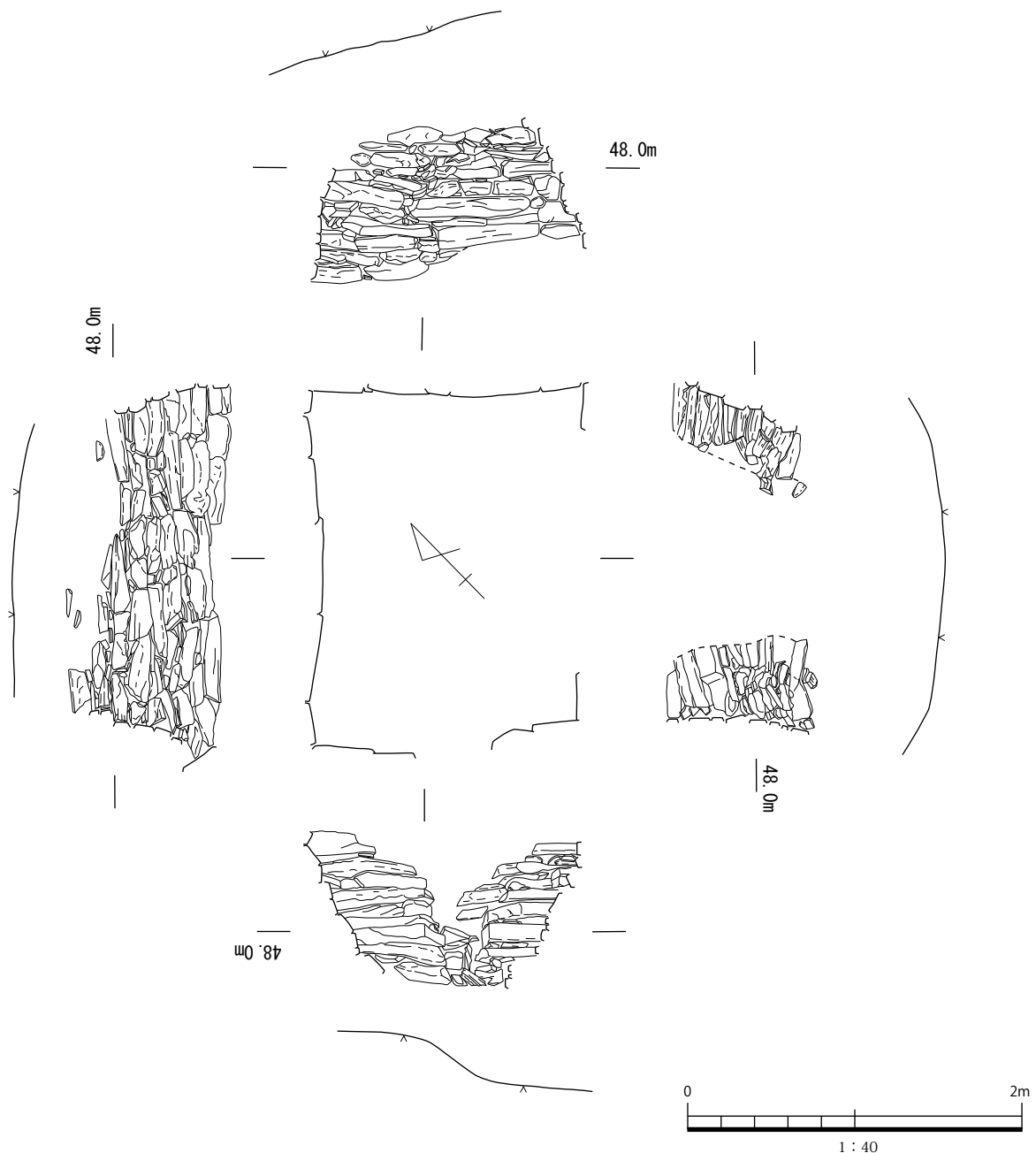
連して前山 A13 号墳石室への雨水の流入を防止する目的で、過去の発掘調査における埋め戻し土を掘削・除去して羨道部の傾斜を変更する簡易な作業も平成 28 年度に実施している。

このうち過年度に発掘調査成果を報告した前山 A58 号墳（和歌山県教育委員会 2015）を除く 6 古墳について、工事に伴い実施した石室実測調査の成果と、清掃作業時ないし事前の古墳踏査時に出土した出土遺物を報告する。

第 2 節 石室実測対象古墳の概要

(1) 前山 B153 号墳 (第 17 図)

平成 27 年度に保存修景工事を実施した。直径 10.5 m、高さ 1.5 m の円墳で、石室は南西方向に開口する両袖式の岩橋型横穴式石室である。視認できる範囲では玄室幅約 1.6 m、玄室長約 2.1



第17図 前山 B153 号墳 石室実測図 (S = 1/40)

mで、残存高は約 0.8 mである。

床面は検出しておらず、床面における石室規模はこれより大きくなると推測される。天井石は欠失しており、左側壁の石材の大部分も欠失している。

(2) 前山 B162 号墳 (第 18 図)

平成 27 年度に保存修景工事を実施した。直径 16.5 m、高さ 4.5 m の円墳で、墳丘斜面でテラスの可能性のある範囲では円筒埴輪列が原位置で巡ることが一部確認され、保護のため真砂土による埋め戻しを行った。また墳丘上部及び墳丘裾下の副園路より円筒埴輪及び形象埴輪の破片が複数採集されており、埴輪が樹立していた可能性が高い。

石室は、東北東方向に開口する岩橋型横穴式石室である。視認できる範囲での玄室幅は約 1.7 m で、残存高は約 1.7 m である。床面は検出しておらず、床面における石室規模はこれより大きくなると推測される。一部天井石が残存しており、玄室前道及び羨道は上部が欠失している。

奥壁には長さ約 1 m の石棚が付設されており、二枚の板状の石材を組み合わせている。

(3) 前山 B152 号墳 (第 19 図)

平成 28 年度に保存修景工事を実施した。直径 14 m、高さ 2 m の円墳で、石室は南西方向に開口する両袖式の岩橋型横穴式石室である。石室の平面形態が T 字形を呈する特徴をもつ。視認できる範囲では玄室幅約 1.6 m、玄室長約 0.9 m で、玄門幅は前壁側で約 0.5 m である。玄室前道の入口側には石材が確認され、閉塞石の可能性もある。玄室の残存高は約 0.7 m である。玄室下部に崩落土が厚く堆積しており床面は検出していない。天井石は欠失し、側壁の孕みも大きく状態は不安定である。また、墳丘南側の一部が副園路で削平を受けている。

(4) 前山 B150 号墳 (第 20 図)

平成 28 年度に保存修景工事を実施した。直径 14 m、高さ 2.5 m の円墳で、石室は北西方向に開口する右片袖傾向の強い両袖式の岩橋型横穴式石室である。視認できる範囲では玄室幅約 2.2 m、玄室長約 1.8 m で、玄門幅は前壁側で約 0.5 m である。玄室の残存高は約 1.0 m である。床面は検出しておらず、床面における石室規模はさらに大きくなると推測される。墳丘上より円筒埴輪の破片が複数採集されており、埴輪が樹立していた可能性が高い。

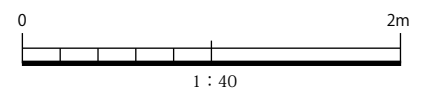
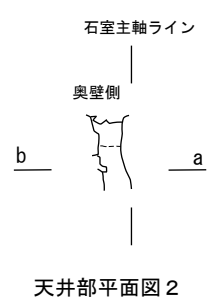
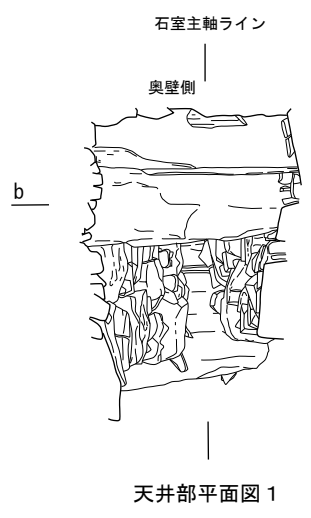
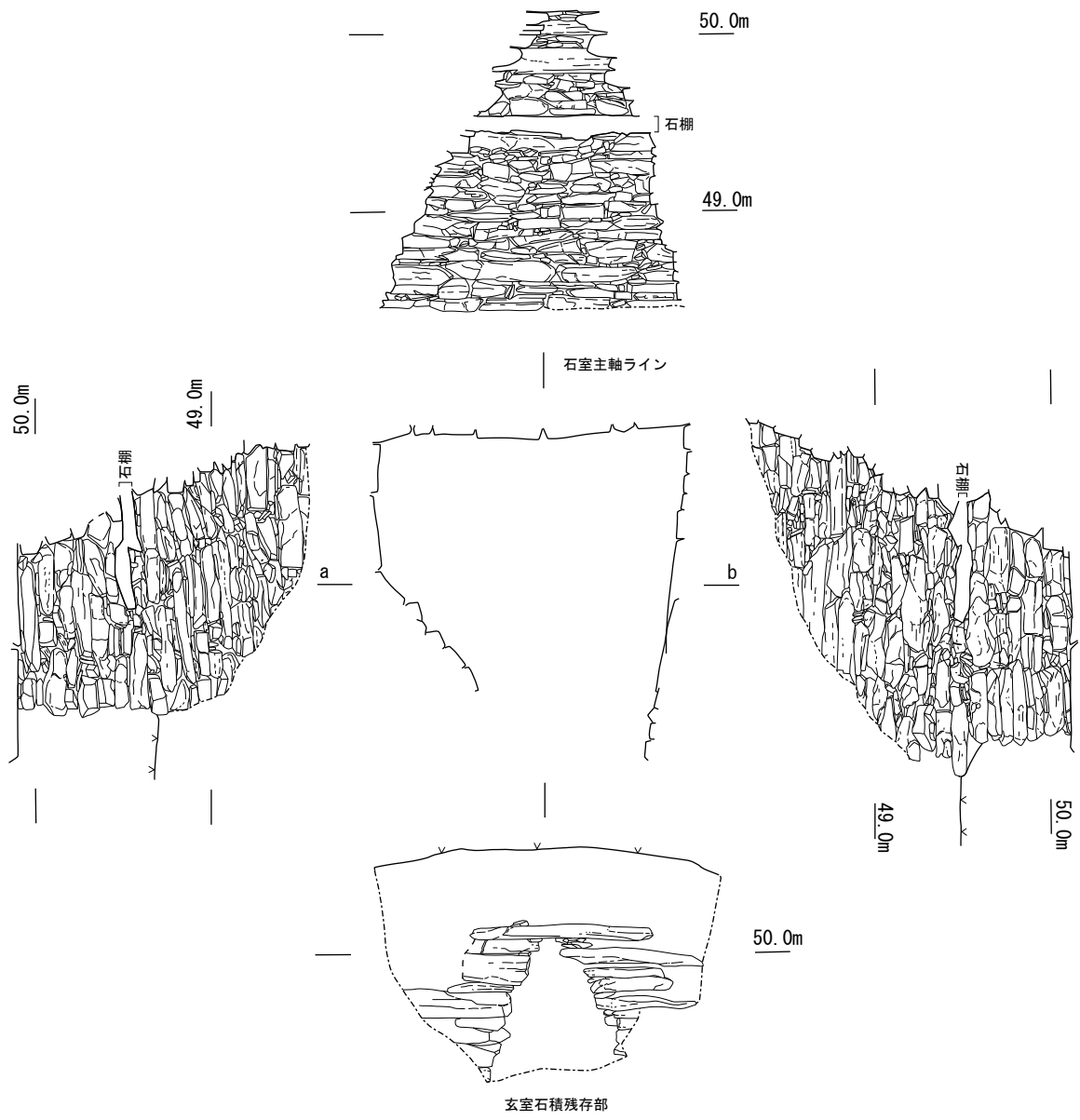
天井石は欠失し、石積みは細かな石材が多いため状態は不安定である。また、墳丘南側の一部が副園路で削平を受けている。

なお、副園路上で当該古墳に伴う埴輪列が樹立状態で確認されており、過年度に簡易な埋め戻しによる保護を行っているが、今後は園路位置を変更するなどしてさらなる保護を図る必要がある。

(5) 前山 B156 号墳 (第 21 図)

令和元年度に保存修景工事を実施した。直径 16 m、高さ 3 m の円墳で、石室は東方向に開口する両袖式の岩橋型横穴式石室である。視認できる範囲では玄室幅約 1.6 m、玄室長約 1.7 m で正方形に近い平面形態を呈する。また、右袖幅 0.64 m、左袖幅 0.5 m、玄門幅 0.54 m である。

玄室の残存高は、約 0.8 m である。床面は検出しておらず、床面における石室規模はさらに大きくなると推測される。



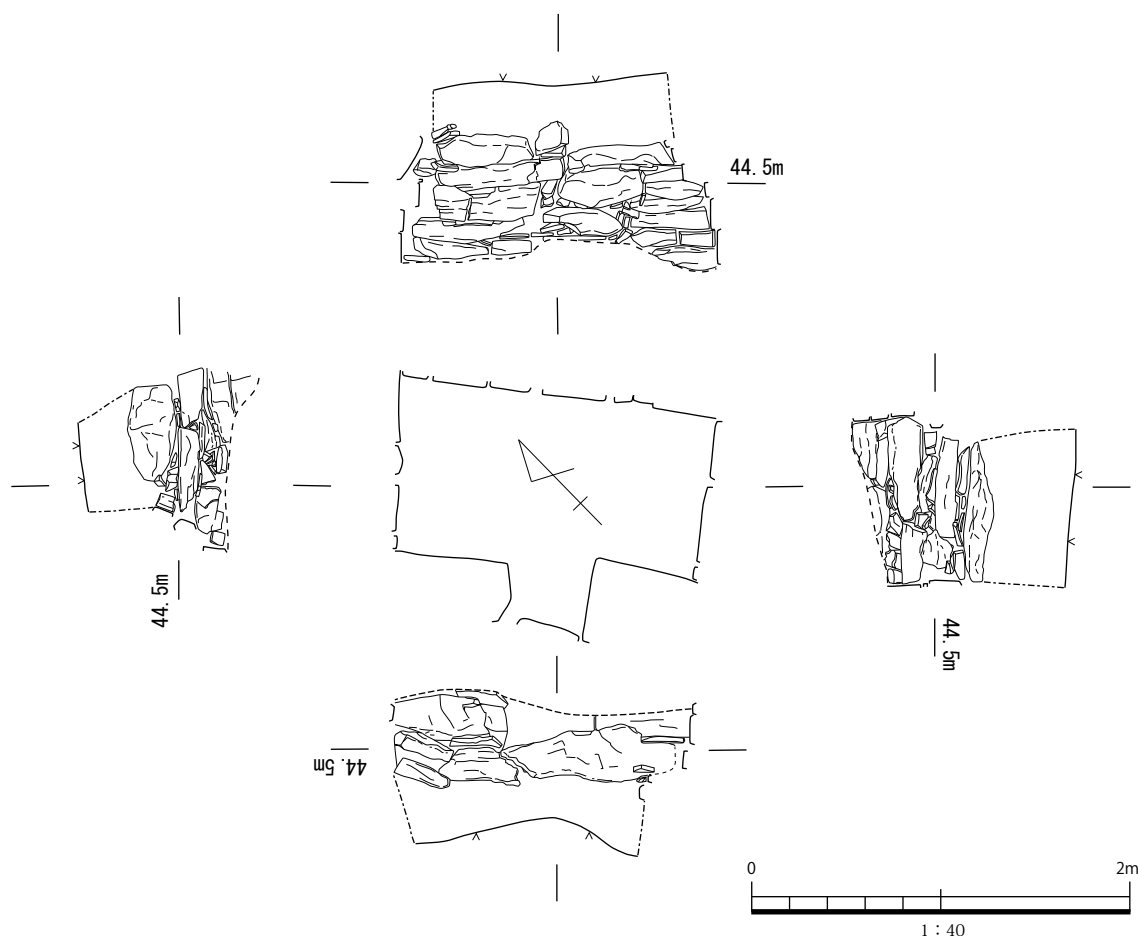
第18図 前山 B162 号墳 石室実測図 (S = 1/40)

天井石は欠失し、玄室下部には崩落土が厚く堆積し、側壁及び前壁の孕みも大きいため、状態は不安定である。

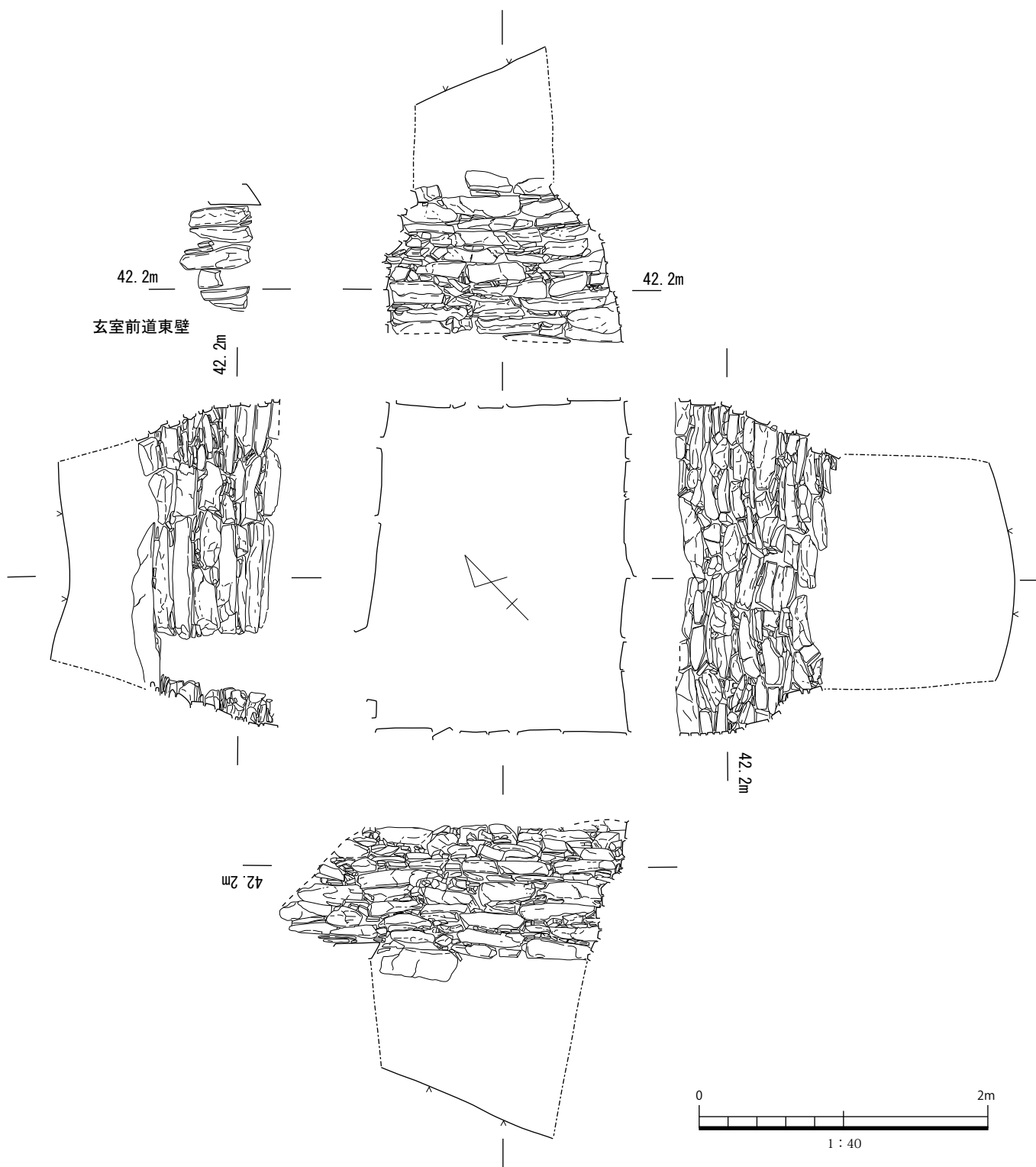
(6) 前山 B42 号墳 (第 22・23 図)

令和元年度に保存修景工事を実施した。直径約 15 m、高さ約 2 m の円墳で、石室は南東方向に開口する両袖式の岩橋型横穴式石室である。視認できる範囲では玄室幅が奥壁側で約 1.95 m、玄室長約 3.3 m である。また前壁は、現況では右袖幅約 0.55 m、左袖幅約 0.3 m、玄門幅 0.65 m であるが、両側壁の孕みが大きく傾斜しているために本来の前壁の形状を保っていない。玄室前道は、本来は前壁の中央付近に接続した可能性がある。奥壁に石棚に付設されており、厚さは最大 0.24 m、奥壁よりの長さは約 0.7 m である。石棚上には崩落度が堆積している。

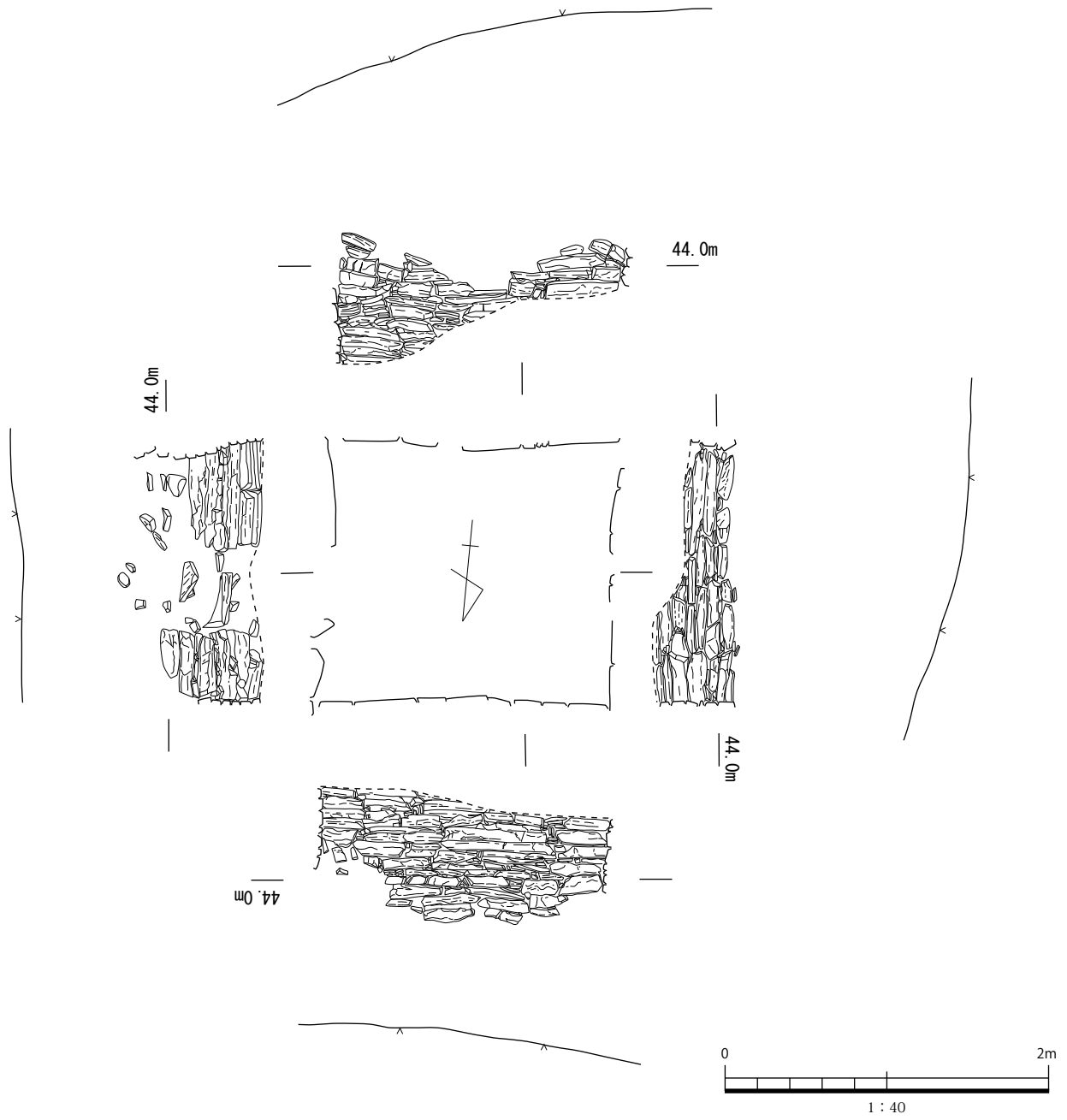
玄室の残存高は、最大で約 1.7 m である。床面は未検出であるが、奥壁側から約 0.7 m の範囲では円礫が複数分布しており、本来の床面に近い標高にあると考えられる。一方前壁側は、崩落土が厚く堆積していた。天井部は欠失しており、両側壁の孕みも非常に大きく状態は不安定である。



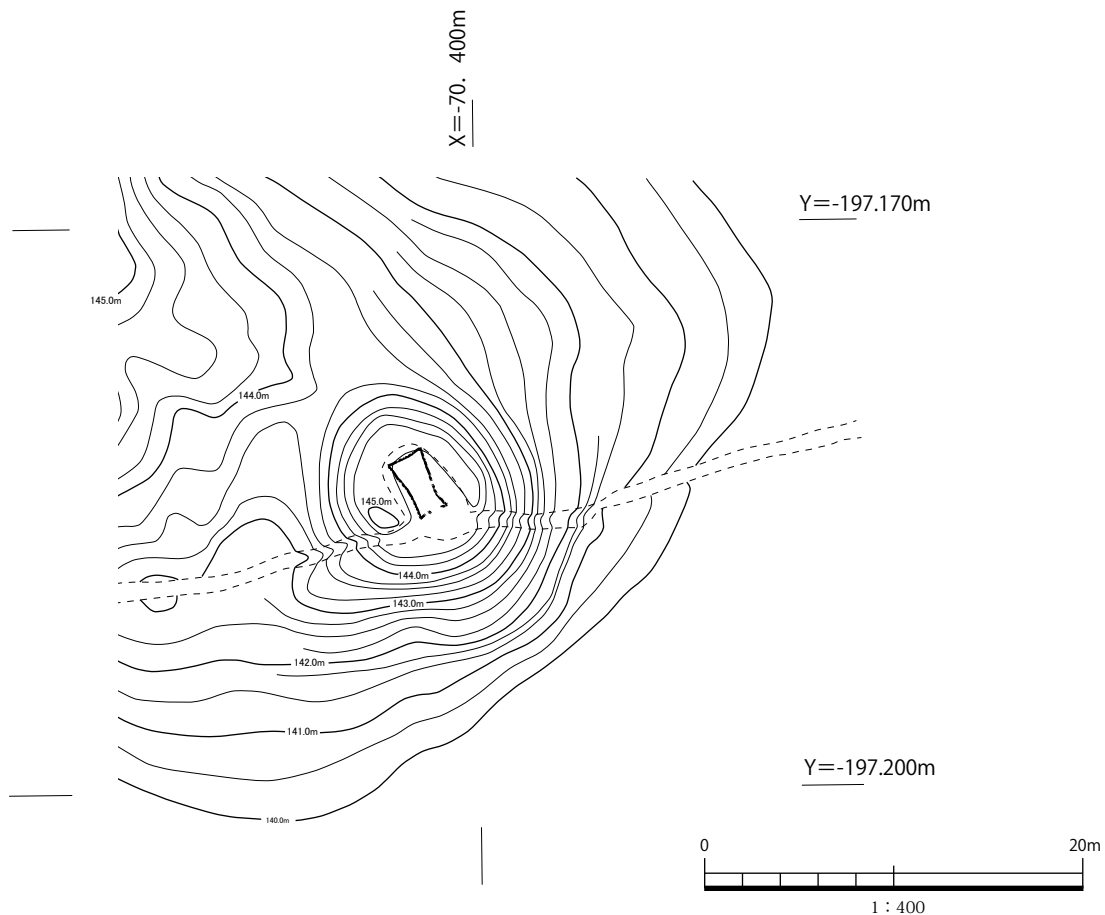
第19図 前山 B152 号墳 石室実測図 (S = 1/40)



第20図 前山 B150 号墳 石室実測図 (S = 1/40)



第21图 前山B156号墳 石室実測図 (S = 1/40)



第23図 前山 B42 号墳 墳丘測量図 (S = 1/400)

第3節 石室実測対象古墳の出土遺物

(1) 前山 B162 号墳採集遺物 (第 24 図)

円筒埴輪と形象埴輪の破片が採集されている。円筒埴輪 1・2 は、口縁部および体部で、口縁端部は肥厚せず、断面がやや凹む形状を呈する。体部は突帯の断面が台形状で、外面はタテハケないしナナメハケ後にナデ調整が施される。以上は V 群系の円筒埴輪の特徴を有する。形象埴輪は、5・6 は 3 条単位の沈線が施され、上方より穿孔が穿たれており、石見型埴輪の形象部の可能性が高い。

(2) 前山 B150 号墳採集遺物 (第 25 図)

円筒埴輪の破片が複数採集されている。9 は口縁部で、口縁端部の断面はごくわずかに凹む。体部 (10・11・13) は、外面にタテハケを施し、突帯が断面台形状を呈するものが多い。底部 (14・15) には板オサエが確認される。以上は V 群系の円筒埴輪の特徴を有する。底径は復元約 13cm、体部径は復元で約 14 ~ 20cm であり、概ね小型品である。

(3) 前山 B42 号墳採集遺物 (第 25 図)

16 は高杯の脚部の可能性がある。底端部は内側に肥厚する。内外面は回転ヨコナデで、外面に自然釉が付着する。

(4) その他 (第 25 図)

17 は前山 B156 号墳の周辺での表採だが、当該古墳に伴うかは不明である。家形埴輪の破片で、裾廻り部または破風と考えられ、前者の可能性が高い。

第 4 節 第 1 期整備事業の石室実測対象古墳・同周辺の出土遺物

(1) 概要

本節では、第 1 期整備事業の古墳修景工事に伴い墳丘や石室内部より採集した遺物の一部や、周辺より採集された遺物について報告する。なお、これらの古墳の石室実測図ないし簡易実測図は、既刊の各整備事業報告書を参照されたい。

また、遺物を報告する古墳は以下のとおりであるが、過去の整備事業報告書における古墳名称については、その後の保存活用計画（和歌山県教育委員会 2019）における台帳整備に伴い名称を改訂したものが含まれている。このため該当する古墳について、ここでは「現在の古墳名称（旧古墳名称）」のように併記する。

第 1 期整備事業（平成 15～20 年度）（和歌山県教育委員会 2010）

前山 A130 号墳

第 1 期整備事業（平成 21～26 年度）（和歌山県教育委員会 2015）

前山 B147 号墳（旧前山 B136 号墳）、前山 B164 号墳、前山 B167 号墳、前山 B170 号墳、前山 B172 号墳、前山 B174 号墳、前山 B176 号墳、前山 B249 号墳（旧前山 BX100 号墳）、前山 B250 号墳（旧前山 BX101 号墳）、前山 B240 号墳、大日山 12 号墳、大日山 14 号墳、大日山 68 号墳（旧前山 B201 号墳）、大日山 81 号墳（旧前山 BX 9 号墳）、大日山 82 号墳（旧前山 BX10 号墳）

(2) 出土遺物の概要 (第 26～29 図)

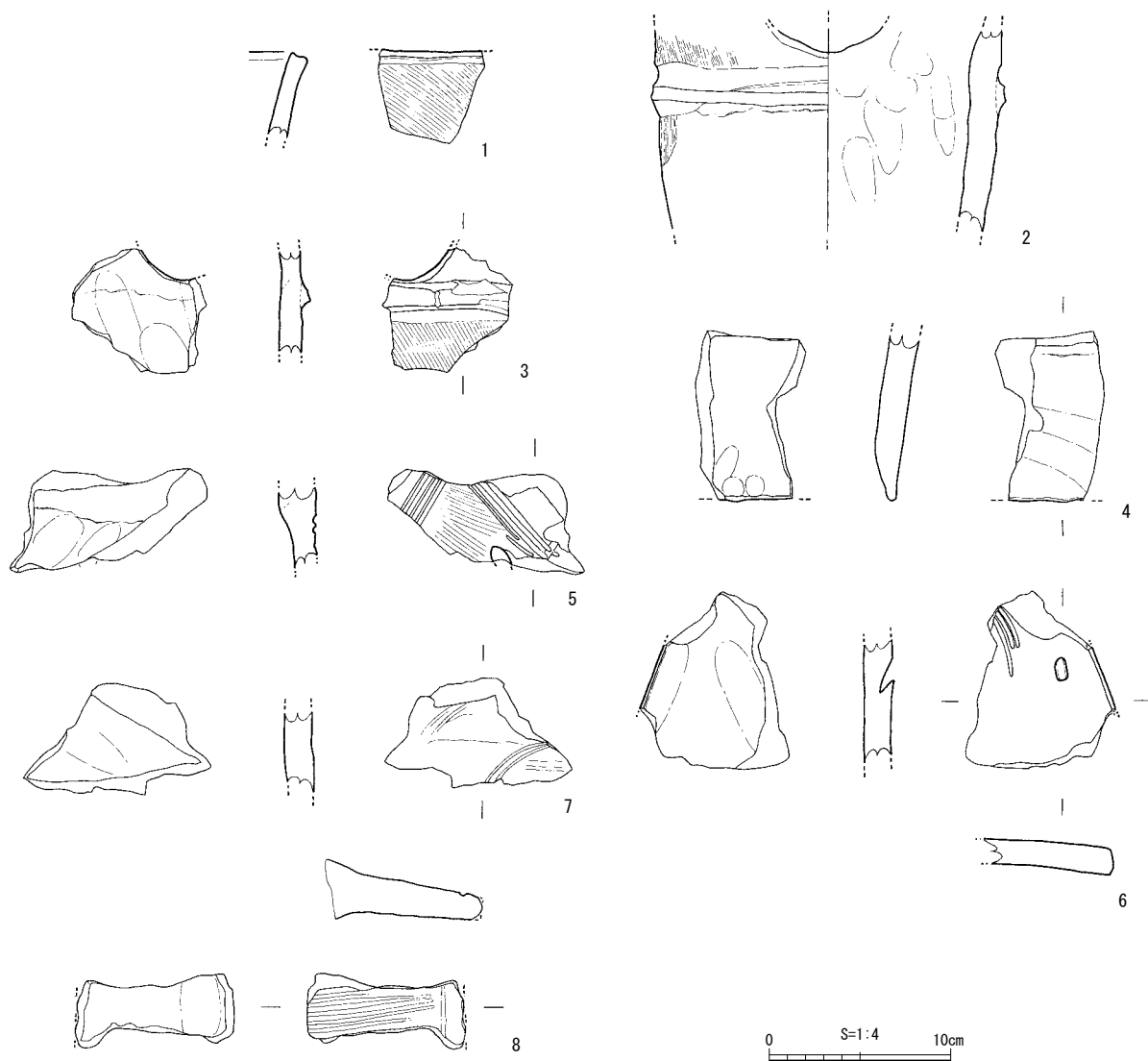
前山 A130 号墳は直径約 16 m の円墳で、石棚の架構された岩橋型横穴式石室を埋葬施設とする。墳丘上からは方形および三角形の透孔をもつ器台の脚部（1・2・4）及び杯部の破片（3）が採集されている。

前山 B167 号墳は直径約 17.5 m の円墳（造り出し付円墳か）で右片袖傾向の両袖式の岩橋型横穴式石室を埋葬施設とする。円筒埴輪（6～8）及び馬形埴輪脚部（9）の可能性のある形象埴輪、須恵器甕（11）の破片などが墳丘より採集された。

前山 B164 号墳は直径 15～18 m の円墳で、墳丘より埴輪片が多数出土しており、須恵質を含む V 群系の円筒埴輪（18～24）や石見型埴輪の形象部（25）が採集されたことから埴輪が樹立されていた可能性が想定される。

前山 B170 号墳は直径約 15 m の円墳で、古墳修景工事に先立つ清掃作業中に、墳頂で円筒埴輪が樹立している状態が確認され、盛土で保護を行っている。採集された資料には、下段突帯に断続ナデの施された円筒埴輪（26）や、馬形埴輪の頭部（31）、須恵器蓋杯（32・33）、有害高杯蓋（34）がある。蓋杯（32）は TK10 型式期の帰属と考えられる。

前山 B172 号墳は直径 12～16 m の円墳で、左片袖式または左片袖傾向の両袖式の岩橋型横穴式石室と推測され、円筒埴輪（35）、形象埴輪基部（36）、不明形象埴輪（37）、須恵器（38～42）などが採集されている。無蓋高杯（40）は、脚部に 3 方向の透孔をもち TK43 型式期の帰属

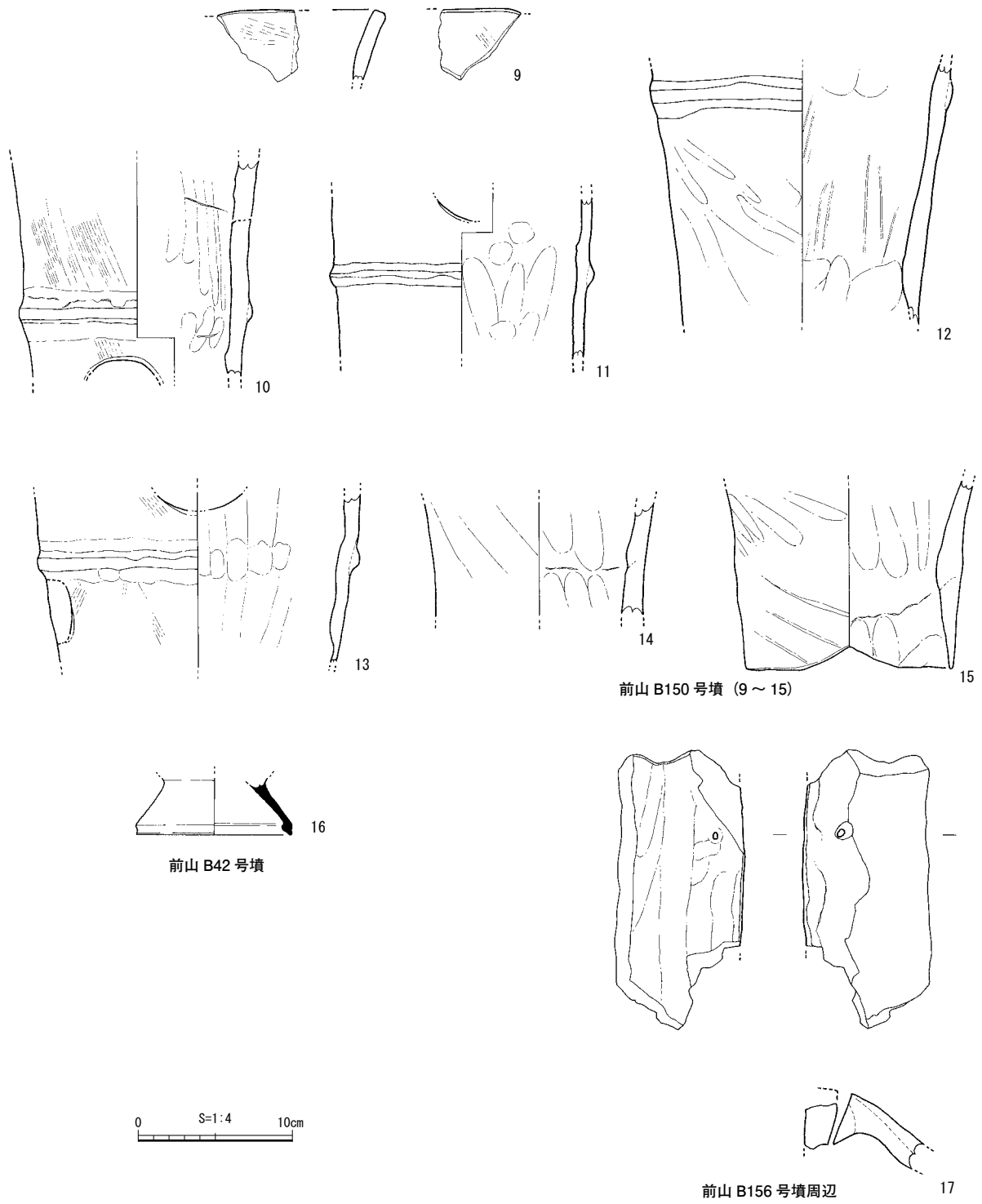


第24図 石室実測対象古墳出土遺物（前山 B162 号墳）

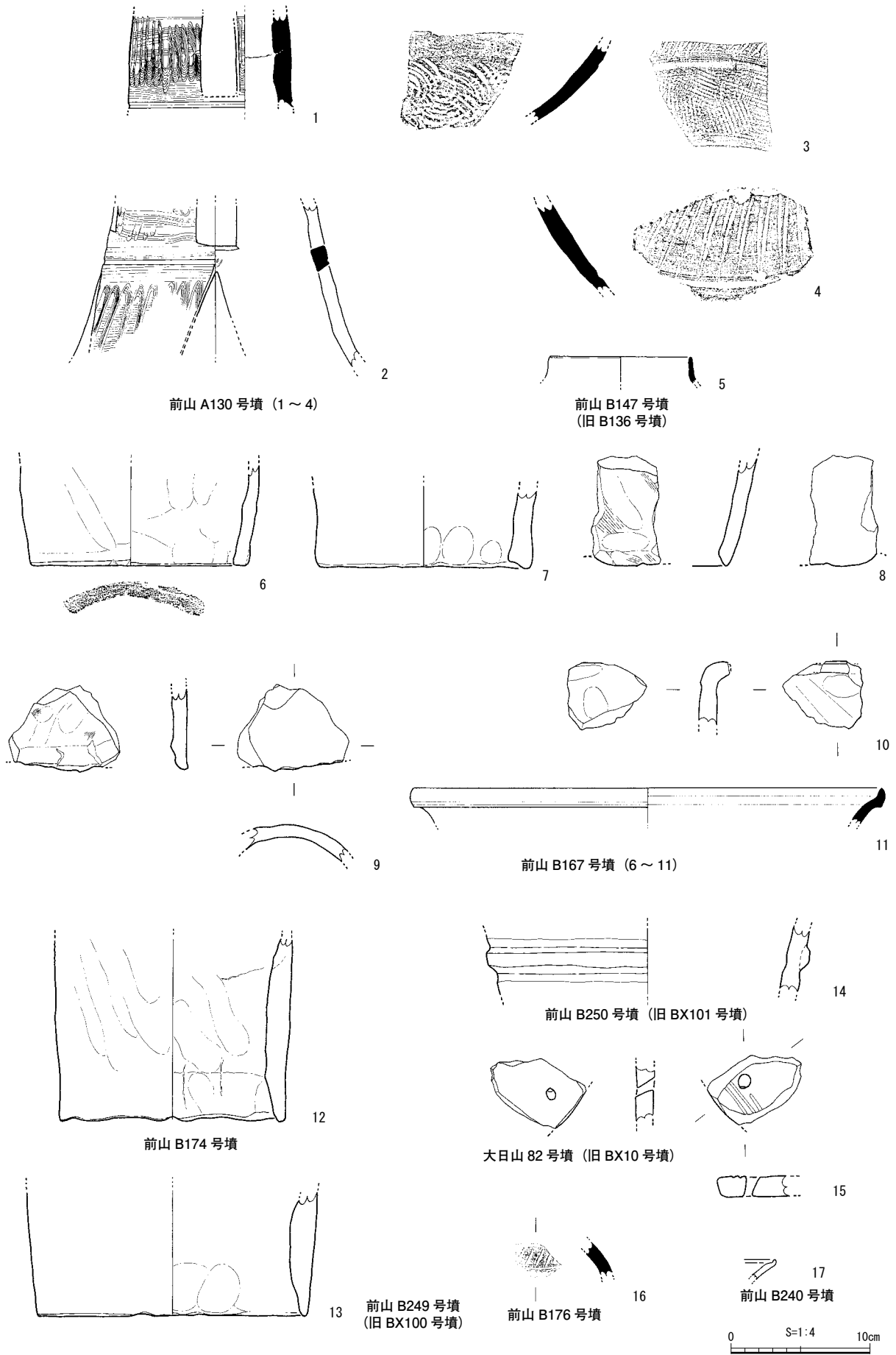
とみられる。

大日山 12 号墳は直径 7 m、14 号墳は直径 8 m の小型の円墳で、墳丘及び石室から複数の須恵器蓋杯（43～48）が採集された。M T15～TK10 型式期に帰属するものを主体とする。

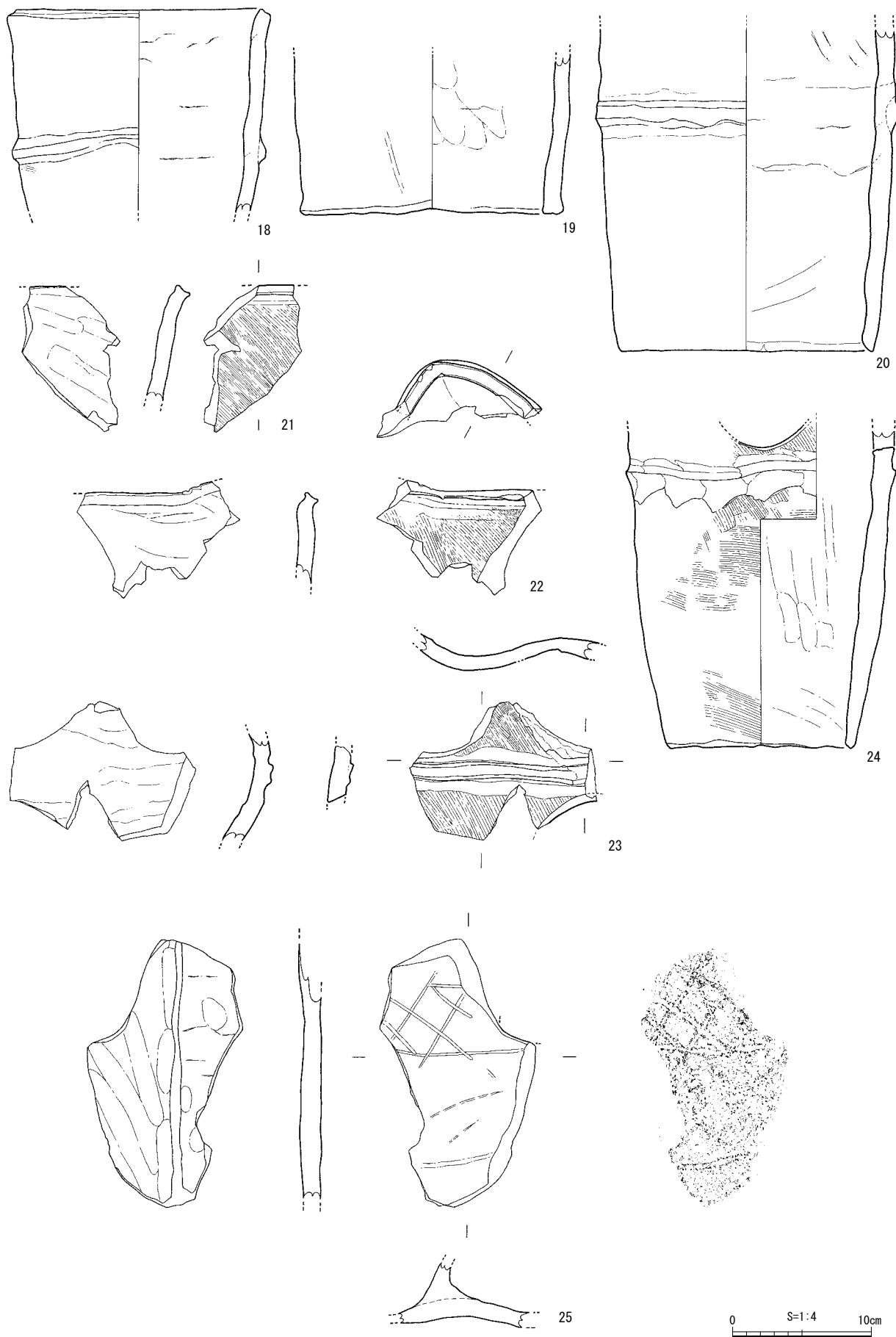
この他の各古墳より採集された遺物も含め、出土遺物の詳細は第 3 表に示した。



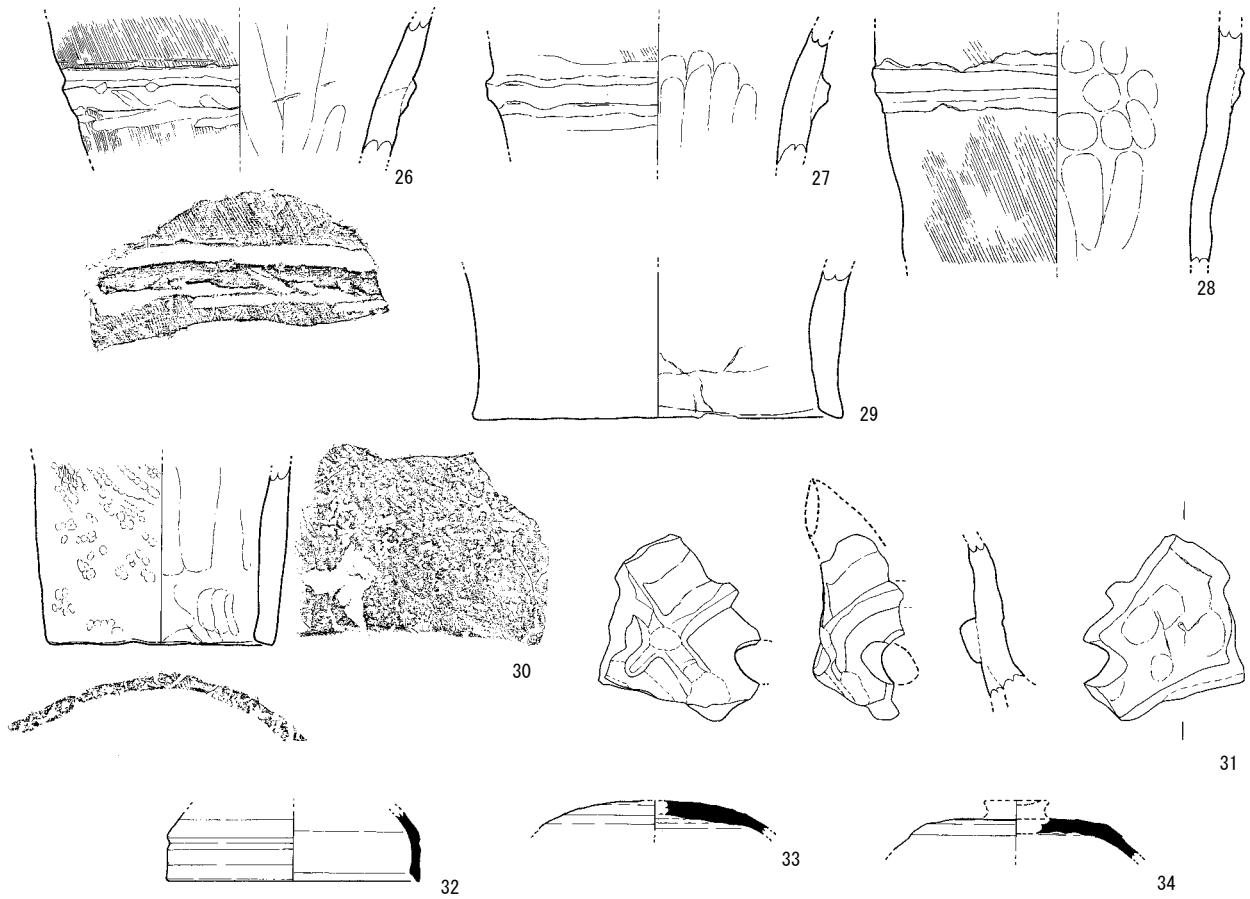
第25図 石室実測対象古墳出土遺物（前山 B150・42 号墳及び前山 B156 号墳周辺）



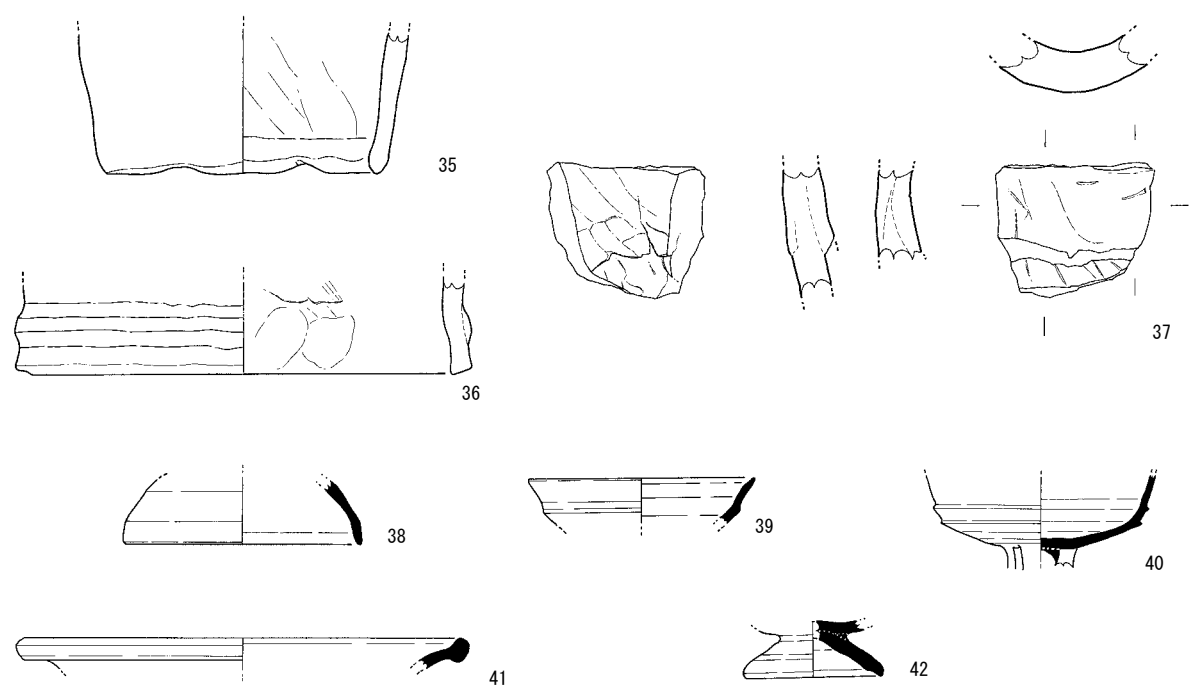
第26図 石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物
 (前山 A130 号墳、前山 B147・167・174・176・240・249・250 号墳、大日山 82 号墳)



第27図 石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物(前山B164号墳)



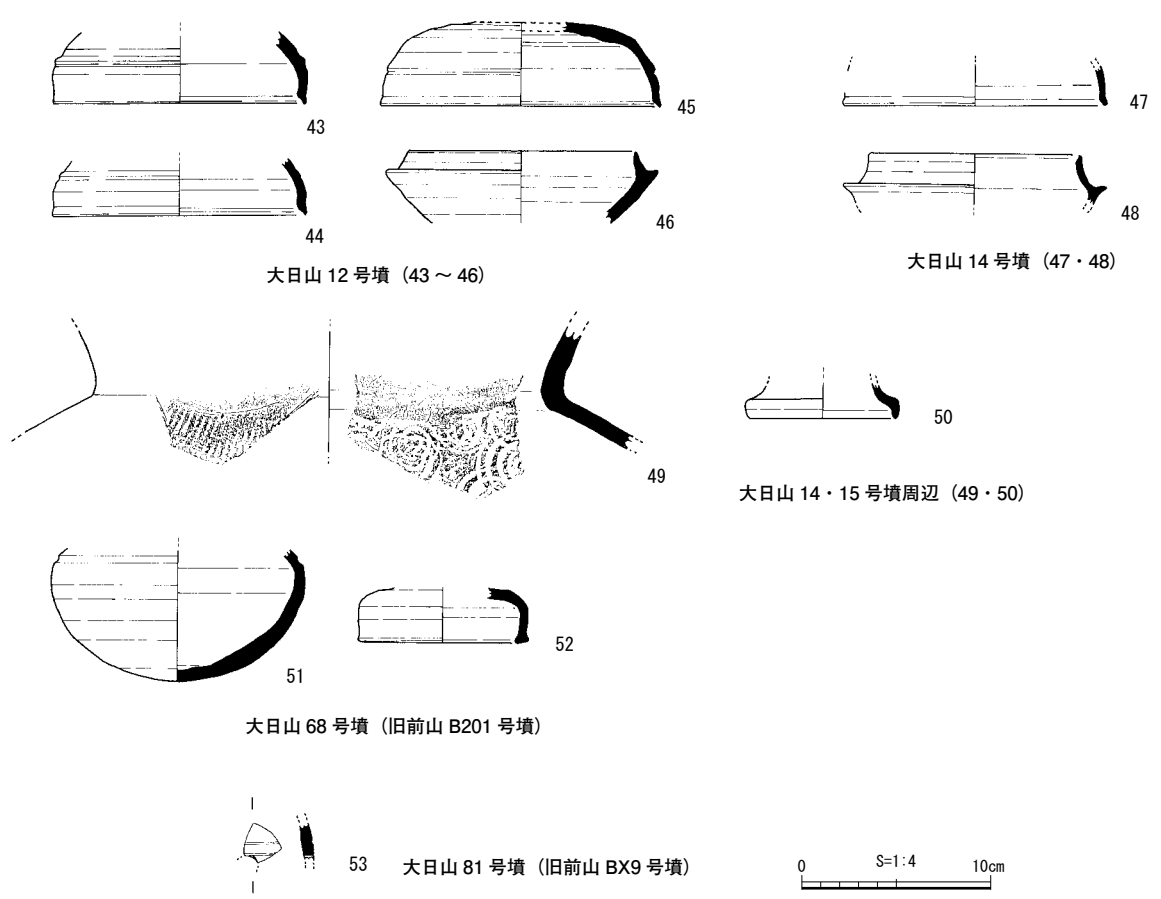
前山 B170 号墳 (26 ~ 34)



前山 B172 号墳 (35 ~ 42)

0 S:1:4 10cm

第28図 石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物 (前山 B170・172号墳)



第29図 石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物
 (大日山 12 · 14 · 68 · 81 号墳及び大日山 14 · 15 号墳周辺)

第2表 石室実測対象古墳出土遺物 観察表

NO.	図版番号	古墳	器種	出土位置	法量	特徴	色調	胎土	焼成	残存率	取り上げ日付
1	図版 19	前山 B162 号墳	円筒埴輪	墳丘裾下の園路上表採	-	口縁端部はヨコナデで、端部の断面は凹む。外面はナメハケ、内面は横ないし斜め方向のナデ。	外・内) 7.5YR6/4 に ぶい・橙色	2mm 以下の白色 礫、砂粒を含む	良好	-	20100318
2	図版 19	前山 B162 号墳	円筒埴輪	墳丘裾下の園路上表採	残存部径 最大 19.1cm (復元)	器面磨滅。突帯は断面台形状で、わずかに凹みをもつ。突帯より上部に透孔が穿たれる。外面はタテハケ後にナデ。内面は指ナデ及び指オサエ。	外・内) 10YR7/4 に ぶい・黄橙色	5mm 大の白色礫、 1mm 以下の灰色、 褐色の砂粒を含む	良好	20%	20100310
3	図版 19	前山 B162 号墳	円筒埴輪	墳丘裾下の園路上表採	-	突帯は断面台形状で、直上に透孔が穿たれる。外面は突帯より上位はナデ、下位はナメハケ。内面は指ナデ。	外) 10YR6/3 にぶい 黄橙色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色	2mm 以下の灰色、 白色の礫・砂粒を 含む	良好	-	20160205
4	図版 19	前山 B162 号墳	円筒埴輪	墳丘裾表採	-	外面は板オサエ痕。内面は底端部付近に指オサエ。	外) 7.5YR7/6 橙色 内) 10YR6/3 灰黄褐色	4mm 以下の灰色、 白色礫・砂粒を 含む	良好	-	20160212
5	図版 19	前山 B162 号墳	不明形象埴輪 (石見型埴輪か)	墳丘上表採	-	石見型埴輪の形象部か、3条単位の沈線で山形状の文様が施される。穿孔あり。外面はナメハケのちナデ。内面は指ナデ。	外) 10YR7/4 にぶい 黄橙色 内) 7.5YR7/6 橙色	5mm 以下の灰色 礫・砂粒、片岩を 含む	良好	-	20160119
6	図版 19	前山 B162 号墳	不明形象埴輪 (石見型埴輪か)	墳丘裾下の園路上表採	-	器面磨滅。石見型埴輪の形象部か。3条単位の沈線あり。上部方向からの穿孔あるが貫通はしない。内面は指ナデ。	外) 10YR7/4 にぶい 黄橙色 内) 7.5YR7/4 灰黄褐色	5mm 以下の灰色・ 白色礫、片岩・砂 粒を含む	良好	-	20091114
7	図版 19	前山 B162 号墳	不明形象埴輪	墳丘裾下の園路上表採	-	2条単位の沈線が施される。外面ハケメのちナデ、内面ナデ。	外・内) 7.5YR7/4 に ぶい・橙色	5mm 以下の白色 礫、砂粒を含む	良好	-	20120217
8	図版 19	前山 B162 号墳	不明形象埴輪	墳頂表採	-	外縁付近を縦位の沈線で区画し、内部に横位の2条の沈線を充填。内面は指オサエ。	外・内) 7.5YR7/6 橙色	2mm 以下の灰色、 白色の礫、砂粒を 含む	良好	-	20160119
9	図版 19	前山 B150 号墳	円筒埴輪	表採	-	器面磨滅。口縁端部の断面はわずかに凹む。外面及び内面はナメハケ。	外・内) 10YR7/4 に ぶい・黄橙色	5mm 以下の灰色の 礫と 1mm 以下の 褐色砂粒を含む	良好	-	20170215
10	図版 19	前山 B150 号墳	円筒埴輪	墳丘上表採	残存部径 16.0cm (復元)	突帯は断面台形状。突帯より上部及び下部に透孔が穿たれる。外面はタテハケのちナデ。内面は指ナデ及び指オサエ。	外・内) 7.5YR7/8 黄 橙色	5mm 以下の片岩、 白色礫、砂粒を含 む	良好	20%	20141005
11	図版 19	前山 B150 号墳	円筒埴輪	墳丘上表採	残存部径 (復元) 17.2cm	器面磨滅。突帯は断面台形状。突帯より上部に透孔が穿たれる。内面は指ナデ及び指オサエ。	外・内) 7.5YR7/6 橙色	2mm 以下の白色 礫、砂粒を含む	良好	30%	20141005
12	図版 19	前山 B150 号墳	円筒埴輪	墳丘上表採	残存部径 19.6cm (復元)	器面磨滅。底部突帯は断面台形状。外面は指ナデ及び指オサエ。内面はタテハケのちナデ及び指オサエ。	外) 10YR7/4 にぶい 黄橙色 内) 7.5YR7/4 橙色	5mm 以下の白色・ 褐色の礫・砂粒を 全体に含む	良好	15%	20140611
13	図版 19	前山 B150 号墳	円筒埴輪	墳丘上表採	残存部径 20.8cm (復元)	器面磨滅。突帯は断面台形状。突帯の上部と下部に透孔が穿たれる。外面はナメハケ。内面は指ナデ及び指オサエ。	外) 7.5YR7/6 橙色 内) 2.5Y6/4 にぶい 黄褐色	5mm 以下の白色礫 を含む	良好	15%	20141005
14	図版 19	前山 B150 号墳	円筒埴輪	墳丘上(副園路上)表採	残存部径 14.4cm (復元)	器面磨滅。外面に板ナデ状の痕跡。内面は指ナデ。	外) 10YR6/4 にぶい 黄褐色 内) 5YR7/6 褐色	3mm 以下の白色礫 を全体に含む	良好	50%	20140611
15	図版 19	前山 B150 号墳	円筒埴輪	墳丘上表採	底径 13.2cm (復元)	内外面磨滅。外面は指ナデ、底部付近は板オサエ。内面は指ナデ。	外・内) 7.5YR7/6 褐色	5mm 以下の白色礫 片岩を含む	良好	20%	20141005
16	図版 19	前山 B42 号墳	須恵器 高坏か	石室 腐食土層	底径 10.2cm (復元)	高坏の脚部か。底端部は内側に肥厚する。内外面は回転ヨコナデ。外面に自然袖付着。	外) 2.5YR6/2 灰黄色 内) 5Y6/4 灰色	1mm 以下の白色砂 粒を少量含む	良好	20%	20200415
17	図版 20	前山 B156 号墳 周辺	家形埴輪 (裾廻りか)	前山 B56 号墳 より南側付近 表採	-	前山 B 56 号墳周辺での表採だが、当該古墳に伴うかは不明。家形埴輪の裾廻りまたは破風の可能性あり。器面磨滅。穿孔が穿たれる。内面は指ナデ調整。	外) 7.5YR7/6 褐色 内) 10YR7/1 にぶい 黄褐色	1cm 以下の灰色・白 色礫、片岩を含む	良好	-	20141009

第3表 石室実測対象古墳(第1期整備)出土遺物 観察表

NO.	図版番号	古墳	器種	出土位置	法量	特徴	色調	胎土	焼成	残存率	取り上げ日付
1	図版 20	前山 A130 号墳	須恵器 器台	墳丘上表採	残存部径 (最大) 11.6cm	器台の脚部。沈線により区画され、上下に波状文が施される。方形の透孔が残存部で2カ所認められ、4方向に穿たれると推定される。	外・内) 2.5Y5/1 黄灰色	2mm 以下の灰色、 白色の礫・砂粒を 含む	良好	20%	20060817
2	図版 20	前山 A130 号墳	須恵器 器台	墳丘上表採	脚部径 (最大) 19.8cm	器台の脚部。1条の沈線により区画される。各段には波状文が施される。方形および三角形の透孔あり。1と同一個体か。	外・内) 7.5Y5/1 灰色	2mm 以下の白色 の礫・砂粒を含む	良好	10%	20060817
3	図版 20	前山 A130 号墳	須恵器 器台	墳丘上表採	-	器台の受部。1条の沈線で区画され、上部に波状文。1・2と同一個体か。	外) N4/0 灰色 内) 2.5Y5/2 暗灰黄色	3mm 以下の白色 礫・砂粒を含む	良好	-	20060817
4	図版 20	前山 A130 号墳	須恵器 器台	墳丘上表採	-	器台の脚部。沈線により区画され、波状文が施される。色調が異なるが、1～3と同一個体の可能性もある。	外・内) 2.5Y6/2 灰黄 色	1mm 以下の白色 砂粒を含む	良好	-	20060817
5	図版 20	前山 B147 号墳 (旧 B136 号墳)	須恵器 短頸壺	石室 腐食土層	口径 10.1cm (復元)	短頸壺の口縁部。内外面は回転ナデ。	外・内) 10Y5/1 灰色	1mm 以下の白色 砂粒を少量含む	良好	10% 以下	20100315
6	図版 21	前山 B167 号墳	円筒埴輪	墳丘東側 表採	底径 15.8cm (復元)	器面磨滅。外面は指ナデ、内面は指ナデ、底部付近は指オサエ。底端部は面をもつ。	外) 7.5YR7/6 褐色 内) 10YR6/4 にぶい 黄褐色	5mm 以下の片岩、 灰色礫、1mm 以下 の白色砂粒を含む	良好	20%	20091114
7	図版 21	前山 B167 号墳	円筒埴輪	墳頂北東端 表採	底径 15.0cm (復元)	器面磨滅。内面は底部付近は指オサエ。底端部は肥厚し、断面は凹む。	外・内) 7.5YR7/6 褐色	5mm 以下の片岩、 灰色礫、白色砂粒 を含む	良好	20%	20080429
8	図版 21	前山 B167 号墳	円筒埴輪	墳丘東側 表採	-	器面磨滅。内面はナメハケのち指ナデ。底端部は指オサエ。	外) 7.5YR6/4 にぶい 褐色 内) 5YR6/6 褐色	2mm 以下の黒色、 灰色の礫、砂粒を 含む	良好	-	20091114
9	図版 21	前山 B167 号墳	動物埴輪 (脚部か)	墳頂 表採	-	動物埴輪の脚部か。器面磨滅。内面ハケメのち指ナデ。	外) 7.5YR6/6 褐色 内) 7.5YR6/4 にぶい 褐色	3mm 以下の灰色礫 を含む	良好	20%	20091114

NO.	図版番号	古墳	器種	出土位置	法量	特徴	色調	胎土	焼成	残存率	取り上げ日付
10	図版 21	前山 B167 号墳	不明形象埴輪	墳丘北西部の埴輪表採	-	器面摩滅。外面はナメ方向の板ナテ状の調整痕あり。	外) 5YR6/4 に近い橙色 内) 5YR6/6 橙色	2mm 以下の灰色、白色の礫・砂粒を含む	良好	-	20120224
11	図版 21	前山 B167 号墳	須恵器 甕	墳頂表採	口径(復元) 33.8cm	甕の口縁部。内外面は回転ナデ。外面に自然釉。	外) 2.5GY3/1 暗オレンジ灰色、2.5Y6/3 に近い黄色 内) 2.5Y6/3 に近い黄色	2mm 以下の白色の礫を少量含む	良好	10% 以下	20091114
12	図版 21	前山 B174 号墳	円筒埴輪	墳丘南西側斜面表採	底径(復元) 16.2cm	外面ナメ指ナデ。内面は指ナデ、底部付近は指オサエ。	外) 7.5YR7/4 に近い橙色 内) 7.5YR6/6 橙色	1cm 以下の白色礫、片岩を全体に含む	良好	25%	20120301
13	図版 21	前山 B249 号墳(旧 BX100 号墳)	円筒埴輪	石室北東側の側壁土堆積土	底径(復元) 19.4cm	器面摩滅。内面底部付近は指オサエ。	外・内) 7.5YR7/6 橙色	5mm 以下の白色・褐色の礫、片岩、砂粒を含む	良好	10%	20100322
14	図版 21	前山 B250 号墳(旧 BX101 号墳)	円筒埴輪	石積周縁腐食土層	残存部径(最大) 23.2cm	器面摩滅。突帯は断面台形状。	外・内) 5YR7/6 橙色	5mm 以下の礫(片石)、砂粒を含む	良好	10%	20100326
15	図版 21	大日山 82 号墳(旧 BX10 号墳)	不明形象埴輪	石室北壁付近	-	器面摩滅。3 条の沈線が施される。上方より穿孔あり。	外) 10YR8/4 浅黄褐色 内) 5YR7/6 橙色	5mm 以下の灰色礫、片岩、砂粒を含む	良好	-	20110302
16	図版 21	前山 B176 号墳	須恵器 甕	石室腐食土層	-	残存部では櫛状工具による刺突文が 2 段施される。内面は回転ナデ。	外・内) 2.5Y6/2 灰黄色	1mm 以下の白色砂粒を少量含む	良好	10% 以下	20130315
17	図版 21	前山 B240 号墳	土師器 甕	石室腐食土層	-	土師器の甕口縁部。端部は上方へわずかに立ち上がる。	外・内) 5YR5/6 明赤褐色	1mm 以下の白色砂粒を少量含む	良好	10% 以下	20120318
18	図版 22	前山 B164 号墳	円筒埴輪	墳頂腐食土層	口径(復元) 18.8cm	器面摩滅。端面の断面は凹む。突帯は断面台形状で、口縁端面からの間隔は 10.5cm。	外・内) 7.5YR6/6 橙色	5 ~ 8mm 大の片岩と、1mm 以下の灰色・白色の砂粒、雲母を含む	良好	20%	20120217
19	図版 22	前山 B164 号墳	円筒埴輪	墳頂腐食土層	底径(復元) 18.8cm	器面摩滅。外面底部付近はタテハケか。内面は指ナデ。底端部は面をもち、断面は凹む。	外・内) 5YR6/6 橙色	5mm ~ 1cm 大の片石、白色礫を多く含む。2mm 以下の白色・灰色の礫と砂粒、雲母を含む	良好	30%	20120217
20	図版 22	前山 B164 号墳	円筒埴輪	墳頂腐食土層	底径(復元) 17.8cm	器面摩滅。下段突帯は断面台形で一部が M 字状に凹む。内面は底部付近は板ナテ状の痕跡。下段突帯の底面からの高さ 17.0cm。ハケの密度は 6 本 / 1cm。	外・内) 10YR7/4 に近い黄褐色	1cm 大の片岩を含む。5mm 以下の白色、灰色の礫、1mm 以下の白色、褐色の砂粒雲母を含む	良好	30%	20120217
21	図版 22	前山 B164 号墳	円筒埴輪	墳頂中央～西表採	-	須恵質の円筒埴輪の口縁部。口縁端部は面をもち、強いヨコナデにより端部内外及び端面が凹む。外面はナメハケ、内面は指ナデ。ハケの密度は 7 本 / 1cm	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 5Y6/1 灰色	2mm 以下の白色・黒色の礫・砂粒を含む	良好	-	20091114
22	図版 22	前山 B164 号墳	円筒埴輪	墳頂腐食土層	-	須恵質の円筒埴輪の口縁部。口縁端部は面をもち、強いヨコナデにより端部内外及び端面が凹む。外面はナメハケ、内面はナデ。ハケの密度は 6 本 / 1cm	外) 2.5Y7/3 浅黄褐色 内) 2.5Y6/1 黄灰色	1mm 以下の白色・黒色の砂粒を含む	良好	-	20120217
23	図版 22	前山 B164 号墳	円筒埴輪	墳頂腐食土層	-	須恵質の円筒埴輪で、焼成時の焼け歪みが著しい。外面はナメハケ。突帯の断面は M 字状に凹む。内面は横位のナデ。ハケの密度は 6 本 / 1cm。	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y6/2 灰黄色	2cm 大の灰白色の礫、1mm 以下の黒色・白色の砂粒を含む	良好	-	20120217
24	図版 22	前山 B164 号墳	円筒埴輪	墳頂北東部表採	底径(復元) 13cm	須恵質の円筒埴輪。下段突帯は断続ナデ。下段突帯より上部に透孔あり。内面は指ナデ。外面は底部付近は横ハケ、上部はナメハケ。ハケの密度は 6 本 / 1cm。下段突帯の底面からの高さ 20.0cm。	外・内) 10YR6/2 灰黄褐色	3mm 以下の灰白色の礫と 1mm 以下の白色・黒色の砂粒を含む	良好	20%	20091114
25	図版 23	前山 B164 号墳	石見型埴輪	墳頂腐食土層	-	石見型埴輪の形象部。中央帯から下段帯付近の破片。中央帯は、上下を沈線で区画した内部に斜格子文を施す。下段帯は下段面との間を沈線で区画し、内部は器面摩滅のため不明瞭だが、沈線による文様が施される可能性がある。内面は円筒部の一部が残存し、指ナデによる調整あり。	外・内) 5YR6/6 橙色	5mm 以下の片岩、礫を含む	良好	20%	20120217
26	図版 23-24	前山 B170 号墳	円筒埴輪	墳丘北裾表採	残存部径(最大) 20.4cm	下段突帯は断続ナデが施され、断面がやや M 字状に凹む。外面はタテハケ、内面は位指ナデ。ハケの密度は 7 本 / 1cm。	外) 2.5Y6/3 に近い黄色 内) 10YR6/3 に近い黄褐色	3mm 以下の白色礫と白色砂粒を含む	良好	20%	20080429
27	図版 23	前山 B170 号墳	円筒埴輪	墳頂北端表採	残存部径(最大) 18.2cm(復元)	突帯は断面が台形状。外面はタテハケ、内面は指ナデ。	外) 10YR6/4 に近い黄褐色 内) 7.5YR7/6 橙色	4mm 以下の白色、灰色の礫と 1mm 以下の白色砂粒を全体に含む	良好	20%	20091114
28	図版 23	前山 B170 号墳	円筒埴輪	墳頂(石室南側)腐食土層	残存部径(最大) 19.6cm(復元)	突帯は断面がやや M 字状に凹む。外面はタテハケ、内面は指ナデで、突帯付近は指オサエ。ハケの密度は 8 本 / 1cm。	外・内) 7.5YR7/6 橙色	1mm 以下の白色砂粒を含む	良好	20%	20120307
29	図版 23	前山 B170 号墳	円筒埴輪	墳頂北西端表採	底径(復元) 19.6cm	器面摩滅。底端部は面をもち、やや内傾する。	外・内) 10YR7/4 に近い黄褐色	4mm 以下の白色、灰色の礫と 1mm 以下の白色砂粒を含む	良好	10% 以下	20080429
30	図版 23-24	前山 B170 号墳	円筒埴輪	墳丘北裾表採	底径(復元) 12.0cm	円筒埴輪の底部か。底端部はやや面をもつ。外面は残存部の上部にタテハケ。以下は底部調整の痕跡が認められる。底部調整は、やや凹凸のある原体による。	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 10YR6/4 に近い黄褐色	3mm 以下の白色砂粒を含む	良好	40%	20080429
31	図版 24	前山 B170 号墳	馬形埴輪(頭部)	墳頂北端表採	-	馬形埴輪の頭部で、右側の耳部から目部にかけの破片。突帯の貼り付けにより面整を表現。下部に板状粘土を貼り付けて、顔下半部を成形する。	外・内) 7.5YR7/4 に近い橙色	3mm 以下の白色礫砂粒を含む	良好	-	20091114
32	図版 23	前山 B170 号墳	須恵器 坏蓋	石室腐食土層	口径(復元) 13.2cm	口縁部が直立気味に立ち上がり端部は内傾して面をもつ。内外面は回転ナデ。	外・内) 2.5Y7/2 灰黄色	1mm 以下の黒色砂粒を含む	良好	10% 以下	20120306
33	図版 23	前山 B170 号墳	須恵器 坏蓋	墳頂北端表採	-	天井部外面推定 3 分の 2 を回転ヘラズリ。他は回転ナデ。	外) 5Y5/1 灰色 内) 10Y6/1 灰色	2mm 以下の白色礫、砂粒を全体に含む	良好	20%	20091114

NO.	図版番号	古墳	器種	出土位置	法量	特徴	色調	胎土	焼成	残存率	取り上げ日付
34	図版 23	前山 B170 号墳	須恵器 有蓋高坏蓋	墳丘斜面 表採	-	天井部外面推定 3 分の 2 を回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。ロクロ回転方向は右。天井部に滴みの貼り付け痕あり。	外・内) 25Y6/2 灰黄色 25Y6/3 にぶい 黄色	1mm 以下の白色・ 黒褐色砂粒を全体 に含む	良好	30%	20120307
35	図版 24	前山 B172 号墳	円筒埴輪	埴頂 腐食土層	底径 14.4cm (復元)	器面摩滅。内面はナメ方向の板ナデ状の調整。	外・内) 10YR7/4 に ぶい黄橙色	7mm 以下の白色 礫、砂粒を含む	良好	10% 以下	20120304
36	図版 24	前山 B172 号墳	形象埴輪 基部	埴頂 腐食土層	底径 24.0cm (復元)	器面摩滅。形象埴輪の基部で、 底端部のやや上方に断面台形状を呈 する突帯が貼り付けられる。内面 はナメハケのちナデ。	外・内) 7.5YR7/6 橙色	6mm 以下の白色、 灰色の礫、砂粒を 含む	良好	10%	20120304
37	図版 24	前山 B172 号墳	不明形象埴輪	埴頂 腐食土層	-	不明形象で、形象埴輪の円筒部か、 大刀の護手部ないし、人物埴輪の 裾部の可能性もある。外面に剥離 痕あり。	外) 2.5Y6/3 にぶい黄 色 内) 7.5YR7/4 にぶい 橙色	5mm 以下の白色礫 をわずかに含む	良好	-	20120304
38	図版 24	前山 B172 号墳	須恵器 坏蓋	墳丘 表採	口径 12.4cm (復元)	天井部は回転ヘラ削りのちナデ。 口縁部および内面は回転ナデ。	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y5/1 黄灰色	1mm 以下の白色砂 粒を含む	良好	10% 以下	20120304
39	図版 24	前山 B172 号墳	須恵器 無蓋高坏	石室奥壁付近	口径 11.8cm (復元)	杯部は口縁部と底部の間がにぶく 突出する。内外面は回転ナデ。	外・内) 5Y6/1 灰色	1mm 以下の白色、 褐色の砂粒を含む	良好	10%	20120306
40	図版 24	前山 B172 号墳	須恵器 無蓋高坏	石室 腐食土層	-	杯部は口縁部と底部の間が突出す る。内外面は回転ナデ。脚部は長 方形の透孔が 3 方向。	外) 5Y5/1 灰色 内) 2.5Y7/1 灰白色	1mm 以下の白色、 褐色の砂粒を全体 に含む	良好	30%	20120304
41	図版 24	前山 B172 号墳	須恵器 壺	埴頂 腐食土層	口径 (復元) 14.4cm	壺の口縁部、端部は肥厚し面をも つ。内外面を回転ナデ。	外・内) 2.5Y5/2 暗灰 黄色	1mm 以下の白色砂 粒をわずかに含む	良好	10% 以下	20120304
42	図版 24	前山 B172 号墳	須恵器 台付臈か	石室 腐食土層	底径 (復元) 7.1cm	台付臈の脚部か。脚端部は丸くお さめる。脚部内外面は回転ナデ。 底部はナデ。	外) 5Y4/1 灰色 内) 2.5Y6/3 にぶい黄 色	2mm 以下の白色 礫、砂粒を含む	良好	10%	20120304
43	図版 25	大日山 12 号墳	須恵器 坏蓋	墳丘東側 表採	口径 13.2cm (復元)	天井部と口縁部の境は不明瞭。口 縁部が直立気味に立ち上がり、口 縁部端部は内傾して浅く凹む。内 外面は回転ナデ。	外・内) 2.5Y6/2 灰黄 色	1mm 以下の白色、 黒色砂粒を含む	良好	10%	20110317
44	図版 25	大日山 12 号墳	須恵器 坏蓋	墳丘東側 表採	口径 13.4cm (復元)	稜がにぶく突出する。口縁部が直 立気味に立ち上がり、口縁部端部 は内傾して浅く凹む。内外面は回 転ナデ。	外) 2.5Y6/1 黄灰色 内) 2.5Y6/2 灰黄色	1mm 以下の白色砂 粒を全体に含む	良好	10%	20110317
45	図版 25	大日山 12 号墳	須恵器 坏蓋	墳丘東側 表採	口径 14.8cm (復元)	天井部が平たく、稜がにぶく突出。 口縁部端部は内傾して浅く凹む。 天井部外面 3 分の 2 を回転ヘラケ ズリ。他は回転ナデ。ロクロ回転 方向は左。	外) 2.5Y5/1 黄灰色 内) 2.5Y6/1 黄灰色	2mm 以下の白色 礫、砂粒全体に含 む	良好	25%	20110307
46	図版 25	大日山 12 号墳	須恵器 坏身	墳丘東側 表採	口径 12.0cm (復元)	口縁部は内傾して立ち上がり、端 部は丸くおさめる。内外面は回 転ナデ。	外・内) 2.5Y6/2 灰黄 色	1mm 以下の白色砂 粒を少量含む	良好	10%	20110307
47	図版 25	大日山 14 号墳	須恵器 坏蓋	石室 腐食土層	口径 13.8cm (復元)	口縁部は内傾して浅く凹む。内 外面を回転ナデ。	外・内) 5Y6/1 灰色	1mm 以下の白色砂 粒を少量含む	良好	10% 以下	20110311
48	図版 25	大日山 14 号墳	須恵器 坏身	石室 腐食土層	口径 11.4cm (復元)	口縁部が内傾して立ち上がり端部 は内傾して面をもつ。内外面を回 転ナデ。	外・内) 2.5Y7/1 灰白 色	1mm 以下の白色・ 黒色の砂粒を全体 に含む	良好	10% 以下	20110313
49	図版 25	大日山 14・15 号墳周辺	須恵器 甕	大日山 14・15 号墳間の園路 表採	残存部径 25cm (復元)	甕の口縁部から体部の破片。口縁 部は内外面ナデ。体部は外面平行 タキ、内面は同心円文。	外・内) 5Y6/1 灰色	2mm 以下の白色砂 粒全体に含む	やや 軟	10% 以下	20110328
50	図版 25	大日山 14・15 号墳周辺	高坏	大日山 14・15 号墳間の園路 表採	底径 8.0cm (復元)	高坏の脚部。端部は直立気味で、 丸くおさめる。内外面回転ナデ。	外・内) 2.5Y6/3 にぶ い黄色	1mm 以下の黒色砂 粒を少量含む	良好	10% 以下	20110317
51	図版 25	大日山 68 号墳 (旧前山 B201 号 墳)	須恵器 臈か	表採	残存部径 13.4cm (復元)	臈または壺の体部。尖り気味の底 部をもち、体部に一条の沈線をも つ。外面は底部をヘラケズリ、内 面は回転ヨコナデ。	外) 2.5Y7/3 浅黄色 内) 2.5Y6/1 黄灰色	2mm 以下の白色 礫、砂粒を含む	良好	20%	20100320
52	図版 25	大日山 68 号墳 (旧前山 B201 号 墳)	須恵器 短頸壺蓋	表採	口径 8.8cm (復元)	口縁部はやや内傾気味に立ち上 がり、端部は肥厚し、外傾して面 をもつ。外面は天井部ヘラケズリ、 他は回転ナデ。	外・内) N5/0 灰色	2mm 以下の白色 礫、砂粒を全体に 含む	良好	20%	20100320
53	図版 25	大日山 81 号墳 (旧前山 BX9 号 墳)	須恵器 臈	表採	-	臈の体部破片。円孔を穿ち上部に 一条の沈線が認められる。焼成不 良品。	外・内) 2.5Y8/2 灰白 色	1mm 以下の黒色の 砂粒を少量含む	不良	-	20100318

第5章 危険木伐採

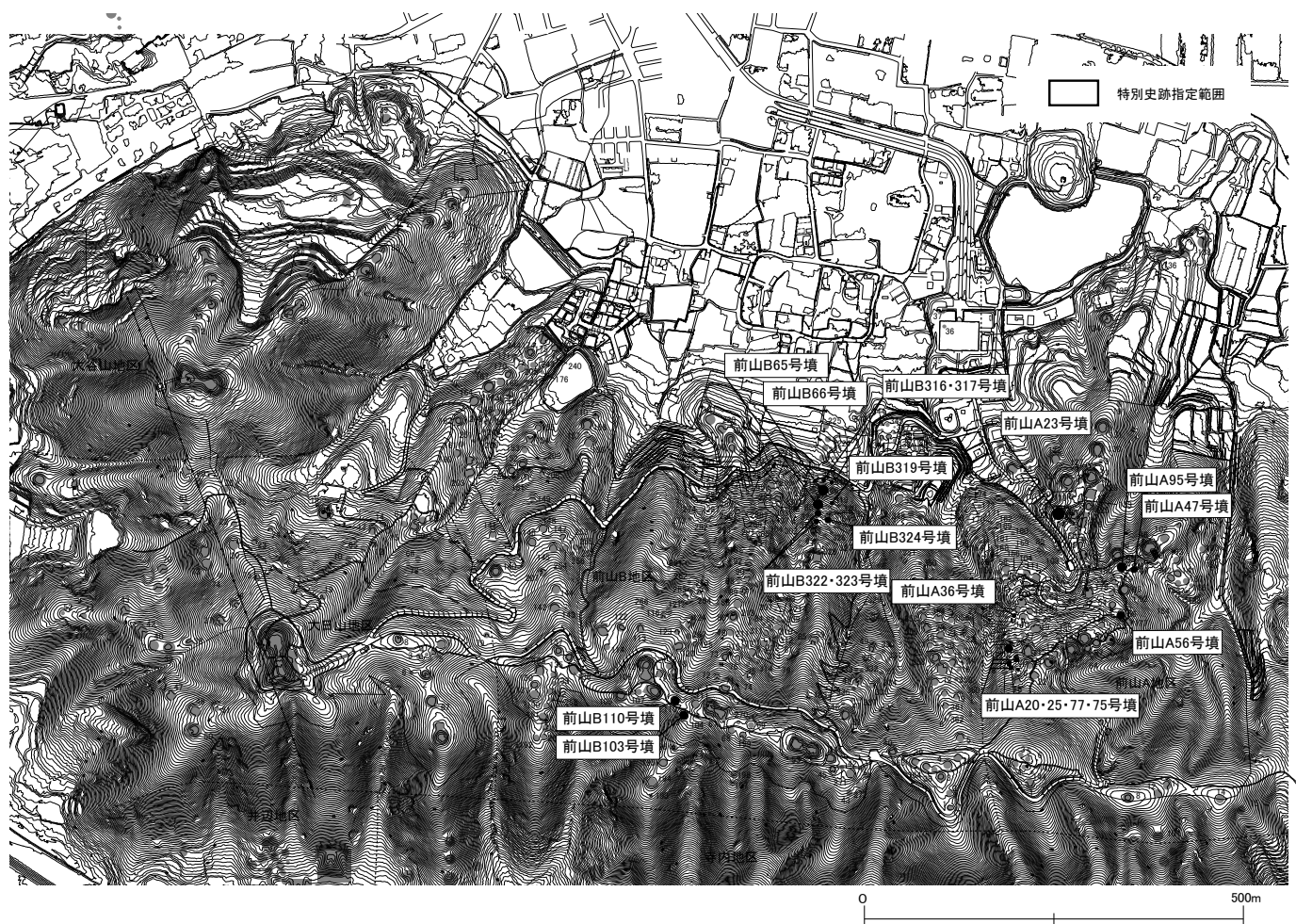
第1節 事業の概要

特別史跡岩橋千塚古墳群は指定地が森林に覆われており、古墳の墳丘上にも樹木が繁茂している。樹木は根の成長により墳丘盛土や石室が毀損する要因となっていることから、整備事業では、古墳の墳丘上の樹木及び古墳の保存に影響を及ぼす恐れのある樹木は原則として伐採する方針としている。

第2期整備事業では、平成27年度及び令和元年度に危険木伐採業務を委託により実施し、前山A地区及びB地区の古墳の墳丘上に生育するコナラ、ヤマモモ、サクラを主体とする樹木を伐採し、1m程度に切断した上で、紀伊風土記の丘の園路へ搬出した。これらの樹木の樹高は15～20mを主体とし、胸高直径は約20～60cmである。

平成27年度は和歌山森林組合へ委託し、前山A地区及び前山B地区における古墳墳丘上の樹木34本を伐採した。また、令和元年度は和歌山紀伊森林組合へ委託し、前山B地区の古墳墳丘上の樹木38本を伐採し、さらに一部は園外へ搬出して処分を行った。特にコナラについては、破碎または焼却処分としている。

事業の対象とした古墳は、第30図に示すとおりである。



第30図 危険木伐採対象古墳位置図（平成27年度・令和元年度）

第6章 便益施設及び県指定文化財展示・ 収蔵施設の設置等工事

第1節 便益施設設置工事

トイレは、園内に4箇所あるが、設置から約50年が経過し老朽化が激しく、利用者からも環境改善の要望が多数あることから、平成29年度のうち3箇所の撤去及び2箇所の新設工事を実施した。旧小早川家住宅の南側にあるトイレについては、体験広場東のトイレから近く他のトイレに比べ有効性が低いことから撤去することとした。資料館から徒歩約30分程度の距離にある山頂西側と東側のトイレ及び休憩施設については、撤去後新たにトイレ及び休憩施設を設置した。

これら2箇所のトイレ及び休憩施設は、地下遺構に影響がないよう同規模、同位置に景観に配慮した形態及び意匠として設置した。

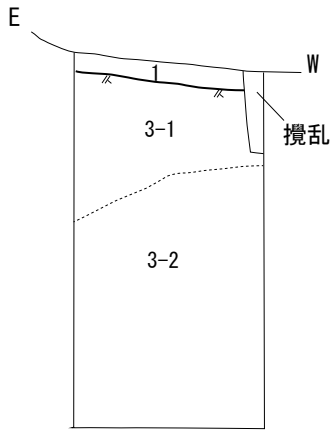
また、工事に際し専門職員が立会を行った結果、工事掘削範囲が既設トイレ設置時の削平面又は整地土内に収まることが確認できたため、史跡への影響は軽微であると判断した。

第2節 県指定文化財「日高地域の地引網漁用具」 展示・収蔵施設設置工事

重要文化財旧柳川家住宅と旧谷山家住宅の間に、県指定文化財である和船が露出展示されていたが、風雨による劣化が激しいため、平成30年度に同位置に展示・収蔵施設を新設した。設置工事に際し工事立会を行った結果、住宅の移築時又はそれ以前に地山を平坦に削った整地面であることが明らかとなったことから、史跡への影響は軽微であると判断した。



第31図 便益施設及び県指定文化財展示・収蔵施設設置等工事 位置図



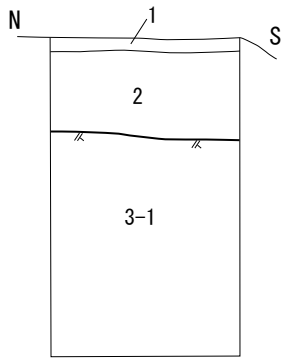
- 1 : 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 礫多く含む (表土)
- 3-1 : 明褐色 (7.5YR5/6) 礫、少量の石英含む、やや風化 (岩盤)
- 3-2 : 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) (岩盤)

便槽土層断面 (S=1/40)



外観 (西から)

前山A地区



- 1 : 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 礫多く含む (表土)
- 2 : 褐色 (10YR4/4) やや軟質、根多い
- 3-1 : 明褐色 (7.5YR5/6) 礫、少量の石英含む、やや風化 (岩盤)

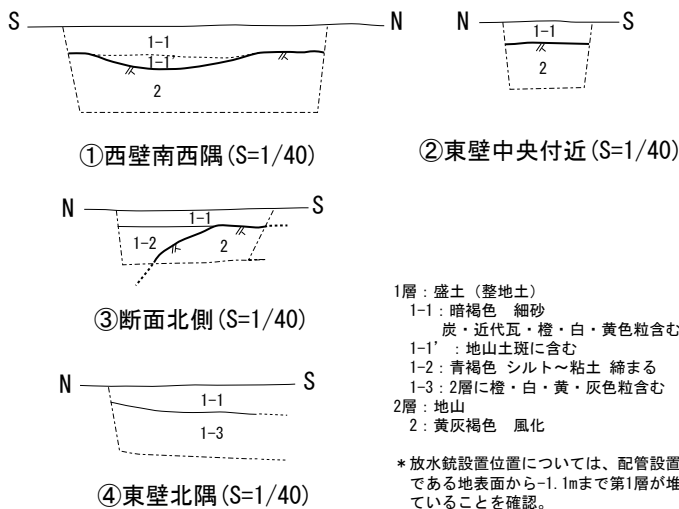
便槽土層断面 (S=1/40)



外観 (北西から)

大日山地区

第32図 トイレ・休憩施設建替え工事 工事立会図及び写真



- 1層 : 盛土 (整地土)
- 1-1 : 暗褐色 細砂
炭・近代瓦・橙・白・黄色粒含む
- 1-1' : 地山土斑に含む
- 1-2 : 青褐色 シルト～粘土 締まる
- 1-3 : 2層に橙・白・黄・灰色粒含む
- 2層 : 地山
- 2 : 黄灰褐色 風化

*放水銃設置位置については、配管設置深さである地表面から-1.1mまで第1層が堆積していることを確認。

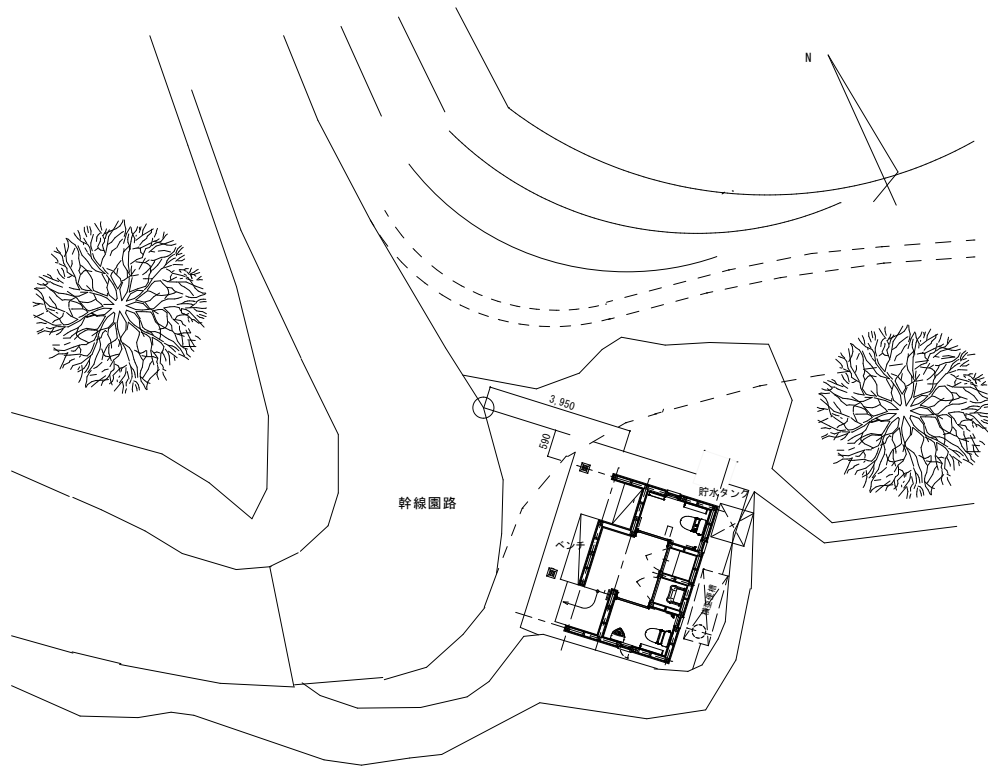


外観 (北西から)

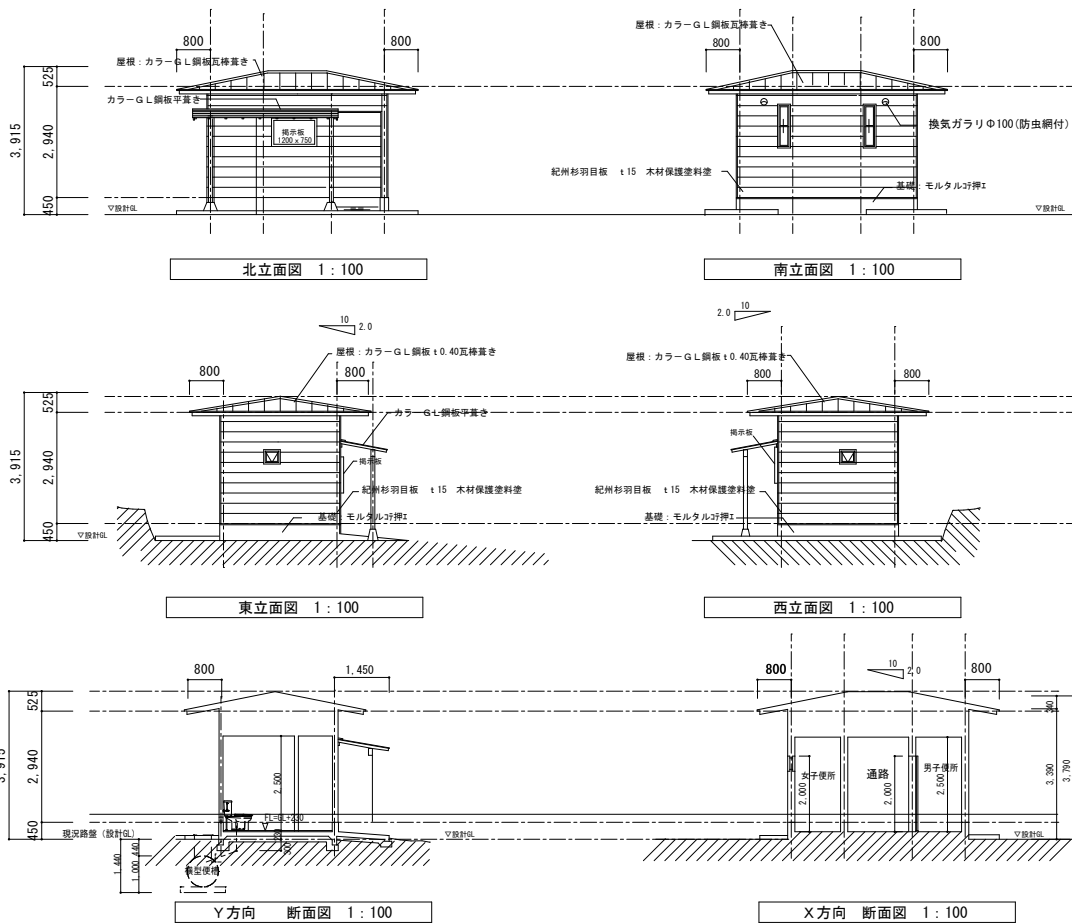


展示・収蔵状況

第33図 県指定文化財展示・収蔵施設 工事立会図及び写真

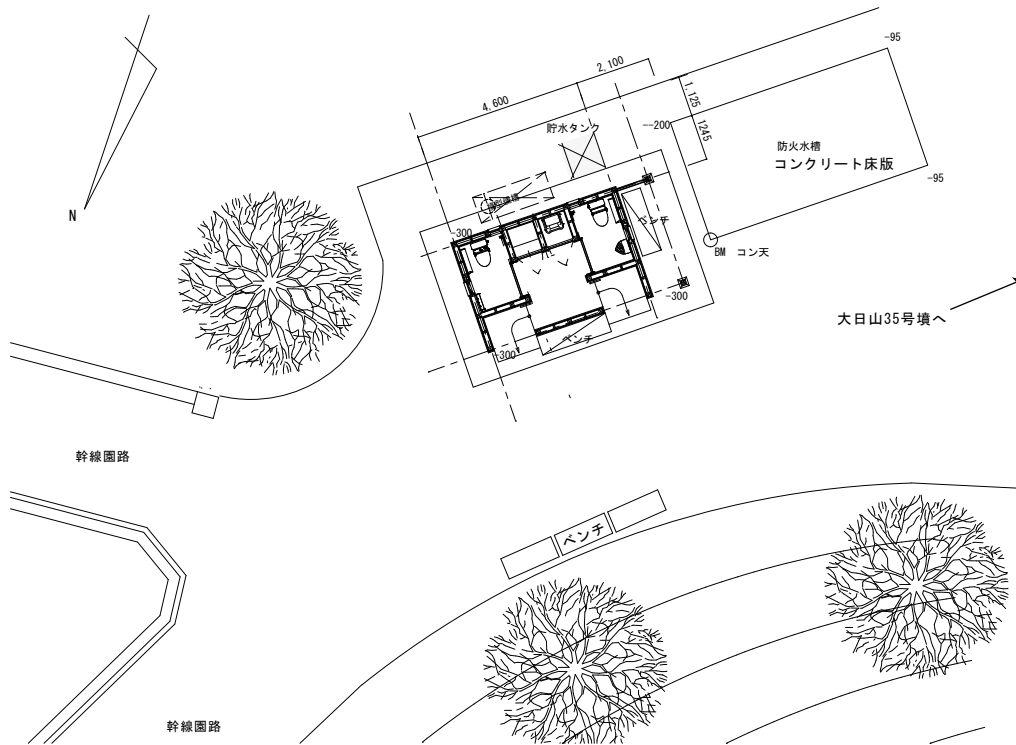


施設配置図

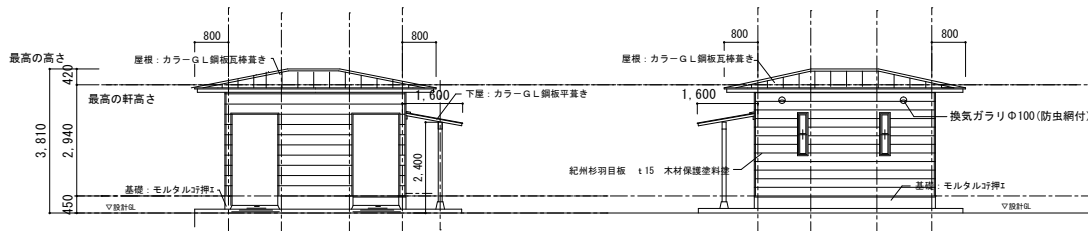


施設立面及び断面図

第34図 前山A地区 トイレ及び休憩施設設置図面

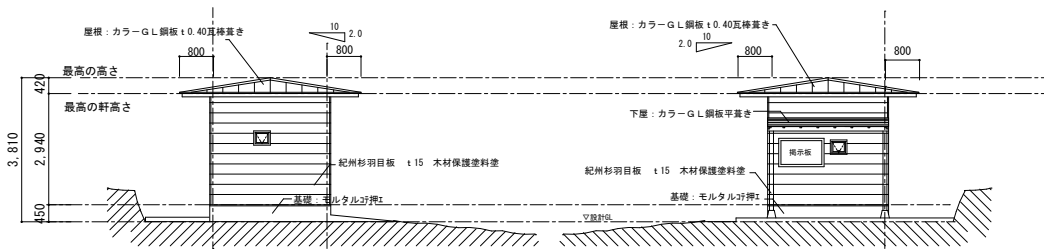


施設配置図



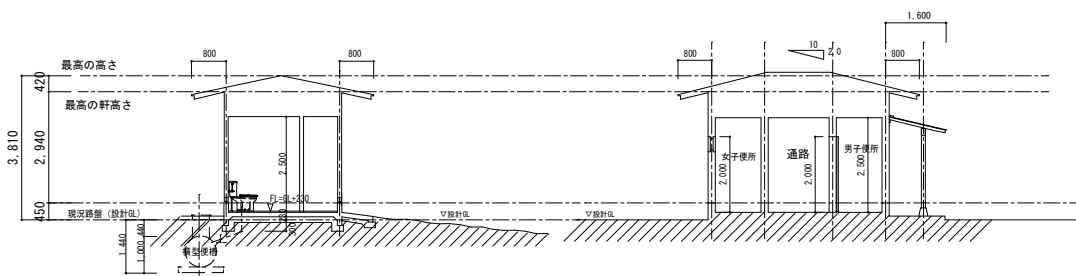
北立面図 1:100

南立面図 1:100



東立面図 1:100

西立面図 1:100

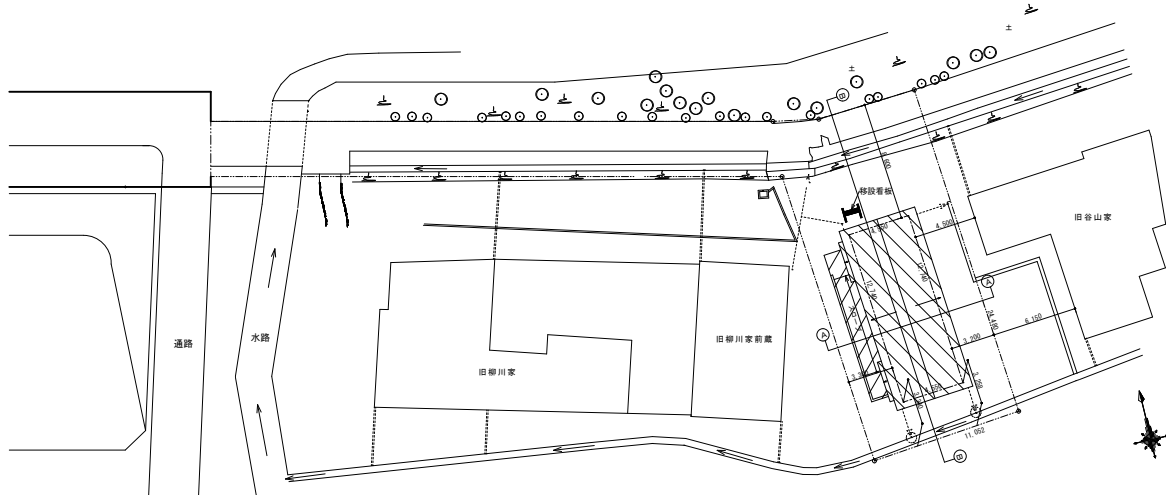


Y方向 断面図 1:100

X方向 断面図 1:100

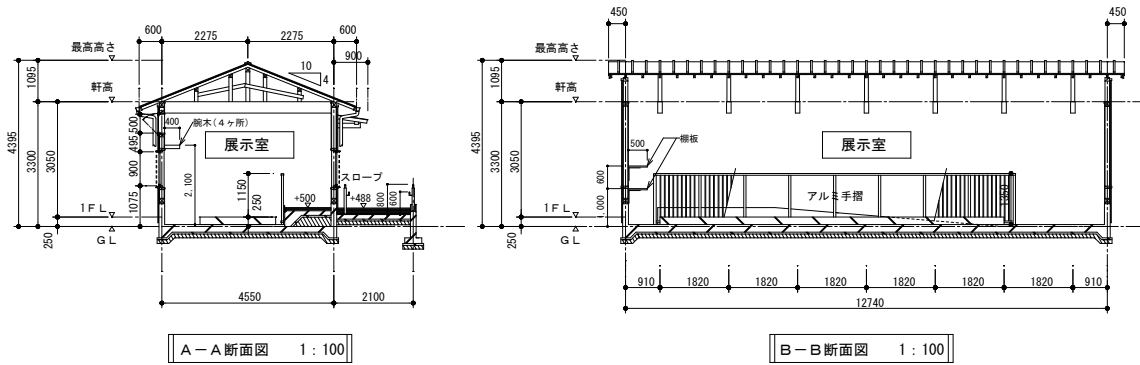
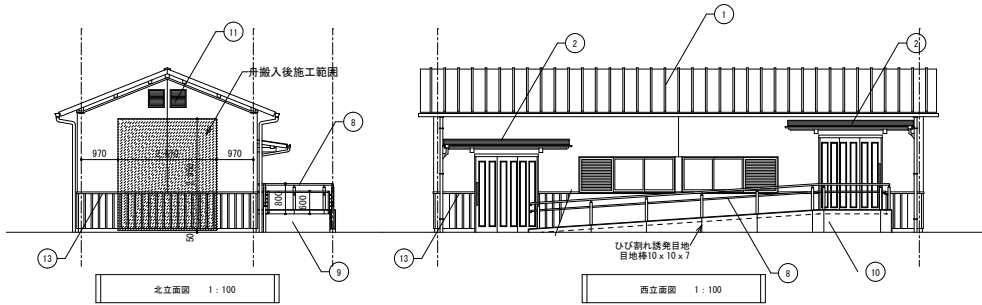
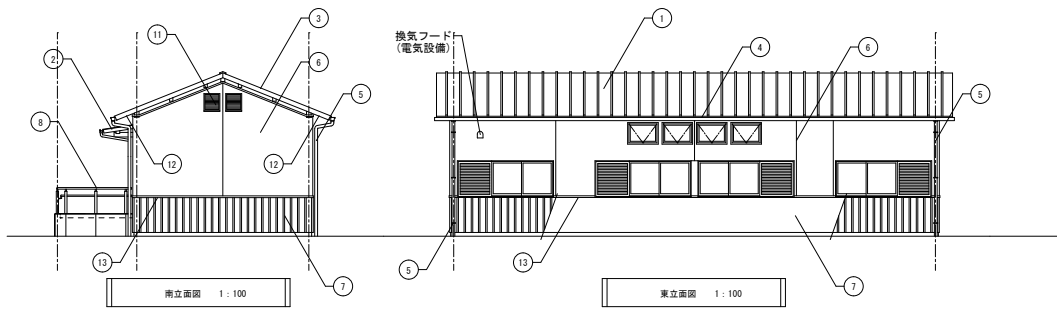
施設立面及び断面図

第35図 大日山地区 トイレ及び休憩施設設置図面



施設配置図

外部仕上表						
1	屋根	ガルバリウム鋼板瓦葺き 勾配4寸 (H12告示第1400号10号)	8	手摺	アルミ2段手摺(参考:四国化成 6-774ビ-ASB型 機種78347 (手摺段上段:φ42.7 下段:φ34) 株式会社支社 瑞部7-4477 同等)	
2	庇壁板	ガルバリウム鋼板平葺き 勾配1.5寸 (H12告示第1400号10号)	9	スロープ	土間コンクリート剛毛引き	
3	破風板	杉板 t25 木材保護塗料塗	10	スロープ腰	コンクリート打放し	
4	軒種	塩ビ角型 w150 (庇軒種 塩ビ丸型75)	11	ガラリ	アルミサッシ	
5	縦種	塩ビ丸型 φ75 (庇縦種 塩ビ丸型 φ60) SBR遮水塗料φ1000	12	軒表	野地板 杉板 t12 (無節)	
6	外壁	防火サイディング t16 (参考:住友- 住友建設16 フォット同等)	13	腰水切り	ガルバリウム鋼板 t0.35 糸巾200	
7	腰壁	焼き杉板 t15 w150				



施設立面及び断面図

第36図 県指定文化財 展示収蔵施設設置図面

第7章 排水路改修工事

第1節 事業に至る経緯

特別史跡岩橋千塚古墳群が所在する県立紀伊風土記の丘では、昭和46年度の開園に伴い園内に排水路を設置している。しかしながら、平成21年11月及び24年6月の豪雨により基幹水路の一部に砂礫・枯木が堆積して埋没し、通水に支障をきたすことにより、資料館の冠水や園路の一部崩落の要因となり、さらに県有地外への土砂の流入によって周辺住民に重大な影響を及ぼした。このため、対策として園内の排水路の改修工事を実施することとなった。

まず、特別史跡岩橋千塚古墳群および周辺地における用排水路の現状を把握するために、平成22年度に現況調査（平成22年度岩橋千塚古墳群用排水路調査業務）を実施した。調査内容は、主要地点簡易水準測量、周辺水路現況図、流域図及び用排水系統図の作成と、水路現況断面排水能力の検討及び水理計算である。このとき、基準降雨量は50年に1回程度の出水規模とした。

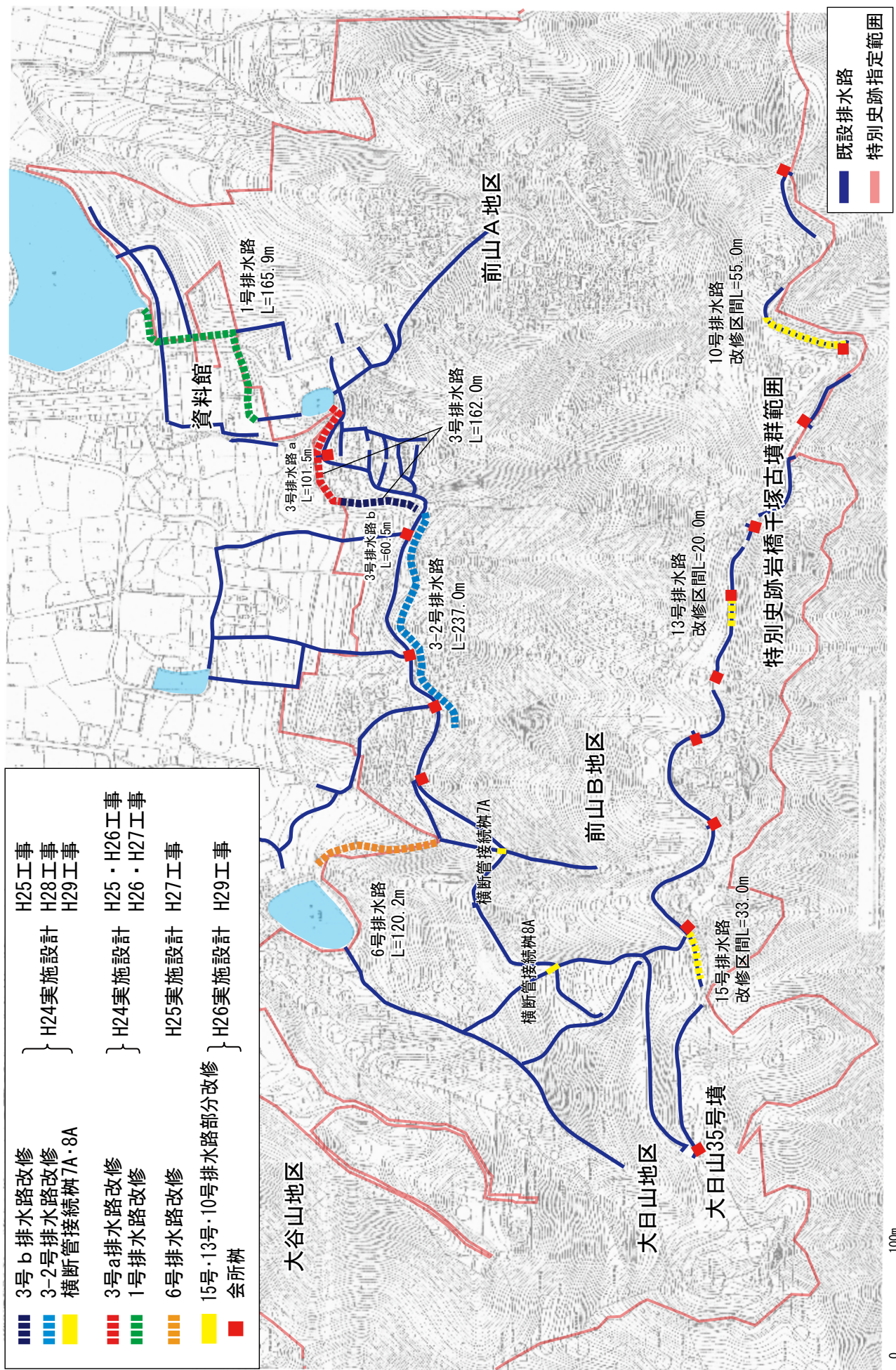
調査の結果、水路断面の流下能力の検討から、1号、3号、3-2号、6号排水路を大きく改修する必要が認められ、さらに小規模なU字溝、会所・合流枘などの改修をあわせて実施することとなった。

第2節 事業の概要

以上の経緯に基づいて、排水路改修の実設計及び工事を平成24年度から平成29年度に実施した。事業の概要は以下のとおりである。なお、各工事にあたり専門職員が立会を行った結果、史跡への影響は軽微であると判断した。

第4表 特別史跡岩橋千塚古墳群 排水路改修工事業一覧

年度	内容	業務名	契約金額	受託業者
平成22年度	用排水路調査	平成22年度岩橋千塚古墳群用排水路調査	4,483,500	(株)近代技研
平成24年度	3号b・3-2号排水路実施設計	平成24年度第5号特別史跡岩橋千塚古墳群排水路測量設計業務	1,993,950	(株)近代技研
	1号・3号a排水路実施設計	平成24年度第6号特別史跡岩橋千塚古墳群排水路測量設計業務	1,617,000	(株)近代技研
平成25年度	3号b排水路工事 60.5m	平成25年度第1号紀伊風土記の丘排水路改修工事	7,044,450	(株)三田設備工業
	3号a排水路工事 41.5m	平成25年度第2号紀伊風土記の丘排水路改修(その2)工事	6,814,500	(株)三田設備工業
	6号排水路実施設計	平成25年度第4号特別史跡岩橋千塚古墳群排水路測量設計業務	945,000	(株)近代技研
平成26年度	3号a排水路工事 60.0m	平成26年度第1号紀伊風土記の丘排水路改修工事	20,260,800	(株)中村設備工業
	1号排水路工事 22.5m			
	15号・13号・10号排水路(部分改修)・会所枘実施設計	平成26年度第1号特別史跡岩橋千塚古墳群排水路測量設計業務	950,400	(株)近代技研
平成27年度	1号排水路工事 143.4m	平成27年度第2号紀伊風土記の丘6号排水路改修工事	13,700,400	(株)中村設備工業
	6号排水路工事 120.2m	平成27年度第1号紀伊風土記の丘6号排水路改修工事	13,396,320	(株)蔭山組
平成28年度	3-2排水路工事 237m	平成28年度第1号紀伊風土記の丘排水路改修工事	25,693,200	(株)一陽建設
平成29年度	15号・13号・10号排水路工事(部分改修)・会所枘(15箇所)・横断館接続枘(7A・8A)工事	平成29年度第2号紀伊風土記の丘排水路改修工事	11,226,600	(株)三田設備工業



第37図 排水路改修工事全体図

A3 折ページ

A3 折ページ

A3 折ページ

A3 折ページ

A3 折ページ

A3 折ページ

A3 折ページ

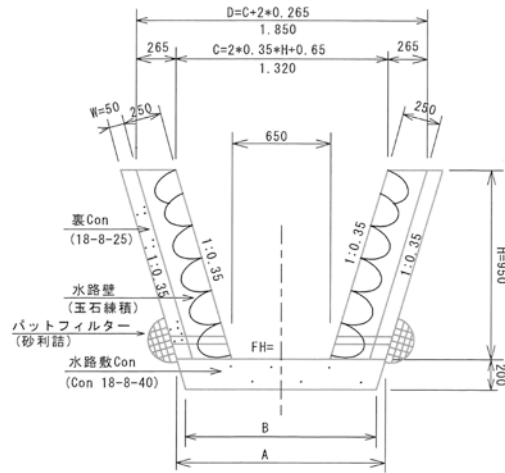
A3 折ページ

A3 折ページ

A3 折ページ

3号b 水路壁・底巾650 2型標準図

S=1:25

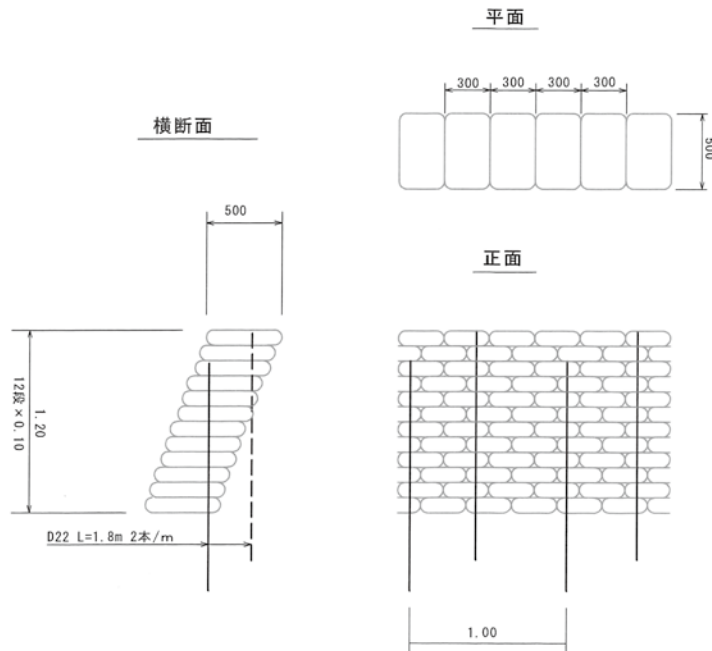


型	H	A	B	W(水平)
2 (裏Con5)	0.85~0.95	1.30	1.16	0.05(0.053)

(玉石はφ200~250とする。)
パットフィルター-13×2=26個

土留工(植生土のう 小口積み)

S=1:25



第43図 3号b 排水路 標準断面図

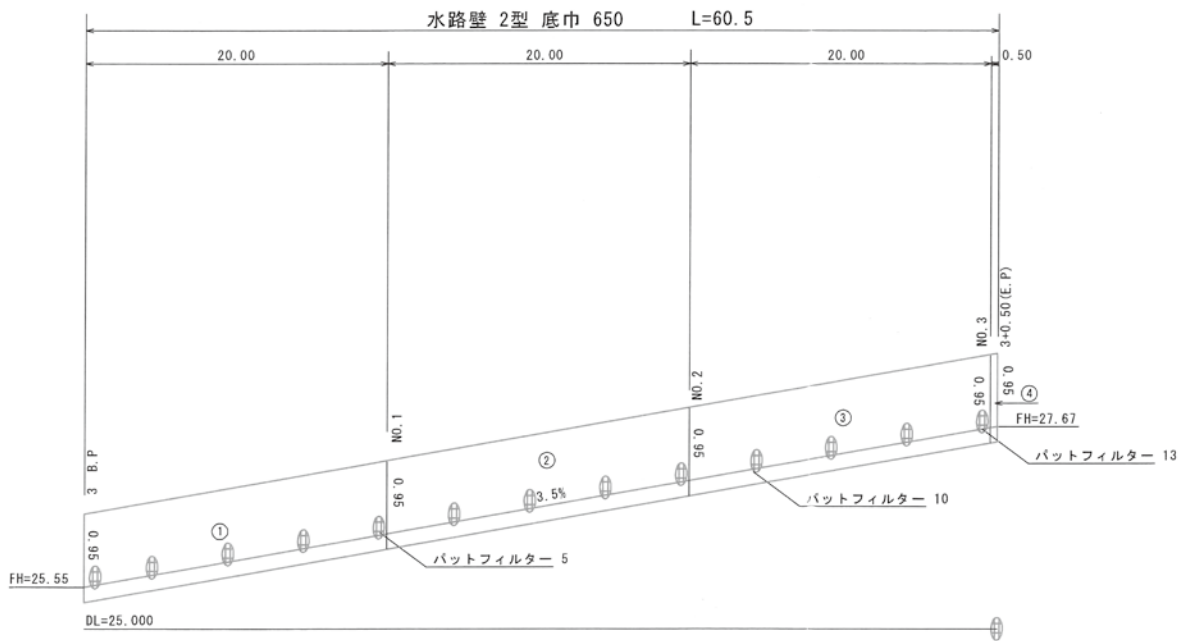
3号 b 水路壁・水路敷展開図

H=1:250
V=1:50

水路敷平面図 L=水路敷 60.5



水路壁側面図 L=水路壁 60.5



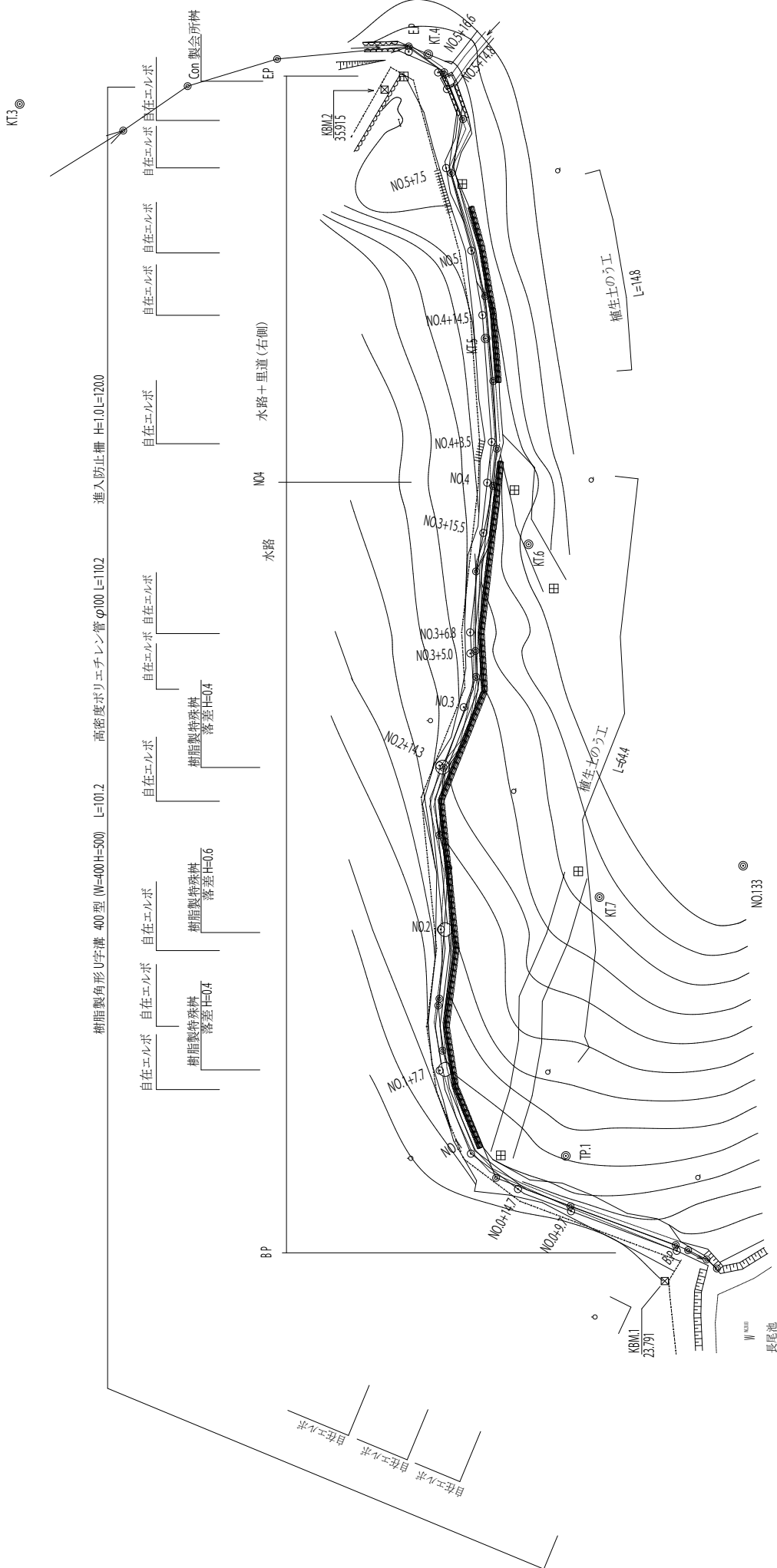
第44図 3号 b 排水路 展開図他

A3 折ページ

A3 折ページ

6号排水路計画平面図

S=1/500



第46図 6号排水路 平面図 (S=1/500)

A3 折ページ

A3 折ページ

A3 折ページ

A3 折ページ

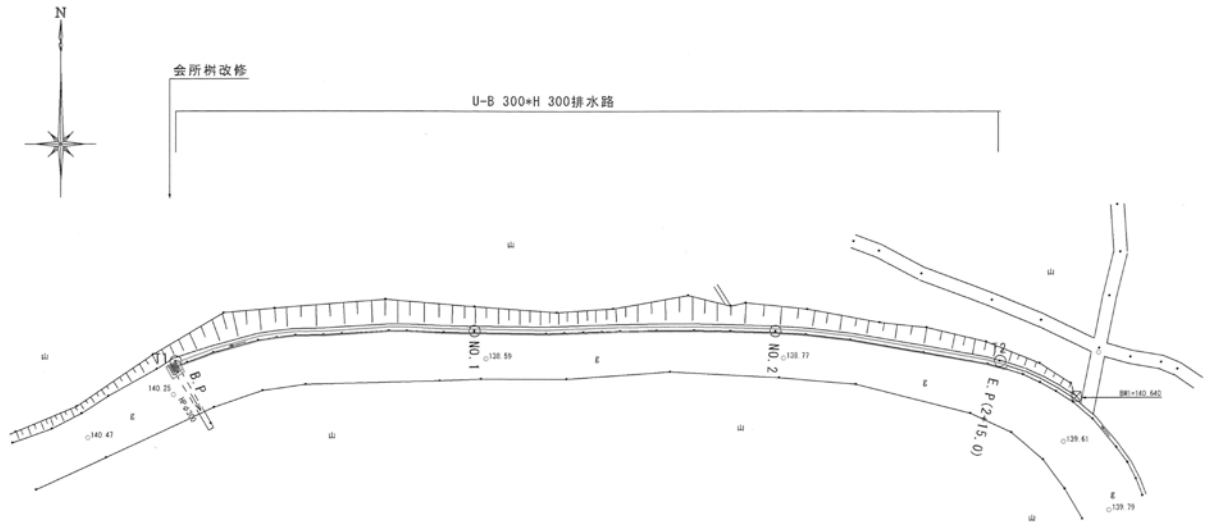
A3 折ページ

A3 折ページ

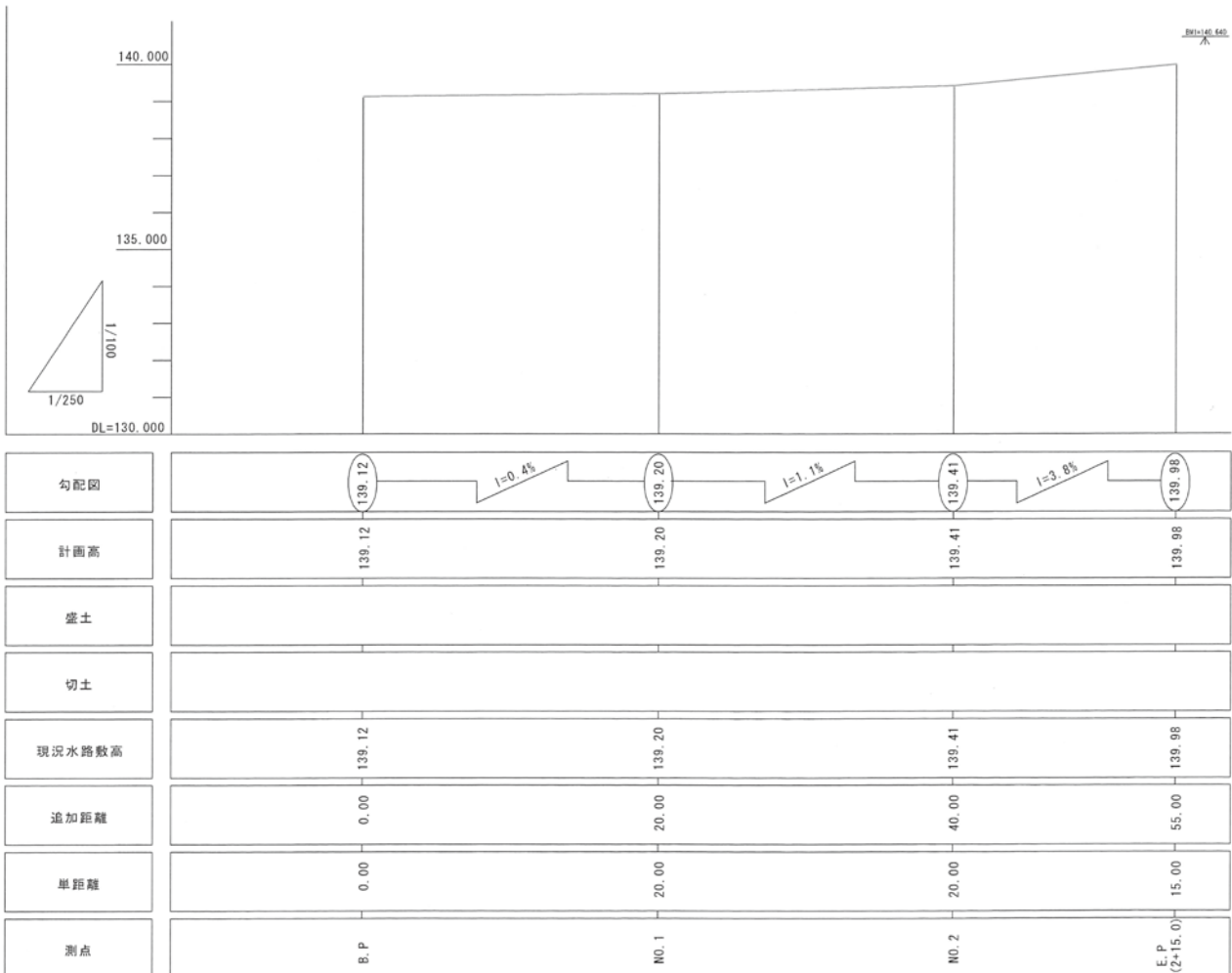
10号排水路計画図

計画平面図

S=1:250



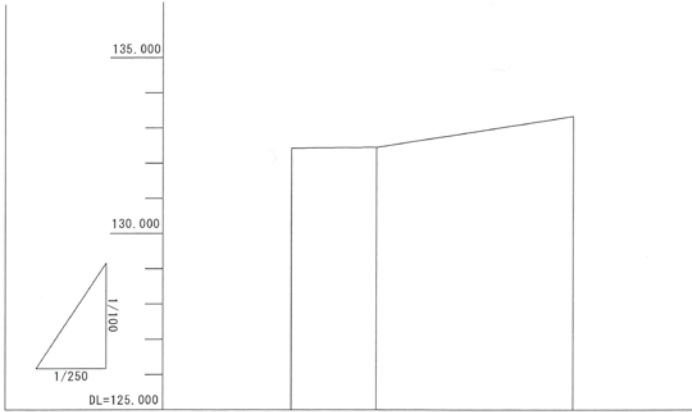
計画縦断面



第50図 10号排水路 平面図・断面図

13号排水路計画図

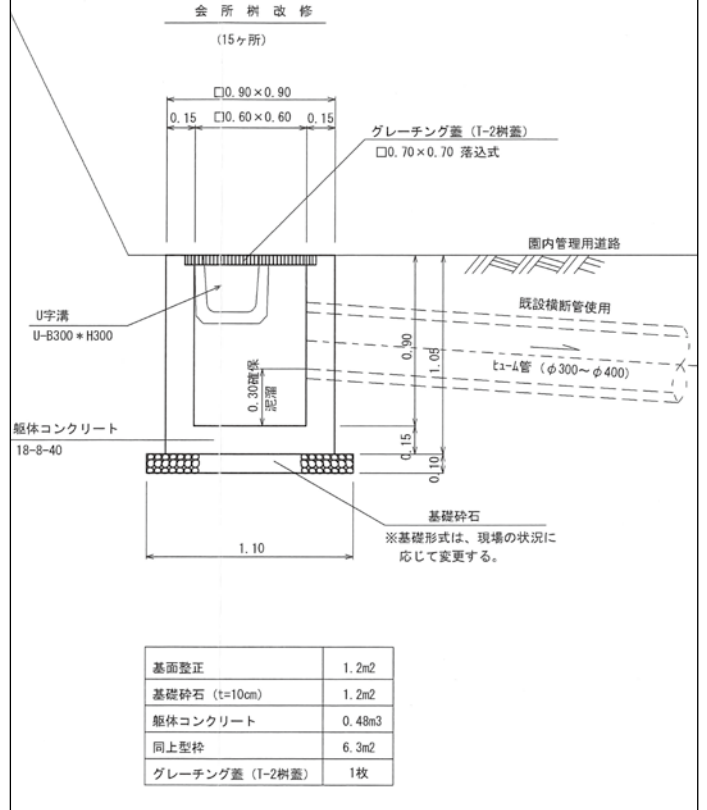
計画縦断面図



勾配図			
計画高	132.42	132.45	133.40
盛土			
切土			
現況水路敷高	132.42	132.45	133.40
追加距離	0.00	6.00	20.00
単距離	0.00	6.00	14.00
測点	B.P	0+6.0	E.P(20.0)

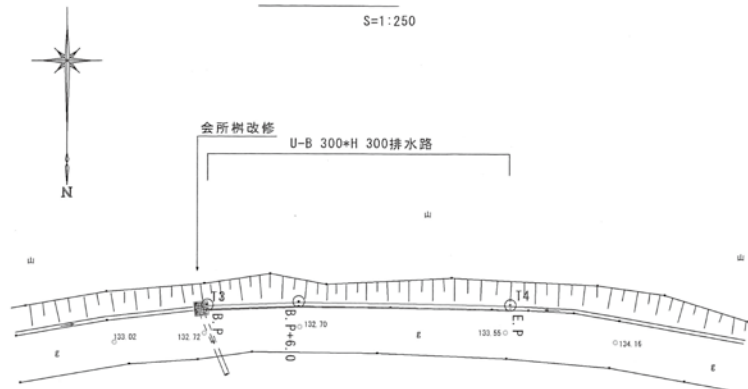
その他改修構造物

S=1:20



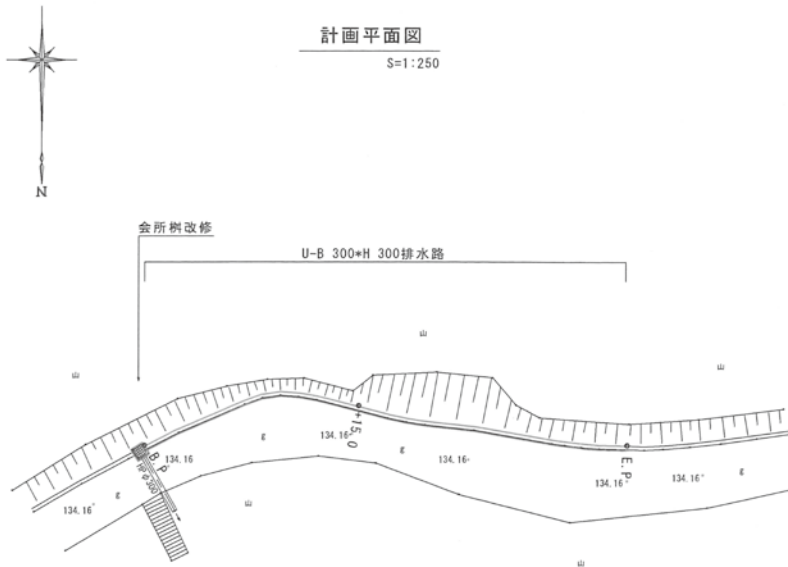
計画平面図

S=1:250

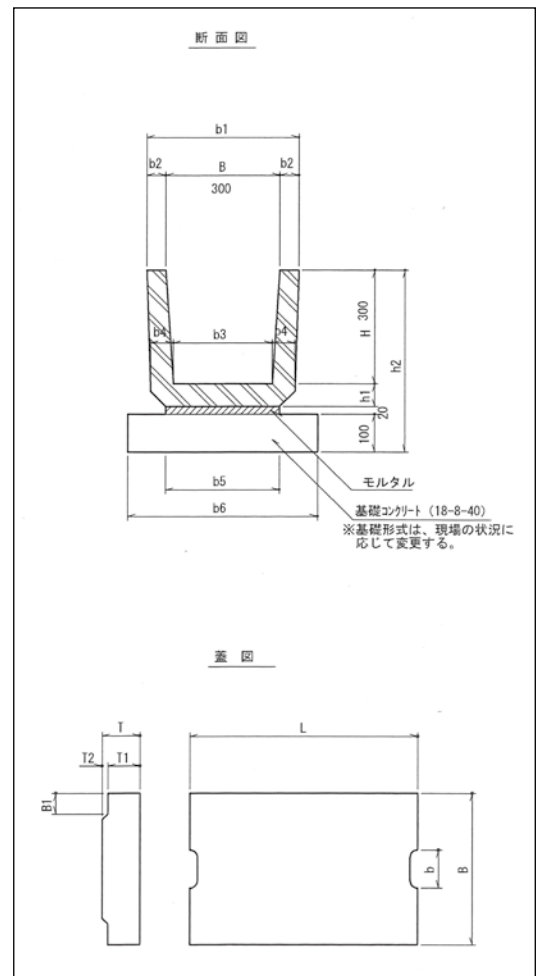
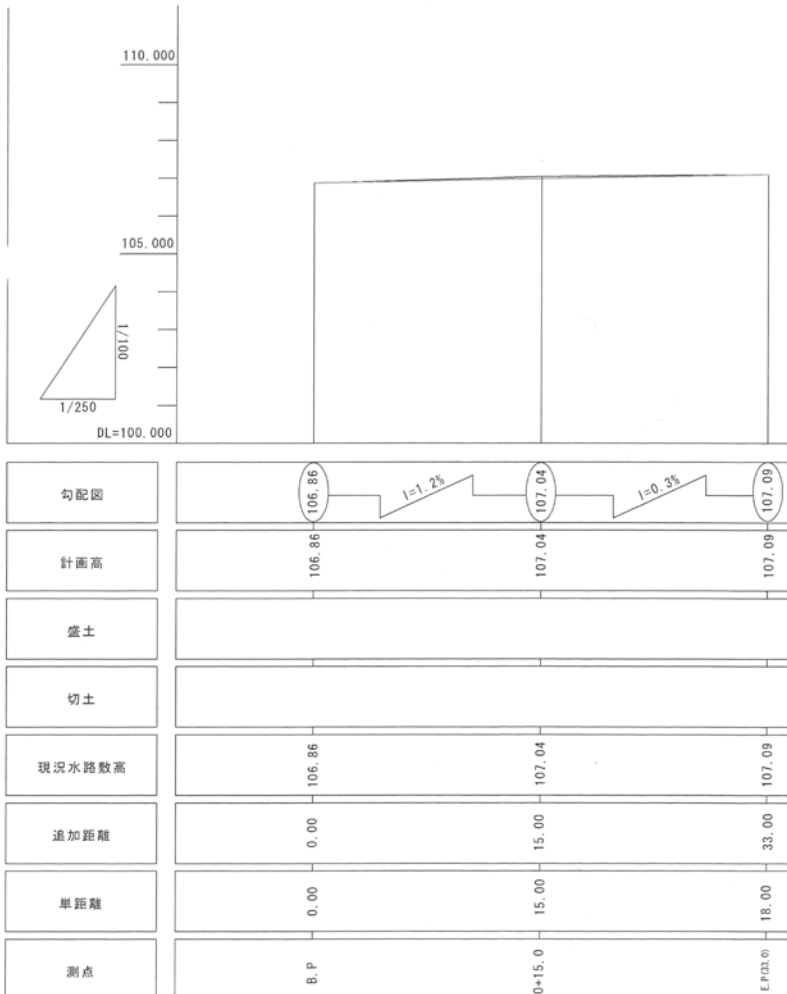


第51図 13号排水路 平面図・断面図 / 各水路 改修会所樹断面図

15号排水路計画図



計画縦断面図



第52図 15号排水路 平面図・断面図 / 10・13・15号排水路標準断面図

第8章 特別史跡岩橋千塚古墳群のモニタリング

第1節 事業に至る経緯

特別史跡地内の古墳については、『特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画』第9章第4節の「経過観察」に従ってその保存状況を適切に把握するために必要なモニタリングを行うこととしている。

ただし、古墳ごとに保存状態は様々であり重要視するモニタリング項目も異なることから、以下のとおり具体的な内容とその方法を定めて実施しているところである。これらの成果については、毎年刊行する『和歌山県立紀伊風土記の丘 年報』等に掲載していくものとする。なお、ここで定める内容と方法については、古墳の保存状況に応じて適宜修正し運用していくものとする。

第2節 モニタリングの種別と内容

(1) 種別

個々の古墳に応じてモニタリング項目を以下のとおり5区分し、古墳全体の保存状況を把握する。古墳カルテ（保存活用計画掲載の「特別史跡岩橋千塚古墳群古墳一覧」）の更新時に史跡地内全体の状況を把握したうえで、個別にモニタリングすべき古墳を以下の2から5に分類して抽出した。

1. 古墳カルテの更新
2. 安全管理が必要な横穴式石室のモニタリング
3. 安全管理が特に必要な横穴式石室のモニタリング
4. 石室滞水古墳のモニタリング
5. 埴輪復元古墳のモニタリング

(2) 内容

古墳カルテの更新

- ① 対象古墳：特別史跡内のすべての古墳を対象とする。
- ② 実施間隔：2年毎（半数(約250基)／年)
- ③ モニタリング項目：『特別史跡岩橋千塚古墳群 保存活用計画』記載事項の更新。
 - ・石室の欠損等状況
 - ・盗掘坑など墳丘の状況
 - ・墳丘上の樹木の直径、本数
 - ・修景対象古墳ランク、樹木伐採対象古墳ランク 等

今回は大谷山・大日山・前山A地区の古墳カルテの更新を行っており、更新後の古墳一覧は第5表に示すとおりである。

安全管理が必要な横穴式石室のモニタリング

- ① 対象古墳：天井石まで残る横穴式石室のうち来園者が内部に入る可能性がある以下の古墳を対象とする。
前山A 13号墳、前山A 23号墳、前山A 24号墳、前山A 32号墳、
前山A 46号墳、前山A 56号墳、前山A 99号墳、将軍塚古墳、郡長塚古墳、

大谷山 16 号墳、前山 A 2 号墳

② 実施間隔：1 年毎

③ モニタリング項目：石室の孕み、石材の割れ、結露、盛土の流出など。

詳細は別途定めるモニタリングシートによる。

安全管理が特に必要な横穴式石室のモニタリング

① 対象古墳：天井石まで残る横穴式石室のうち来園者が内部に入る可能性がある古墳で、石室石積みの孕みや割れ等が大きく、石材の落下など安全性が危惧される古墳を対象とする。

大日山 35 号墳、前山 A67 号墳、天王塚古墳、大谷山 22 号墳

② 実施間隔：3 ヶ月毎

③ モニタリング項目：石室の孕み、石材の割れ、結露、盛土の流出及びモニタリングポイントの計測など。

天王塚古墳は温湿度データについても計測を行う。

詳細は別途定めるモニタリングシートによる。

石室滞水古墳のモニタリング

① 対象古墳：雨水等の影響により横穴式石室内に滞水する古墳を対象とする。

大日山 35 号墳、前山 A13 号墳

② 実施間隔：降雨状況に応じて行う。

③ モニタリング項目：羨道及び玄室の最大滞水深度の計測など。

④ その他：実施内容の詳細については『前山 A 13 号墳及び大日山 35 号墳石室のモニタリング方針について』による。

埴輪復元古墳のモニタリング

① 対象古墳：大日山 35 号墳、前山 A58 号墳

② 実施間隔：3 ヶ月毎

④ モニタリング項目：埴輪レプリカの設置状況、ヒビ割れや劣化など。

第 3 節 横穴式石室のモニタリング

横穴式石室のモニタリングは、天井石の残存する 15 基の横穴式石室を対象に石室の孕み、石材の割れ、結露、盛土の流出及びカビや苔の状況などを記録する。写真記録は孕みや割れの変化を追跡調査する上で重要であることから、床面、天井、羨道を含め詳細に撮影する。

なお、このうち「安全管理が特に必要な横穴式石室のモニタリング」として 3 ヶ月毎に実施する 4 基の古墳について、以下に記載する。

(1) 大日山 35 号墳

玄室前道天井石の割れと羨道側壁の孕みが顕著であるため、これらの値を計測している。現在のところ変化は認められない。

入口を鉄扉で閉塞していることもあり、石



羨道右側壁の孕み



玄室前道天井石の割れ

室内は湿度が高く、石棚より上の結露が顕著で、白いカビ状の物質も多く付着する。壁面・床面には盛土が流出した灰色系の細粒土が付着・堆積しており、注視する必要がある。

(2) 天王塚古墳

玄室前道天井石の割れ、袖石の割れ、羨道側壁の孕み及び羨道天井石上の空隙が顕著であるため、これらの値を計測している。その他、適切な保存と石室公開時期を決定するため、玄室、羨道、外部等の温湿度を計測している。盗掘孔等からの盛土の流出や割れ幅の大きい玄門部の変化に特に注視する必要がある。



玄室前道袖石の割れ



玄室前道天井石の割れ

(3) 前山 A67 号墳

羨道側壁の孕みが大きいため、入口から内部をのぞき込む方法で公開している。現在のところ大きな変化はないが、羨道幅を計測していく必要がある。



羨道側壁の孕み

(4) 大谷山 22 号墳

保存地区に位置するため、石室の公開はしていないが、イベントで限定公開する場合がある。現在は石室内への立ち入りを禁止している。

玄室前道天井石の割れが大きく、玄室側と羨道側で割れ幅を計測している。これ以外にも玄門右袖石の割れも大きいことから玄門部付近の変化を注視していく必要がある。



玄室前道天井石の割れ



玄室前道袖石の割れ

第 4 節 石室滞水古墳のモニタリング

(1) 前山 A13 号墳

滞水が始まった時期ははっきりしない。平成 18 年度及び 20 年度の発掘調査時にはすでに認識されていた。雨量の少ない冬場はほとんど滞水しないが、夏場は多く、排水・蒸発するのに 1 週間程度かかる。墳丘上にシートを設置して水量をモニタリングしたが全面を覆っても一定量滞水

することから、周辺からの流れ込みもあるものと考えられる。令和2年度の調査後、整備予定であるが、整備までの期間、雨量と滞水量の関係を記録していく。

(2) 大日山 35 号墳

平成 15 年度の発掘調査以降、滞水するようになった。石室上にシートを設置して水量をモニタリングしたが、周辺からの流入みのためか大きな効果はなかった。鉄扉で密閉されていることもあり、蒸発量は小さく排水もほとんどないため、ポンプ等で排水しない限り長期間滞水している。雨水の侵入とともに墳丘盛土が石室内部に流入していることから、保存の観点からも対策を講じる必要がある。令和 2 年度の調査後、整備予定であるが、整備までの間、雨量と滞水量の関係を記録していく。



玄室滞水状況



羨道・玄室滞水状況

第 5 節 埴輪復元古墳のモニタリング

(1) 大日山 35 号墳

平成 27 年 3 月に設置した東造り出しの埴輪レプリカを 3 か月毎に確認している。現在のところ、円筒埴輪レプリカの突帯の剥離や苔の付着は認められるが、他の割れなどは確認されていない。突帯の剥離と苔の付着は、市民参加で制作した埴輪レプリカに顕著である。焼成温度が低いため水分を吸収し収縮と膨張を繰り返した結果生じたものと考えられる。



東造り出し埴輪等設置状況



円筒埴輪突帯剥離状況

(2) 前山 A 58 号墳

平成 31 年 3 月に設置した。市民参加で制作した円筒埴輪と石見型埴輪及び馬形埴輪の各レプリカは、大日山 35 号墳と同様、苔の付着が認められる。また、石見型埴輪レプリカに一部破損が確認されたが、補修後は再び破損することなく樹立している。



埴輪等設置状況



石見型埴輪破損状況

第5表 特別史跡岩橋古墳群古墳一覧

No.	古墳 No.	墳丘形態		埋葬施設		埋葬施設等・残存状況	現況		整備事業等			整備優先ランク付け					備考
		古墳外形	墳長	埋葬施設	内寸(長×幅)		墳丘・墓坑	支障本 直径・本数等	樹木 伐採	発掘調査/ 修理工事	照明・説明板 等設置	修復 対象古墳 ランク	樹木伐採 対象古墳 ランク	土墳 カーブ	関大報告書	HIS 遊歩地図	
1	大谷山1号墳	円墳	7	不明	-	埋葬施設不明・残存状況不明	墳丘・墓坑 墳丘・墓坑の 凹み	10cm2本 30cm2本	未実施/未実施	E	C	大谷山1号墳	大谷山1号墳	大谷山1号墳	大谷山1号墳	大谷山1号墳	古墳航3号墳は誤り
2	大谷山2号墳	円墳	10	不明	-	浅い盗掘坑あり、盗掘坑内に20cm×1本、10cm×2本の樹木	40cm2本、 20cm2本、 10cm2本	未実施/未実施	E	C	大谷山2号墳	大谷山2号墳	大谷山2号墳	大谷山2号墳	大谷山2号墳	古墳航3号墳は誤り	
3	大谷山3号墳	円墳	14	竪穴式石室	20/19	竪穴式、石室1、羨道部天井石残存	40cm5本、 20cm1本、 10cm多数	未実施/未実施	B	C	大谷山3号墳	大谷山3号墳	大谷山3号墳	大谷山3号墳	大谷山3号墳	古墳航4号墳は誤り、周辺に竹藪出、尾根中央より西寄り築造	
4	大谷山4号墳	円墳	18	竪穴式石室	1.9/1.6	竪穴式、石室1、羨道部天井石残存	馬道付	昭和47年度(緊急発掘調査)/未実施	E	-	大谷山4号墳	大谷山4号墳	大谷山4号墳	大谷山4号墳	大谷山4号墳	古墳航5号墳は誤り	
5	大谷山5号墳	円墳	19×15	竪穴式石室	2.1/1.78	竪穴式、玄室天井石欠失、玄室・羨道板石閉塞	70cm1本、 5.0cm1本、 雑木多数	昭和47年度(緊急発掘調査)/未実施	C	B	大谷山5号墳	大谷山5号墳	大谷山5号墳	大谷山5号墳	大谷山5号墳	古墳航は6号墳は誤り、周辺に竹藪の高まり(調査時埋土か)	
6	大谷山6号墳	前方後円墳	25	竪穴式石室	1.75/0.45	右片袖式、天井石欠失、榑体突起3箇所、玄室に赤色顔料	40cm1本、 30cm2本、 30cm1本、 雑木多数	昭和47年度(緊急発掘調査)/未実施	A	B	大谷山6号墳	大谷山6号墳	大谷山6号墳	大谷山6号墳	大谷山6号墳		
7	大谷山12号墳	円墳	12	不明	-	埋葬施設不明	墳丘上に溝	雑木多数	C	-	大谷山12号墳	大谷山12号墳	大谷山12号墳	大谷山12号墳	大谷山12号墳	墳丘東側に段々畑造成、墳丘踏切、古墳でない可能性	
8	大谷山13号墳	円墳	13	竪穴式石室	2.4m以上?/1.8	竪穴式、南東に開口、石室高1.1m残存、石室内傾、床面に玉石	60cm1本(側壁を押し)	平成6年度(追加指定に伴う確認調査)/未実施	A	A	大谷山13号墳	大谷山13号墳	大谷山13号墳	大谷山13号墳	大谷山13号墳	東側斜面で墳丘崩落し削られる	
9	大谷山14号墳	円墳	15	竪穴式石室	2.1/1.9	竪穴式、南東に開口、上半部欠損、床面に玉石、石室高1.0m残存	50cm1本、 40cm2本、 20cm5本	平成6年度(追加指定に伴う確認調査)/未実施	B	B	大谷山14号墳	大谷山14号墳	大谷山14号墳	大谷山14号墳	大谷山14号墳	猪が墳丘崩らす、東側斜面の石垣	
10	大谷山15号墳	円墳	15	竪穴式石室	2.3/1.9	竪穴式、南東に開口、上半部欠損、床面に玉石	30cm3本、 20cm6本	平成6年度(追加指定に伴う確認調査)/未実施	A	C	大谷山15号墳	大谷山15号墳	大谷山15号墳	大谷山15号墳	大谷山15号墳	猪被害	
11	大谷山16号墳	円墳	20	竪穴式石室	3.56/2.6	竪穴式、南東に開口、石室高2.1m、石室入口上部に崩れ	30cm5本、 20cm2本	平成6年度(追加指定に伴う確認調査)/未実施	C	C	大谷山16号墳	大谷山16号墳	大谷山16号墳	大谷山16号墳	大谷山16号墳		
12	大谷山17号墳	円墳	13	北側竪穴式石室 南側竪穴式石室	3.15/0.8 2.0以上/0.8	板石で区画した副室に竪穴式、石室一部崩れ	20cm11本	平成6年度(追加指定に伴う確認調査)/未実施	A	D	大谷山17号墳	大谷山17号墳	大谷山17号墳	大谷山17号墳	大谷山17号墳	猪が墳丘崩らす	
13	大谷山20号墳	前方後円墳	37.6	不明	-	主軸：北東-南西、石室が張り出し、天井一部崩れ	40cm4本、 30cm7本、 20cm以下多数	未実施(調査：関大・西大)	C	C	大谷山20号墳	大谷山20号墳	大谷山20号墳	大谷山20号墳	大谷山20号墳	関大報告書「珍の藤古墳」後、後田前田土地改良所、前方後円形民有地か	
14	大谷山21号墳	円墳	7	竪穴式石室	-/-	主軸：北東-南西、石室が張り出し、天井一部崩れ	20cm5本、 10cm6本	未実施/未実施	-	-	大谷山21号墳	大谷山21号墳	大谷山21号墳	大谷山21号墳	大谷山21号墳	主軸部が墳丘西部方のためも?1基存在する可能性あり	
15	大谷山22号墳	前方後円墳	68	竪穴式石室	4.1/2.5	竪穴式、石室1、水鏡道に排水溝	50cmまでの広範囲多数	昭和39年(関西大学)平成26年度(追加指定に伴う発掘調査)/未実施	C	C	大谷山22号墳	大谷山22号墳	大谷山22号墳	大谷山22号墳	大谷山22号墳	関大報告書「ひょうたん塚」初期墳部大規模入全長約80m	
	大谷山26号墳	前方後円墳	-	不明	-	消滅	消滅	未実施/-	-	-	大谷山26号墳	大谷山26号墳	大谷山26号墳	大谷山26号墳	大谷山26号墳	消滅	

No.	古墳 No. ¹	墳形形態		埋葬施設		現況			整備事業等			整備優先ランク付け			旧古墳番号 ^(※)				備考
		墳形	外形	埋葬施設	内寸 ^(※) (長さ/幅)	埋葬施設等・ 残存状況	墳丘・盗掘坑	支障木 直径・本数等	樹木 伐採	発掘調査/ 発掘工事	照明、説明板 等設置	修整 対象古墳 ランク	樹木伐採 対象古墳 ランク	古墳 ^(※) カード	大谷山27号墳	H18 通跡地図	H20 特別地図	H21 整備報告書	
	大谷山27号墳	前方後円墳	22	横穴式石室	21/204	埋葬施設等・ 残存状況	墳丘・盗掘坑	消滅	左片袖南向、上半部 欠損	消滅	昭和48年(昭和 49年)の発掘 調査のため発掘 調査	-	-	大谷山27号墳	大谷山27号墳	大谷山27号墳	大谷山27号墳	大谷山27号墳	消滅
	大谷山28号墳	前方後円墳	27	横穴式石室	29/214	両袖式、上半部欠損、 在り切石、玄室版石閉 塞	消滅	消滅	両袖式、上半部欠損、 在り切石、玄室版石閉 塞	消滅	昭和48年(昭和 49年)の発掘 調査のため発掘 調査	-	-	大谷山28号墳	大谷山28号墳	大谷山28号墳	大谷山28号墳	大谷山28号墳	消滅
	大谷山35号墳	円墳	11	箱式石室	0.83/0.25~ 0.27	葦石、底石あり	墳丘北側1/3程度 道路により削平 欠損	消滅	墳丘北側1/3程度 道路により削平 欠損	消滅	未実施/-	-	-	大谷山35号墳	大谷山35号墳	大谷山35号墳	大谷山35号墳	大谷山35号墳	民有地
	大谷山36号墳	円墳	12.5	-	-	-	墳丘周囲1/3程度 道路により削平 欠損	消滅	墳丘周囲1/3程度 道路により削平 欠損	消滅	未実施/-	-	-	大谷山36号墳	大谷山36号墳	大谷山36号墳	大谷山36号墳	大谷山36号墳	民有地
	大谷山37号墳	円墳	9	-	-	-	墳丘上部削平 円形の輪郭残る	消滅	墳丘上部削平 円形の輪郭残る	消滅	未実施/-	-	-	大谷山37号墳	大谷山37号墳	大谷山37号墳	大谷山37号墳	大谷山37号墳	民有地
16	大谷山38号墳	円墳	10	横穴式石室	2.25/0.95	両袖式、南に開口、 小形長方形石室、上 半部欠損、東面に片 岩版石敷設	石室露出	50cm2本、20 ~50cm 多数	両袖式、南に開口、 小形長方形石室、上 半部欠損、東面に片 岩版石敷設	消滅	平成6年度(追加 指定に伴う確認調 査)未実施	A	B	大谷山38号墳	大谷山38号墳	大谷山38号墳	大谷山38号墳	大谷山38号墳	猪の廻り返し(一部石 積み崩れ)
	大谷山39号墳	円墳	20以上	粘土葺 箱式石室	7.8/2 1.9/0.24	細竹形木葺 葦石あり	消滅	消滅	細竹形木葺 葦石あり	消滅	昭和47年度(緊急 発掘調査)未実施	-	-	大谷山39号墳	大谷山39号墳	大谷山39号墳	大谷山39号墳	大谷山39号墳	消滅
1	大日山1号墳	前方後円墳	31.5	-	-	-	盗掘坑3ヶ所 インシットに掘り返 される	20cm5本、雑 木多数	H18墳丘削風/未 実施	消滅	H18墳丘削風/未 実施	A	D	大日山1号墳	大日山1号墳	大日山1号墳	大日山1号墳	大日山1号墳	猪坂寄あり、瀬穴式石 室か?
2	大日山2号墳	円墳	16	横穴式石室	2.85/1.9	両袖式、石室1	中央に2×5mの 盗掘坑、石室露出	50cm1本、 30cm2本、 20cm5本	未実施/未実施	B	D	D	大日山2号墳	大日山2号墳	大日山2号墳	大日山2号墳	大日山2号墳	一部猪坂寄 両大報告書に石室法量 あり	
3	大日山3号墳	円墳	8	横穴式石室	2.0以上 /1.6	-	盗掘坑なし インシット掘り返し 網子ネットはがれ る	20cm4本、 10cm2本	H18石室簡易実測 /H19埋戻し	-	D	D	大日山3号墳	大日山3号墳	大日山3号墳	大日山3号墳	大日山3号墳	4号墳と接する、後線 より南斜面側、整備報 告書1で3号墳に収め る 両大報告書に石室法量 あり	
4	大日山4号墳	円墳	8	横穴式石室	2.5/1.6	両側壁崩落、後線壁 存在、石室内外に石材 散乱	盗掘坑なし 網子ネットはがれ る	30cm1本	H18石室簡易実測 /H19埋戻し	-	C	C	大日山4号墳	大日山4号墳	大日山4号墳	大日山4号墳	大日山4号墳	3・5号墳と接する、後線 より南斜面側、整備報 告書1で4号墳に改め る	
5	大日山5号墳	円墳	10	横穴式石室	1.1以上 /1.0以上	東側の側石以外石欠 失	盗掘坑なし	なし	H18石室簡易実測 /H19埋戻し	-	-	-	大日山5号墳	大日山5号墳	大日山5号墳	大日山5号墳	大日山5号墳	4号墳と接する、後線 より南斜面側、整備報 告書1で5号墳に改め る	
6	大日山6号墳	円墳	7.5	竪穴式石室	2.3/0.9	天井部欠失	小墳丘 インシットに掘り返 される	なし	H18石室簡易実測 /H19埋戻し	-	-	-	大日山6号墳	大日山6号墳	大日山6号墳	大日山6号墳	大日山6号墳	4号墳と接する、後線 より南斜面側、整備報 告書1で6号墳に改め る	
7	大日山7号墳	円墳	17	横穴式石室	2.9/2	床面から1.2mの高 さに石砌土敷、墳頂 に朝石・玉石散乱	中央に2×3mの 盗掘坑あり、石室 露出	30cm7本、 20cm4本	未実施/未実施	B	C	C	大日山7号墳	大日山7号墳	大日山7号墳	大日山7号墳	大日山7号墳	尾根線以上 両大報告書で石室法量 あり	
8	大日山8号墳	円墳	15	横穴式石室	2/0.85	天井部あり、石室空 存か、高さ1.1m 残 存	2.5×4mの盗掘 坑、一部天井石? 露出、現任は確認 できない	30cm3本、 20cm1本、 10cm4本	未実施/未実施	C	C	C	大日山8号墳	大日山8号墳	大日山8号墳	大日山8号墳	大日山8号墳	両大報告書に石室法量 あり 遺出の可能性、尾根 線以上	
9	大日山10号墳	円墳	7	-	-	-	墳頂に玉石	20cm4本	未実施/未実施	-	D	D	大日山10号墳	大日山10号墳	大日山10号墳	大日山10号墳	大日山10号墳	墳丘上に圓路	
10	大日山11号墳	円墳	5	-	-	-	盗掘坑なし	なし	未実施/未実施	-	-	-	大日山11号墳	なし	なし	なし	なし	なし	古墳状の高まり
11	大日山12号墳	円墳	7	小形竪穴式 石室	1.7/1.7	石積み上部崩れ・天 井石欠失	西側掘削跡により 一部削平、盗掘 坑埋戻し済み	併様済み	H22石室簡易実測 /H22埋戻し	-	-	-	大日山12号墳	大日山12号墳	大日山12号墳	大日山12号墳	大日山12号墳	大日山12号墳	両大報告では竪穴式石 室

No.	古墳 No.	墳丘形態		埋葬施設		現況	整備事業等		整備優先ランク付け		土墳(Ⅱ)カテゴリー	旧古墳番号(Ⅱ)					備考		
		古墳外形	墳長	埋葬施設	内守(幅) (長さ/幅)		埋葬施設残存状況	墳丘・盗掘坑	支障木 直径・本数等	樹木 伐採		発掘調査/ 修理工事	照明、説明板 等設置	修景 対象古墳 ランク	樹木伐採 対象古墳 ランク	大報告書		HIS 遺跡地図	H20 特別図録
12	大日山14号墳	円墳	8	小形櫛六式石室	2/13	石材一部あり(天井石欠失) T字形石室か?	南側一部に削られ、盗掘坑埋め戻し済み	20cm4本	H22石室簡易発掘/H22埋戻し	-	D	大日山14号墳	大日山14号墳	大日山14号墳	大日山14号墳	大日山14号墳	大日山14号墳	大日山14号墳	石室もう1基ある可能性 14・15号墳間道路で6世紀中葉の須恵器、杯、高杯群集
13	大日山15号墳	円墳	5	竪穴式石室か	17/-	石室上部確認(一部天井石あり)	盗掘坑埋め戻し済み	伐株済み	H24石室簡易発掘/H24埋戻し	-	-	大日山15号墳	大日山15号墳	大日山15号墳	大日山15号墳	大日山15号墳	大日山15号墳	大日山15号墳	小形の石室か(小形のT字形櫛六式石室の可能性)
14	大日山17号墳	円墳	10	櫛六式石室	21~22/21~22	東側一部削られ、盗掘坑埋め戻し済み	東側一部削られ、盗掘坑埋め戻し済み	30cm2本、20cm1本	H22石室簡易発掘/H22埋戻し	-	C	大日山17号墳	大日山17号墳	大日山17号墳	大日山17号墳	大日山17号墳	大日山17号墳	大日山17号墳	石室も確認
15	大日山18号墳	円墳	20	櫛六式石室	22/18	築造部補修済み、天井コンクリート補修	墳丘大幅に削り	広葉樹多数	未実施/未実施	E	C	大日山18号墳	大日山18号墳	大日山18号墳	大日山18号墳	大日山18号墳	大日山18号墳	大日山18号墳	金龍神社隣接地 岡大報告書に玄室法量あり
16	大日山19号墳	円墳	12	-	-	中央に浅い盗掘坑	中央に浅い盗掘坑	50cm2本、30cm1本、20cm1本	未実施/未実施	E	B	大日山19号墳	大日山19号墳	大日山19号墳	大日山19号墳	大日山19号墳	大日山19号墳	大日山19号墳	板石散乱
17	大日山20号墳	円墳	19	櫛六式石室	23?/17	両袖式か(天井石なし)、石室上部崩れあり	東側に岩盤掘り込む大きな穴	80cm2本、30cm1本、20cm1本、10cm20本	未実施/未実施	A	B	大日山20号墳(25号墳?)	大日山20号墳	大日山20号墳	大日山20号墳	大日山20号墳	大日山20号墳	大日山20号墳	民有地、遺出付?
18	大日山22号墳	円墳	9	-	-	中央に浅い盗掘坑(穴)	中央に浅い盗掘坑(穴)	30cm2本、20cm2本、10cm3本	未実施/未実施	E	C	大日山22号墳	大日山22号墳	大日山22号墳	大日山22号墳	大日山22号墳	大日山22号墳	大日山22号墳	民有地
19	大日山23号墳	円墳	8.5	-	-	盗掘坑なし	盗掘坑なし	10cm8本	未実施/未実施	-	D	大日山23号墳	大日山23号墳	大日山23号墳	大日山23号墳	大日山23号墳	大日山23号墳	大日山23号墳	畑造成か20号墳盗掘排土の可能性
20	大日山24号墳	円墳	11.5	-	-	中央に2x4mの盗掘坑	中央に2x4mの盗掘坑	40cm1本、20cm6本	未実施/未実施	C	C	大日山24号墳	大日山24号墳	大日山24号墳	大日山24号墳	大日山24号墳	大日山24号墳	大日山24号墳	蟻塚の穴、土地改良 大きい(排土の可能性)
21	大日山25号墳	円墳	13	櫛六式石室	3.17/2.97	中央に2x4mの盗掘坑	中央に2x4mの盗掘坑	40cm1本、20cm4本	未実施/未実施	C	C	大日山25号墳	大日山25号墳	大日山25号墳	大日山25号墳	大日山25号墳	大日山25号墳	大日山25号墳	半分民有地、中央に竪穴の穴
22	大日山32号墳	円墳	11.5	-	-	3x4mの浅い土坑	3x4mの浅い土坑	20cm 多数	未実施/未実施	E	D	大日山32号墳	大日山32号墳	大日山32号墳	大日山32号墳	大日山32号墳	大日山32号墳	大日山32号墳	民有地
23	大日山33号墳	円墳	15	-	-	盗掘坑なし	盗掘坑なし	なし	未実施/未実施	-	-	大日山33号墳	大日山33号墳	大日山33号墳	大日山33号墳	大日山33号墳	大日山33号墳	大日山33号墳	民有地、確認調査済み
24	大日山35号墳	前方後円墳	86	櫛六式石室	4.38/2.42	石片・土器、石室2枚、水石片1、黄銅部途中欠損高さ2.85、排水溝あり	盗掘坑なし	なし	H15 H16 H19 平成15~17年度 /平成15~平成26年度	-	○	大日山35号墳	大日山35号墳	大日山35号墳	大日山35号墳	大日山35号墳	大日山35号墳	大日山35号墳	全長約105m
25	大日山36号墳	円墳	13.5	-	-	石室確認できない	中央に1.5x3m盗掘坑	竹多数	未実施/未実施	E	D	大日山36号墳	大日山36号墳	大日山36号墳	大日山36号墳	大日山36号墳	大日山36号墳	大日山36号墳	民有地
26	大日山37号墳	円墳	17	櫛六式石室	2/16	現在、石室確認できない、玉石、片石散乱	中央に深い盗掘坑	40cm2本、30cm2本、墓坑に竹多数	未実施/未実施	C	A	大日山37号墳	大日山37号墳	大日山37号墳	大日山37号墳	大日山37号墳	大日山37号墳	大日山37号墳	民有地
27	大日山38号墳	円墳	16	櫛六式石室	-/18	-	幅1x4mの浅い凹み	竹多数	未実施/未実施	E	-	大日山38号墳	大日山38号墳	大日山38号墳	大日山38号墳	大日山38号墳	大日山38号墳	大日山38号墳	民有地
28	大日山39号墳	円墳	14	櫛六式石室	-/-	-	浅い凹み3ヶ所	50cm1本、30cm2本、竹多数	未実施/未実施	E	B	大日山39号墳	大日山39号墳	大日山39号墳	大日山39号墳	大日山39号墳	大日山39号墳	大日山39号墳	民有地
29	大日山40号墳	円墳	14.5	-	-	中央わずかに凹み	中央わずかに凹み	30cm3本、20cm3本、竹・広葉樹多数	未実施/未実施	E	C	大日山40号墳	大日山40号墳	大日山40号墳	大日山40号墳	大日山40号墳	大日山40号墳	大日山40号墳	民有地
30	大日山42号墳	円墳	21	櫛六式石室か	-/12	天井石露出、内部に空洞あり、現在石材見えない	中央に2x3mの盗掘坑	広葉樹多数	未実施/未実施	C	C	大日山42号墳	大日山42号墳	大日山42号墳	大日山42号墳	大日山42号墳	大日山42号墳	大日山42号墳	民有地、遺出付の可能性(排土かも)、周辺に蟻塚
31	大日山43号墳	円墳	15	櫛六式石室	22/19	上部石材欠失 右側南側向 土切石 排水溝	中央に3x4mの浅い凹み	30cm3本、20cm2本	1906年確認調査/未実施	E	C	大日山43号墳	大日山43号墳	大日山43号墳	大日山43号墳	大日山43号墳	大日山43号墳	大日山43号墳	民有地、H8圃木、尾根先端
32	大日山44号墳	円墳	13	-	-	盗掘坑なし	盗掘坑なし	広葉樹多数	未実施/未実施	-	C	大日山44号墳	大日山44号墳	大日山44号墳	大日山44号墳	大日山44号墳	大日山44号墳	大日山44号墳	民有地、野塚掘土の可能性

No.	古墳 No. ¹	墳形形態		埋葬施設		現 況			整備事業等			旧古墳番号 ²⁶⁾					備 考
		古墳外形	墳長	埋葬施設 内寸 ²⁶⁾ (長さ/幅)	埋葬施設等・ 残存状況	墳丘・盗掘坑	支障木 直径・本数等	樹木 伐採	発掘調査/ 修景工事	照明、説明板 等設置	修整 対象古墳 ランク	古墳 ²⁶⁾ カード 番号	H18 遺跡地図	H20 特別図録	H21 整備報告書	H27 整備報告書	
	大日山45号墳	円墳	14	-	埋葬施設等・ 残存状況	墳丘・盗掘坑	広葉樹多数	未実施/未実施		E	C	大日山45号墳	大日山45号墳	大日山45号墳	大日山45号墳	民有地	
	大日山47号墳	円墳	18	-	-	中央に残り盗掘坑	竹、広葉樹多数	未実施/未実施		E	B	大日山47号墳	大日山47号墳	大日山47号墳	大日山47号墳	民有地、墳丘一部削り 取られ西側に崖(石切 場?)	
	大日山48号墳	円墳	17	-	-	中央に残り盗掘坑	50cm1本、 30cm多数、竹	未実施/未実施		E	B	大日山48号墳	大日山48号墳	大日山48号墳	大日山48号墳	民有地	
	大日山50号墳	円墳	22	24/1.5	両袖式、石室1、石 室1、竪穴式石室な り・築造部あり	南側墳丘崩壊及び中 央に盗掘坑	20~30cm多 数	未実施/未実施		C	B	大日山50号墳	大日山50号墳	大日山50号墳	大日山50号墳	民有地	
	大日山51号墳	円墳	14	-	-	中央に残り盗掘坑	40cm1本、 30cm2本、 20cm5本	未実施/未実施		E	C	大日山51号墳	大日山51号墳	大日山51号墳	大日山51号墳	民有地	
	大日山52号墳	円墳	14	-	現在石室確認できな い、	中央に深い盗掘 坑、前部に崖(土 取か?)	30cm1本、 20cm4本	未実施/未実施		D	C	大日山52号墳	大日山52号墳	大日山52号墳	大日山52号墳	民有地、尾根先端	
	大日山58号墳	円墳	18	1.9/0.8	石室上部欠損、羨道 長1m	墳丘に凹み	広葉樹多数	1996年確認調査 /未実施		E	C	大日山58号墳	大日山58号墳	大日山58号墳	大日山58号墳	民有地	
	大日山59号墳	円墳	9	1.9/1.7	天井石なし	低墳丘	30cm5本	未実施/未実施		B	A	大日山59号墳	大日山60号墳	大日山60号墳	大日山60号墳	民有地	
	大日山60号墳	円墳	10	-	-	幅1~2m、深さ 1mの溝状凹み	広葉樹多数	未実施/未実施		C	C	大日山59号墳 か60号墳	大日山59号墳	大日山59号墳	大日山59号墳	民有地、古墳でなく、竪 溝跡・竪溝跡	
	大日山61号墳	円墳	8	-	-	中央に残り凹み	広葉樹多数	未実施/未実施		E	C	大日山61号墳	大日山61号墳	大日山61号墳	大日山61号墳	民有地	
21	大日山65号墳	円墳	8.5	-	-	中央に残り凹み	30cm1本、 10cm2本	未実施/未実施		E	C	大日山65号墳	大日山65号墳	大日山65号墳	大日山65号墳		
22	大日山66号墳	円墳	7.5	1.9/0.45	天井石なし	低墳丘、80× 200cmの長方形 坑	10cm3本	未実施/未実施		-	D	大日山66号墳 か68号墳(8)	大日山66号墳	大日山66号墳	大日山66号墳		
23	大日山67号墳	円墳	19	2.65/1.7	石室露出(側壁) 石室内に10cmの 木有り	石室露出(側壁) 石室内に10cmの 木有り	雑木多数	未実施/未実施		A	C	大日山67号墳	大日山67号墳			一部借地	
24	大日山68号墳 (旧前山 E201号墳)	円墳	7	-/-	両袖式、側壁南面の み上部まで残り、天 井石欠失	なし	40cm1本	H21石室崩壊 /H21盗掘処理 戻し・修景		-	C	なしか 前山大日山 68?	前山B.201号 墳		前山E201号墳	民有地、古墳でなく、 大きい盗掘坑(埋戻し 前)	
	大日山70号墳	円墳	14	1.9/1.3	左片袖式 柳水溝	墳丘削平 中央に2×4mの 盗掘坑	30cm2本、 20cm2本、竹3 本	1996年確認調査 /未実施		E	A	大日山70号墳 (旧X10号墳)	大日山70号墳	大日山70号墳	大日山70号墳	民有地	
	大日山71号墳	円墳	14	2.2/0.85	石室の一部露出	低墳丘	なし	1996年確認調査 /未実施		A	-	大日山71号墳 (旧X11号墳)	大日山71号墳	大日山71号墳	大日山71号墳	民有地	
	大日山72号墳	円墳	15	1.7/1.7	ほぼ正方形 石室露出、側壁のみ	中央部に盗掘坑	広葉樹多数、 石室みから崩 木、危険	未実施/未実施		A	A	大日山28号墳 ?	大日山X1号墳			民有地	
	大日山73号墳	円墳	18×14	-/1.4	上半部欠失 石室露出、側壁のみ	中央部に盗掘坑	50cm1本、 20cm多数	未実施/未実施		A	B	大日山28号墳 ?	大日山X2号墳			民有地	
	大日山74号墳	円墳	5	1.8/0.45	天井石なし	低墳丘、中央に土 坑	竹2本	未実施/未実施		E	-		大日山X3号墳			民有地	
25	大日山75号墳	円墳	9	-	-	墳丘に玉石 崩壊状の穴・カ 所、土地改良の盛 上の可能性	60cm1本、 30cm1本、 20cm1本、 10cm8本、周 圍に竹	未実施/未実施		D	B	大日山20号墳 ?	大日山X5号墳				西半分民有地
26	大日山76号墳	円墳	-	-	-	盗掘坑なし 墳丘南側削り られる	50cm1本、 30cm1本、 20cm9本	未実施/未実施		-	B	大日山69号墳	大日山X6号墳				半分民有地
27	大日山77号墳	円墳	-	-	-	盗掘坑なし	なし	平成11年度確認 調査/未実施		-	-	大日山X7号墳					

No.	古墳 No.	墳丘形態		埋葬施設		現況		整備事業等		整備優先ランク付け		旧古墳番号 ^(注6)					備考			
		古墳外形	墳長	埋葬施設	内寸 ^(注4) (長さ/幅)	埋葬施設詳細・残存状況	墳丘・盗掘坑	支障木 直径・本数等	樹木伐採 H16 H18 H19	発掘調査/修理工事	照明・説明板 等設置	修景 対象古墳 ランク	樹木伐採 対象古墳 ランク	土墳 ^(注5) カード	関大報告書	H18 遺跡地図		H20 特別図録	H21 整備報告書	H27 整備報告書
28	大日山78号墳	円墳	7	-	-	一部石材散乱	墳丘、盗掘坑	20cm2本、 10cm1本	未実施/未実施	なし	E	D	大日山X8号墳							
29	大日山79号墳	円墳	7.5	竪穴式石室	1.4/0.4	天井石一部残存	小墳丘	20cm4本、 10cm1本	未実施/未実施	-	D	大日山X9号墳								
30	大日山80号墳 (旧前山B200号墳)	円墳	9	横穴式石室	2.2/1.6~ 1.9	左片袖南向、石積み 残る(若干崩れ)、 天井石欠失 南東に開口	なし	40cm2本	H22石室簡易発 掘/H22埋戻し・ 修景	-	C	前山大日山68号 号墳						前山B200号墳		
31	大日山81号墳 (旧前山BX9号墳)	円墳	6.5×6	横穴式石室	-/-	南東に開口か	なし	なし	H21石室簡易発 掘/H21埋戻し・ 修景	-	-	前山BX9号墳						前山BX9号墳		
32	大日山82号墳 (旧前山BX10号墳)	円墳	7.5×6	横穴式石室	2.0/1.5	御堂南壁上部残る、 大半上部崩れる、 天井石欠失 南又は西に開口	なし	30cm1本	H22石室簡易発 掘/H22埋戻し・ 修景	-	D	前山BX10号 号墳						前山BX10号 号墳		
1	前山A1号墳	円墳	11	横穴式石室?	-	-	中央に盗掘坑	30cm1本、 20cm1本	未実施/未実施	D	C	前山A1号墳							墳丘上に新しい溝	
2	前山A2号墳	円墳	10	横穴式石室	1.02~ 1.03/0.88~ 1.92	T字形、天井石なし	盗掘坑なし 掘削から盗掘 の跡	なし	H16 発掘調査/ H16.17 修景公開	-	-	○	前山A2号墳						前山A2号墳	
3	前山A3号墳	円墳	9.8	竪穴式石室 2基?	-/-	-	中央少し凹み(盗 掘坑か)	50cm1本、 20cm3本、 10cm3本	未実施/未実施	E	D	前山A3号墳							A5号墳周溝と接する	
4	前山A4号墳	円墳	12	横穴式石室	1.6/1.65	女室の天井石なし、 南南西に開口	盗掘坑なし	なし	H17 墳丘削平・石 室簡易発掘・ H17埋戻し	-	-	前山A4号墳							墳丘方形に近い 墳丘裾部あり	
5	前山A5号墳	円墳	9	-	-	-	中央に盗掘坑(石 材見えず)	40cm1本、 10cm7本	未実施/未実施	D	D	前山A5号墳							A3号墳周溝と接する	
6	前山A6号墳	円墳	5.5	竪穴式石室?	-/-	-	低墳丘(墳丘ほど たどなし)	なし	未実施/未実施	-	-	前山A6号墳							裾部あり	
7	前山A7号墳	円墳	9.5	竪穴式石室	1.9/0.55	天井石なし、主軸は 南北	盗掘坑なし	20cm2本	未実施/未実施	E	C	前山A7号墳							前山A7号墳	
8	前山A8号墳	円墳	13	竪穴式石室 (北) 箱式石室 (南)	3.42/0.75 2/0.4	2基並列 主軸は北西-南東	一部石材落下、2 基とも露出	40cm1本、 30cm1本、 10cm5本	未実施/未実施	A	C	前山A8号墳							前山A8号墳	一部民有地
9	前山A9号墳	円墳?	5	竪穴式石室	1.54/0.45~ 0.56	天井石なし、小口に 板石を立てる。	盗掘坑なし	なし	T7-10、H19発 掘調査/H19埋 戻し	-	-	○	前山A129号墳						前山A9号墳	第1期調査第9号墳
	前山A10号墳	方墳か	北辺10、 南辺22、 南北16	横穴式石室	2.8/2.0	正方形、両袖式、天 井石なし、石室南部 崩れる、主軸は南北 方向	石室露出、片岩、 玉石散乱	20cm多数	H22 説明板	B	D	前山A10号墳							前山A10号墳	民有地
10	前山A11号墳	円墳	10.8	竪穴式石室 (南西) 竪穴式石室 (北東?)	1.65/0.33 -	主軸は北西-南東	東西は一部石材露 出、現在は確認し き、い、ほとん ど埋まる	30cm2本、 20cm3本、 10cm6本	未実施/未実施	C	C	前山A11号墳							前山A11号墳	中央にもう1つ盗掘坑? 周囲に跡あり
11	前山A12号墳	円墳	8.5	-	-	-	中央若干凹む(石 材なし)	10cm7本、 30cm3本、 30cm2本、 30cm1本、 30cm多い	未実施/未実施	E	D	前山A12号墳							前山A12号墳	裾部あり
12	前山A13号墳	円墳	18	横穴式石室	2.67/2.07	天井石まで残る。 石室1、垂直石梁2 主軸に沿って排水溝 設置	盗掘坑なし	なし	T10、S55、 H18.20測量・発 掘調査/H22修 景	-	-	○	前山A13号墳						前山A13号墳	第1期調査第13号墳 石室公開古墳
13	前山A14号墳	円墳	12.5	-	-	-	浅い盗掘坑2ヶ所 あり	40cm1本、 30cm3本、 30cm多い	未実施/未実施	E	C	前山A14号墳							前山A14号墳	一部民有地、裾部、 周囲に跡あり

No.	古墳No. ¹	墳形形態		埋葬施設		現況			整備事業等			整備優先ランク付け				旧古墳番号 ²⁾				備考	
		墳形	外形	埋葬施設	内寸 ³⁾ (長さ/幅)	埋葬施設特徴・残存状況	墳丘・盗掘坑	支障木 直径・本数等	樹木伐採	発掘調査/修景工事	照明、説明板等設置	修景 対象古墳 ランク ⁴⁾	樹木伐採 対象古墳 ランク ⁵⁾	古墳 ⁶⁾ カード	大報告書	H18 通防地図	H20 特別図録	H21 整備報告書	H27 整備報告書		
14	前山A15号墳	円墳	円墳	-	-	-	10cm3本	未実施/未実施	未実施/未実施		E	D		前山A15号墳	前山A15号墳	前山A16号墳	前山A16号墳	前山A16号墳	前山A16号墳	民有地	
15	前山A16号墳	円墳	円墳	25/16	北西に開口、天井部欠失	盗掘坑なし	20cm1本、10cm1本	H19石室実測/H19埋戻し	H19石室実測/H19埋戻し		-	D		前山A21号墳 か	前山A16号墳	前山A16号墳	前山A16号墳	前山A16号墳	前山A16号墳	A18号墳と垣溝接続する	
16	前山A17号墳	方墳	方墳	13×15	西側に板石で区画した副室あり	盗掘坑なし	70cm1本	M40、T7～10、H19石室実測/H19埋戻し、H25修景	H20説明板/H25複製石棺		-	B	○	前山A17号墳	前山A17号墳	前山A17号墳	前山A17号墳	前山A17号墳	前山A17号墳	第1期調査第17号墳	
17	前山A18号墳	方墳	方墳	125×135	主軸：西北西-東北東、盗掘により半分程度欠失	盗掘坑なし	20cm3本、10cm1本	H19石室実測/H19埋戻し			-	D		前山A16号墳 か	前山A18号墳	前山A18号墳	前山A18号墳	前山A18号墳	前山A18号墳		
18	前山A20号墳	方墳	方墳	8	石室4壁残る(4壁程度欠失)	石室露出、西壁半欠	20cm4本、10cm1本	未実施/未実施			B	D		前山A20号墳	前山A20号墳	前山A20号墳	前山A20号墳	前山A20号墳	前山A20号墳		
19	前山A21号墳	円墳	円墳	11	一部石材あり	盗掘坑なし	なし	未実施/未実施			-	-		前山A21号墳 か	前山A21号墳						
20	前山A22号墳	円墳	円墳	10	天井石欠失	石室露出	30cm1本、20cm2本、10cm2本	未実施/未実施		C	C		前山A18号墳 か	前山A22号墳	前山A22号墳					北側に盛り出しか？	
21	前山A23号墳	円墳	円墳	14.4	天井石残る。石室1、石室1主軸に沿って排水溝設置	盗掘坑なし	40cm3本	T7～10調査/S54測量/未実施	H20説明板		-	C	○	前山A23号墳	前山A23号墳	前山A23号墳	前山A23号墳	前山A23号墳	前山A23号墳	第1期調査第23号墳 石室公開古墳	
22	前山A24号墳	円墳	円墳	14.3	石室1主軸に沿って排水溝設置	盗掘坑なし	40cm4本	T7～10調査/S54測量/未実施	H20説明板		-	C	○	前山A24号墳	前山A24号墳	前山A24号墳	前山A24号墳	前山A24号墳	前山A24号墳	第1期調査第24号墳 石室公開古墳	
23	前山A25号墳	円墳	円墳	12.5	両袖式 天井部欠失	盗掘坑なし	30cm3本、20cm4本、10cm2本、雑木多数	H18石室簡易実測/H19埋戻し			-	C		前山A25号墳	前山A25号墳	前山A25号墳	前山A25号墳	前山A25号墳	前山A25号墳	AS1号墳と接する	
24	前山A26号墳	円墳	円墳	6	彫穴式石室？	低墳丘、中央に盗掘坑	20cm1本	未実施/未実施			E	D		前山A30号墳 か	前山A26号墳					墳頂に石材散乱	
25	前山A27号墳	方墳	方墳	8.5×8.8	-	浅い凹み2箇所	40cm2本	未実施/未実施			E	C		前山A27号墳	前山A27号墳						
26	前山A29号墳	方墳	方墳	13.5	-	盗掘坑なし	なし	未実施/未実施			-	-		前山A33号墳	前山AX10号墳	前山A29号墳	前山A29号墳	前山A29号墳	前山A29号墳	関大A29号墳の可能性も、整備報告1でA29号墳	
27	前山A30号墳	円墳	円墳	5.7	-	低墳丘、浅い盗掘坑あり	50cm1本	未実施/未実施			E	B		前山A30号墳 か	前山A30号墳						
28	前山A31号墳	円墳	円墳	8.5	主軸：北西-南東 天井石欠失	低墳丘、古墳上に凹路	なし	T7～10調査、H18石室簡易実測/H18埋戻し			-	-		前山A106号墳	前山A106号墳						第1期調査では第31号墳、関大調査からA106号墳としていたため、整備報告書1で訂正
29	前山A32号墳	円墳	円墳	14.7	女室に仕切り石、扉床は板石敷、それ以外は雑敷	盗掘坑なし	なし	T7～10調査/S54測量/未実施	H20説明板		-	-	○	前山A32号墳	前山A32号墳	前山A32号墳	前山A32号墳	前山A32号墳	前山A32号墳	説明板設置 第1期調査第32号墳	
30	前山A33号墳	方墳	方墳	8.3	石材一部露出 天井石欠失	大きな盗掘坑	なし	未実施/未実施			B	-		前山A33号墳	前山A33号墳	前山A33号墳	前山A33号墳	前山A33号墳	前山A33号墳		
31	前山A34号墳	方墳	方墳	-	-	盗掘坑なし	20cm2本	未実施/未実施			-	D		前山A34号墳	前山A34号墳					凹形に盛り上げられない(古墳でない?)	
32	前山A35号墳	円墳	円墳	5	-	低墳丘、浅い凹み	30cm2本	未実施/未実施			E	C		前山A35号墳 か	前山A35号墳					A34号墳の盛り出しの可能性	
33	前山A36号墳	円墳	円墳	6.5	両端の天井石残存	低墳丘	なし	未実施/未実施			C	-		前山A36号墳 か	前山A36号墳	前山A36号墳	前山A36号墳	前山A36号墳	前山A36号墳	第1期調査A94号墳の可能性	
34	前山A41号墳	円墳	円墳	9	-	低墳丘、中央に凹み	なし	未実施/未実施			E	-		前山A28号墳	前山A41号墳						
35	前山A43号墳	円墳	円墳	8.5	側壁崩れかけ	盗掘坑あり	なし	未実施/未実施			B	-		前山A43号墳 か	前山A43号墳						
36	前山A46号墳	円墳	円墳	27	天井石残る、石室1、石室4	盗掘坑あり	30cm1本、20cm10本	T7～10調査/S54測量/未実施	H19説明板 H21照明		E	C	○	前山A46号墳	前山A46号墳	前山A46号墳	前山A46号墳	前山A46号墳	前山A46号墳	第1期調査第46号墳 北西に突出した地形	

No.	古墳 No.	墳丘形態		埋葬施設		現況		整備事業等			整備優先ランク付け			旧古墳番号 ^(注6)					備考	
		古墳外形	墳長	埋葬施設	内寸(内径) (長さ/幅)	埋葬施設詳細・残存状況	墳丘・盗掘坑	支障本 直径・本数等	樹木 伐採	発掘調査/ 発掘工事	照明・説明板 等設置	修復 対象古墳 ランク	樹木伐採 対象古墳 ランク	土葬 ^(注5) カード	大報告書	HIS 遺跡地図	H20 特別図録	H21 整備報告書		H27 整備報告書
37	前山A 47 号墳	円墳	12	竪穴式石室	218/032	板石敷の上に玉石を敷く	墳丘・盗掘坑	20cm2本	H27	T7～10調査、S54測量/未実施	H20説明板	-	D	前山A 47 号墳	前山A 47 号墳	前山A 47 号墳	前山A 47 号墳	前山A 47 号墳	前山A 47 号墳	第1期調査後47号墳 土砂が石室へ流れ込む
38	前山A 48 号墳	方墳か	7.5	竪穴式石室	216/135	天井石欠失	石室露出	なし	未実施/未実施	未実施/未実施	-	C	-	前山A 48 号墳	前山A 48 号墳	前山A 48 号墳	前山A 48 号墳	前山A 48 号墳	前山A 48 号墳	
39	前山A 49 号墳	円墳	9.5	竪穴式石室	-	-	中央に方形の穴	なし	未実施/未実施	未実施/未実施	-	D	-	前山A 49 号墳	前山A 49 号墳	前山A 49 号墳	前山A 49 号墳	前山A 49 号墳	前山A 49 号墳	
40	前山A 51 号墳	円墳	10	-	-	-	盗掘坑なし	なし	未実施/HIS 盗掘坑埋戻し	未実施/HIS 盗掘坑埋戻し	-	-	-	前山A 51 号墳	前山A 51 号墳	前山A 51 号墳	前山A 51 号墳	前山A 51 号墳	前山A 51 号墳	
41	前山A 52 号墳	方墳か	11.3 × 10	-	-	-	盗掘坑なし	20cm2本	未実施/HIS 盗掘坑埋戻し	未実施/HIS 盗掘坑埋戻し	-	D	-	前山A 52 号墳	前山A 52 号墳	前山A 52 号墳	前山A 52 号墳	前山A 52 号墳	前山A 52 号墳	墳丘南側は園路で削られるか
42	前山A 53 号墳	円墳	9.3	竪穴式石室	-	-	盗掘坑なし	なし	未実施/HIS 盗掘坑埋戻し	未実施/HIS 盗掘坑埋戻し	-	-	-	前山A 53 号墳	前山A 53 号墳	前山A 53 号墳	前山A 53 号墳	前山A 53 号墳	前山A 53 号墳	墳丘に樹木あり
43	前山A 54 号墳	円墳	12	-	-	-	盗掘坑なし	20cm3本	未実施/HIS 盗掘坑埋戻し	未実施/HIS 盗掘坑埋戻し	-	D	-	前山A 54 号墳	前山A 54 号墳	前山A 54 号墳	前山A 54 号墳	前山A 54 号墳	前山A 54 号墳	1期調査の第54号墳アとは対応しない可 能性がある。カ 第1期調査54号墳は X33号墳に近接、北側に遺出状張り出し あり
44	前山A 55 号墳	円墳	8.6	-	-	石積み見えず	中央に盗掘坑あり	30cm1本、 20cm2本	未実施/未実施	未実施/未実施	-	E	D	前山A 55 号墳	前山A 55 号墳	前山A 55 号墳	前山A 55 号墳	前山A 55 号墳	前山A 55 号墳	大半は覆われる
45	前山A 56 号墳	円墳	12.5	竪穴式石室	1.85/1.75	東に開口 女室床面は雑敷	盗掘坑なし	40cm1本	T7～10調査、 S55測量/石室公開	H20説明板	-	C	○	前山A 56 号墳	前山A 56 号墳	前山A 56 号墳	前山A 56 号墳	前山A 56 号墳	前山A 56 号墳	A57号墳と接する 第1期調査第56号墳
46	前山A 57 号墳	円墳	9.5	竪穴式石室	- /0.9	主軸は北西-南東 床面は雑敷	盗掘坑なし	雑木多い	T7～10調査、 H18盗掘坑埋戻し	-	-	-	A	前山A 57 号墳	前山A 57 号墳	前山A 57 号墳	前山A 57 号墳	前山A 57 号墳	前山A 57 号墳	A177号墳と親み合わせ 遺出状となる可 能性あり 第1期調査第57号墳
47	前山A 58 号墳	前方後円墳	19.6	竪穴式石室	2.5/1.9	右片袖傾向、仕切り石あり、玄門板石閉塞	盗掘坑なし	なし	H2122 発掘調査 / H28～30 修景	H30説明板	-	-	-	前山A 58 号墳	前山A 58 号墳	前山A 58 号墳	前山A 58 号墳	前山A 58 号墳	前山A 58 号墳	
48	前山A 64 号墳	円墳	8.5	-	-	-	盗掘坑なし	なし	未実施/HIS 盗掘坑埋戻し	未実施/HIS 盗掘坑埋戻し	-	-	-	前山A 64 号墳	前山A 64 号墳	前山A 64 号墳	前山A 64 号墳	前山A 64 号墳	前山A 64 号墳	A65-A67号墳と接する、 整備報告書1でA64号 墳
49	前山A 65 号墳	円墳	17	竪穴式石室 (北)	3.47/0.94	主軸は東西 床面板石敷	盗掘坑なし	なし	T7～10調査、 S55測量/石室公開	H22説明板	-	-	○	前山A 65 号墳	前山A 65 号墳	前山A 65 号墳	前山A 65 号墳	前山A 65 号墳	前山A 65 号墳	説明板設置、北側遺出 状にのり 第1期調査第65号墳
50	前山A 67 号墳	円墳	27	竪穴式石室	3.8/2.3	馬袖式、石欄1、石 築込に沿ってコの字 状の仕切り石で死床 を設置	盗掘坑なし	なし	T7～10、S55、 H17H18調査、測 量/H18修景、 修景/修景設置	H18保存公開 施設 H18照明 H19説明板	-	-	○	前山A 67 号墳	前山A 67 号墳	前山A 67 号墳	前山A 67 号墳	前山A 67 号墳	前山A 67 号墳	墳丘西側園路に削られ る 石室外から公開、第1 期調査第67号墳
51	前山A 68 号墳	?	-	-	-	-	消滅?	消滅?	未実施/未実施	未実施/未実施	-	-	-	前山A 124 号 墳	前山A 68 号墳	前山A 68 号墳	前山A 124 号 墳	前山A 68 号墳	前山A 68 号墳	古墳確認できず (A124 とも)、谷丹家裏、被覆 された石室?
52	前山A 69 号墳	円墳	9.3	-	-	-	中央に残り盗掘坑 あり	なし	未実施/未実施	未実施/未実施	-	D	-	前山A 69 号墳	前山A 69 号墳	前山A 69 号墳	前山A 69 号墳	前山A 69 号墳	前山A 69 号墳	
53	前山A 72 号墳	円墳	7.5	-	-	-	低埋丘、中央に小 さくやや深い盗掘 坑	40cm3本、 20cm1本	未実施/未実施	未実施/未実施	-	D	C	前山A 72 号墳	前山A 72 号墳	前山A 72 号墳	前山A 72 号墳	前山A 72 号墳	前山A 72 号墳	
54	前山A 73 号墳	円墳	6	-	-	-	低埋丘、中央に浅 い凹み	20cm1本、 雑木少量	未実施/未実施	未実施/未実施	-	E	D	前山A 73 号墳	前山A 73 号墳	前山A 73 号墳	前山A 73 号墳	前山A 73 号墳	前山A 73 号墳	
55	前山A 75 号墳	方墳	3.5 × 5	竪穴式石室	1.65/0.4	板石6枚	低埋丘、石積露出	30cm1本	T7～10調査、 S55測量 /未実施	-	A	-	○	前山A 75 号墳	前山A 75 号墳	前山A 75 号墳	前山A 75 号墳	前山A 75 号墳	前山A 75 号墳	A16-A76号墳と接する。 第1期調査第75号墳
56	前山A 76 号墳	方墳か	6	竪穴式石室	1.75/0.42	板石6枚、天井石欠 失、 石積一部崩れかける	低埋丘、石積露出	20cm1本	T7～10調査 /要石積修復	-	B	D	-	前山A 76 号墳	前山A 76 号墳	前山A 76 号墳	前山A 76 号墳	前山A 76 号墳	前山A 76 号墳	A75号墳と接する

No.	古墳 No. ¹	墳形形態		埋葬施設		現況		整備事業等		整備優先ランク付け		旧古墳番号 ²⁾					備考
		古墳外形	墳長	埋葬施設	内寸 ³⁾ (長さ/幅)	埋葬施設特徴・残存状況	墳丘・盗掘坑	支障木 直径・本数等	樹木伐採	発掘調査/修築工事	説明、説明板等設置	修復対象古墳ランク ⁴⁾	樹木伐採対象古墳ランク ⁵⁾	H18 遺跡地図	H20 特別地図録	H21 整備報告書	
57	前山A77号墳	方墳	4×6	竪穴式石室	1.75/1.0~1.2	埋施設特徴・残存状況 玄門化甌石あり 天井石欠失	墳丘なし	3cm1本 2cm1本	H27	H19 石室発掘/埋戻し	-	C	前山A77号墳	前山A77号墳	前山A77号墳	前山A77号墳	A78号墳の可能性も、整備報告書1でA77号墳とする
58	前山A78号墳	円墳	5.6	竪穴式石室	2.22/0.66	-	低墳丘、盗掘坑なし	20cm1本	T7~10調査/未実施	-	D	D	前山A78号墳	前山A78号墳	前山A78号墳	前山A78号墳	A20号墳と推定する 第1期調査第78号墳
59	前山A79号墳	円墳	2.5	-	-	-	低墳丘、中央に浅い盗掘坑	20cm1本	未実施/未実施	E	D	D	前山A79号墳	前山A79号墳	前山A79号墳	前山A79号墳	墳丘北側大きく削られる
60	前山A80号墳	円墳	7	-	-	-	低墳丘、中央にやや深い盗掘坑	30cm2本、 10cm2本	未実施/未実施	D	C	C	前山A80号墳	前山A80号墳	前山A80号墳	前山A80号墳	第1期調査第81号墳?
61	前山A81号墳	円墳	5	竪穴式石室	0.93/0.27	床面板石敷	低墳丘、中央部浅く凹む	20cm2本	T7~10調査/未実施	E	-	-	前山A81号墳	前山A81号墳	前山A81号墳	前山A81号墳	第1期調査第81号墳?
62	前山A85号墳	円墳	10	-	-	-	中央に盗掘坑	灌木多い	未実施/未実施	D	-	-	前山A85号墳	前山A85号墳	前山A85号墳	前山A85号墳	方墳の可能性もあり A88号墳と推定する
63	前山A86号墳	円墳	14.5	竪穴式石室	1.85/1.9	南南東に開口 天井石欠失	盗掘坑なし	なし	H17 墳丘調査・石室発掘実施/埋戻し	-	-	-	前山A86号墳	前山A86号墳	前山A86号墳	前山A86号墳	A65号墳とはば推定する、 第1期調査第64号墳か
64	前山A87号墳	円墳	10	竪穴式石室	2.52/1.79	天井部欠失	墳頂浅く凹状に凹む	なし	未実施/未実施	E	-	-	前山A87号墳	前山A87号墳	前山A87号墳	前山A87号墳	A93号墳と推定する、 整備報告書1のA92号墳とする
65	前山A88号墳	円墳	4.6	竪穴式石室	2/1	天井部欠失	低墳丘	3cm1本、 2cm1本	未実施/未実施	-	C	C	前山A88号墳	前山A88号墳	前山A88号墳	前山A88号墳	A93号墳と推定する、 整備報告書1のA92号墳とする
66	前山A92号墳	円墳	9	竪穴式石室	2.1/1.6	東に開口 天井部欠失	盗掘坑なし	20cm1本、 10cm1本	H18 石室発掘実施/埋戻し	-	D	D	前山A92号墳	前山A92号墳	前山A92号墳	前山A92号墳	A92号墳と推定する、 造り出しの可能性
67	前山A93号墳	円墳	17.5	-	-	-	盗掘坑なし	10cm10本	未実施/H18 盗掘坑埋戻し	-	D	D	前山A93号墳	前山A93号墳	前山A93号墳	前山A93号墳	A92号墳と推定する、 造り出しの可能性
68	前山A95号墳	円墳	14.5	-	-	-	盗掘坑なし	20cm1本、 10cm2本	未実施/H18 盗掘坑埋戻し	-	D	D	前山A95号墳	前山A95号墳	前山A95号墳	前山A95号墳	A47号墳と推定する
69	前山A96号墳	円墳	17	竪穴式石室	1.9/1.8	天井部欠失 西に開口	盗掘坑なし	40cm1本、 20cm3本	H18 石室発掘実施/埋戻し	-	C	C	前山A96号墳	前山A96号墳	前山A96号墳	前山A96号墳	園路で墳丘削られる
70	前山A99号墳	円墳	12	竪穴式石室	1.56/1.83	西向き、天井部欠失 北に開口	盗掘坑なし	70cm1本	未実施/石室公開	-	B	B	前山A99号墳	前山A99号墳	前山A99号墳	前山A99号墳	第1期調査第99号墳
71	前山A100号墳	方墳	9	竪穴式石室	1.88/0.4	天井石欠失、 長辺向側に甌石を立てる。 床面は板石敷	盗掘坑なし (石室公開)	なし	未実施/未実施	-	-	-	前山A100号墳	前山A100号墳	前山A100号墳	前山A100号墳	竪穴石室に泥たまる 第1期調査第100号墳
72	前山A101号墳	方墳	7.2	竪穴式石室 (北)	2.09/0.39	床面にある一枚の板石上に玉石	石室露出	なし	未実施/未実施	C	-	-	前山A101号墳	前山A101号墳	前山A101号墳	前山A101号墳	第1期調査第101号墳
73	前山A102号墳	円墳	13.5	竪穴式石室 (南)	1.81/0.48	床面の板石上に玉石、 東側天井石残る	盗掘坑なし	30cm2本、 20cm1本	未実施/未実施	-	C	C	前山A102号墳	前山A102号墳	前山A102号墳	前山A102号墳	造り出し付墳の可能性? 世に覆われる
74	前山A103号墳	円墳	14.5	-	-	-	盗掘坑なし	10cm5本	未実施/H18 盗掘坑埋戻し	-	D	D	前山A103号墳	前山A103号墳	前山A103号墳	前山A103号墳	推定される、 多い
75	前山A104号墳	円墳	11.5	竪穴式石室	2.47/-	-	盗掘坑なし	なし	未実施/H18 盗掘坑埋戻し	-	-	-	前山A104号墳	前山A104号墳	前山A104号墳	前山A104号墳	墳丘上に甌石多数あり、 第1期調査
76	前山A107号墳	円墳	11.6	竪穴式石室	1.5/1.6	西向き、天井部欠失	低墳丘	50cm2本	H18 石室発掘実施/埋戻し	-	B	B	前山A107号墳	前山A107号墳	前山A107号墳	前山A107号墳	A109号墳の隣接と推定する
77	前山A108号墳	方墳	11×11	竪穴式石室	-/-	西小口下段は板石を立てる。 天井石欠失	中央に浅い凹み	30cm1本、 20cm1本	T7~10調査/未実施	E	C	C	前山A108号墳	前山A108号墳	前山A108号墳	前山A108号墳	第1期調査 第1期調査第108号墳
78	前山A109号墳	円墳	8.6	-	-	-	低墳丘	50cm1本	未実施/H18 盗掘坑埋戻し	-	B	B	前山A109号墳	前山A109号墳	前山A109号墳	前山A109号墳	墳丘上に甌石、 A837号墳と推定する
79	前山A111号墳	方墳	9.5×10	竪穴式石室	2.71/0.75	西小口下段は板石を立てる。 天井石欠失	盗掘坑なし (石室公開)	30cm4本	T7~10調査/未実施	E	C	C	前山A111号墳	前山A111号墳	前山A111号墳	前山A111号墳	第1期調査 第1期調査第111号墳
80	前山A114号墳	前方後円墳	31	竪穴式石室	-/1.1以上	南東に開口	盗掘坑なし	灌木あり	H18 石室発掘実施/埋戻し	-	D	D	前山A114号墳	前山A114号墳	前山A114号墳	前山A114号墳	A146号墳が前方後円墳 の前方部の可能性

No.	古墳No. ¹	墳丘形態		埋葬施設		現況		整備事業等		整備優先ランク付け		旧古墳番号 ^(注4)		備考						
		古墳外形	墳長	埋葬施設	内寸 ^(注5) (長さ/幅)	埋葬施設詳細・残存状況	墳丘・盗掘坑	支障木 直径・本数等	樹木伐採	発掘調査/修築工事	照明・説明板等設置	修整対象古墳ランク ^(注6)	樹木伐採対象古墳ランク ^(注6)	古墳 ^(注5) カード	大報告書	HIS 遺跡地図	H20 特別図録	H21 整備報告書	H27 整備報告書	
81	前山A115号墳	円墳	17.3	横穴式石室	- / -	埋葬施設詳細・残存状況 天井石と閉塞石(板石)	墳丘・盗掘坑 北側に大きな盗掘坑、中央に浅い坑	なし	未実施/未実施		C	-	前山A115号墳	前山A115号墳	前山A115号墳	前山A115号墳	前山A115号墳	前山A115号墳	前山A115号墳	前山A115号墳
82	前山A116号墳	前方後円墳	21	-	-	天井石と閉塞石(板石)	中央に小さな凹み	なし	未実施/未実施		E	-	前山A116号墳	前山A116号墳	前山A116号墳	前山A116号墳	前山A116号墳	前山A116号墳	前山A116号墳	前山A116号墳
83	前山A117号墳	円墳	5	-	-	-	低墳丘、盗掘坑なし	なし	未実施/HIS盗掘坑埋戻し		-	-	前山A117号墳	前山A117号墳	前山A117号墳	前山A117号墳	前山A117号墳	前山A117号墳	前山A117号墳	前山A117号墳
84	前山A119号墳	円墳	8.5	横穴式石室	1.3以上/1.2以上	北に開口 左片裾傾向	低墳丘、盗掘坑なし	なし	H18石室簡易発掘/H18埋戻し		-	-	前山A119号墳	前山A119号墳	前山A119号墳	前山A119号墳	前山A119号墳	前山A119号墳	前山A119号墳	前山A119号墳
85	前山A120号墳	円墳	7.5	横穴式石室	- / -	北東に開口	低墳丘、盗掘坑なし	なし	未実施/未実施		-	-	前山A120号墳	前山A120号墳	前山A120号墳	前山A120号墳	前山A120号墳	前山A120号墳	前山A120号墳	前山A120号墳
86	前山A121号墳	円墳	17.4	横穴式石室	2.1/1.8	西北西に開口 天井部欠失	盗掘坑なし	5cm1本、40cm5本	H18墳丘調査・石室簡易発掘/H18埋戻し		-	B	前山A121号墳	前山A121号墳	前山A121号墳	前山A121号墳	前山A121号墳	前山A121号墳	前山A121号墳	前山A121号墳
87	前山A122号墳	円墳	14.5	横穴式石室	1.6/1.8	西に開口 天井部欠失	埋戻し部イノシシに掘られ崩落	2cm2本、竹20本	H18墳丘調査・石室簡易発掘/H18埋戻し		E	D	前山A122号墳	前山A122号墳	前山A122号墳	前山A122号墳	前山A122号墳	前山A122号墳	前山A122号墳	前山A122号墳
88	前山A123号墳 (旧前山A92号墳)	円墳	13.4	横穴式石室	- / -	-	盗掘坑なし	3cm2本、10cm1本	未実施/H18埋戻し		-	C	前山A123号墳	前山A123号墳	前山A123号墳	前山A123号墳	前山A123号墳	前山A123号墳	前山A123号墳	前山A123号墳
89	前山A125号墳	円墳	12.6	横穴式石室	1.6/-	北東に開口 天井部欠失	盗掘坑なし	40cm3本	H18石室簡易発掘/H18埋戻し		-	C	前山A125号墳	前山A125号墳	前山A125号墳	前山A125号墳	前山A125号墳	前山A125号墳	前山A125号墳	前山A125号墳
90	前山A126号墳	円墳	11.8	横穴式石室	- / -	-	盗掘坑なし	なし	未実施/H18石室埋戻し		-	-	前山A126号墳	前山A126号墳	前山A126号墳	前山A126号墳	前山A126号墳	前山A126号墳	前山A126号墳	前山A126号墳
91	前山A127号墳	円墳	8	-	-	-	低墳丘	3cm2本、20cm2本	未実施/H18盗掘坑埋戻し		-	C	前山A127号墳	前山A127号墳	前山A127号墳	前山A127号墳	前山A127号墳	前山A127号墳	前山A127号墳	前山A127号墳
92	前山A130号墳	円墳	16	横穴式石室	2.3/1.7	北西に開口、石砌1層部式、天井部欠失 女門版石簡略、化産石	盗掘坑なし	40cm6本	H18墳丘調査・石室簡易発掘/H18埋戻し		-	C	前山A130号墳	前山A130号墳	前山A130号墳	前山A130号墳	前山A130号墳	前山A130号墳	前山A130号墳	前山A130号墳
93	前山A131号墳	円墳	18	-	-	-	盗掘坑なし	3cm2本、10cm16本	未実施/H18盗掘坑埋戻し		-	C	前山A131号墳	前山A131号墳	前山A131号墳	前山A131号墳	前山A131号墳	前山A131号墳	前山A131号墳	前山A131号墳
94	前山A134号墳	円墳	15.5	横穴式石室	2.4/1.85	南北式、南西に開口、天井石なし 女門閉塞(石あり)	中央に盗掘坑、石室露出	3cm6本、20cm5本、竹林	未実施/未実施		B	C	前山A134号墳	前山A134号墳	前山A134号墳	前山A134号墳	前山A134号墳	前山A134号墳	前山A134号墳	前山A134号墳
95	前山A135号墳	円墳	10.7	-	-	-	中央浅く凹む	5cm1本、20cm6本	未実施/未実施		E	B	前山A135号墳	前山A135号墳	前山A135号墳	前山A135号墳	前山A135号墳	前山A135号墳	前山A135号墳	前山A135号墳
96	前山A136号墳	円墳	8	-	-	-	-	-	未実施/未実施		-	-	前山A136号墳	前山A136号墳	前山A136号墳	前山A136号墳	前山A136号墳	前山A136号墳	前山A136号墳	前山A136号墳
97	前山A137号墳	円墳	12	-	-	-	-	-	未実施/未実施		-	-	前山A137号墳	前山A137号墳	前山A137号墳	前山A137号墳	前山A137号墳	前山A137号墳	前山A137号墳	前山A137号墳
98	前山A138号墳	円墳	-	-	-	-	-	-	未実施/未実施		-	-	前山A138号墳	前山A138号墳	前山A138号墳	前山A138号墳	前山A138号墳	前山A138号墳	前山A138号墳	前山A138号墳
99	前山A140号墳	方墳	11.4 × 12	竪穴式石室	- / -	主軸：北東-南西 天井石欠失	盗掘坑なし？ ネットはかれる	なし	未実施/H19盗掘坑埋戻し		-	-	前山A140号墳	前山A140号墳	前山A140号墳	前山A140号墳	前山A140号墳	前山A140号墳	前山A140号墳	前山A140号墳
97	前山A141号墳	円墳	10	竪穴式石室	1.98/0.42	主軸：北東-南西 天井石欠失	盗掘坑なし？ ネットはかれる	径多い	H18石室簡易発掘/H18埋戻し		-	-	前山A141号墳	前山A141号墳	前山A141号墳	前山A141号墳	前山A141号墳	前山A141号墳	前山A141号墳	前山A141号墳
98	前山A142号墳	円墳	12.6	横穴式石室	- / 2.0	南東に開口 天井部欠失	盗掘坑なし ネットはかれる	径多い	H18石室簡易発掘/H18埋戻し		-	-	前山A142号墳	前山A142号墳	前山A142号墳	前山A142号墳	前山A142号墳	前山A142号墳	前山A142号墳	前山A142号墳
99	前山A143号墳	円墳	6	-	-	-	低墳丘(墳丘ほとんどなし)	40cm1本、20cm2本	未実施/未実施		-	C	前山A143号墳	前山A143号墳	前山A143号墳	前山A143号墳	前山A143号墳	前山A143号墳	前山A143号墳	前山A143号墳

No.	古墳 No. ⁷	墳形形態		埋葬施設		現況		整備事業等		整備優先ランク付け		古墳(国)カテゴリー	旧古墳番号(国)				備考	
		墳長	古墳外形	埋葬施設	内寸(国)(長さ/幅)	埋葬施設等・残存状況	墳丘・盗掘坑・竪穴	支障木(直径・本数等)	樹木伐採	発掘調査/発掘工事	照明、説明板等設置		修繕対象古墳ランク(国)	樹木伐採対象古墳ランク(国)	関大報告書	H18 遺跡地図		H20 特別地図録
100	前山A144号墳	5.5	円墳	-	-	埋葬施設等・残存状況	墳丘・盗掘坑なし	30cm1本	未実施/未実施	-	C		前山AX2号墳					古墳でない可能性も
101	前山A145号墳	5×6.5	方墳か	-	-		低墳丘、盗掘坑なし	20cm2本	未実施/未実施	-	D		前山AX4号墳					第1期調査78号墳の可能性も
102	前山A146号墳	12.5	方墳?	-	-	板石2枚あり	中央に残り盗掘坑あり	50cm2本、20cm1本	未実施/未実施	E	B		前山AX5号墳	前山A114号墳	前山A114号墳の前方部			A14号墳と合わせて前方部墳となる可能性
103	前山A147号墳	4.5	円墳	-	-		低墳丘、中央に盗掘坑あり	20cm3本、雑木多数	未実施/未実施	E	D		前山AX6号墳					
104	前山A148号墳	6.3	円墳	-	-	板石散乱	低墳丘、中央部やや凹む	20cm7本	未実施/未実施	E	D		前山AX7号墳					A34号墳と接する
105	前山A149号墳	9.5×8	方墳か	-	-		中央に盗掘坑あり	なし	未実施/未実施	B	-		前山AX8号墳					
106	前山A150号墳	5.8	円墳	-	-		低墳丘	なし	未実施/未実施	-	-		前山AX9号墳					阿木のなみ盗掘坑不明
107	前山A151号墳	8.8	方墳か	-	-		低墳丘、盗掘坑なし	なし	未実施/未実施	-	-		前山AX11号墳					古墳でない可能性も
108	前山A152号墳	10	円墳	-	-		盗掘坑なし	なし	未実施/未実施	-	-		前山AX13号墳					墳丘上に園路通る
109	前山A153号墳	8.5×7.2	方墳か	箱式石槨	1.6/0.5	主軸はほぼ東西一部石材露出	盗掘坑、石室露出し	なし	未実施/未実施	D	-		前山AX15号墳					墳丘上に園路通る、石槨に水たまる
110	前山A154号墳	7	円墳	-	-		中央部に盗掘坑か	40cm1本、30cm1本	未実施/未実施	C	C		前山AX16号墳					
111	前山A155号墳	9	円墳	-	-	一部盗掘坑(石室か)	盗掘坑あり	20cm1本、10cm5本	未実施/未実施	E	D		前山AX17号墳					H18遺跡地図のAX17,18は内容不明
112	前山A156号墳	6	円墳か	-	-		低墳丘?	なし	未実施/未実施	-	-		前山AX19号墳					墳形わかりづらい(古墳でない可能性)
113	前山A157号墳	9	円墳	-	-		盗掘坑なし	60cm1本	未実施/未実施	-	B		前山AX20号墳					
114	前山A158号墳	8.5	円墳	-	-		中央部わずかに凹む	10cm4本	未実施/未実施	E	D		前山AX21号墳					
115	前山A159号墳	5	円墳	-	-		低墳丘、盗掘坑なし、基壇あり	なし	未実施/未実施	-	-		前山AX22号墳					
116	前山A160号墳	6	円墳	-	-		低墳丘、盗掘坑なし	30cm1本、10cm1本	未実施/未実施	-	C		前山AX23号墳					
117	前山A161号墳	6	円墳	-	-	中央付近に板石あり	低墳丘、中央に盗掘坑	30cm1本	未実施/未実施	E	C		前山AX24号墳					
118	前山A162号墳	5.8	円墳	-	-		低墳丘、中央に残り盗掘坑あり	50cm1本、40cm2本、30cm1本	未実施/未実施	E	B		前山AX25号墳					
119	前山A163号墳	5	円墳	-	-		低墳丘、中央やや凹む	30cm1本、20cm1本	未実施/未実施	E	C		前山AX70号墳					新規、前山A72号墳東側
120	前山A164号墳	5	円墳	-	-		低墳丘、中央やや凹む	20cm1本	未実施/未実施	E	D		前山AX66号墳					新規、前山A72号墳東側
121	前山A165号墳	4	円墳	-	-		低墳丘、中央やや凹む	なし	未実施/未実施	E	-		前山AX61号墳					新規、前山A72号墳南側
122	前山A166号墳	6	円墳	-	-	石材一部残る	低墳丘、方形の盗掘坑	30cm2本、10cm2本	未実施/未実施	E	C		前山A61号墳					新規、前山A72号墳南側
123	前山A167号墳	5	円墳	-	-		低墳丘、中央やや凹む	20cm1本、10cm2本	未実施/未実施	E	D		前山A59号墳					新規、前山A72号墳南側
124	前山A168号墳	5	円墳	-	-		低墳丘、中央やや凹む	20cm2本	未実施/未実施	E	D		前山A59号墳					新規、前山A161号墳西側

No.	古墳 No. ¹⁾	墳丘形態		埋葬施設		現況	整備事業等			整備優先ランク付け		旧古墳番号 ²⁾				備考					
		古墳外形	墳長	埋葬施設	内寸 ³⁾ (長さ/幅)		埋葬施設残存状況	墳丘・盗掘坑	支障木 直径・本数等	樹木 伐採	発掘調査/ 修築工事	照明、説明板 等設置	修景 対象古墳 ランク ⁴⁾	樹木伐採 対象古墳 ランク ⁵⁾	土葬 ⁶⁾ カード		関大報告書	H18 遺跡地図	H20 特別図録	H21 整備報告書	H27 整備報告書
125	前山A169号墳	円墳	5	-	-	埋土・盗掘坑あり	低墳丘、中央やや凹む	2cm1本	未実施/未実施	-	E	D	前山A62号墳							新規、前山A162号墳西側	
126	前山A170号墳	円墳	4	-	-	埋土・盗掘坑あり	低墳丘	40cm2本、30cm4本	未実施/未実施	-	E	C	前山A77号墳							新規、前山A162号墳西側	
127	前山A171号墳	円墳	5.8	-	-	埋土・盗掘坑あり	低墳丘?、盗掘坑なし	雑木少量	未実施/未実施	-	-	-	前山A80号墳								
128	前山A172号墳	円墳	7	-	-	埋土・盗掘坑あり	低墳丘、中央に浅い凹み	10cm4本	未実施/未実施	-	E	D	前山AX26号墳								
129	前山A173号墳	円墳	7	-	-	埋土・盗掘坑あり	低墳丘?、盗掘坑なし、基壇あり	30cm1本、20cm1本、10cm1本	未実施/未実施	-	-	C	前山AX27号墳								
130	前山A174号墳	円墳か	6	-	-	埋土・盗掘坑あり	低墳丘の可能性、浅い凹み	30cm1本、10cm2本	未実施/未実施	-	E	C	前山A85号墳か							新規、前山A172号墳北側	
131	前山A175号墳	円墳	13.5	-	-	埋土・盗掘坑あり	中央に浅い盗掘坑あり	なし	未実施/未実施	-	E	-	前山AX30号墳							A86・87号墳とはほぼ接する、方墳の可能性もあり	
132	前山A176号墳	円墳	10.5	-	-	盗掘坑なし	盗掘坑なし	30cm4本	未実施/未実施	-	-	C	前山AX31号墳								
133	前山A177号墳	円墳か	5	整穴式石蓋	07/048	埋土・盗掘坑あり	低墳丘、盗掘坑あり	雑木多い	未実施/未実施	-	E	-	前山AX32号墳							A57号墳の遺り出しの可能性、墳丘ほとんどなし	
134	前山A178号墳	円墳	9.5	-	-	埋土・盗掘坑あり	浅い盗掘坑、石材みえず	70cm1本	未実施/未実施	-	E	B	前山AX33号墳							第1期調査第54号墳の可能性	
135	前山A179号墳	円墳か	5	-	-	埋土・盗掘坑あり	低墳丘(墳丘ほとんどなし)	なし	未実施/未実施	-	-	-	前山AX35号墳							A93号墳の遺り出しの可能性あり	
136	前山A180号墳	円墳	7.5	-	-	盗掘坑なし	盗掘坑なし	なし	未実施/未実施	-	-	-	前山AX36号墳							A179号墳と接する、第1期調査第94号墳?	
137	前山A181号墳	円墳	6.7	-	-	埋土・盗掘坑あり	低墳丘、盗掘坑あり	50cm1本	未実施/未実施	-	E	B	前山A110号墳か							A109号墳と接する、墳丘上を道路	
138	前山A182号墳	円墳	5.6	-	-	埋土・盗掘坑あり	低墳丘	なし	未実施/未実施	-	-	-	前山A112号墳か								
139	前山A183号墳	円墳	5	-	-	盗掘坑なし	盗掘坑なし	なし	未実施/未実施	-	-	-	前山A113号墳か								
140	前山A184号墳	円墳	5.3	-	-	埋土・盗掘坑あり	浅い盗掘坑あり	20cm2本	未実施/未実施	-	E	D	前山A105号墳?							広い埋没斜面に準独立地	
141	前山A185号墳	円墳	10.5	-	-	埋土・盗掘坑あり	中央にやや深い凹みあり	10cm5本、雑木多い	未実施/未実施	-	C	D	前山AX42号墳								
142	前山A186号墳	円墳	7.5	-	-	埋土・盗掘坑あり	中央にやや深い凹みあり	40cm2本、10cm3本、雑木多い	未実施/未実施	-	C	C	前山AX43号墳								
143	前山A187号墳	円墳	9.6	-	-	埋土・盗掘坑あり	中央にやや深い凹みあり、水溜まる	40cm1本、10cm4本、雑木多い	未実施/未実施	-	C	C	前山AX44号墳								
144	前山A188号墳	円墳	8	-	-	埋土・盗掘坑あり	中央に浅い凹みあり	50cm1本、10cm1本、30cm1本、10cm1本、雑木多い	未実施/未実施	-	E	B	前山AX46号墳								
145	前山A189号墳	円墳	8	-	-	埋土・盗掘坑あり	中央に盗掘坑(石付みえず)、中央に浅い凹みあり、30cmの溝あり、墳丘表面は細粒で削られる。	30cm1本、20cm2本、10cm3本、雑木あり	未実施/未実施	-	C	A	前山A97号墳か								新規、前山A46号墳東側
146	前山A190号墳	円墳	12	-	-	埋土・盗掘坑あり	中央に大きな盗掘坑あり	50cm1本、40cm1本、10cm3本、雑木多い	未実施/未実施	-	C	B	前山A98号墳か								新規、前山A46号墳東側
147	前山A191号墳	円墳か	6	-	-	埋土・盗掘坑あり	低墳丘か、浅い凹み(盗掘坑か)	50cm1本	未実施/未実施	-	E	B	前山A132号墳か								新規、前山A131号墳東側

No.	古墳No. ⁷⁾	墳丘形態		埋葬施設		現況		整備事業等		旧古墳番号 ⁸⁾				備考			
		墳丘外形	墳長	埋葬施設 内寸 ⁹⁾ (長さ/幅)	埋葬施設特徴・ 残存状況	墳丘・盜掘坑	支障木 直径・本数等	樹木 伐採	発掘調査/ 修築工事	照明、説明板 等設置	修復 対象古墳 ランク ¹⁰⁾	樹木伐採 対象古墳 ランク ¹⁰⁾	H18 遺跡地図		H20 特別原因録	H21 整備報告書	H27 整備報告書
148	前山A152 冨塚 (旧前山 A136号墳)	円墳	6.5	-	-	低墳丘、盜掘坑状 あり、墳丘北側は 凹みあり	墳丘に盜掘坑多数 あり、墳丘北側は 畑の造成により一 部改変	3cm2本、 2cm2本	未実施/未実施		E	C	前山A136号墳 前山A136号墳 前山A136号墳				A135号墳北側、道造成 の可能性も、墳丘裾 前られる
1	天王塚古墳	前方後円墳	88	横六式石室	4.22/2.89	両袖式、南に開口、 石室1、石室8	西袖式、南に開口、 石室1、石室8	50cm3本、 30cm6本	S39年(関西大学) H27年度(追加) 指定に伴う発掘調 査)/実施予定	C	B	天王塚山古墳					

【注】

- この一覧表は、2019年3月末日現在の状況を示したものであるが、状況の変化に応じて日々更新していくものとする。
- 岩橋千塚古墳群のうち、特別史跡に指定された古墳を掲載している。なお、網掛け部は指定地外の古墳であるが、同じ地区内に分布することから便宜上掲載した。
- 現況で石室が確認できる場合でも、過去のデータで記録されている古墳については、その情報も盛り込んでいる。
- 埋葬施設の内寸は石室内寸を示す。なお、横穴式石室の場合は女室内寸を記載している。
- 古墳カードは、過去の調査等で内容が明らかでない古墳について、和歌山県教育委員会刊行の「特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画」に別途記載している。
- 「調査報告書」は「注」主要参考文献2。
- 「H18遺跡地図」は、「和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図（付録、史跡・名勝・天然記念物所在地）」和歌山県教育委員会2007.3。
- H20特別原因録」は、「平成20年度特別調査報告書」岩橋千塚」と和歌山県立紀伊風土記の丘2012。
- H21整備報告書」及び「H27整備報告書」は、下記主要参考文献13及び17に示された古墳番号である。
- 調査報告書の古墳番号は、掲載分布図との照合結果からの推定であり、確定的な対応関係ではない。
- 修復対象古墳ランクは
 - Aランク：石室が露出し、上面の石材上に墓土がない、墓面が大きく朽ち、或いは樹木の根が石材間に侵入しているなど崩壊の恐れが非常に高い古墳
 - Bランク：盜掘坑が深く石室の墓面が露出する部分が大さいが、墓面の厚みは小さく、石材上に幹径50cm以上の樹木がある古墳
 - Cランク：盜掘坑は浅いが、石材の露出が少なく、或いは露出していないが、墳丘上に幹径30cm以上の樹木がある古墳
 - Dランク：盜掘坑はあるが、保存上は崩壊の危険性はほとんどない。米園者の安全面で何らかの措置をとることが望ましい古墳
 - Eランク：盜掘坑はあるが、速く保存上、安全上問題のない古墳

9 樹木伐採対象古墳ランクは

- Aランク：石室に大きな影響を与えている樹木がある古墳
- Bランク：石室への直接的な影響はないが、墳丘上に幹径50cm以上の樹木がある古墳
- Cランク：石室への直接的な影響はないが、墳丘上に幹径30cm以上の樹木がある古墳
- Dランク：石室への直接的な影響はないが、墳丘上に幹径10cm以上の樹木がある古墳
- Eランク：墳丘上には幹径5cm未満の樹木しかない古墳
- ：樹木のない古墳

【主要参考文献】

- 1921 和歌山県「和歌山県史蹟調査報告書第一」
- 1967 関西大学文学部考古学研究室「岩橋千塚」 関西大学文学部考古学研究紀要 第2冊
- 1976 和歌山県立紀伊風土記の丘管理事務所「特別史跡・岩橋千塚古墳群 花田地区古墳群調査概報」
- 1976 和歌山県立紀伊風土記の丘管理事務所「紀伊風土記の丘年報」第3号
- 1981 和歌山県立紀伊風土記の丘管理事務所「紀伊風土記の丘年報」第8号
- 1987 和歌山県立紀伊風土記の丘管理事務所「紀伊風土記の丘年報」第14号
- 1994 和歌山県教育委員会「平成6年岩橋千塚古墳群（大谷山地区）確認調査概要」
- 2000.3 和歌山県教育委員会「岩橋千塚周辺古墳群 緊急確認調査報告書」
- 和歌山県教育委員会「平成11年度岩橋千塚古墳群（大谷山地区）確認調査概要 資料」
- 2003 大野樹夫「岩橋千塚とところどころ」
- 2004.3 和歌山県教育委員会「平成6年度 岩橋千塚古墳群（大谷山地区）の調査」和歌山県埋蔵文化財調査年報 -平成14年度-
- 2008 丹野拓「前山B117号墳の墳丘断面と遺物産出」紀伊風土記の丘年報 第35号 和歌山県立紀伊風土記の丘
- 2010.3 和歌山県教育委員会「特別史跡岩橋千塚古墳群 発掘調査・保存整備事業報告書1」
- 2010.3 和歌山県教育委員会「前山A135号墳発掘調査報告書-特別史跡岩橋千塚古墳群 発掘調査・保存整備事業報告書2」
- 2013 仲原知之「古墳紹介-大谷山XX7号墳-」紀伊風土記の丘研究紀要 創刊号 和歌山県立紀伊風土記の丘
- 2014 仲原知之「前山B36号墳の検討-ヒロチー-修復古墳の調査概要と出土遺物-」紀伊風土記の丘研究紀要 第2号 和歌山県立紀伊風土記の丘
- 2015.3 和歌山県教育委員会「特別史跡岩橋千塚古墳群 発掘調査・保存整備事業報告書3-大谷山4.5・6・29号墳 発掘調査報告書-」
- 2017.3 和歌山県教育委員会「岩橋千塚古墳群-大谷山4.5・6・29号墳 発掘調査報告書-」
- 2018.3 和歌山県教育委員会「岩橋千塚古墳群-大谷山27号墳・28号墳 発掘調査報告書-」

A3 折ページ

A3 折ページ

第9章 総括

第1節 岩橋千塚古墳群における小規模古墳の特色について

第1期及び第2期整備事業では、古墳修景工事に伴い複数の古墳の石室実測調査を実施した。対象古墳の多くは小型の円墳や方墳であり、過去に損壊を受けて天井石などが失われた石室の実測図面を作成することにより、断片的な情報ではあるが小規模古墳の石室形態や採集遺物からその帰属時期について推定できる事例が蓄積されつつある。本節ではこれらの成果のうち、第2期整備事業で対象とした前山B地区北西部周辺に分布する古墳の特色についての若干の考察を加えたい。

直径16.5mの小型円墳である前山B162号墳は、横穴式石室の玄室の一部が残存するのみであるが、2枚の板石より構成される石棚や、奥壁の大部分を小口積みする特徴からTK10型式期前後の築造とみられ、複数の円筒埴輪等の採集から墳丘上に埴輪が樹立する可能性が高い。当該古墳の立地する尾根上には、さらに前山B164・167・170・172・174号墳などの同規模の円墳が立地し、玄室が片袖傾向の強い両袖式の平面形態を呈するものを主体とする可能性があることから、これに比較的近い時期の築造とみられる。以上の古墳は墳丘上から円筒埴輪等が採集されておりその樹立が推測されるものが多く、さらに岩橋千塚古墳群で造墓活動が活発化する期間のうち、6世紀前半という比較的早い段階に築造された古墳を多く含むという特色がある。一方、前山B173号墳(旧BX16号墳)は玄室前道幅が広い平面形態を呈しこれらに後続する時期の構築である可能性があり、小支群内で一定期間の継続的な造墓活動があったことを示唆する。

これらの古墳は、TK10型式期に築造された大型前方後円墳である大日山35号墳が立地する大日山山頂より北西に大きく延びる尾根上に立地していることから、大日山地区における首長墓と各支群の小規模古墳の展開過程を把握する中で、両者の関係性を評価していく必要があるだろう。

一方、谷を隔てた東側に位置する尾根上に立地する古墳を確認すると、前山B150号墳が岩橋型横穴式石室のうちT字形石室と呼ばれる形態であり、墳丘には円筒埴輪の樹立が想定される。著しく左片袖傾向の強い平面形態を有し、玄室の石積みは小口積みを主体としつつも右袖部は平積みと小口積みを併用しており、6世紀前半のTK10型式期前後の築造とみられる。隣接する前山B153号墳及びさらに東側の尾根上に立地する同156号墳は、前壁の中央付近かやや左寄りに幅狭の玄室前道が接続する両袖式石室であり、詳細な時期比定は困難だが前山B150号墳と同時期か、これに後続する可能性がある。小型のT字型石室である前山B152号墳も6世紀中葉以降の築造とみられる。以上は直径約10～16mの円墳である。

以上より、検討対象とした古墳は6世紀前半に帰属するものが多く、かつ中葉以降に帰属する可能性のある古墳も含んでおり、前山B地区北西部周辺の尾根上に立地する小支群の特徴を示している可能性がある。また小型円墳に構築された岩橋型横穴式石室の特徴として、玄室規模が短辺0.9～1.7m、長辺1.6～2.2mの小型石室が多く、極めて小型の石室も一部に含むこと、平面形態はT字形石室を含め多様であること、6世紀前半代に帰属する古墳は墳丘上に円筒埴輪等が樹立するものが多い可能性が高いことが指摘できる。

今後は、岩橋千塚古墳群の小規模古墳を対象にした同様の石室実測調査の継続によって、発掘調査が未実施の個々の古墳においても石室構造や外表施設の有無、帰属時期などの基礎データがさらに蓄積され、小支群ごとの古墳の展開過程や、中・大型前方後円墳の消長との有機的な関係

性の把握につながる可以考虑。

第2節 第2期整備事業の成果と課題

和歌山県では、我が国有数の古墳群である特別史跡岩橋千塚古墳群の保存と活用をはかるべく、昭和43年に策定された『紀伊風土記の丘基本計画』に基づき、特別史跡岩橋千塚古墳群の初期整備を行い、昭和46年に県立紀伊風土記の丘を開園した。その後、本格的な整備は行われていなかったが、平成15年に『特別史跡岩橋千塚古墳群整備計画』（以下、「整備計画」という。）を定め、5期、約30年間に及ぶ整備事業を計画した。また、平成31年3月には、特別史跡を適切に保存・活用し、次世代へ確実に継承していくため『特別史跡岩橋千塚古墳群保存活用計画』（以下、「保存活用計画」という。）を策定し、特別史跡の保存・活用のために必要な整備及び管理の方針を定めたところである。

整備の全体計画は、保存活用計画で定義する特別史跡岩橋千塚古墳群の本質的価値を保存するための整備を計画的に進めるとともに、見学者に本質的価値の理解を促すための整備を行い、学校教育、生涯学習等の学習面における公開活用をはじめ、県民等の文化的活動及び憩いの場としての公開活用を行うことを基本方針としている。

第1期整備は平成15年度から平成26年度までの12年間で、首長墓である大日山35号墳をはじめとした古墳の活用整備や崩壊危険古墳の埋め戻し等の保存整備を中心に行った。特に大日山35号墳については、発掘調査で県内最大級の前方後円墳であることや独特な埴輪群像の存在などが明らかになり、これらの新たな価値を整備に反映することで、より多くの人々に岩橋千塚古墳群の魅力を伝えることができたと考えている。

ただし、第1期整備の終了時点で多くの課題も残されていた。崩壊危険古墳の埋め戻しや古墳に支障を与える樹木の伐採については対象古墳数が多く、第1期整備で完了した数量はわずかで、豪雨対策のため工事を行ってきた排水施設の設置についても整備半ばであった。また、大日山35号墳など首長層の前方後円墳の整備は完了したが、同時期の中間層が葬られた前方後円墳

第6表 第2期整備事業

	H27	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2
前山 A58 号墳	・整備実施設計	・石室埋め戻し ・須恵器 レプリカ作製	・墳丘整備工事	・園路等整備 ・説明板設置 ・埴輪設置		・説明板設置
前山 A13 号墳 大日山 35 号墳				・モニタリング	・モニタリング	・排水溝発掘調査 ・報告書作成
各地区	・古墳修景工事 前山 B153 号墳 前山 B162 号墳	・古墳修景工事 前山 B150 号墳 前山 B152 号墳			・古墳修景工事 前山 B156 号墳	・古墳修景工事 前山 B42 号墳
	・危険木伐採			・危険木伐採	・危険木伐採	
	・排水路工事	・排水路工事	・排水路工事			
天王塚古墳	・墳丘内容 確認調査		・発掘調査 ・石室測量	・追加発掘調査	・出土遺物等整理	・発掘調査報告書
		・連絡道路 実施設計		・連絡道路建設	・連絡道路建設	・連絡道路建設
					・整備基本計画	・整備基本設計
便益施設			・トイレ・休憩所 設計・撤去・設置			
整備報告書						・整備報告書

の整備事例はなく、特別史跡の価値づけがなされた墳形等の多様性が十分に示されていない状況にあった。これらを主要な課題とし、平成27年度から6年間（令和2年度まで）の期間で第2期整備事業を実施した。

一方、和歌山県教育委員会では、特別史跡周辺に分布する古墳の追加指定を目指した事業を実施しているところであるが、平成26年度から岩橋千塚古墳群最大の前方後円墳である天王塚古墳及び大谷山22号墳の一部の特別史跡追加指定作業が進められ、平成28年10月に追加指定、平成30・31年度に公有地化が完了した。天王塚古墳は6世紀中頃の前方後円墳であるが、前の首長墓とされる大日山35号墳とは立地、埴輪の有無、基壇の有無などの差異がある。この間に首長の位置づけや墳丘構造、葬送儀礼に大きな変化があったと考えられることから、両者を公開、比較し、岩橋千塚古墳群の価値の理解をより深めるため、活用のための整備対象とした。平成29年度に第2期整備計画を変更して天王塚古墳までの連絡道路建設工事及び発掘調査など天王塚古墳整備事業の一部を開始した。

第2期整備のうち保存のための整備は、崩壊危険古墳の埋め戻しを前山B地区や前山A地区などで計6基実施し、古墳に支障のある樹木を計24基の古墳について伐採した。また、平成21年度の豪雨に伴う土砂流出に対処するため実施していた排水溝の設置工事を平成30年度に完了した。排水溝の設置は概ね予定通り実施することができたが、崩壊危険古墳の埋め戻しについては、図面等記録の作成の充実化や予算の関係もあり、第1期よりも大幅に実施数量が減少した。保存活用計画で指定地内の全古墳について埋め戻し優先度を定め、優先順位の高いAランクの古墳から埋め戻しを行っているが、未だAランクの古墳が30基以上残されており、第3期整備ではより柔軟な対応により実施数量を増やしていく必要がある。支障木については、細い樹木でも石室に影響を与えるものが新たに確認されることがあるため、モニタリングを十分に行い、早期に発見・伐採を行っていく必要がある。その他、古墳の横穴式石室に雨水が滞水する前山A13号墳と大日山35号墳について、水位の変化等モニタリングを行い、排水溝の現状を確認するため発掘調査を実施した。整備事業は第3期整備で実施予定である。

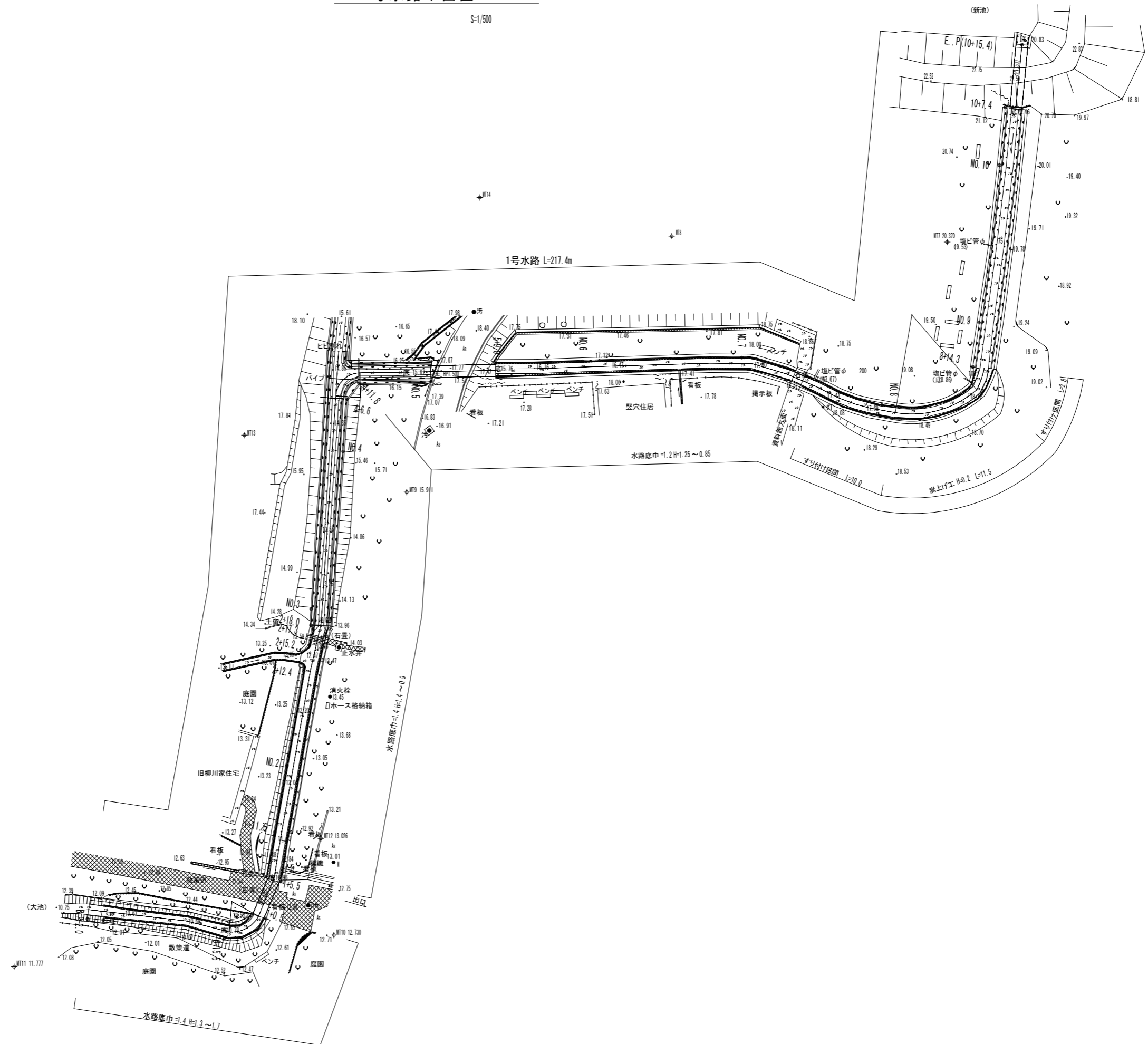
また、指定地外を含む岩橋千塚古墳群全体の航空レーザー測量を実施することにより古墳分布の状況や遺存状況を把握し、追加指定など保護を図るために必要となる基礎資料を収集した。

活用のための整備は、前山A58号墳の整備を中心に行った。発掘調査において小型の前方後円墳であることが新たに判明し、前方部に馬形埴輪や人物埴輪、石見型埴輪が据えられるなど、首長層とは異なる墳丘祭祀の様相が認められたことから、岩橋千塚古墳群の多様性を示す上で有効と考え整備を行った。詳細は本文に譲るが、埴輪レプリカは第1期整備の大日山35号墳と同様、市民参加により制作、設置した。今回はこれに加え埴輪工人や巫女に扮した市民が埴輪レプリカの運搬、古墳での葬送儀礼の再現を行うなど、市民と一体となった整備を新たに試み、完成後だけでなく整備そのものを一体で作り上げる手法によって岩橋千塚古墳群の価値を共有できるとともに、その魅力の情報発信において予想以上に有効性が高いことが確認できた。

今後は、優先順位の高い天王塚古墳の本格整備、大日山35号墳の墳丘整備といった活用のための整備と不具合箇所の再整備及び崩壊危険古墳の埋め戻し等保存のための整備に加え、県立考古民俗博物館（仮称）の整備を適切なバランスで行うとともに、各古墳の現状を把握するためモニタリングを定期的に行い、保存はいうまでもなく、安全に活用できる環境を整えていく必要がある。

1号水路平面図

S=1/500

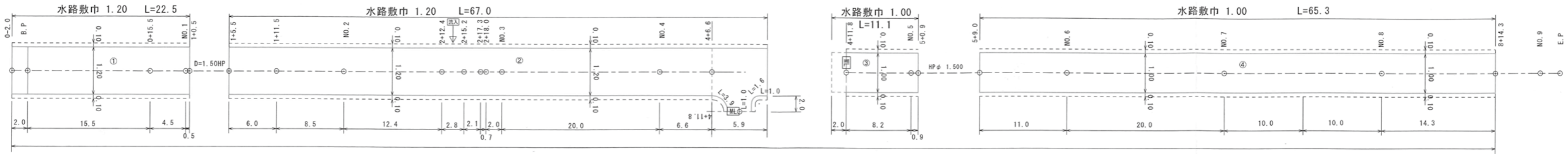


第38図 1号排水路 平面図 (S=1/500)

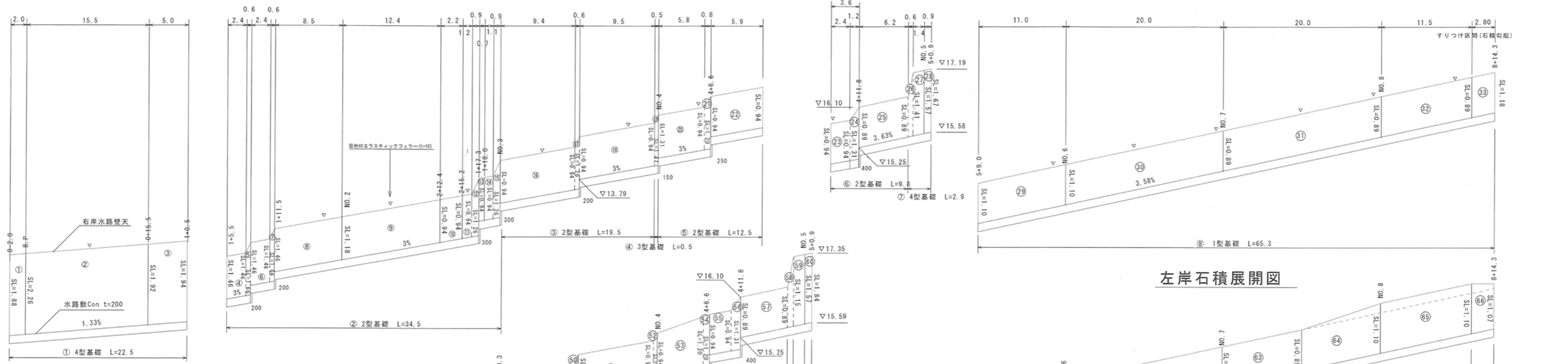
1号水路 石積・水路敷展開図

H=1 : 250
V=1 : 50

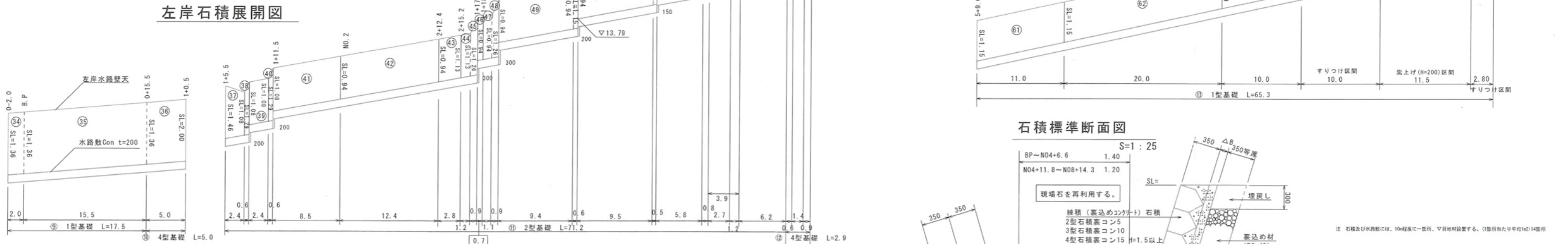
水路敷平面図



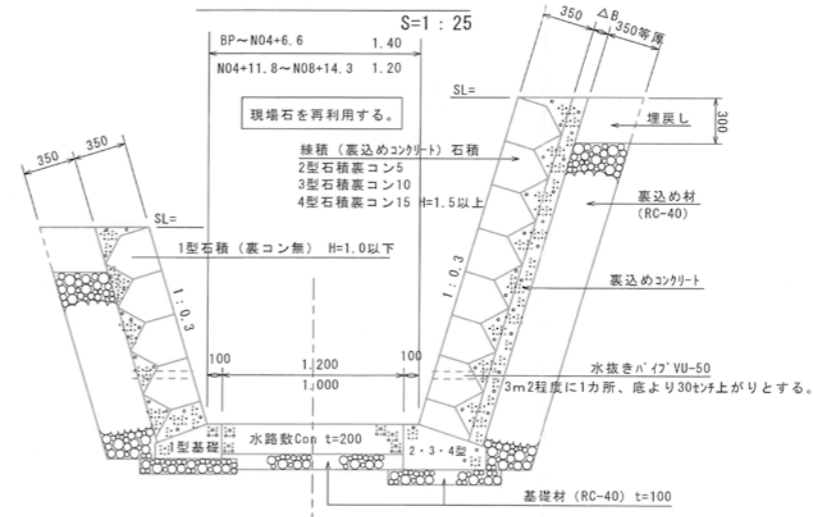
右岸石積展開図



左岸石積展開図



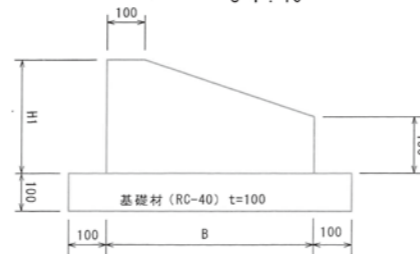
石積標準断面図



注 石積及び水路敷には、10m程度に一部所、▽目地材設置する。(1箇所当たり平均140)14箇所

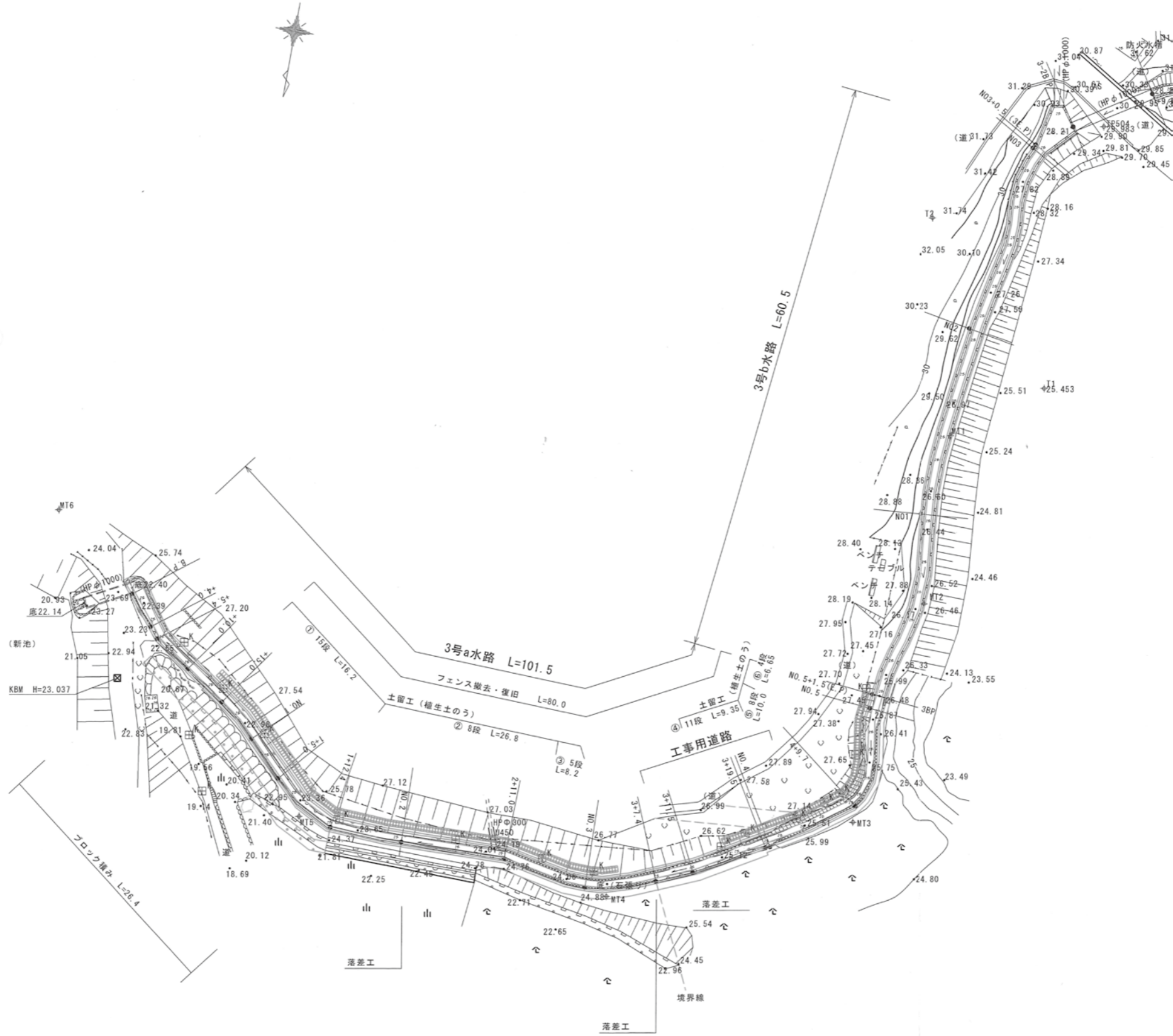
基礎詳細図

S=1 : 10



型別基礎コンクリート寸法表

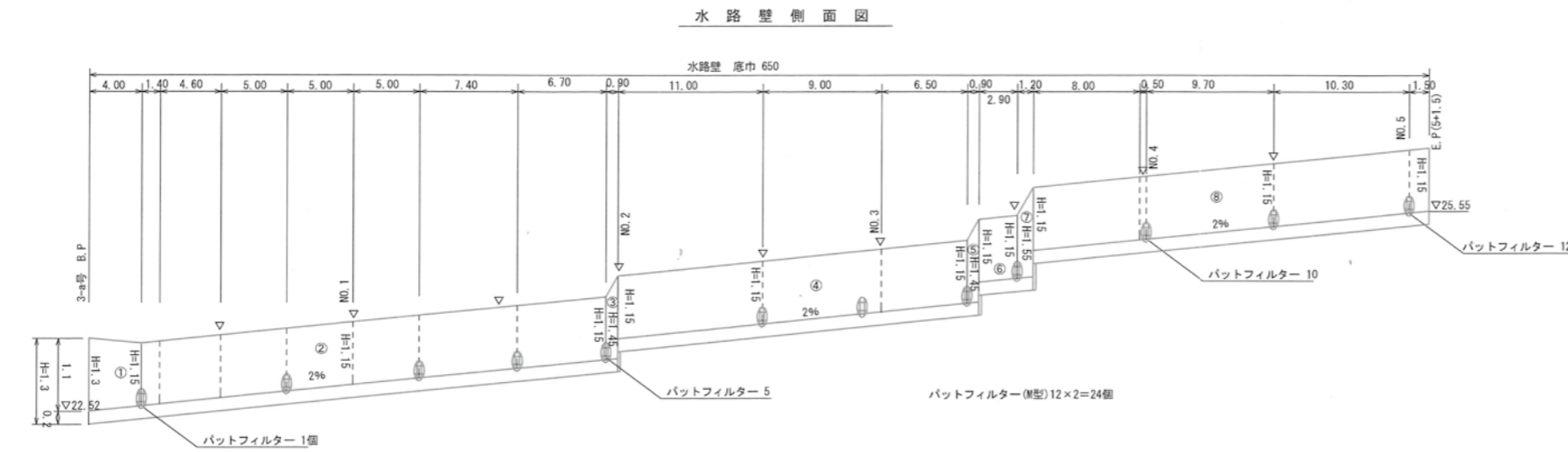
型	H1	△B	B	W	Con	F	
1	H=1.0以下	0.25	0.0	0.45	0.65	0.10	0.4
2	H=1.3以下	0.25	0.05	0.50	0.70	0.11	0.4
3	H=1.5以下	0.25	0.10	0.55	0.75	0.12	0.4
4	H=1.7以上	0.30	0.10	0.55	0.75	0.13	0.45



第40図 3号a排水路 平面図 (S=1/500)

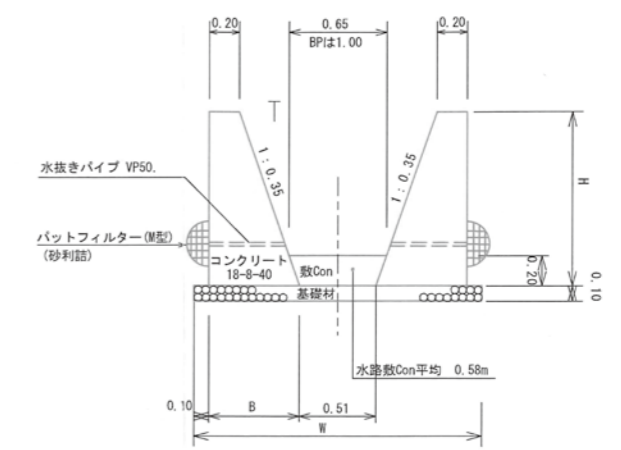
3-a号水路壁・水路敷・ブロック積展開図

H=1:250
V=1:50



水路標準断面図

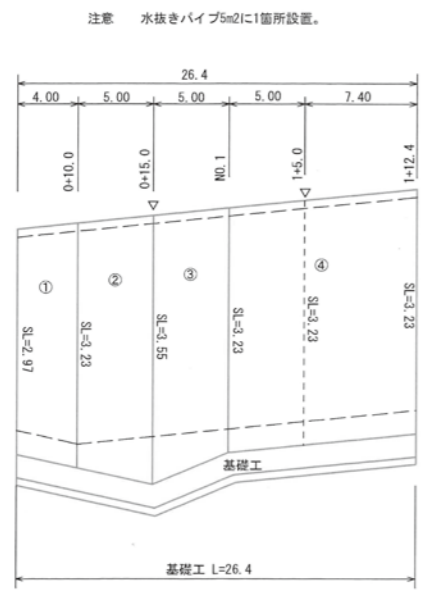
S=1:25



H	B	Con	F	W
1.15	0.603	0.46	2.30	1.92
1.30	0.655	0.56	2.60	2.37
1.45	0.708	0.66	2.90	2.13
1.55	0.743	0.73	3.10	2.20

コンクリートブロック積側面図

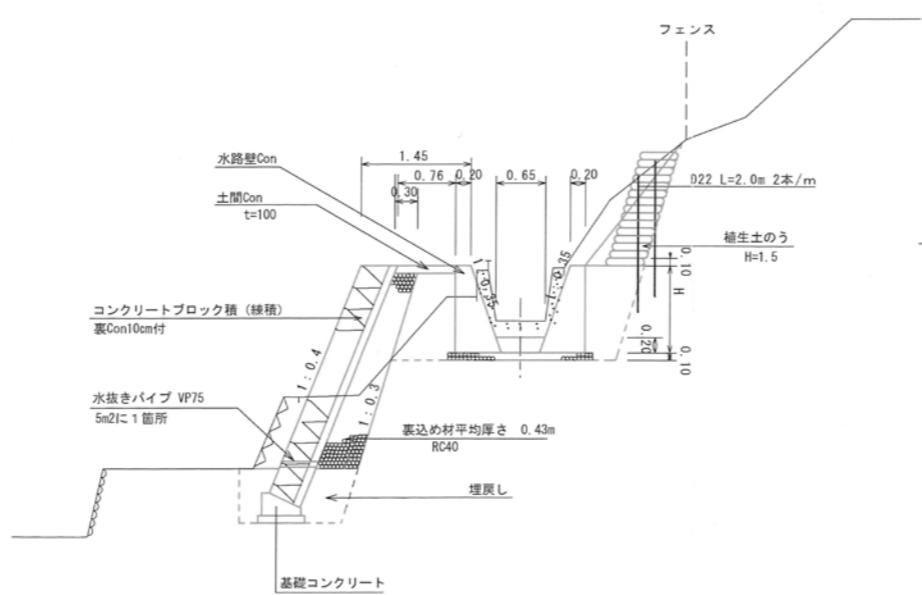
H=1:250
V=1:50



平均SL t L
表込材数量 2.80×0.43×26.4=31.79m³

標準断面図

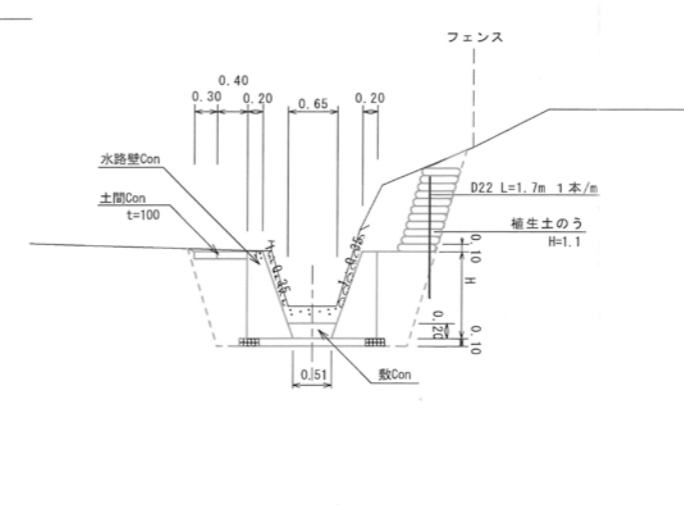
S=1:50



ブロック積には、10m程度に一箇所、▽目地材設置する。(1箇所当たり平均1.5m²2箇所)

標準断面図

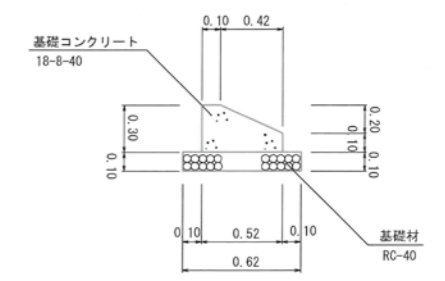
S=1:50



注意 N03+19.5までは単道・水路有り (土間Con幅 0.7m)
N03+19.5以降は水路有り (土間Con幅 0.4m)
植生土のう袋 30×50×10cm 必要土量0.015m³/袋
水路には、10m程度に一箇所、目地材設置する。(1箇所当たり平均1m²9箇所)

基礎コンクリート工

S=1:20

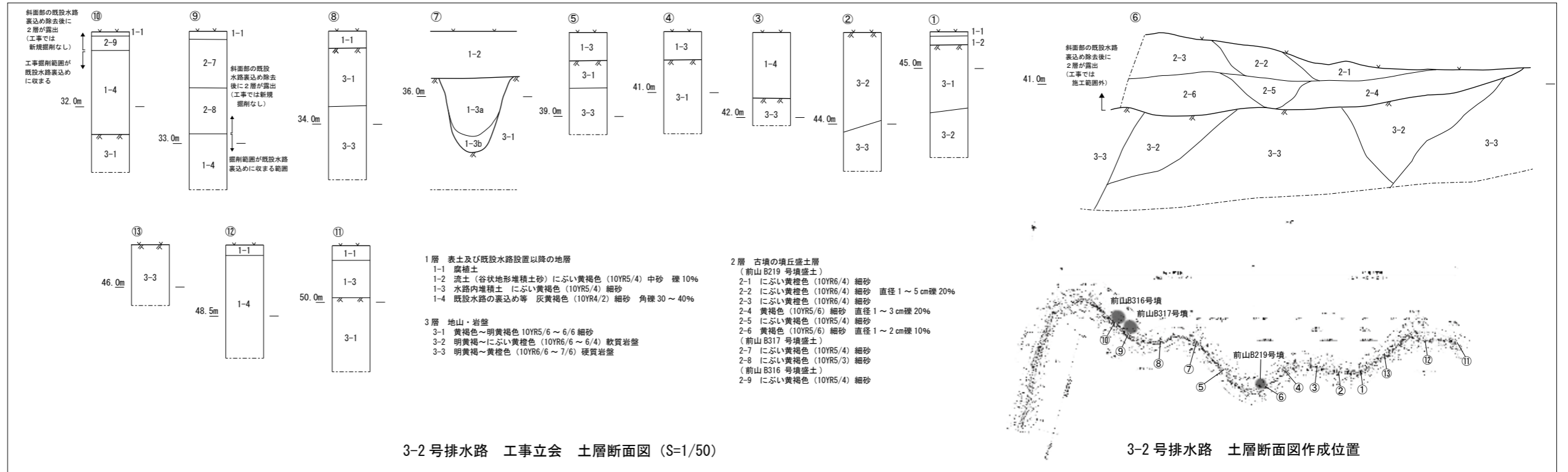
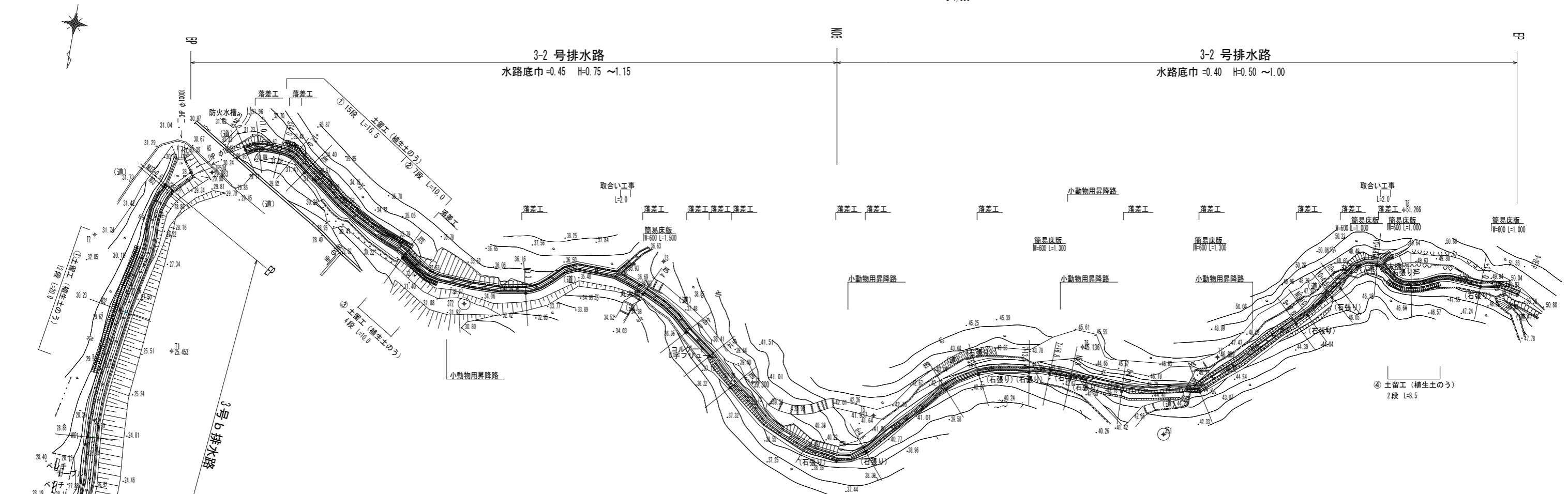


1m当り

基礎材RC-40	0.062 m ² /m
基礎コンクリート	0.114 m ³ /m
基礎型枠	0.40 m ² /m

3号b水路・3-2号水路平面図

S=1/600

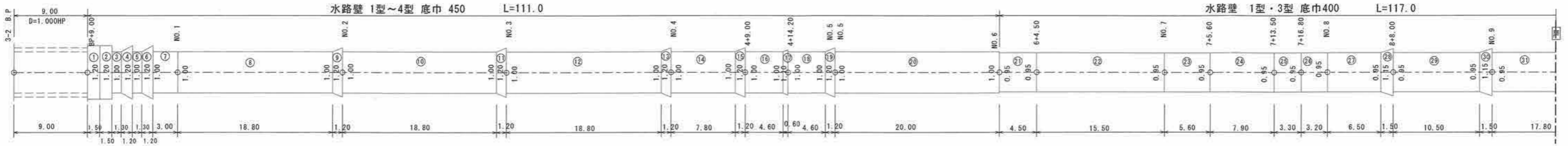


第42図 3号b排水路・3-2号排水路 平面図 (S=1/600)・工事立会土層断面図

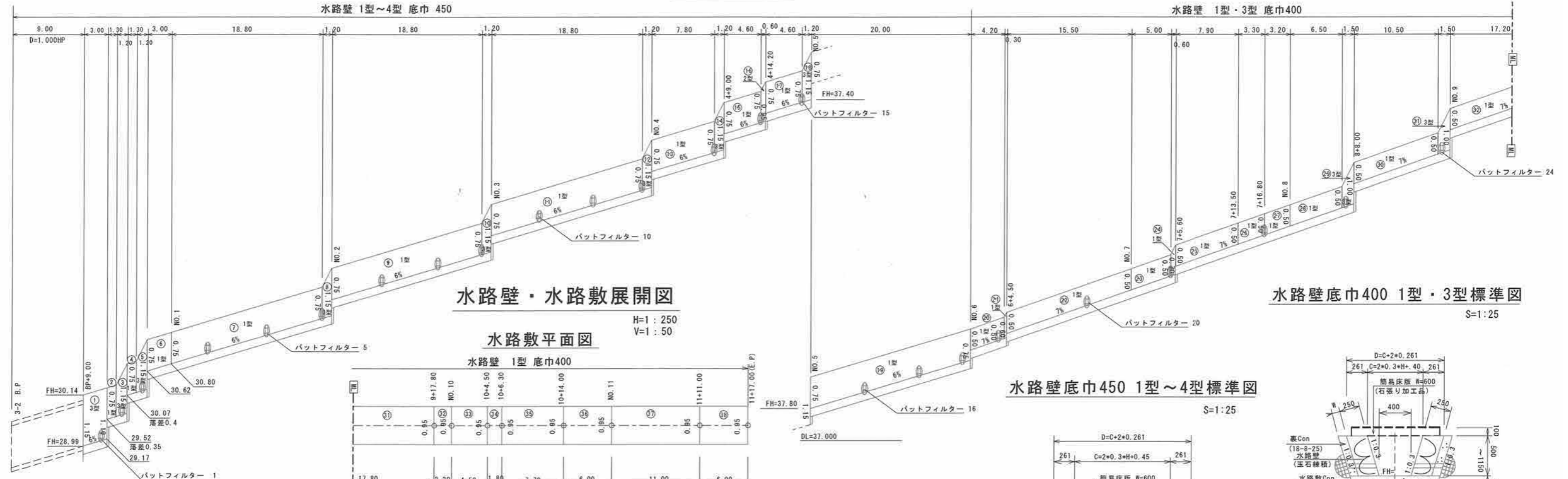
3-2号水路壁・水路敷展開図

H=1:250
V=1:50

水路敷平面図 L=水路敷 228.0



水路壁側面図 L=水路壁 228.0



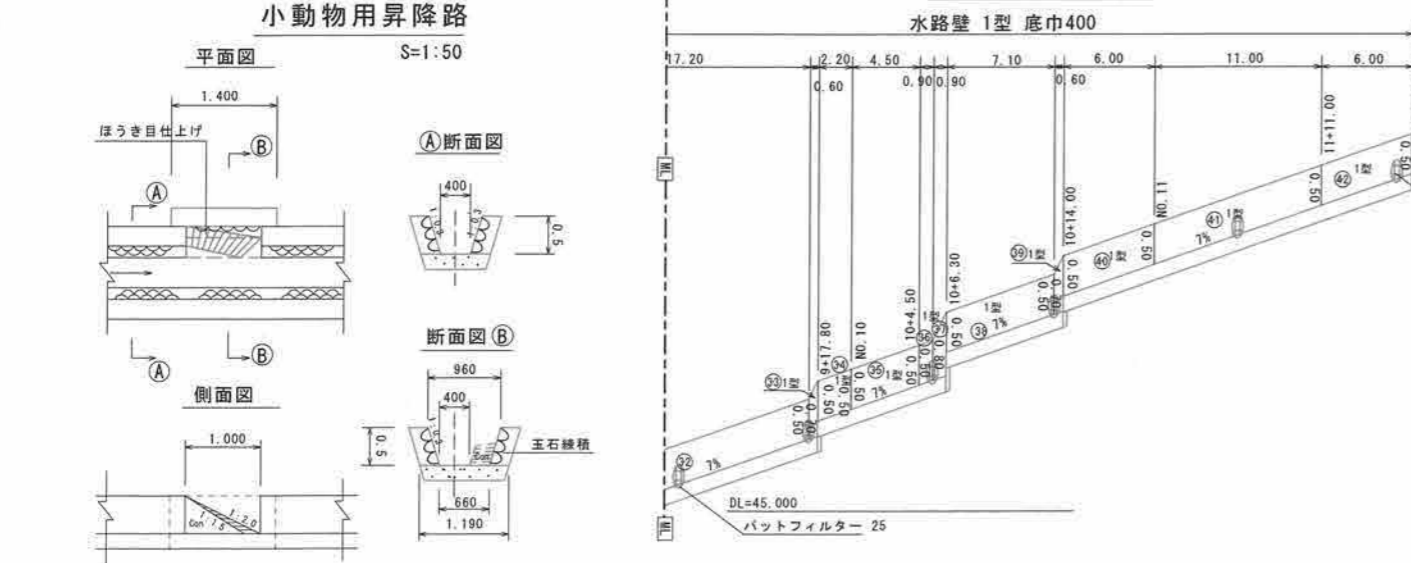
水路壁・水路敷展開図

H=1:250
V=1:50

水路敷平面図

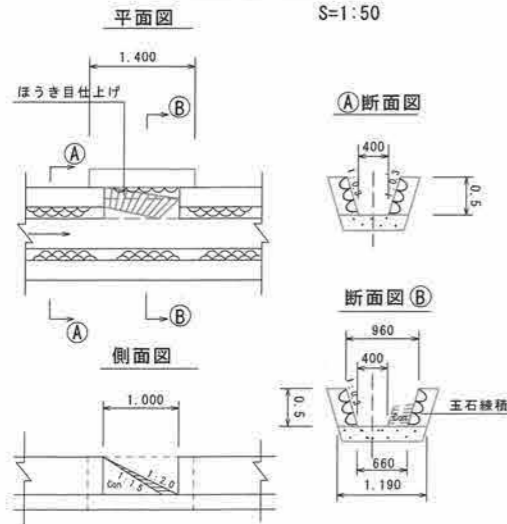


水路壁側面図



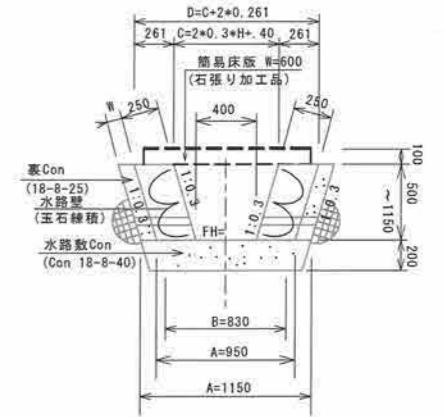
小動物用昇降路

S=1:50



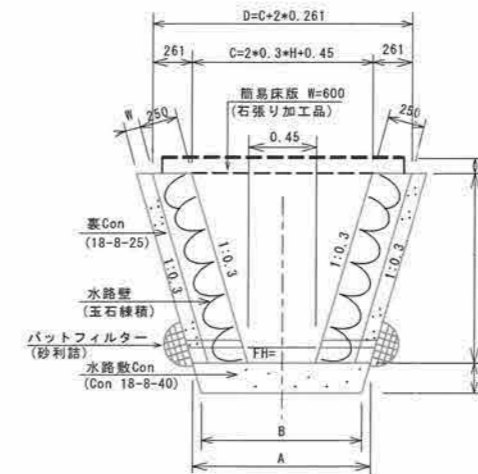
水路壁底巾400 1型・3型標準図

S=1:25



水路壁底巾450 1型~4型標準図

S=1:25

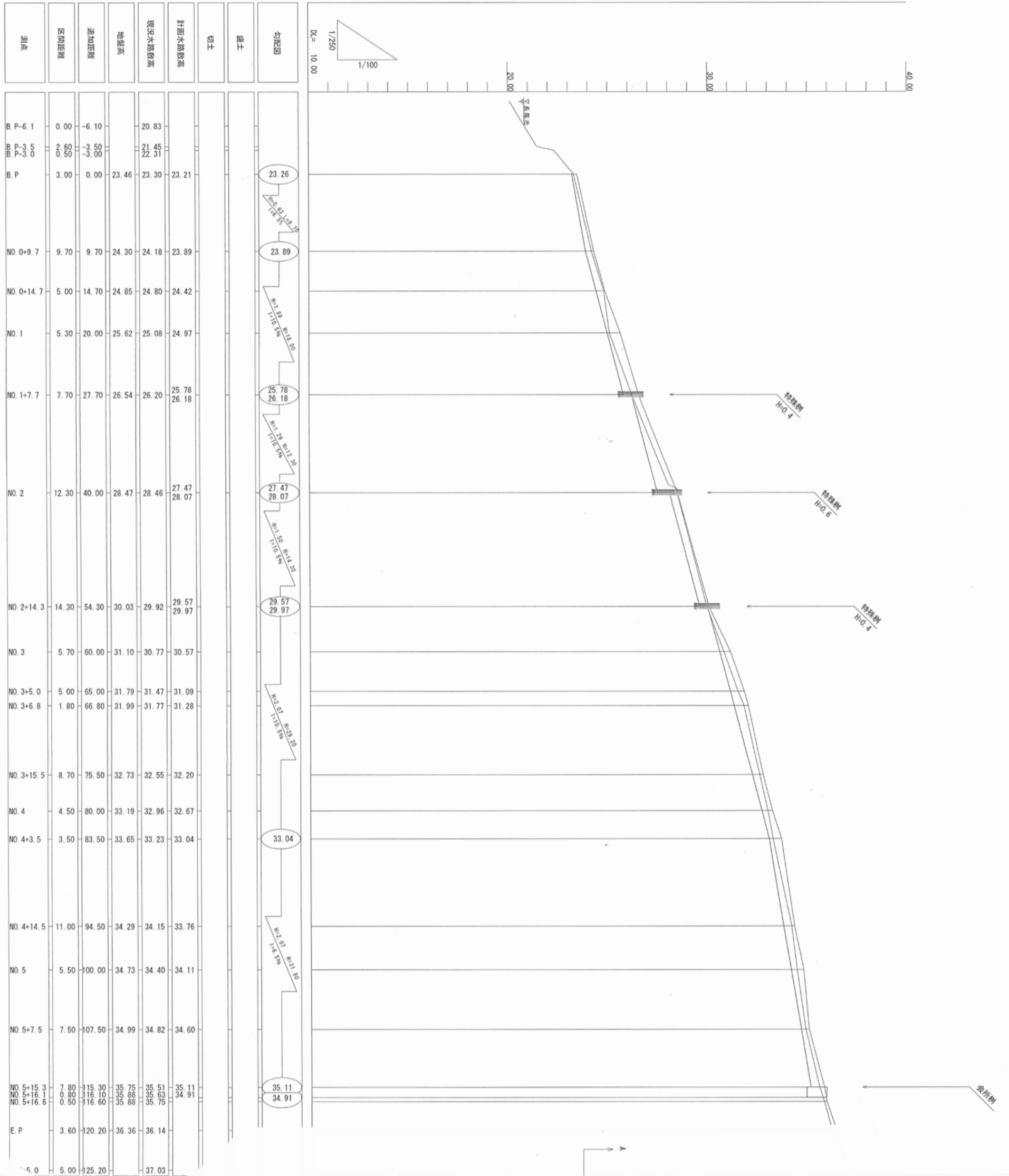


型	H	A	B	W(水平)
1 裏Con無	0.80まで	1.00	0.88	0.0
2 裏Con5	0.95~0.95	1.10	0.98	0.05(0.052)
3 裏Con10	1.00~1.15	1.20	1.08	0.10(0.104)

型	H	A	B	W(水平)
1 裏Con無	0.80まで	0.95	0.83	0.0
3 裏Con10	1.00~1.15	1.15	1.03	0.10(0.104)

玉石はφ200~250とする。(一部は石積再利用する。)
バットフィルター-30×2=60個

第47図 6号排水路 縦断面図他

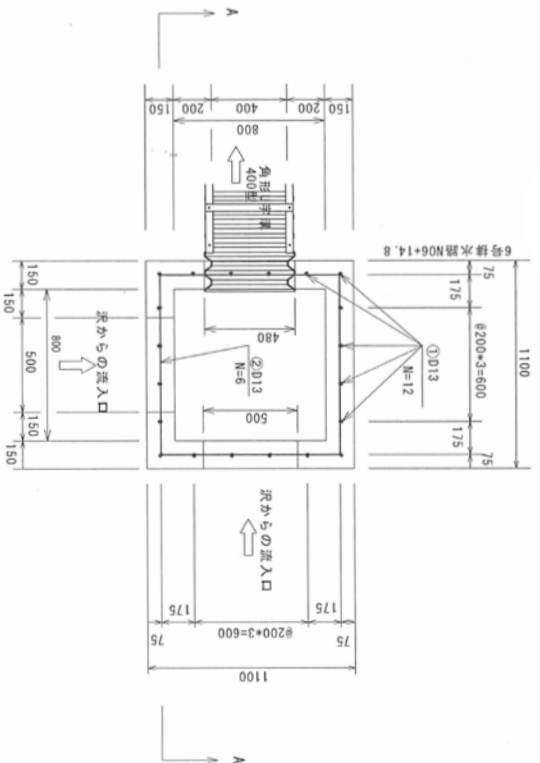


Con製会所柵

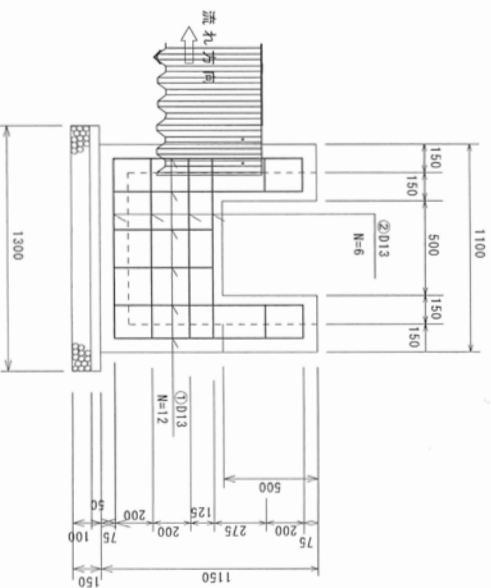
S=1:50

角形U字溝を各所柵にフランク（SUS平鋼）で固定する。（3箇所）

平面図

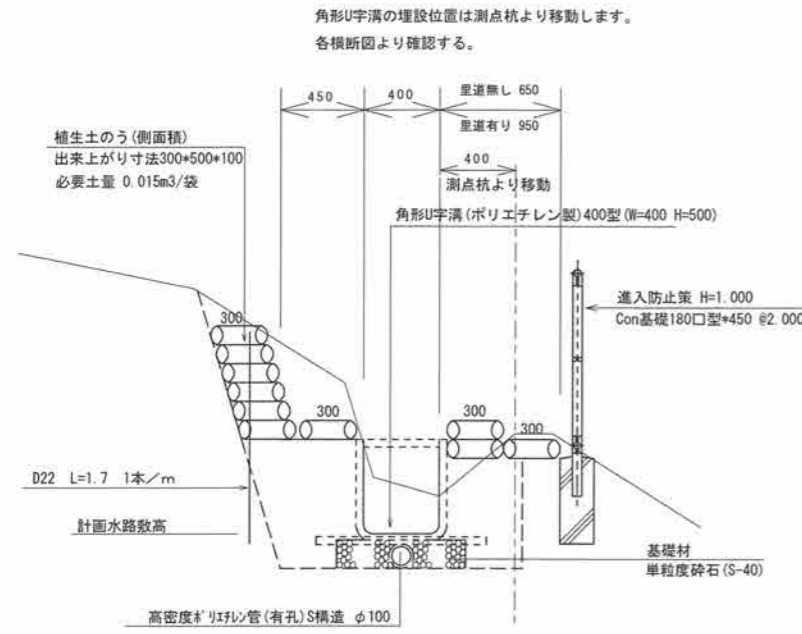


A-A断面図



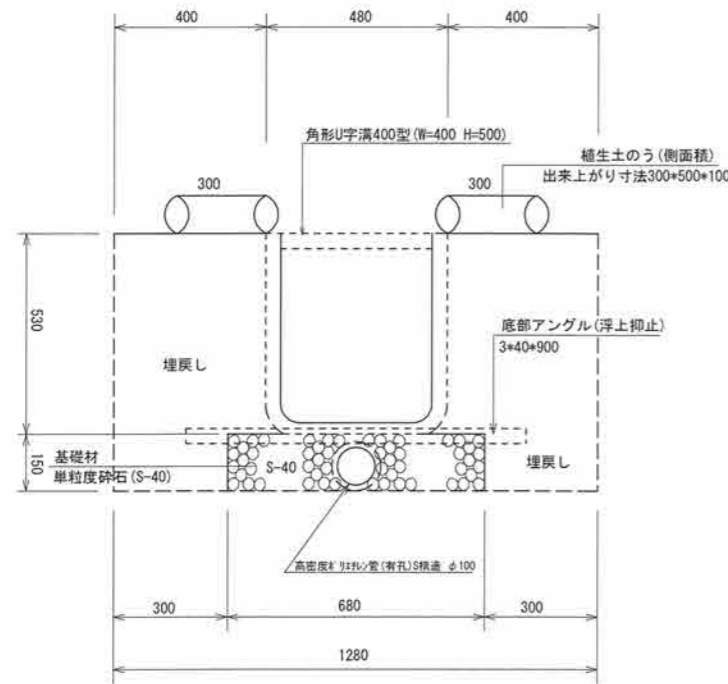
排水路標準断面図

S=1:20



角形U字溝施工断面図

S=1:10

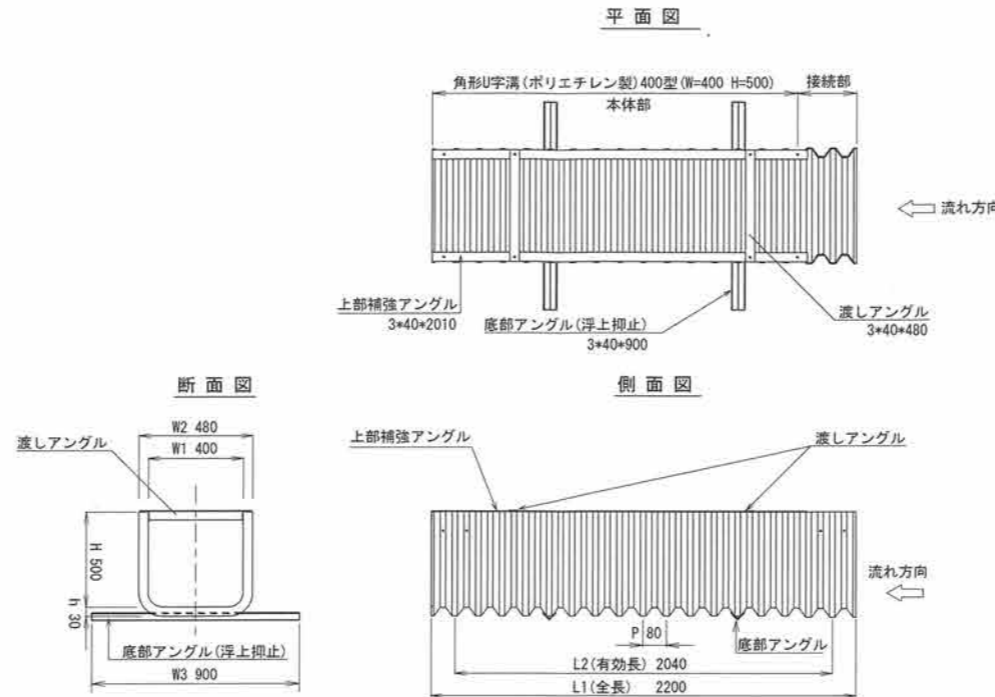


- 備考1. 埋戻しは大きな石、有機質などを除いた良質土を用いて、角形U字溝の左右均等に埋戻し。20~30cm層厚毎にプレートなどの転圧器具を用いて2往復(4回)以上転圧して仕上げます。
- 備考2. 現場によっては、十分な掘削幅が取れない場合があります。こうした場合は角形U字溝の左右における埋戻し土の転圧は、足踏み、木だこなどによって十分おこなおものとします。
- 備考3. U字溝の縁部は、予め沈下を想定して図のように、U字溝頂部の両側に植生土のうを設置する。

基礎材(S-40) t=150	0.68m ²
-----------------	--------------------

角形U字溝(ポリエチレン製)

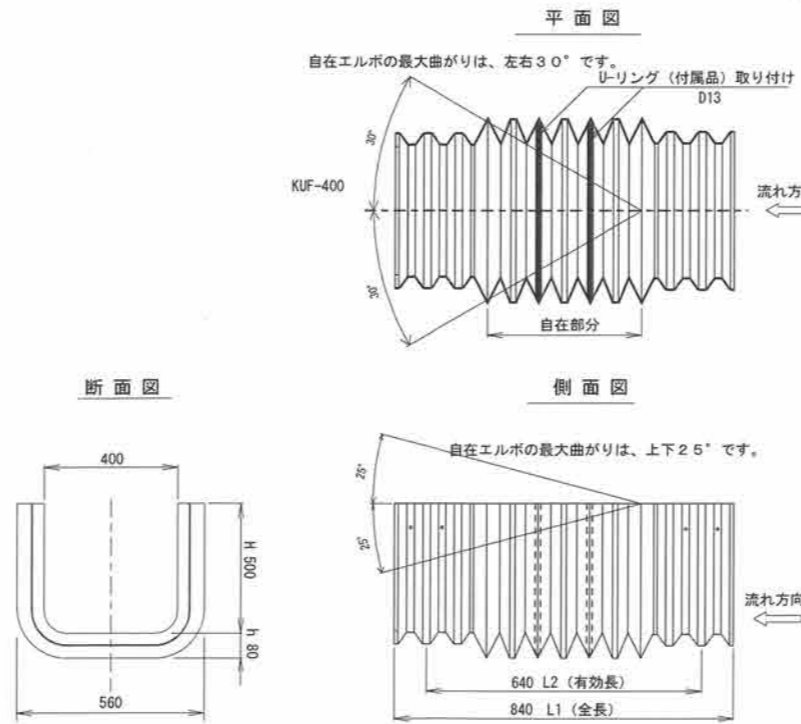
S=1:20



- <寸法公差> W1, H: ±4%, L2: -0, +4%とし、その他は参考寸法です。
- 備考1. 角形U字溝は可とう性ですので、積み重ねや埋戻しによる側圧等によって規格寸法に若干の誤差が生じます。
 - 備考2. アングル類はすべてZAM(高耐食溶融めっき鋼板)製です。
 - 備考3. 取付けボルトは溶融亜鉛めっきボルトです。
 - 備考4. 接続には下流側U字溝の接続部に上流側U字溝を重ね合わせます。(止水パッキンを使用します。)
 - 備考5. 総重量(27kg/枚)には、アングル類の重量を含んでいます。

角形U字溝(ポリエチレン製)自在エルボ

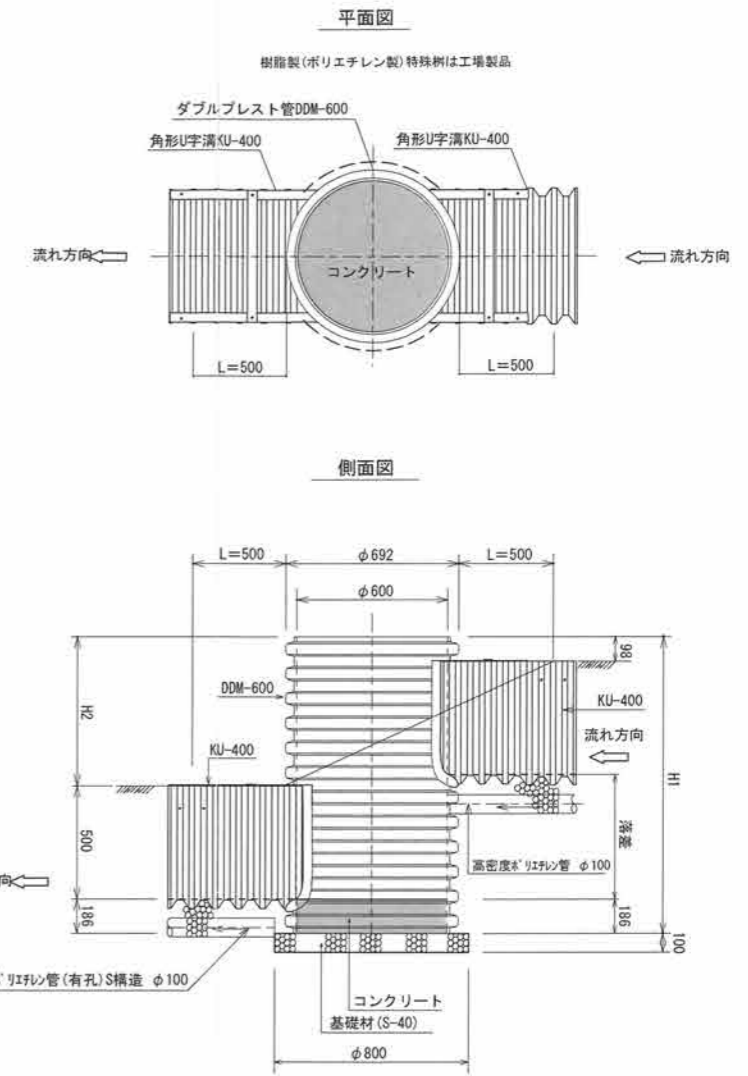
S=1:10



- 備考1. 自在エルボの最大曲がり、は、左右30°、上下25°です。
- 備考2. 自在部分の山数はサイズにより異なります。
- 備考3. 自在エルボの施工に当たっては、U-リングを取り付ける。現場の状況によって周囲をコンクリートで養生したり、アンカーピン・補強アングル等を追加するなどの措置が必要な場合があります。(設計仕様書参照)

樹脂製(ポリエチレン製)特殊樹

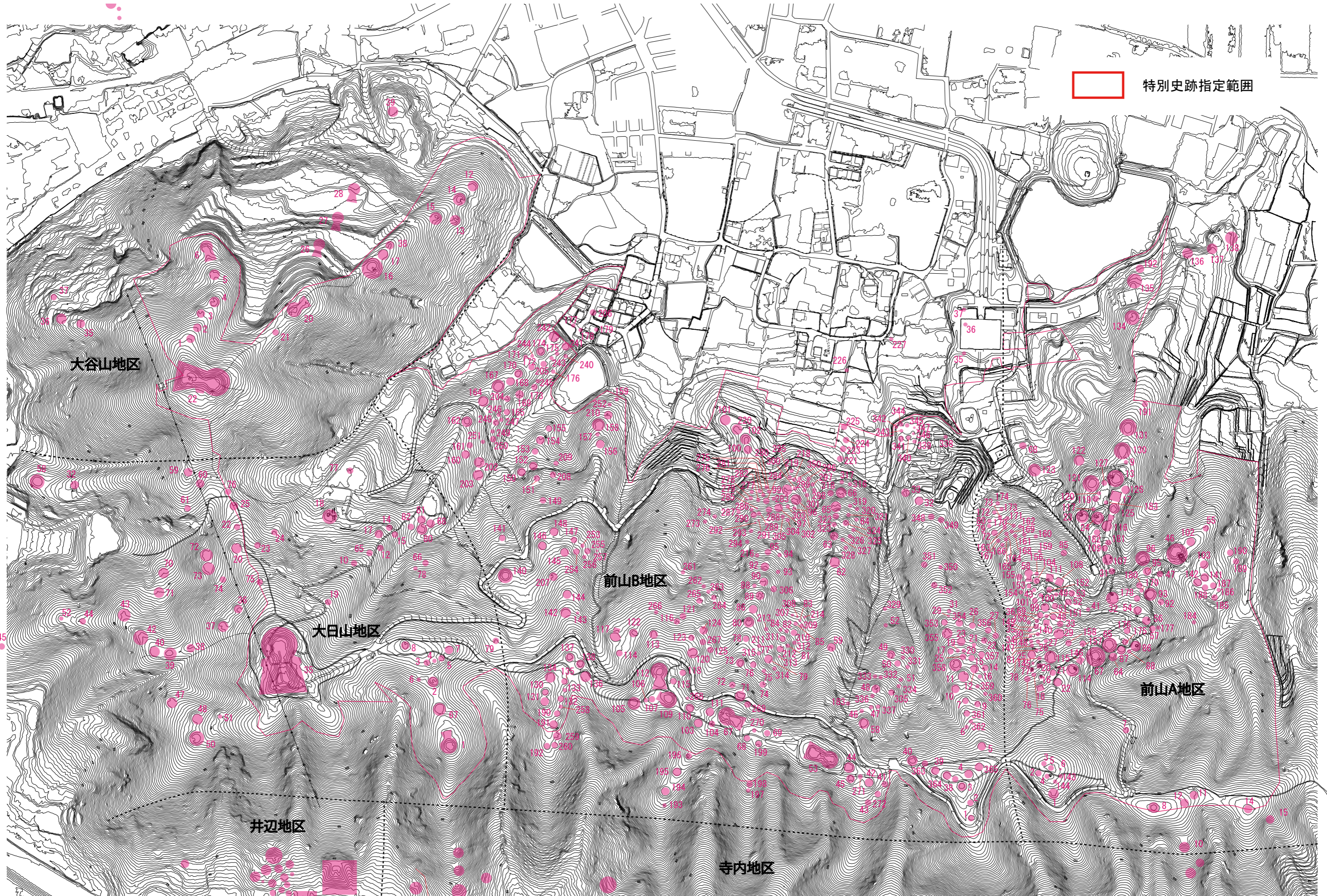
S=1:20



- ※寸法公差
- 管の内径は±2%、U字溝の幅・高さ寸法は±4%とし、それ以外の寸法は±5%とします。
- 備考1. 埋戻しは大きな石、有機質などを除いた良質土を用いて、樹の外周均等に埋戻し。20~30cm層厚毎にプレートなどの転圧器具を用いて2往復(4回)以上転圧して仕上げます。

呼称	本管	位置	落差	H1	H2	L
KU-400 (W=400, H=500)	DDM-600 (φ600)	N01+7.7	400	1184	498	500
		N02+14.3		1384	698	
		N0.2				

コンクリート t=150	0.3×0.3×3.14×0.186×3箇所=0.15m ³
基礎材(S-40) t=100	0.4×0.4×3.14×3箇所=1.5m ²



特別史跡指定範囲

大谷山地区

大日山地区

井辺地区

前山B地区

前山A地区

寺内地区

* 番号は古墳番号を示す。例：前山A地区の13番＝「前山A13号墳」。



前山A58号墳整備 石室の埋め戻し状況



同 石室の埋め戻し完了



同 墳丘盛土状況（後円部）



同 墳丘盛土状況（前方部）



同 張芝状況



同 張芝状況



同 後円部テラス砕石敷設状況



同 前方部上面砕石敷設状況

前山A58号墳 墳丘復元整備状況

写真図版 2



前山A58号墳工事立会 N2ライントレンチ全景(北西から)



同 N2ライントレンチ全景(北から)



同 S2ライントレンチ全景(北東から)



同 S2ライントレンチ南壁(北から)



同 S4ライントレンチ掘削状況(北西から)



同 S4ライントレンチ掘削状況(北西から)



同 前方部前端トレンチ全景(北から)



同 前方部前端トレンチ全景(西から)



市民参加による
埴輪レプリカ製作



石見型埴輪
レプリカ製作状況



馬形埴輪レプリカ
製作状況

写真図版 4

前山A58号墳整備



円筒埴輪レプリカ製作状況



石見型埴輪レプリカの焼成（直営）



石見型埴輪レプリカの表面強化処理（直営）



専門業者による須恵器大甕レプリカ製作状況（委託）



石見型埴輪レプリカ
（市民参加製作）



石見型埴輪レプリカ
（市民参加製作）



円筒埴輪レプリカ
（市民参加製作）



馬形埴輪レプリカ
（市民参加製作）



レプリカ設置用基礎工事



レプリカ設置用基礎工事



レプリカ設置用基礎への水抜き穴の貫通作業 (委託)



専門業者によるレプリカの設置 (委託)



大甕レプリカ設置状況 (委託)



馬形埴輪レプリカ設置状況 (委託)



レプリカ設置状況 (委託)



円筒埴輪レプリカの現置への運搬 (直営)



市民参加による
円筒埴輪のレプリカ
運搬



市民参加による
円筒埴輪レプリカの設置



レプリカ製作者による
ワークショップ開催状況
(古墳時代の儀礼の再現)



市民参加による円筒
埴輪レプリカの設置



埴輪設置式の参加者



前山A58号墳
墳丘復元整備完了状況

写真図版 8



前山B153号墳 砂による石室の埋め戻し



前山B153号墳 真砂土による墳丘盛土



前山B153号墳 植生ネット敷設 (完了)



前山B162号墳 砂による石室の埋め戻し



前山B162号墳 真砂土による墳丘盛土



前山B162号墳 植生ネット敷設 (完了)



前山B150号墳 清掃後 (墳丘)



前山B150号墳 石室埋戻し・真砂土による墳丘盛土



前山B150号墳・植生ネット敷設（完了）



前山B152号墳 清掃後（墳丘）



前山B152号墳 石室埋戻し・真砂土による墳丘盛土



前山B152号墳・植生ネット敷設（完了）



前山B153号墳 石室埋戻し・真砂土による墳丘盛土



前山B42号墳 清掃後（墳丘）



前山B42号墳 石室の埋戻し状況



前山B42号墳・植生ネット敷設（完了）



前山B153号墳
石室（右側壁）



前山B153号墳
石室（前壁）



前山B153号墳
石室（奥壁）



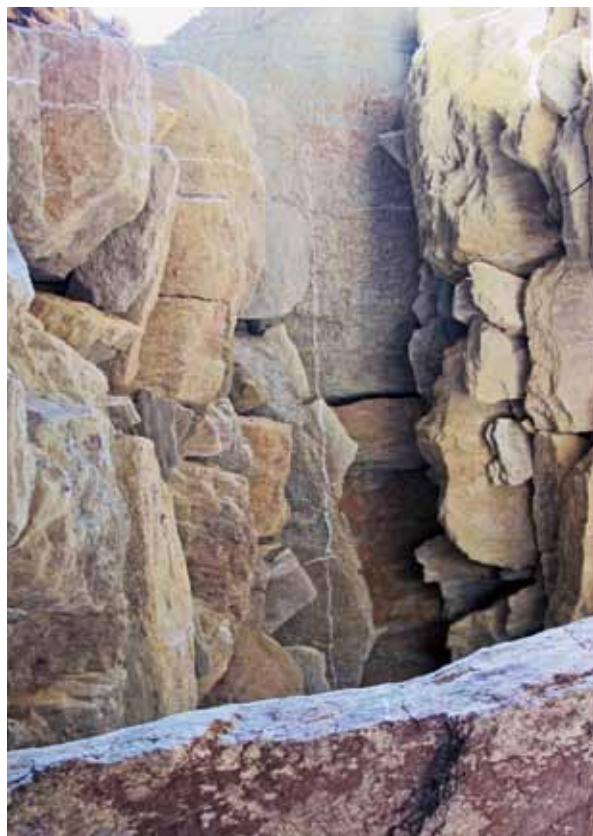
前山B162号墳 石室



前山B162号墳 石室 (奥壁)



前山B162号墳 石室 (奥壁上部)



前山B162号墳 石室 (天井部)

前山B162号墳 石室



前山B162号墳 石室（右側壁）



前山B162号墳 石室（左側壁）



前山B150号墳（前壁及び玄室前道）

前山B162号墳・150号墳 石室



前山B150号墳 石室



前山B150号墳 石室
(前壁)



前山B150号墳 石室
(右側壁)

前山B150号墳 石室



前山B150号墳 石室
(奥壁)



前山B150号墳 石室
(奥壁)



前山B150号墳 石室
(左側壁)

前山B150号墳 石室



前山B152号墳 石室



前山B152号墳 石室
(前壁)



前山B152号墳 石室
(閉塞石か)

前山B152号墳 石室



前山B152号墳 石室
(奥壁)



前山B152号墳 石室
(左側壁)



前山B156号墳 石室



前山B156号墳 石室
(前壁)



前山B42号墳 石室



前山B42号墳 石室
(前壁)

前山B156号墳・42号墳 石室



前山B42号墳 石室
(奥壁及び石棚)

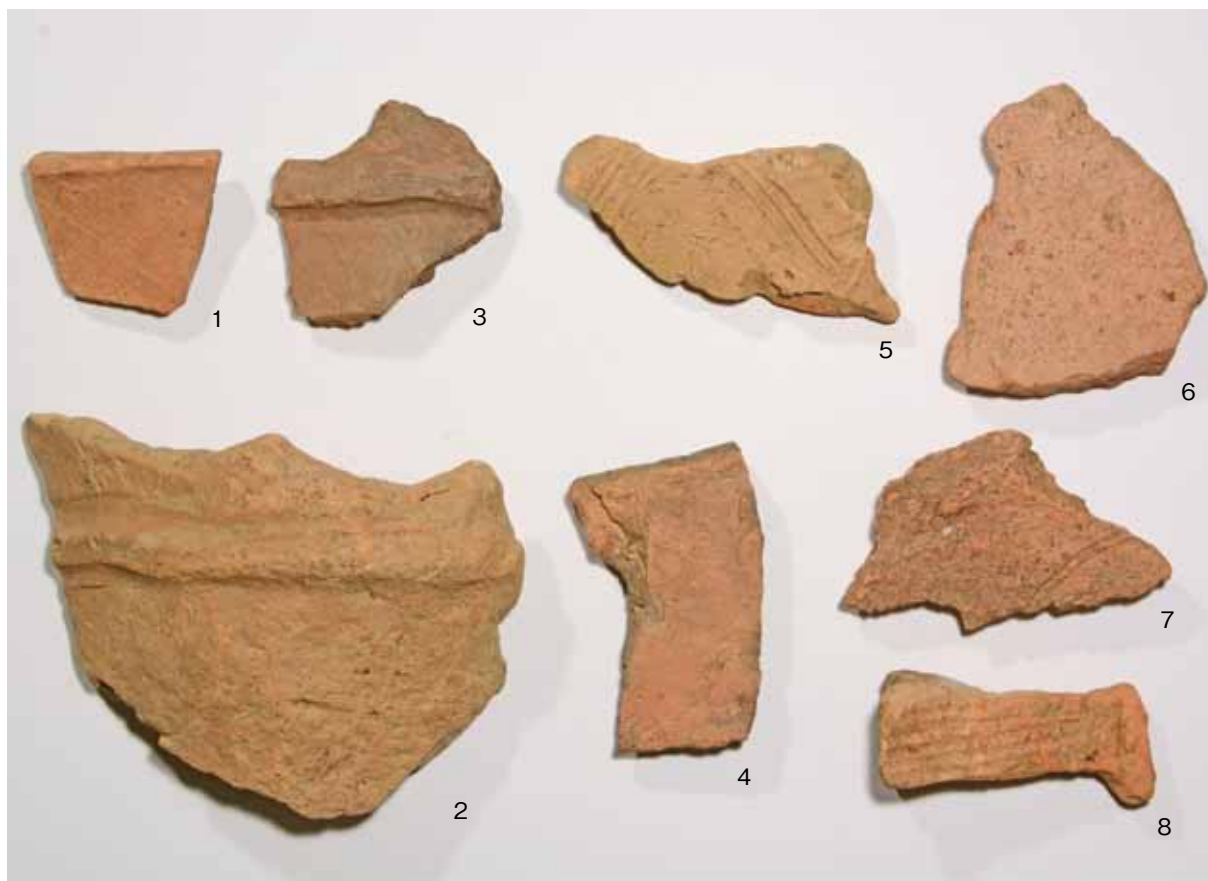


前山B42号墳 石室
(左側壁)

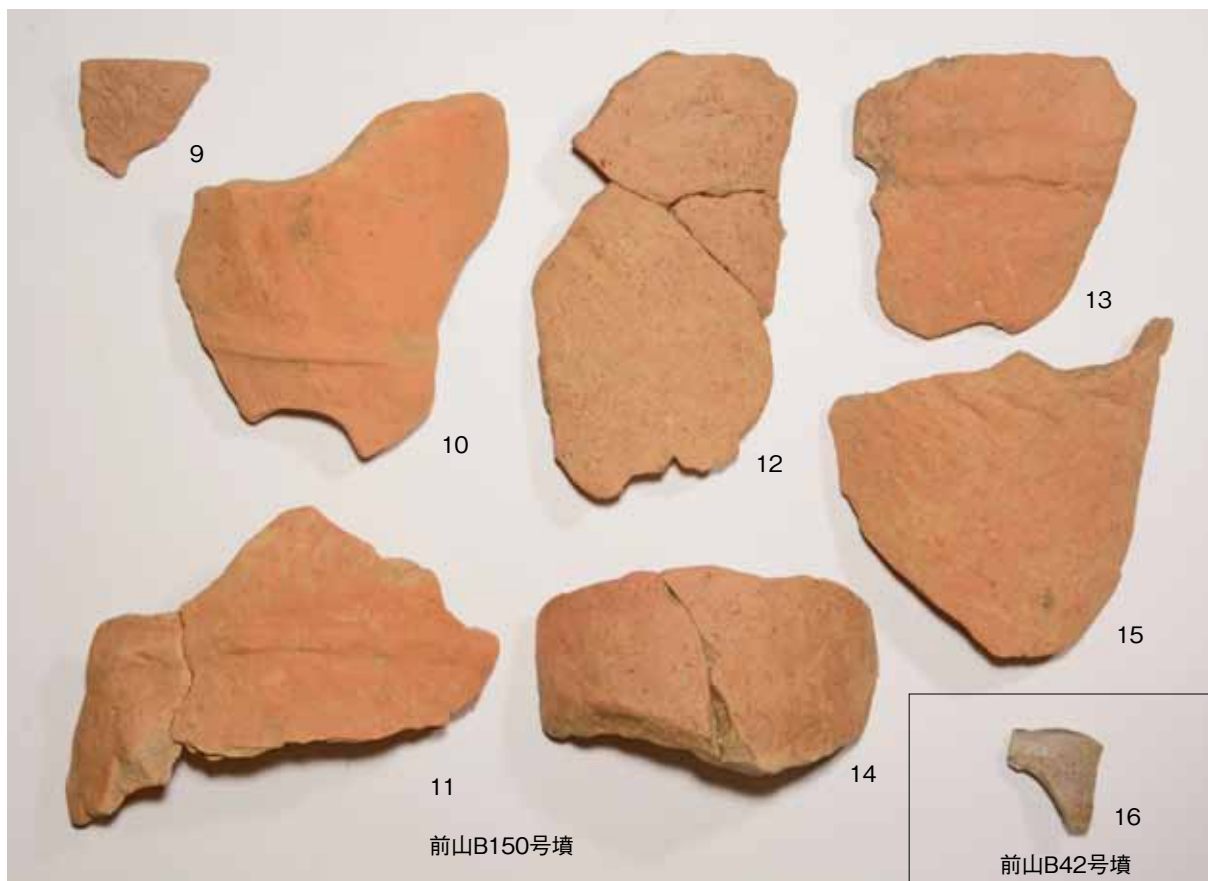


前山B42号墳 石室
(右側壁)

前山B42号墳 石室



石室実測対象古墳出土遺物（前山B162号墳）



前山B150号墳

前山B42号墳

石室実測対象古墳出土遺物（前山B150号墳・前山B42号墳）



石室実測対象古墳周辺出土遺物（前山B156号墳周辺）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山A130号墳・前山B147号墳）



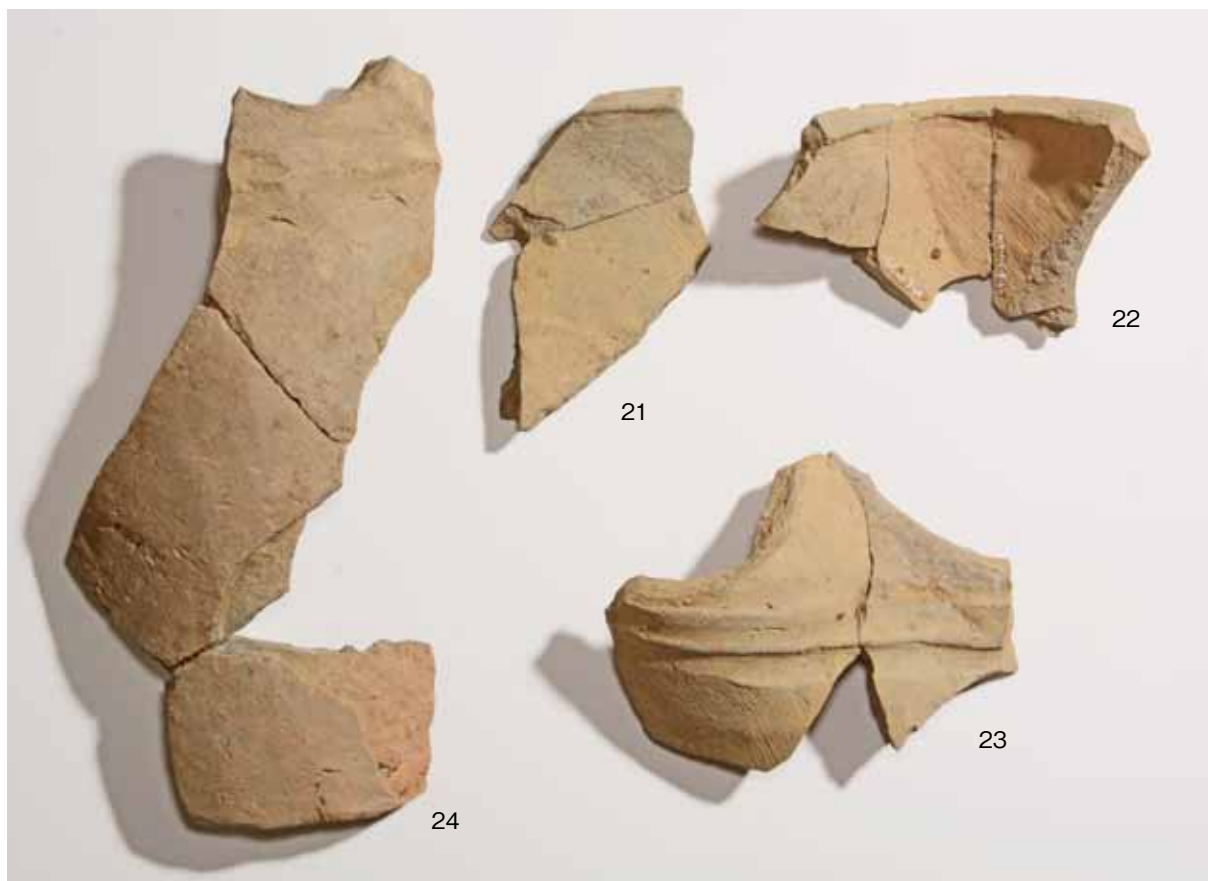
石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B167号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B174・176・240・249・250号墳・大日山82号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B164号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B164号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B164号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B170号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B170号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（前山B172号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（大日山12・14号墳）



石室実測対象古墳（第1期整備）出土遺物（大日山68・81号墳及び大日山14・15号墳周辺）



1号排水路(No.8+14.3) 完成



1号排水路(No.8+14.3) 完成



1号排水路(No.8) 完成



1号排水路(No.8) 完成



1号排水路(No.7) 完成



1号排水路(No.5+9.0) 完成



1号排水路(No.5+9.0) 完成



1号排水路(No.4+6.6) 完成



1号排水路(No.2+12.4) 完成



1号排水路(No.1+5.5) 完成



1号排水路(No.1+0.5) 完成



1号排水路(B.P) 完成



3号a排水路(B.P) 完成



3号a排水路(B.P ~ No.1) 完成



3号a排水路(E.P) 完成



3号b排水路(No.1 ~ No.2) 完成

排水路改修工事 完成状況 (2)



3号b排水路(E.P ~ No.1) 完成



3号b排水路(E.P) 完成



3-2号排水路(No.BP+9.0) 完成



3-2号排水路(No.2) 完成



3-2号排水路(No.3) 完成



3-2号排水路(No.5) 完成



3-2号排水路(No.6) 完成



3-2号排水路(No.8) 完成



3-2号排水路 (No.9) 完成



3-2号排水路 (No.11) 完成



6号排水路 (B.P ~ No.1) 完成



6号排水路 (No.2 ~ No.3) 完成



6号排水路 (No.3 ~ No.4) 完成



6号排水路 (No.4 ~ No.5) 完成



6号排水路 (No.5 ~ E.P) 完成



6号排水路 (B.P) 完成

排水路改修工事 完成状況 (4)



10号排水路 完成



10号排水路 完成



13号排水路 完成



13号排水路 完成



15号排水路 完成



15号排水路 完成



会所樹 完成



横断管接続樹 (7A) 完成

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせきいわせせんづかこふんぐん はくつちょうさ・ほぞんせいびじぎょうほうこくしよ4							
書名	特別史跡岩橋千塚古墳群 発掘調査・保存整備事業報告書4							
副書名								
編著者名	萩野谷正宏／佐々木宏治							
発行機関	和歌山県教育委員会							
所在地	〒640-8585 和歌山市小松原通一丁目1番地							
発行年月日	西暦2021年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とくべつしせき 特別史跡 いわせせんづかこふんぐん 岩橋千塚古墳群	わかやまし 和歌山市岩橋	302015	185	34° 13' 20"	135° 13' 50"	1973.5 ～ 1973.8	—	史跡整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
前山 A58 号墳	古墳	古墳時代	前方後円墳 (横穴式石室)	円筒埴輪、形象埴輪、須恵器		墳丘復元整備に伴う工事立会		
前山 B153 号墳	古墳	古墳時代	円墳 (横穴式石室)			古墳修景工事に伴う石室実測		
前山 B162 号墳	古墳	古墳時代	円墳 (横穴式石室)	円筒埴輪、形象埴輪		古墳修景工事に伴う石室実測		
前山 B150 号墳	古墳	古墳時代	円墳 (横穴式石室)	円筒埴輪		古墳修景工事に伴う石室実測		
前山 B152 号墳	古墳	古墳時代	円墳 (横穴式石室)			古墳修景工事に伴う石室実測		
前山 B156 号墳	古墳	古墳時代	円墳 (横穴式石室)			古墳修景工事に伴う石室実測		
前山 B42 号墳	古墳	古墳時代	円墳 (横穴式石室)	須恵器		古墳修景工事に伴う石室実測		
要約	特別史跡岩橋千塚古墳群の第2期整備事業（平成27年度～令和2年度）に伴う報告書。前山 A58 号墳の墳丘復元整備（発掘調査成果は和歌山県教育委員会2015『特別史跡岩橋千塚古墳群発掘調査・整備事業報告書3』に収録）、古墳修景工事及び石室実測調査、危険木伐採、便益施設設置等、排水路改修工事、古墳群のモニタリングなどの成果を掲載した。							

特別史跡岩橋千塚古墳群
発掘調査・保存整備事業報告書 4

発行日 令和3年3月31日
発行 和歌山県教育委員会
和歌山市小松原通1丁目1
編集 和歌山県立紀伊風土記の丘
和歌山市岩橋 1411
印刷 株式会社 協和
和歌山県海南市南坂 5-3